

千葉県気象災害史



題字は 千葉県知事 友納 武人

序

とかく天災は宿命的なものであり、自然の側にのみ原因があるように考えられる場合が多いが、むしろ、人間の側における自然に対する心構えの不十分に原因する場合が多い。

本県は太平洋に面した海洋性気候のため、比較的他県に比して気候災害はその地域と種類と時期が明瞭で、常習的であるといわれている。それ故、その罪が人間の側にありとされても止むを得ない。そこで、われわれは本県の自然界の性質をよく知り、災害の歴史、種類、性質を究め、人間の側から災害を最小限度に食い止め、禍を転じて福となす努力を怠つてはならない。

この意味において、本書は銚子測候所が多年にわたつて県下の気象災害資料を史実より蒐集して、貴重なる時間を割き編集されたものであつて、実に非常なる熱意の集積であり、価値あるものである。

本県にはこのような文献は殆ど見あたらず、地方行政の局にある者にとつては貴重なる資料となるのみならず、教職にある者、郷土研究に志す者に好箇の参考書となるものと信ずる。

ここに広く推奨する次第である。

昭和31年7月1日

千葉県知事

柴 田

等

序 文

過去幾世紀の間、天変、地変によつて貴い生命、あるいは辛苦して築きあげた財産を一瞬の中に奪い去られるような災害が繰り返されてきました。このような災害は、多分に自然によつて起こされる避け得られないもの、いわゆる宿命的な天災として受けとられてきました。

しかし、社会の進展に伴い、科学的な治山、治水等の拡充によつて、天災としてあきらめられていた災害も、次第に防止できるものと考えられるように変わりつつあります。

県では災害から県民の生命財産を守るため、先に千葉県地域防災計画をたて、防災体制の確立を図っておりますが、その基礎として先づ自分の郷土の過去の災害状況を認識することが必要であります。

今回、銚子地方気象台の積極的な協力を得て、千葉県気象災害史の増訂版を刊行することになりました。

今ここに、過去の幾多の災害をふり返り、祖先の労苦を考えながら、このような災害の繰り返しを断ち切れるよう、なお一層防災に力を尽したいと考える次第であります。

関係各機関におかれては、本史料を防災実務に十分ご活用くださるようお願い申し上げます。

昭和44年1月

千葉県知事 友 納 武 人

発 刊 に 際 し て

我国は世界でも有数の災害国である。風災、水災、震災或は凶冷、旱害の様な農業災害から我国特有の建築材料による火災までも挙げられる。この様な災害は古来如何に国民生活に影響をもたらしたか、如何に多くの人々を苦しめたかは今更言を俟たない。

当千葉県に於ては本邦西部地方の如く殆ど毎年といつても良い程の大被害を起す災害常習地帯に比べれば、比較的平穩とも考えられるが、それでも有史以来の数は決して少くない。今、古人の遺した資料より本県に於ける災害記事を集録したが自然に順応して天恵に生き、災害を未然に防いで福利を増進するため何等かの参考ともなれば幸いである。何分色々の関係で資料の蒐集は意に任せず、又あらゆる文献に亘り渉獵する暇がない為甚だ杜撰なものとなつたが敢えて公表して諸彦の御叱正を待つて補遺いたしたいと思う

本書の編集には主として当所茨城、川崎両技官が当たられた。ここに両氏の並々ならぬ努力に対して心より謝意を表したい。

又本書刊行は千葉県知事柴田等殿始め関係御当局の深い御理解の賜であつて衷心御礼申上げる次第である。

昭和 3 1 年 1 0 月

銚子測候所長 山 中 丘

増訂版刊行の辞

「千葉県気象災害史」は昭和31年10月に、当時の県知事柴田等殿の御厚意と当時副知事にして千葉県気象災害連絡協議会々長を兼ねられた現在の県知事友納武人殿の絶大なる御尽力によつて刊行された。

この災害史の内容は昭和30年までの災害記事を集録したものであつたからその後の災害を追加すると共に、既往の記録をも再検討して増補改訂を行うことになつた。

この度の増訂版の発行は、前銚子地方気象台長武石武氏によつて企画され、防災業務課の全員が協力して資料の蒐集に当り、編集は三井防災業務課長及び小職が担当した。

本書は、初版以来縁故の深い友納知事の厚い御配慮と県当局の御援助及び前東京管区気象台長仁科伸彦氏並びに現東京管区気象台長神原健氏をはじめ関係官各位の御指導御鞭撻により印刷発行の運びになつたもので、茲に衷心より感謝の意を表する次第である。また、資料の蒐集に協力された県内各気象官署の方々にも厚く御礼申し上げる。

昭和44年1月

銚子地方気象台長 星 為 蔵 識

凡 例

本書は、昭和31年10月発行の「千葉県気象災害史」を増補改訂したものであるが、記載の方法を変更して、1900年以前の災害を第1部に、1900年以降の災害を第2部に集録した。

第1部においては、諸文献に記載されている構文を、なるべく忠実に伝えることを目途したが、漢文は読下し文に改め、長い文章は抄録した。また、2つ以上の文献を総合して簡略したものもある。古文献の中には、災害発生の年代及び日附を誤記しているものもあるので、その真偽を正すことに努めた。

明治5年改暦以前の日附は、すべて現行の新暦（グレゴリオ暦）に換算し、括弧内に算用数字を用いて附記した。尚日附がなく月のみ記入されている場合は、その月の朔日に相当する新暦の月日を（〇月〇〇日～）の如くに記入した。

第2部においては、災害発生時の天気状態を明らかにし、被害の内容をなるべく詳細に記録した。特に、著しい災害については、最低気圧（海面の値）、最大風速（平均及び瞬間の値）、台風経路図、県内の降水量分布図等の気象資料をも掲げ、防災上の参考に供した。

気象資料のうち風速については、1900年より1924年までの25ヶ年間の観測値は、風速計の構造上、現行の風速計より3割方大きいことが明らかにされた為、当時の観測値に0.7を乗じた数値を採用した。従って、初版の災害史に記載した数値とは一致しないので、念の為申し添える。

尚、第3部として、千葉県の気候及び最近10ヶ年間の気象災害の概況を説明し、県内気象官署における気候表と区内観測所における月別の平均気温、平均最高気温、平均最低気温、平均降水量、日降水量の最大順位を表示した。

第 一 部

1 9 0 0 年 以 前

年号 (西暦)	災異種別	災異記事
景行40 (110)	暴風	十月(10月30日～) 弟橘媛浦賀水道にて入水せらる。 (日本書記、古事記)
文武2 (698)	暴風	九月七日(10月19日) 下総の国大風、百姓の蘆舎を壊す。 (続日本紀)
大宝2 (702)	暴風	八月五日(9月5日) 下総の国大風あり。九月人民飢えて賑恤せられる。 (千葉県誌、海上郡誌、東葛飾郡誌)
神亀4 (727)	暴風	十月二日(11月23日) 安房上総大風、木を抜き家屋を壊し収穫を損ず。 (続日本紀) 上総の国山崩れて百姓七十人圧死す。 (君津郡誌、千葉県誌)
天平9 (737)	旱魃・蝗害	下総の国旱し、蝗害あり。 (銚子市史)
天平13 (741)	暴風	九月(10月18日～) 房総地方大風あり。人畜の死傷多し。 (海上郡誌・東葛飾郡誌)
天平15 (743)	暴風雨	七月(7月30日～) 上総の国大風雨数旬日、雑木一万五千株余海浜に漂うと云う。 (続日本紀)
天平18 (746)	旱魃・蝗害	下総旱し、且つ蝗害多し。 (千葉県誌)
天平20 (748)	旱魃・蝗害	下総の国、旱魃蝗害の為飢饉、翌天平勝宝元年二月五日(3月2日) 賑給せらる。 (続日本紀)
天平宝字6 (762)	旱魃	三月(4月3日～) 下総の国旱魃 (続日本紀、千葉県誌、東葛飾郡誌、銚子市史)
天平宝字8 (764)	旱魃	下総等の五ヶ国旱せしかば、翌天平神護元年三月四日(765年4月2日) 詔して調庸十分の七八に減ぜらる。 (続日本紀)
神護景雲3 (769)	飢饉	三月(4月15日～) 下総の国飢えしを以て之を賑給せり。 (千葉県誌) 三月下総飢う。 (東葛飾郡誌)
天応1 (781)	旱魃	正月(2月3日～) 下総の国飢えしを以て之を賑恤せり。 (千葉県誌) 東葛飾郡誌には五月とあり。
延暦4 (785)	暴風	七、八月(8月14日～) 下総の国大風あり、五穀を損し百姓飢饉するを以て賑給せらる。 (銚子市史) 十月(11月11日～) 下総、常陸五穀損傷す。 (東葛飾郡誌)
延暦8 (789)	飢饉	安房の国飢う。 (続日本紀、千葉県誌)
延暦17 (798)	飢饉	下総の国飢う。 (海上郡誌、東葛飾郡誌)

年号 (西暦)	災異種別	災異記事
延暦 21 (802)	凶作	九月 (10月5日～) 上総等三十一ヶ国の田を損ぜられ、百姓の租税調庸を免ず。(千葉県誌)
弘仁 7 (816)	火事	上総夷隅郡の官物稻五十七万九百束、正倉六十字焼けたり。 (千葉県誌)
弘仁 9 (818)	地震	七月 (8月10日～) 下総、常陸等地震あり。(銚子市史) 震源 相模湾 M=7.9
承和 2 (835)	飢饉	三月 (4月6日～) 下総の国飢饉。(千葉県誌、東葛飾郡誌、海上郡誌、銚子市史)
承和 5 (838)	降灰	七月 (7月29日～) より九月に至るまで上総等十六ヶ国に累日灰が降ったが、豊作であったので五穀は安価であった。老農は米華と名づけた。(続日本後記、千葉県誌、市原郡誌) 註 七月五日 (8月2日) 神津島の噴火によるものらしい。
承和 10 (843)	飢饉	上総等十八ヶ国飢饉、六月二十五日 (7月29日) 賑給せらる。 (続日本後紀、千葉県誌、市原郡誌)
斉衡 3 (856)	降灰	八月八日 (9月14日) 安房の国に灰降り、三四寸積るといふ。 (文徳実録) 註 伊豆七島中の噴火によるものらしい。
貞観 2 (860)	飢饉	八月 (8月24日～) 下総の国飢饉。(海上郡誌、銚子市史)
貞観 6 (864)	水害・旱魃	二年来水旱を憂うるを以て葛飾、印旛、相馬、埴生、猿島五郡の百姓の調庸を免ぜらる。(千葉県誌)
貞観 8 (866)	旱魃	八月 (9月17日～) 下総早し飢えたるを以て賑給す。 (千葉県誌) 下総飢う。(東葛飾郡誌、海上郡誌)
元慶 1 (877)	旱魃	五井町島穴神社において祈雨の奉幣があった。 (三代実録、五井町歴史年表)
元慶 2 (878)	地震	九月二十九日 (11月1日) 関東諸国地震。(大日本地震資料) 震源 相模 M=7.4
仁和 2 (886)	地震・降灰	五月二十四日 (7月3日) 夕刻、南海より黒雲起り、その中に電光雷鳴現われ、地震も終夜止まず、電雷は二十六日払暁止んだが、砂土粉土山野田園を蔽い所により二三寸積る。これが為、草木悉く枯れ、砂粉を被りたる草を食したる牛馬斃れるもの多し。 (三代実録、安房志、千葉県誌、市原郡誌) 註 この地震降灰は新島の噴火によるものらしい。

年号 (西 歴)	災 異 種 別	災 異 記 事
永享 4 (1432)	地 震	三月十二日 (4月21日) 夜、地震あり (君津郡誌)
永享 5 (1433)	地 震	九月十六日 (11月7日) 地大いに震う。夜の内三十余度。其後二十日余地震やまず。 (君津郡誌) 下総地方地震あり。 (銚子市史) 震源、相模灘 $M=7.1$ 註 武者金吉 日本地震資料によれば「利根川 (当時東京湾に注いでいた) の水逆流す」とあるから、東京湾には軽微な津波があつたものと思われる。
永享 6 (1434)	地 震	正月十六日 (3月6日) 地震あり。 (君津郡誌)
宝徳 1 (1449)	地 震	四月十二日 (5月13日) 地震あり。山武郡増穂村、方正寺埋没す。 (山武郡誌)
享徳 3 (1454)	旱 魃	天下旱魃にて飢饉、人多く餓死す。 (君津郡誌)
明応 1 (1492)	地 震	五月二十六日 (6月29日) 地震あり。 (君津郡誌)
明応 4 (1495)	地震・津波	八月十五日 (9月12日) 大地震あり。津波起こる。 (玄蕃先代集、君津郡誌) 註 隣接都県の記録には八月二十四日 (9月21日) とあり。
明応 5 (1496)	地震・津波	八月二十五日 (10月10日) 巳の刻 (午前10時) 大地震、津波起こる。 (銚子市史) 註 次項の地震を誤記したものかも知れない。
明応 7 (1498)	地震・津波	八月二十五日 (9月20日) 近畿、関東諸国の地大いに震い房総の地殊に甚し。時に長狹郡の沿岸大海嘯起こり地盤陥落して人畜共に没し、小湊誕生寺ために破潰す。 震源 東海道沖 $M=8.6$ (内浦絵図面、君津郡誌、千葉県誌)
明応 8 (1499)	飢 饉	各国飢饉人多く死す。 (君津郡誌)
文亀 1 (1501)	降 雹	四月 (4月28日～) 大雹降る。大いさ芋の如しと言う。 (海上郡誌、東葛飾郡誌)
	旱 魃	大旱魃にて飢饉、餓死者多し。 (君津郡誌)
永正 8 (1511)	地 震	十一月 (12月1日～) 大地震あり。藻原寺大破す。 (茂原市史)
永正 9 (1512)	暴風・飢饉	三月 (3月28日～) 大風にて関東大いに飢う。 (日本気象資料)
永正 11 (1514)	飢 饉	大いに飢う。 (君津郡誌)
永正 14 (1517)	地 震	九月九日 (10月4日) 夜半地震あり。 (君津郡誌)
永正 16 (1519)	暴 風 雨	九月朔日 (10月4日) 大風雨大木を吹倒し、洪水ありて人多く死す。 (君津郡誌)

年 号 (西歴)	災 異 種 別	災 異 記 事
仁和 8 (887)	地 震	七月三十日 (8月26日) 安房の国地震あり。(扶桑略記、千葉県誌) 震源 南海道沖 M=8.6
延長 5 (927)	旱 魃	六月 (7月7日～) 大旱魃に際し、上総介平高望関内の神社に雨乞祈願をせしに忽ち大雨あり。 この社を水神社と称す。(山武郡郷土誌)
天延 3 (975)	両月並見	八月二十四日 (10月6日) 夜、上総の国では月が申の方 (西南西) に及んだ頃、東方に満月が見えたと云う。 (日本紀、千葉県誌、市原郡誌) 上総の国、両月を見ると言う。 (大日本史)
建仁 1 (1201)	暴風雨高潮	八月十一日 (9月16日) 大雨後大風となる。下総の国、葛西郡の海岸に高潮押寄せ人家を流し、千余人漂没する。 (吾妻鏡、房総通史)
建永 1 (1206)	暴風雨高潮	八月十一日 (9月22日) 下総の海岸に高潮、死者数を知らず、この年凶作となる。(分類本朝年代記) 註 前項の誤記らしい。
寛喜 2 (1230)	洪 水	九月八日 (10月22日) 関東洪水ありて人多く死す。 (銚子市史) 終日雨降り、夜に入って大風、天下の過半損亡す。 (百練抄)
建長 2 (1250)	異物 降 る	正月十三日 (2月22日) 下総の国、結城郡に天から麦が降った。焼いた (煎った) 麦のようであったと云う。(吾妻鏡、房総通誌)
正嘉 2 (1258)	暴 風 雨	八月一日 (9月6日) 近畿、関東諸国大風雨洪水、天下大飢饉、人民死亡し畢んぬ。(神明鏡) 諸国田園悉く損亡す。(吾妻鏡)
永仁 1 (1293)	高 潮	八月二十五日 (10月3日) 海嘯にて当代島 (浦安) 全滅せり。 (東葛飾郡誌)
延元 3 (1338)	暴 風	九月十一日 (11月1日) 北畠親房伊勢大湊を発し東国に向う。途中上総海岸において颶風に遇い船四散する。(吾妻鏡)
興国 4 (1343)	地 震	五月六日 (6月6日) 関東の地大いに震う。(君津郡誌)
正平11 (1356)	飢 饉	天下大いに飢う。(君津郡誌)
建徳 1 (1370)	暴 風	九月十九日、二十日 (10月17日～18日) 両日関東大風、田畠を損傷す。(君津郡誌)
応永10 (1403)	暴風・高潮	八月三日 (8月29日) 大風・上総の国に海嘯あり。 (大日本府県志)
正長 1 (1428)	飢 饉	諸国凶作、飢死する者数を知らず。土賊峰起する。(君津郡誌)

年 号 (西歴)	災 異 種 別	災 異 記 事
天文18 (1549)	暴 風	正月二十一日 (2月28日) 大風あり。(玄蕃先代集、銚子市史)
	洪 水	十二月十四日 (1550年1月11日) 大水にて死者多く出る。 (玄蕃先代集、銚子市史)
天文19 (1550)	降 砂	三月 (3月28日～) 砂降る。屋暗きこと七日なりと云う。 (海上郡誌、東葛飾郡誌)
弘治 1 (1555)	暴 風	三月 (4月2日～) 下総の国大風あり。 (海上郡誌、銚子市史、東葛飾郡誌)
	大 雨	四月 (5月1日～) 大雨降る。 (海上郡誌、銚子市史、東葛飾郡誌)
慶長 1 (1596)	長 雨	正月より六月迄雨降り、六月二十日 (7月15日) 大水により多くの死者を出す。(玄蕃先代集、銚子市史) 六月十九日、北総大洪水。(佐原市史) 六月十九日、二十三日、信甲関東洪水、百年以来の大水と云う。 (当代記)
慶長 4 (1599)	暴 風	六、七月 (7月22日～) 下総、上総大風吹く。(当代記)
	凶 作	夏秋凶作、餓死者あり。(当代記)
慶長 7 (1602)	暴 風 雨	八月二十八日 (10月13日) 風雨、関東は夥しく所々水入る大凶年なり。(当代記) 関東一帯暴風雨洪水 (佐原市史)
慶長 9 (1604)	暴 風 雨	四月二十三日 (5月21日) 関東大風雨洪水。(当代記)
	地震・津波	十二月十六日 (1605年2月3日) 上総等大地震。津波起こり家屋漂削す。(銚子市史) この日の地震は午前と夜半の2回引続いて起った。最初の地震は南海道沖に震源を有するもので、房総の海岸は約4軒に互って干瀉となり、無数の魚介を拾うことが出来た。2回目の地震は房総半島沖に震源を有するもので、沖合すさまじく鳴動するうちに津波が起こり、小山の中腹まで押寄せた。この為安房、上総、下総の海岸45ヶ所の漁家民屋は悉く押流され、人畜の溺死するもの数を知らず。また、山崩れによって、海が埋められ山となった所もあるという。(関八州古戦録、房総治乱記) 震源、南海道沖と房総半島沖、 $M=7.9$ 註 この地震を天正十八年(1590年)二月十六日とするもの(関八州古戦録)、 慶長六年(1601年)十二月十六日とするもの(房総治乱記、房総軍記) あれど何れも誤まり伝えたものと思われる。 長生郡郷土誌、君津郡誌、千葉県誌、東葛飾郡誌等、何れも誤伝に従う。

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
慶長 14 (1609)	雷 雹	三月一日 (4月5日) 下総の国、笠井に雹降りて家十七、八軒破損、雷夥く鳴る。関宿にて杉の木に落雷あり。(徳川実記)
	暴 風	九月六日 (10月3日) 房総地方大風起り、家屋を倒し樹木を折り船舶を覆す。夷隅郡田尻 (大野浦とも記す) に蛭船漂着す。 (房総軍記、上総国誌、千葉県誌) 禾穀を損傷す。(君津郡誌) 大風 (郷土誌「久留里郷」)
慶長 19 (1614)	津 波	十月二十五日 (11月26日) 大津波。銚子飯沼観音境内後門に潮水浸入す。この年大飢饉妻子を売る者多し。(玄蕃先代集、銚子市史) 註 この日越後、紀伊、相模に大地震あり。震域が広がったので、地震による津波と思われる。尚、銚子「千人塚」由来によれば、この日銚子沖に出漁中の漁師千余人が溺死し、之を合葬したのが「千人塚」であるという。或は高潮を伴った暴風であつたかも知れない。
元和 3 (1617)	高 潮	津波飯沼へ強く上りたる由、十二月十三日 (1618年1月9日) なるべし。 (銚子木国会史、銚子市史)
元和 7 (1621)	暴 風 雨	三月七日 (4月28日) 大風雨雷鳴ること甚し。豆腐の海上大いに荒れて渡海の船覆没し溺死する者数百人に及ぶ。 (徳川実紀、柳営日記)
元和 8 (1622)	飢 饉	大飢饉あり。(安房志)
寛永 1 (1624)	洪 水	三月 (4月18日～) 利根川洪水。(香取郡誌)
寛永 4 (1627)	地震・津波	八月五日 (9月14日) 地震海嘯あり。(安房郡誌)
寛永 12 (1635)	火 事	十二月二十三日 (1636年1月30日) 夜、名古屋村火を失し二十八戸に延焼す。領主より一戸に付金二両を貸与す。(香取郡誌)
寛永 16 (1639)	暴風雨高潮	二月十三日 (3月17日) 大風雨、飯沼堂の下まで波打上げ、川底づたいに飯貝根岡へ上る。(海上郡誌、銚子市史)
寛永 18 (1641)	夏の雪飢饉	八月 (9月5日～) 雪降る。この年大飢饉。(安房郡誌)
寛永 19 (1642)	地震・津波	八月 (8月26日～) 安房の国地震及び海嘯あり。(千葉県誌) 君津郡誌には寛永二十年八月と記す。
	旱 魃	上総の国、東金地方禾穀登らず、翌年八月に及び大に飢う。 (千葉県誌、君津郡誌)
慶安 3 (1650)	降雹・冷夏	六月一日 (6月29日) 下総の国に雹降る。重さ一斤余。この夏、土用中と雖も甚だ涼しく綿入を着る。 (山鹿素行先生日記)
慶安 4 (1651)	暴 風 雨	十月十三日 (11月25日) 大風雨あり。当地方の被害甚しく家屋倒る。(葛飾区史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 種 別
		行徳附近民家千軒傾覆するという。(徳川実紀)
承応 3 (1654)	高 潮	十一月(12月9日～)大風大浪により飯貝根の人家六十軒流さる。之を飯貝根崩れと云う。(銚子市史)
明暦 1 (1655)	地震・津波	四月(5月6日～)東上総の地大いに震う。 (千葉県誌、君津郡誌、一宮町史) 四月東上総地方津波 (白子町史)
明暦 2 (1656)	降 雹	六月(7月22日～)雹降る。目方八十五匁ありと云う。 (海上郡誌)
	高 潮	八月二十二日(10月9日)風浪の災ありて百姓家十五軒、旅宿(漁師の泊り小屋)三十四軒流さる。(銚子市史)
明暦 3 (1657)	高 潮	十月(11月6日～)海嘯あり人馬死するものあり。 (銚子郷土史年表) 海嘯あり。(東葛飾郡誌)
萬治 2 (1659)	洪 水	七月二日(8月19日)洪水あり。(東葛飾郡誌)
萬治 3 (1660)	洪 水	五月五日(6月12日)利根川洪水。下桜井、宮原等の耕地を浸し、用水路等を破壊す。(香取郡誌、佐原町誌、佐原市史)
寛文 2 (1662)	高 潮	六月十九日(8月3日)銚子に海嘯あり。(銚子郷土史年表) 日付不詳なれど東葛飾郡誌にも海嘯の記録あり。
寛文 7 (1667)	洪 水	七月(8月20日～)利根川出水。再び下桜井、宮原等の沿岸耕地を浸す。(香取郡誌、佐原町誌、佐原市史)
寛文10 (1670)	暴 風 雨	六月三日(7月19日)下総の国、関宿並びに相模の地風雨にて洪水。 (徳川実紀)
	高 潮	十一月五日(12月17日)房総の地、海嘯の惨害を蒙る。 (海上郡誌)
延宝 2 (1674)	暴 風 雨	八月六日(9月5日)香取郡地方大風雨、須賀山村諏訪神社境内の松樹折損するもの五百余株。(香取郡誌) 八月仙台船四十二隻近海にて滅没す。(銚子市史) 註 隣接都県の記録を参照するに八月十六日(9月15日)かも知れない。
延宝 4 (1676)	長 雨	正月(2月14日～)より三月に至るの間霖雨。(香取郡誌)
延宝 5 (1677)	高 潮	八月六日(9月2日)暴風海嘯あり。(東葛飾郡誌)
	洪 水	九月四日(9月30日)大雨降り、洪水にて稻残らず流され、東浪見村八ヶ所の堤防破れる。(一宮町史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
延宝 5 (1677)	地震・津波	十月九日 (11月4日) 夜、五ツ時分少し地震あり。辰己沖より海夥しく鳴来り、釣村より一宮境まで下通りの家屋五十二軒打潰し、男女子供百三十七人、牛馬二十六匹死す。その節の負傷者十四、五人も、二、三十日の間に死去する。 (一宮町史、白子町史) 夜、四ツ時、銚子に海嘯あり。千人塚の側に大池を現出す。高神村に大波打ちあげ、樹木一万余を倒す。笠上、飯沼、外川、長崎の漁家民家大被害を蒙り、人畜の死傷多し。 (玄蕃先代集、銚子市史) 上総沿岸に海嘯あり。 (千葉県誌、君津郡誌) 震源 小名浜沖 M=7.4
延宝 8 (1680)	高 潮	閏八月六日 (9月28日) 暴風海嘯あり。 (東葛飾郡誌) 行徳領全体で百余人死亡だという。 (船橋市史)
天和 2 (1682)	火 事	二月十八日 (3月26日) 名古屋村火災あり。五十余戸に延焼す。幕府被災人民に給するに米穀及び木材を以てす。 (香取郡誌)
貞享 2 (1685)	旱 魃	この年旱す。 (香取郡誌)
貞享 3 (1686)	旱 魃	復旱す。 (香取郡誌、東葛飾郡誌)
元祿 4 (1691)	暴 風	七月二十二日 (8月15日) 北風暴烈、変じて南東風となり、海水陸上に達す。鰐漁船顛覆して漁夫死する者四百四人。 (海上郡誌、銚子市史)
	飢 饉	田畑荒寥竹木枯凋して人民飢饉す。 (海上郡誌)
元祿 5 (1692)	飢 饉	関東諸国及び奥州米穀不熟。 (銚子市史)
元祿 7 (1694)	水 害	水害により年貢米百四俵減免せらる。 (一宮町史)
元祿 8 (1695)	飢 饉	大飢饉あり。 (安房郡誌) 春寒く、夏霖雨、秋大風、寒さ早く諸国総らず。 (日本近世飢饉史)
元祿14 (1701)	雪 霰	三月十一日 (4月18日) 干潟地方大いに雪霰あり。禾穀を害す。 (香取郡誌、古城村誌)
	暴風雨高潮	七月二十一日 (8月24日) 北風強く、変じて南東風となり、海水暴漲し干潟地方亦損害あり。 (香取郡誌、古城村誌) 北総大暴風雨 (佐原市史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
元祿 15 (1702)	飢 饉	二月 (2月27日～) 天下飢饉。(銚子市史、東葛飾郡誌) 五月 (5月27日～) 銚子荒野板倉洞元施米をなすこと毎月千人以上に及ぶ。(銚子市史) 前年の不作に引続き村民益々窮困す。 是において干瀉新田の困窮の老若男女を使役して、扶持米を給し、干瀉周囲の大惣堀小惣堀の浚渫を為さしむ。之を御助普請と称す。(古城村誌)
	塩 害	月日不詳、海風大いに起り田圃を害す。(香取郡誌)
元祿 16 (1703)	旱 魃	五月 (6月14日～) より大旱、五穀実らず。(銚子市史)
	暴 風 雨	七月十七日 (8月29日) 大暴風雨に見舞われ、一宮本郷村の田地百十一町歩のうち、六十三町八反六畝が免租せらる。(一宮町史)
元祿 16 (1703)	火 事	十月 (11月9日～) 飯貝根外浜より出火。和田の川端まで焼く。(銚子市史)
	地震・津波	十一月二十三日 (12月31日) 丑刻 (午前2時) 武蔵、相模、安房上総諸国の地大いに震い、続いて海嘯暴溢し小田原、鎌倉、安房の長狭、朝夷の両郡、上総の夷隅郡等その災を被れり、餘震年を越えて止まず。(大日本地震資料) この地震の為、長狭郡平塚村内所々に5～6尺に及ぶ地割を生じ、小湊海岸は陥没して往時の誕生寺前庭は海中に入り、現在の鯛の浦が現出した。一方、千倉の海岸は1～4軒にわたり干瀉となり、しばらくの間潮がささなかった。この地震に伴う津波は夷隅郡、長生郡、山武郡の海岸一帯を襲って家屋を押流し、数千の死者を出した。 (長生郡誌、君津郡誌、千葉県誌) 銚子附近には津波3回押寄せ、船着場を崩し、家屋流失1戸、納屋数戸潰さる。(銚子木国会史) 浦安、船橋地方津波にて人畜多く死す。(東葛飾郡誌) 船橋地方この地震以来不漁となる。(船橋市史) 震源 房州沖 M=8.2
宝永 1 (1704)	地 震	二月二十四日 (3月29日) 地震あり、震動時間長く方々崩る。(銚子木国会史) 二月地震あり (東葛飾郡誌)
	長雨・洪水	六月半ばより関東、東海地方霖雨。六月二十九日 (7月30日) 松戸地方大洪水、浸水地上八尺余。(東葛飾郡誌) 七月三日 (8月3日) 頃、行徳より江戸浅草附近まで洪水、床上六、七尺に及び溺死者多数という。(徳川実紀) 六月二十九日利根川大水、七月二日夜、満水して川辺二郷半領、行徳領葛西領何れも洪水、流失家屋多し。(船橋市史) 八月四日 (9月2日) 大洪水。水元猿ヶ又の堤防決壊し、被害甚し。(葛飾区史) 利根川堤防決壊。(佐原市史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
	旱 魃	十一月 (11月27日～) より翌年三月に至るの間、雨降らず。 (香取郡誌)
宝永 2 (1705)	火 事	十月十七日 (12月2日) 寺町の神社仏閣焼失。(木更津郷土誌)
宝永 4 (1707)	津 波	十月四日 (10月28日) 海嘯あり。(東葛飾郡誌) 震源 紀州沖 M=8.4
	降 灰	十一月二十三日 (12月16日) 富士山噴火、降灰多し。(銚子市史) 船橋にては三寸ないし四寸積る。(船橋市史) 一松村五・六寸積る。(長生村史)
宝永 6 (1709)	凶 作	不作の為田百十一町歩のうち四十八町一反五畝免租せらる。(一宮町史)
宝永 7 (1710)	暴 風	十二月二日 (1711年1月21日) 青柳村の年貢米、大豆、麦、薪等を積んだ極印船 (登録船) は大風のため検見川沖で難船した。 (五井町歴史年表)
正徳 1 (1711)	暴 風 雨	暴風雨被害のため田地百十一町歩のうち十町七反免租せらる。 (一宮町史)
	暴 風	十二月 (1712年1月8日～) 青柳村の江戸通いの船 (極印船) は大風のため登戸浦で難船した。 (五井町歴史年表)
正徳 3 (1713)	凶 作	不作の為田百十一町歩のうち一町三反免租せらる。(一宮町史)
正徳 4 (1714)	暴 風	八月八日 (9月16日) 夜、五ツ時分 (午後8時) より南大風吹出し、九日、四ツ (午前10時) 過まで吹く。田畑耕作に大損害。世上飢饉になる。 (東葛飾郡誌)
享保 2 (1717)	暴 風	八月十六日 (9月20日) 南風大吹、悪風耕作大分損 秋より暮米価高騰す。(東葛飾郡誌)
享保 3 (1718)	火 事	十月十八日 (11月10日) 夜、新上川岸より発火、本宿百十八棟 (内土蔵十五) 新宿五十六棟、計百七十四棟焼失。(佐原市史)
享保 5 (1720)	火 事	四月二十四日 (5月30日) 明七ツ半時 (午前5時) 外川より出火、二百数十軒焼く。(銚子木国会史、銚子市史)
享保 6 (1721)	暴風雨洪水	七月十八日 (8月10日) イナサ (南東) 大風雨にて畑作類悪し。 (海上郡誌、銚子木国会史、銚子市史) 閏七月十七日 (9月8日) 佐倉洪水。十八日閏宿、一丈八尺増水して堤防決潰、人馬損傷多し。香取郡内一丈余増水 (月堂見聞集) 月日不詳暴風、洪水、海嘯あり。(東葛飾郡誌)
享保 7 (1722)	火 事	十二月二十四日 (1723年1月30日) 午後四時過ぎ関戸水神坊借地より出火、西風により新宿の横宿残らず焼失。(佐原市史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
享保 8 (1723)	洪 水	八月九日 (9月8日) 大雷雨、十一日より出水。(東葛飾郡誌) 十日、関宿洪水、四、五百人溺死、約五万石の減収 (月堂見聞集)
享保 10 (1725)	火 事	二月二十五日 (4月8日) 新宿の横宿焼失、百四十一軒焼く。 (佐原市史)
享保 12 (1727)	暴 風 雨	九月十二日 (10月26日) 大風雨、貝塚村に山崩ありて死者あり。 (香取郡誌、銚子木国会史、銚子市史)
享保 13 (1728)	火 事	正月十七日 (2月26日) 夜、七ッ (午後4時) 頃より、明六ッ (午前6時) 頃まで外川火事。(銚子木国会史、銚子市史)
	洪 水	九月二日 (10月4日) 洪水。(東葛飾郡誌) 市川近郷稲架流されるもの多し。百年例のない洪水という。 (船橋市史)
享保 15 (1730)	電 雷	七月十三日 (8月26日) 大雷。(香取郡誌)
	洪 水	八月二十九日 (10月10日) 葛飾一帯に大洪水、川端の民家七戸 押流さる。(葛飾区史)
享保 16 (1731)	凶 作	八月二十七日 (9月27日) より九月二十日 (10月20日) まで 永雨洪水度々あり。九月二日 (10月2日) 同十七日 (10月17 日) の嵐にて晩稻及び畑方風損にて不作 (茂原市史)
享保 17 (1732)	洪 水	千瀉新田出水。(香取郡誌、古城村誌)
	火 事	二月二十七日 (3月23日) 吾妻より寺町方面まで延焼。 吾妻の どんどん火事という。(木更津郷土誌)
	火 事	八月十五日 (10月3日) 外川火事、家多く焼失。 (銚子木国会史、銚子市史)
	地 崩	十月十九日 (12月6日) 屋 八ッ (午後2時) 頃、夥しく地鳴し て千騎ヶ窟の東方大いに崩る。(銚子木国会史、銚子市史)
享保 19 (1734)	洪 水	十月 (10月27日～) 猿ヶ又 (水元) の堤防洪水の為、決潰し全 町村に亘り浸水す。被害甚し。(葛飾区史)
寛保 2 (1740)	洪 水	八月八日 (9月6日) 関東洪水、下総等の四国被害最も甚し。 (千葉県誌) 北総被害最も甚し。(君津郡誌) 利根川洪水、稼穡を害す。(香取郡誌、佐原町誌) 関宿の城大破す。(徳川実紀) 幕府は諸侯に課して堤防河川を修め しむ。(葛飾区史)
延享 3 (1746)	降 雹	三月一日 (4月21日) 長柄郡に降雹、麦作皆無、飛鳥打落され半 死となる。秤ってみるに22匁～18匁。(房総叢書、一宮町史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
延享 3 (1746)	暴 風 雨	六月五日 (7月22日) 異風 (南東風) 吹き、雨を伴い畑作大いにいたむ。 (銚子木国会史、銚子市史)
	暴風・高潮	八月一日 (9月15日) 暴風、海嘯。船橋にて漁夫二十八人溺死。 (東葛飾郡誌、船橋市史)
宝暦 2 (1752)	洪 水	粟山川出水。 (香取郡誌)
宝暦 4 (1754)	暴 風	十二月二十八日 (1755年2月8日) 大風吹き諸浦破損す。 (銚子市史)
宝暦 6 (1756)	地 震	正月二十一日 (2月20日) 夜大地震。 (銚子市史)
宝暦 7 (1757)	長雨・洪水	四月十八日 (6月4日) より五月六日 (6月22日) 迄昼夜霖雨にて諸国大水、秋の如し。総州古河、関宿迄大水。 (東京市史稿、船橋市史)
	洪 水	秋、利根川洪水。 (香取郡誌、佐原町誌) 秋、香取郡大風雨 (佐原市史)
宝暦 11 (1761)	暴風雨高潮	八月十七日 (9月15日) 大風雨にて東金新治道の並木松三本風折。 (八街町史) 八月十七日、銚子に風雨海嘯あり。 (海上郡誌、銚子市史) 八月風雨海嘯あり。 (東葛飾郡誌)
	暴 風 雨	十一月二十三日 (12月18日) 大風雨、貝塚村人家倒壊するもの二十余軒 (香取郡誌)
明和 2 (1765)	暴風・高潮	八月二日 (9月16日) 風雨海嘯あり。 (東葛飾郡誌)
明和 3 (1766)	津 波	一月二十八日 (3月8日) 銚子に海嘯あり。 (海上郡誌) 註 この日津軽に大地震あり。 M=6.9 月日不詳、津波あり。 (銚子市史)
	長雨・洪水	下総の国、佐原村六月 (7月7日～) より八月に至るまで雨降り続きければ水害かぶりし村々艱困に及ぶ。 (徳川実紀) 七月六日 (8月11日) 関東大洪水。 (東葛飾郡誌) 亀有・青戸方面被害甚し。 (葛飾区史)
明和 6 (1769)	火 事	この頃、民家より出火し一村悉く焼失したという記録が八雲神社に残されている。 (鴨川沿革史)
明和 7 (1770)	旱 魃	五月二十七日 (6月20日) 降雨あり。後百余日間旱し樹木枯損するもの多し。 (香取郡誌)
明和 8 (1771)	津 波	三月十日 (4月24日) 昼 四ツ時 (午前10時頃) 房州 布良、相浜の海辺は、不思議なことに度々汐の差引あり。船を残らず畑の際まで引揚げた。 (館山市相浜、石井家「諸色覚日記」) 註 これは沖繩石垣島附近の海底に起つた地震 (M=7.4) によるものと思われる。

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
明和 8 (1771)	旱 魃	四月二十三日 (6月5日) より二箇月余降雨なし。水田亀裂す。 (香取郡誌) 明和七、八両年のひでりにて房総常武五ヶ国共に人民甚だ飢に及び 難儀至極。 (安食早魃物語)
安永 1 (1772)	暴風・高潮	八月一日 (9月9日) 大風・津波あり。 (船橋市史)
	暴風雨高潮	八月朔日 (8月29日) 南東風烈しく、同二日南風最も強く禾稼を 損すること多し。 (香取郡誌) 秋大風雨あり、諸国河水氾濫し、被害多し。 (千葉県誌、君津郡誌) 銚子に風雨海嘯あり。 (海上郡誌、銚子市史)
	暴風雨高潮	六月二十三日 (7月31日) 大風雨あり。上小松正福寺本堂大破す (葛飾区史) 大風あり。 (君津郡誌) 津波あり。 (銚子市史)
安永 3 (1774)	暴 風 雨	八月九日 (9月14日) 夜明頃より俄かに辰巳風にて大時化、高浪 立ち大風雨となり、田畑は勿論、厩、居家、添屋まで次倒し、汐風 吹上げ田方存外の難渋を来す。 (御宿町史料)
	利根川結氷	十二月 (1775年1月2日～) 寒気殊に烈しく利根川筋結氷し、 川口に至るまで舟を通せず、稀有の事たり。 (香取郡誌、佐原町誌、銚子市史)
	高 潮	九月 (9月25日～) 安房、相模、伊豆、海嘯ありて、民家漂没し、 人多く溺死す。 (米相場考) 津波あり。 (銚子市史) 月日不詳風雨海嘯あり。 (東葛飾郡誌)
安永 6 (1777)	洪 水	七月 (8月3日～) 印旛沼出水。利根川に氾濫し本郡地方亦被害す。 (香取郡誌、佐原町誌、佐原市史) 津波あり。 (銚子市史)
安永 8 (1779)	暴風雨洪水	八月二十日 (9月29日) より大雨止まず二十四日二十五日諸国大 洪水。江戸甚し。 (東葛飾郡誌) 八月二十五日 (10月4日) 暴風雨 (船橋市史) 飯田村山崩れ。安国寺壊る。 (香取郡誌)
	洪 水	六月二日 (7月3日) 中川附近の家浸水す。 (葛飾区史) 六月二十六日 (7月27日) 洪水。 (東葛飾郡誌) 六月この月半ばより雨降り続き武蔵、上総、下総、上野、下野、 常陸の国々に水あふれ漂溺の民家あまた有りしによりて関東郡代に 仰せて窮民を賑救せらるという。 (徳川実紀)
安永 9 (1780)	竜 巻	九月八日 (10月5日) 昼九ツ時、九塚村に突然、大竜巻が起り、 鎮守本社殿宅ともに吹潰され、その上、社地の大木残らず吹折れ、 吹倒さる。 (茂原市史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
天明 1 (1781)	オーロラ	十二月十二日 (1781年1月6日) 夜、関宿、古河にて赤気見ゆ。 (一話一言)
	長雨・凶作	六月 (7月21日～) 末より霖雨続きて米半作に達せず。 (天明卯辰築) 関東洪水 (銚子市史) 打続く不作により困窮者の悪者が多いので海保村外14ヶ村は防犯規約を作って自警した。 (五井町歴史年表)
天明 2 (1782)	夏の雪	七月 (8月9日～) 下総の国雪降る。 (続日本王代一覽)
	凶 作	不作の為、年貢米二千百五十俵のうち、百七俵切引される。 (一宮町史)
天明 3 (1783)	洪 水	六月十四日 (7月13日) 夜より十六日まで大風雨、新治、香取、海上 (郡) の水耕地より高きこと一丈余。稻草腐敗し、畑皆立枯となる。 (東葛飾郡誌) 六月十五日より十八日まで雨降り、大洪水にて被害大。(佐倉市誌資料) 六月大洪水、当地方の被害甚しく、就中 砂原、飯塚、金町方面最も甚し。(葛飾区史) 出津村は、この年の洪水のため川州ができたので、この時より出津と呼ばれるようになった。それまでは五井村の支村と云った。 (五井町歴史年表)
	降 灰	浅間山噴火 (5月9日～8月5日) 七月六日 (8月3日) の明方より石炭様のもの降り、七日明方より砂に相成り、八日暮までに二寸余積る。幾世村、大間手村、長尾村では約四寸積る。 (佐倉市誌資料) 七日、昼より九日夕時に至るまで各地沙土を降らし、田圃を害す。 (香取郡誌) 七月昼夜砂降ること三日。(東葛飾郡誌、銚子市史) 降灰四寸より六寸に及ぶ。(海上郡誌) 白き砂降る。(本納町誌)
	凶 作	気候寒くして冬の如く。禾穀実らず。(千葉県誌、君津郡誌)
	飢 饉	関東飢饉 (香取郡誌)
天明 4 (1784)	飢 饉	関東飢饉 (香取郡誌)
天明 5 (1785)	旱 魃	夏大旱し、禾穀登らず。(香取郡誌、古城村誌) この年より五ヶ年間、風水旱の損毛三分以上の者に対し、年貢米の供出を減ぜられる。(御宿町史料) 旱害の為、年貢米二千百五十俵のうち、九百十七俵切引される。 (一宮町史)
	洪 水	七月十一日 (8月4日) より十七日に至る大雨のため作物の被害少からず。(香取郡誌、古城村誌) 流失、潰家等過半に及び大飢饉、代官の救恤あり。(佐原町誌) 印旛沼の埋立悉く流さる。(天明紀聞) 利根川、中川の堤防数ヶ所破壊す。男女溺死人当地方のみにて数百人を数う。又、多くの社寺・人家を流す。(葛飾区誌)
天明 6 (1786)	洪 水	七月十一日 (8月4日) より十七日に至る大雨のため作物の被害少からず。(香取郡誌、古城村誌) 流失、潰家等過半に及び大飢饉、代官の救恤あり。(佐原町誌) 印旛沼の埋立悉く流さる。(天明紀聞) 利根川、中川の堤防数ヶ所破壊す。男女溺死人当地方のみにて数百人を数う。又、多くの社寺・人家を流す。(葛飾区誌)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
		七月十二日より、大洪水を發し、関東江戸死亡者多し。 (東葛飾郡誌)
	洪 水	十月 (10月22日～) 中旬武蔵、下総、上野、下野等大雨洪水。 (日本災異志) 利根川沿岸村落耕地悉く被害し、十六島では床上浸水、干瀉地方の水害も甚し (香取郡誌) 暴風雨被害のため年貢米二百俵減免せらる。 (一宮町史)
天明 7 (1787)	飢 饉	関東諸国に飢饉あり。 (葛飾区史) 不作続きで諸民疲弊し、悪事をする者が増えたので再び防犯組合を作って自警した。 (五井町歴史年表)
寛政 1 (1789)	旱 魃	旱害の為年貢米二千百五十俵のうち、千四百五十俵切引される。 (一宮町史)
寛政 3 (1791)	噴 水	四月十七日 (5月19日) 朝夷郡江見村西山鳴動して山上の古泉院境内に噴水し、本堂の棟瓦及び杉の梢を現わすのみという。 (安房郡誌)
	暴風雨高潮	八月五日、六日 (9月2日～3日) 暴風雨海嘯、被害甚しく原木村は民家残らず吹流し、流死三百余あり。二俣村も民家大半吹流す。 (東葛飾郡誌) 柴又妙門寺溺死者供養塔によれば、この時の死者百十一人。 (船橋市史)
	暴風雨高潮	九月四日 (10月1日) 大風雨。行徳、船橋塩浜一円民家流失す。 (武江年表、船橋市史)
	堤 防 決 潰	君塚村の天明年度の開発地は寛政二年及び三年の二回の洪水によって海側の塩田と水田の囲い堤が破壊され、元の海面となった。 (五井町歴史年表)
	凶 作	不作の為、年貢米二千百五十俵のうち、百七俵切引される。 (一宮町史)
寛政 4 (1792)	旱 魃	夏旱魃のため枯場多く、見分の上年貢米の供出を減ぜられる。 (御宿町史料)
寛政 5 (1793)	長雨・洪水	七月 (8月7日～) より九月まで霖雨洪水。 (東葛飾郡誌)
	凶 作	不作の為年貢米二千百五十俵のうち、七百五十俵切引される。 (一宮町史)
寛政 6 (1794)	凶 作	不作の為年貢米二千百五十俵のうち六百七十八俵切引される。 (一宮町史)
寛政 7 (1795)	暴 風 雨	暴風雨被害のため年貢米百五十俵減免せらる。 (一宮町史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
寛政 9 (1797)	暴 風 雨	暴風雨被害のため年貢米三百二十六俵減免せらる。 (一宮町史)
寛政10 (1798)	洪 水	四月 (5月16日～) 関東洪水あり。 (三貨図彙)
	暴 風 雨	八月十九日 (9月28日) 大風雨の節、御宿西明寺の鐘楼倒壊、鐘も破損する。 (御宿町史料)
寛政12 (1800)	洪 水	六月 (7月22日～) 利根川洪水あり。天明の災に重ぐという。 (葛飾区史、香取郡誌、佐原町誌)
	竜 巻	七月二十八日 (9月16日) 東の方から激しい竜巻が通り過ぎた。家屋全潰二十三軒、半潰二十七軒、小漁船七隻破損、怪我十一人。 (船橋市史)
寛政年間 (1789～800)	旱 魃	七ヶ年打続きて大旱魃あり。 (安房郡誌)
享和 2 (1802)	洪 水	六月 (6月30日～) 霖雨洪水。 (東葛飾郡誌)
		七月 (7月29日～) 大洪水あり。江戸川、中川氾濫し、上流権現堂堤を決潰せし為、葛西一帯泥海と化す。 (葛飾区史)
享和 3 (1803)	火 事	六月二十二日 (8月9日) 飯高村飯高寺学寮より出火し、学寮七戸民家三十戸に延焼す。 (香取郡誌)
文化 2 (1805)	旱 魃	五月 (5月29日～) より七月に至る間旱す。 (香取郡誌)
	火 事	月日不詳、中村中宿出火し、数十戸に延焼す。 (香取郡誌)
文化 4 (1807)	火 事	十二月 (12月29日～) 新生浜より出火四十七軒焼く。 (銚子木国会史、銚子市史)
文化 5 (1808)	洪 水	七月二十五日 (9月15日) 利根川出水。本郡被害あり。 (香取郡誌)
	暴 風	八月二十三日 (10月12日) 夜 大風、破損の家屋頗る多し。 (香取郡誌)
文化 6 (1809)	註 これは次項を誤記したものと思われる。	
	暴 風 雨	八月二十三日 (10月2日) 夜 亥の刻 (午後10時) より二十四日迄大風雨。伊豆、房総の漁人多く溺死す。 (武江年表)
	暴 風 雨	九月十九日 (10月27日) 大風雨。 (香取郡誌)
文化 9 (1812)	火 事	正月二十八日 (3月11日) 方田村火災あり。全村に延焼す。 (香取郡誌)
	洪 水	七月 (8月7日～) 利根川出水。 (香取郡誌) 佐原代官の救恤あり。 (佐原町誌)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
文化11 (1814)	暴 風	秋大風。禾を損し才登らず。 (香取郡誌)
	火 事	十月朔日 (11月12日) 荒野村明神町大火あり。 (玄蕃日記、銚子市史)
文化12 (1815)	降 灰	一月二十日 (2月28日) 夜中白砂とも灰とも分らぬもの降る。 (玄蕃日記、銚子史) 註 浅間山の噴火によるものと思われる。
文化13 (1816)	暴 風 雨	閏八月四日 (9月25日) 大風雨、大洪水。樹木を倒し田畑砂土に埋る。 (東葛飾郡誌)
文化14 (1817)	火 事	十一月某日 (12月8日～) 五郷内村樹林寺門前火災あり。十余戸を焼く。 (香取郡誌)
文政 3 (1820)	凶 作	不作の為年貢米二千百五十俵のうち二百二十俵切引される。 (一宮町史)
文政 4 (1821)	旱 魃	二月 (3月4日～) より六月に至るまで旱す。 (香取郡誌)
	火 事	九月 (9月26日～) 金原村大火あり。 (香取郡誌)
文政 5 (1822)	暴 風 雨	六月十二日 (7月29日) 巳刻 (午前10時) より東南風烈しく吹いて雨車軸を流し、玉川洋溢し、稻毛民家漂流し云々。 (続日本王代一覽後記) 風雨海嘯あり。 (東葛飾郡誌)
文政 6 (1823)	暴風雨高潮	八月十七日 (9月21日) 暴風雨、海嘯あり。 (東葛飾郡誌) 上総の国大風雨吹いて山田の害夥し。 (日本気象資料)
文政 7 (1824)	旱 魃	夏旱す。 (香取郡誌)
	洪 水	八月十三日 (9月5日) 関宿辺大風雨洪水。 (日本気象資料)
文政 8 (1825)	洪 水	八月 (9月13日～) 中旬、洪水あり (東葛飾郡誌)
文政 9 (1826)	旱 魃	また旱す。 (香取郡誌)
文政11 (1828)	降 雹	四月二十三日 (6月5日) 申刻 (午後4時) より江都雷鳴、夜に入りて大雨嵐、下総大雹降る。 (東京市史稿)
	異 物 降 る	七月十五日 (8月25日) の夜、豆殻の如きものを降らす。 (香取郡誌)
文政10 ～11 (1827 ～28)	凶 作	二年引続いて雨多く、夏寒く穀物不作。 (船橋市史)
天保 1 (1830)	火 事	三月二十二日 (4月14日) 宮本村火災あり。民家六戸に延焼し十余棟に及ぼす。 (香取郡誌)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
天保 4 (1833)	暴 風 雨	八月朔日 (9月14日) 大暴風雨あり。名木村民家十一戸を倒し、二十五戸を破損す。粟野村亦民家五戸傾倒す。其他諸村皆被害あり。死傷する者多し。 (香取郡誌) 船橋附近農村被害多し。 (船橋市史)
	暴 風 雨	八月二十五日 (10月8日) 大風雨、民家傾倒、死傷する者多し。古老曰く、八十余年間未だ知らざる風害なりと。この年稔らず、米価一兩に付四ないし五斗。 (佐原市史) 八月二十五日大暴風雨あり。家屋及び樹木の被害甚だ多く、交通杜絶稲作の被害甚大にして翌年の種子に窮し、米価倍額となる。 (千葉郡誌) 八月の大荒れで凶作となり、米相場が騰って困窮した。 (五井町歴史年表) 千葉附近損害多し。 (船橋市史) 八月辰己の方から大風起り、大嵐となって樹木を倒し、民家の潰されたるもの各村に多し。 (野田郷土史)
	暴 風 雪	十二月二十三日 (1834年2月1日) 葛飾郡大雪、烈風にて潰家多し。 (日本災異誌)
	暴 風	八月十四日 (9月16日) の大ナラへ風にて今富村では、潰家と破損が四十軒もあった。作物には損傷がなかった。 (五井町歴史年表) 八月十四日大風 (香取郡誌)
天保 5 (1834)	旱 魃	五穀登らず。 (安房志)
	大 雪	十二月 (12月30日～) 不思議な大雪となり、樹木の倒れたるもの幾千万、家が潰され、梁の下になって圧死する者あり。 (野田郷土誌)
	電 雷	六月十三日 (7月8日) 大雷、阿玉川民家其の他に落雷す。 (香取郡誌)
天保 6 (1835)	地震・風雨	六月二十五日 (7月20日) より二十八日に至るの間屢々地震あり、又 風雨多し。 (香取郡誌) 震源 陸前 M=7.6
	洪 水	六月二十七日 (7月22日) より 晦日に至るの間、東国大雨洪水、利根川の堤を押切り武蔵、下総の辺、田畑大いに漂流す。 (続日本王代一覽後記)
	暴 風 雨	七月十三日 (8月7日) 十六日 (8月10日) 大風雨にて利根川、江戸川氾濫し、二百十日もまた大嵐にて無難の日なし。 (野田郷土誌)
	冷夏・凶作	夏より秋に至るまで陰寒にして雨多く、禾穀登らず。天下大いに飢う。称して天保の飢饉という。 (千葉県誌、君津郡誌) 四月 (5月15日～) より雨勝ちにて九月下旬まで降り続く・・・冷気にて暑中単衣ものに相成る快晴は三、四日もこれあり候や。九月も
天保 7 (1836)	冷夏・凶作	

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
		月半分は雨降り候につき大不作。 (茂原市史) 五月 (6月14日～) より雨降り続き、且つ冷氣にて、六月土用中にも拘わらず袷を着用す。早稲は稍収獲ありしも晩稲は冷氣のため実らず、米価高騰して村民の窮状殊に烈し。 (古城村誌) 六月 (7月14日～) 北風、夏侯甚だ冷やかなり。 (香取郡誌) この年、凶作。 (八街町史料)
天保 7 (1836)	暴 風 雨	七月十七日 (8月28日) 及び八月朔日 (9月11日) 大風雨、禾穀を害す。利根川洪水、水量九尺余高し。 (香取郡誌) 七月十八日より辰巳風烈しく、村々破損甚し、鎗木宿天王の拝殿倒壊す。八月朔日暁風雨殊に甚し。 (古城村誌) 七月十七日、八月朔日両度の大風雨にて綿、さざげ、小豆、胡麻、もろこし等の諸作種子を失う。 (茂原市史) 七月十八日及び八月一日暴風雨。 (船橋市史)
天保 8 (1837)	暴 風 雨	八月一日 (8月31日) 暴風雨 (東葛飾郡誌)
天保 9 (1838)	電 雷	二月三日 (2月26日) 大雷 (香取郡誌)
	冷 夏	六月 (7月21日～) 寒冷 (香取郡誌)
天保10 (1839)	大 雪	正月十二日 (2月25日) 大雪 (香取郡誌)
天保11 (1840)	洪 水	八月十八、十九両日 (9月13～14日) 大雨。利根川 暴漲して堤防を破壊し、十六島を浸す。 (香取郡誌)
	暴 風 雨	九月朔日 (9月26日)、石巻より米千六百二十二俵を積んで九十九里浜一松郷沖合に差掛りし船、俄かに暴風雨に逢い大破して沈没す。乗組員は伝馬船にて一松海岸に辿り着き、村人に保護された。 (長生村史)
	高 波	月日不詳、大颶あり、ナガラミの沙堤洪浪に破砕す。 (銚子市史)
	火 事	十二月二十五日 (1841年1月17日) 午刻 (正午) 宮本村野火あり、民家九戸に延焼す。 (香取郡誌)
天保12 (1841)	大雨・洪水	五月十三日 (7月1日) より十六日まで昼夜の大雨にて川除け堤 数ヶ所破損、誠にあって稀なる洪水になり、田畑とも十日余水没す。 (白子町史) 五月崖崩れのため、長泉寺倒壊す。 (古城村誌)
天保14 (1843)	暴 風 雨	九月十日、十一日 (10月3～4日) 大風雨。 (香取郡誌)
		上総、下総大風雨、 (続泰平年表)
	暴 風 雨	閏九月二日 (10月24日) 上総の国大風雨。 (続泰平年表)
弘化 1 (1844)	火 事	三月 (4月18日～) 西田村出火あり、民家二十五軒、百二十五棟延焼す。 (香取郡誌)
	暴 風 雨	四月八日 (5月24日) 暴風雨、洪水。古川辺風雨殊に甚し。

年 号 (西 暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
		(東 葛 飾 郡 誌) (続 泰 平 年 表)
		総州古河辺大風雨洪水。
	洪 水	八月六日 (9 月 1 7 日) 下総の国洪水。(続泰平年表)
弘 化 2 (1845)	暴 風 雨	七月十七日 (8 月 1 9 日) 四ッ (午前 1 0 時) より丑寅 (北東) の方より風雨となり、七ッ (午後 4 時) より辰己 (南東) に廻り、塩風激しく田畑花咲のところ吹荒れて当惑、その上、七月二十五日 (8 月 2 7 日) より二十八日夜半まで昼夜大風にて田畑大荒れにつき小泉村 (現長生村) より訴状を出す。(一宮町史) 七月二十八日 (8 月 3 0 日) 上総養老川増水、高さ二丈に及び小家流れ、田畠を荒す。(松屋筆記)
弘 化 3 (1846)	長雨・洪水	閏五月 (6 月 2 4 日～) 下旬より六月下旬に至るまで利根川洪水。増水一丈余。十六島の如きは水上に点在するのみ。家屋流失、作物悉く被害、堤防の破壊多し。(香取郡誌、佐原町誌) 六月 (7 月 2 3 日～) 大洪水。江戸川の水量一丈二尺に達し、死者続出、代官より米麦を給せらる。(葛飾区史) 六月より九月に至る間霖雨、関東洪水。(君津郡誌)
嘉 永 2 (1849)	火 事	正月二十三日 (2 月 1 5 日) 油田村出火あり。民家二十四戸、寺院三字を焼き八本村に延焼す。総て百余棟に及ぶ。(香取郡誌)
	暴 風 雨	七月二十日 (9 月 6 日) 夜大風雨。民家破損し、田園の損害多し。(香取郡誌)
	暴 風 雨	七月二十八日 (9 月 1 4 日) また大風雨。各地山崩れ耕地を害し、民居を損し、利根川溢れ人畜多く死す。(香取郡誌)
嘉 永 5 (1852)	洪 水	七月二十二日 (9 月 5 日) 関宿大雨洪水。(続泰平年表)
	旱 魃	旱害の為年貢米八百七十一石のうち、二百三十二石八斗切引される。(一宮町史)
安 政 1 (1854)	地震・津波	十一月四日 (1 2 月 2 3 日) 関東大地震あり、房総の地も亦被害少なからず。安房の国に海嘯起りて、人畜を害す。(千葉県誌) 四ッ時大地震、九ッ時大津波襲来。名洗にて 漁船遭難、水夫 3 名溺死す。(銚子市史) 震源 東海道沖 M=8.4 注 銚子市史には七月四日とあれど十一月四日の誤記と思われる。千葉県誌は十一月三日とする。この地震の翌日にも南海道沖を震源とする大地震あり、被害甚大の為十一月二十七日安政と改元された。従つて、この地震の年代は嘉永七年とするのが正しい。
	火 事	十二月二十一日 (1 8 5 5 年 2 月 7 日) 夜 名古屋村法泉院より出火し、民家十九戸に延焼す。幕府一戸に付金三両を貸与す。(香取郡誌)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
安政 2 (1855)	火 事	十二月二十七日 (1855年2月13日) 夜五ツ半頃一宮下宿より出火、前後横町本宿まで延焼し、市街地大部分灰燼に帰す。家屋百五十軒、蔵添屋共五百軒余といわれた。(一宮町史)
	暴 風	八月二十五日 (10月5日) 大風にて長谷村家屋全壊一戸、半壊三戸全壊に一両、半壊に二朱下さる。(茂原市史)
	地 震	十月二日 (11月11日) 大地震。潰家死人数知れず、江戸最も甚し(東葛飾郡誌) 有名な江戸大地震なり。(葛飾区史) 房総の地も亦民家倒壊し、人畜の死傷少なからず。(君津郡誌) 地裂けて家屋土蔵倒壊し、人畜に危害を及ぼす。(千葉郡誌) 四ツ時大地震、明け方まで十三度、二十日まで余震あり。渡辺信家「公私日記」によれば「亥子(北々西)の方より揺り来り。。。庭の石燈籠倒れ、土蔵の壁少々ひび入る」(茂原市史) 震源 江戸 M=6.9
安政 3 (1856)	火 事	五月二十二日 (6月24日) 午後、大久保村長福寺より出火し、東徳寺及び民家十三戸に延焼す。(香取郡誌)
	暴風雨高潮	八月二十五日 (9月23日) 暴風雨、洪水、海嘯。被害甚しく人畜の死傷潰家等多し。(東葛飾郡誌) 南風による高潮 宿内、夏見 田野に流入し、遠く高根村に入る。(船橋市史) 関宿、流山辺大水。印旛沼増水し田畑大に荒れる。上総、安房の海岸潮波の為民家打流さる。行徳、船橋、八幡辺崩家多し。大和田、佐倉成田辺格別のことなし。(時風録) 香取神宮老杉六十余株折損す。其他各村亦損害す。(香取郡誌) 鐺木村家屋の倒壊十余戸、半壊其の他被害甚大、願勝寺門前の常正院、この風に倒壊す。(古城村誌)
安政 4 (1857)	暴 風	五月二十三日 (6月14日) 大暴風襲来、家屋の倒壊せるもの数多く世人之を巳年の荒れと称す。(千葉郡誌)
	暴 風 雨	七月二十八日 (9月16) 大風雨 (船橋市史)
	凶 作	稲植付の後、不順の冷氣打続き、稲草生立ち悪く、その上稲虫つき甚だ難渋、村方見分したところ三分五厘の違作のように見受られた。(茂原市史)
安政 5 (1858)	暴 風	月日不詳大颶あり。(銚子市史) 註 七月二十七日~二十八日(9月4日~5日)のことらしい。
安政 6 (1859)	暴風雨高潮	七月二十五日 (8月23日) 暴風雨、洪水、海嘯あり。(東葛飾郡誌) 大風雨あり。各堤防破壊し、当地方一帯氾濫す。人畜の被害多し。(葛飾区史)
	暴風雨洪水	八月十三日 (9月9日) 洪水あり。(東葛飾郡誌) 八月に至り又大風雨あり。(葛飾区史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
安政 年間 (1854~59)	火 事	年不詳三月二十五日木更津村南町より出火、八幡町、寺町、山手通を 焼き払う。罹災約三百戸 (木更津警察誌)
万延 1 (1860)	暴 風 雨	七月二十二日 (9月7日) より雨降り出し、二十四日の朝より大風雨 となり、夜に入って止む。高根村郷蔵大破、田畑の作物荒さる。 (船橋市史) 七月二十三日夜明けから二十四日八ツ時 (午後2時) 頃まで大嵐があ って被害が大きかった。 (五井町歴史年表)
慶応 1 (1866)	暴風雨高潮	六月十五日 (8月6日) 暴風雨、海嘯あり。 (東葛飾郡誌) 死者若干あり。 (船橋市史)
慶応 2 (1866)	洪 水	八月七日 (9月15日) 大洪水あり。中川氾濫して立石、川端宝木塚 方面の人家押流さる。 (葛飾区史)
慶応 3 (1867)	暴 風	五月二日 (6月4日) 北風烈しく、昨夜異船常陸洲鼻に漂着。 (銚子市史)
明治 1 (1868)	洪 水	五月八日 (6月27日) 栗山川出水。田圃を害す。 水量八尺余 (香取郡誌)
	洪 水	七月 (8月18日~) より八月に至るの間霖雨。再び出水あり。沿岸 を浸し被害少なからず。水量九尺余。 (香取郡誌)
	長雨・洪水	水田植付の時分より雨天勝ち、その上夏中度々の大水にて堤防所々決 潰し、58000石の内38148石の減収となる。 (関宿県歴史)
	暴 風 雨	八月二十二日 (10月7日) 四ツ頃より時化になり、八ツ頃風る。 (玄蕃日記) 榎本艦隊美加保丸 銚子の沖に漂うこと五昼夜、二十六日 (10月 11日) 黒生の岩礁に乗り揚げ難破沈没す。 (銚子市史)
明治 2 (1869)	暴 風 雨	正月三日 (2月13日) 熊本藩御用船夷隅郡川津村華立巖にて大風雨 に遇い沈没、死者百数十人也。 (夷隅郡誌)
	暴 風 雨	七月十三日 (8月20日) より大風雨にて十四日午の上刻 (正午頃) 常 水より二丈四尺五寸増水す。 (関宿県歴史) 七月中暴風雨にて市原郡、 望陀郡の田畑損害し収穫を減ず、家屋破壊多きも人畜の死傷なし。 (鶴牧県歴史) 七月の凶荒により加知山、岩井袋、小浦、竜島四ヶ村 の窮民へ米三十俵を賑恤す。 (加知山県歴史)
	長 雨	夏雨量殊に多く禾穀登らず。 (香取郡誌) 榎付後霖雨冷氣にて7098俵余の減収となる。 (久留里県歴史)
	洪 水	九月二十日 (10月24日) 利根川出水し、当地方に水害あり。 (葛飾区史)
	火 事	十一月 (12月3日~) 夷隅郡興津村十三戸焼失。 十二月 (1870年1月2日~) 夷隅郡浜行川村五十三戸、長狭郡前 原町二十一戸、内浦町二十七戸焼失。 (花房県歴史)

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
明治 3 (1870)	火 事	二月十一日 (3月12日) 夜茂原村百姓藤左衛門宅より出火、延焼して二百二十八軒を焼く。(鶴舞藩之沿革)
	暴 風 雨	七月十三日 (8月9日) より辰巳風 (南東風) にして昼夜の豪雨十九日まで七日間の暴風雨なり。利根川沿岸堤塘残らず破壊。(東葛飾郡誌) 七月暴風雨にて潮水漲り、姉崎浦塩浜の堤防悉く破損す。(鶴牧県歴史)
	暴 風 雨	八月 (8月27日〜) 暴風雨にて海岸の村々潰家少なからざるも景況不詳。(館山県歴史)
	暴 風 雨	九月八日 (10月2日) 暴風雨にて (天羽郡に) 家屋全壊十五戸、半壊六戸、物置灰屋潰十六棟、堂宇破損一、船舶破損二隻、漁人溺死四人、松檜倒木三十余株。(佐貫藩文書) 大風雨にて潰家二十五戸、半壊十二戸。(佐倉藩文書)
	暴 風 雨	九月十八日 (10月12日) 利根川出水あり、沿岸を浸し被害少なからず。(香取郡誌、佐原町誌) 暴風雨にて家屋全壊一戸、半壊十二戸、灰屋潰十二棟、松倒木二十余株。(佐貫藩文書) 九月暴風にて倒家、破屋の患に罹りたる者に対し、藩庁より総額四百四十七両一分の手当金が支給された。(鶴舞藩之沿革)
明治 4 (1871)	火 事	十一月六日 (12月27日) 釜生村無量寺より出火、大風にて釜生村五戸、亀山村四十三戸、其他社寺堂灰燼に帰す。(亀山郷志料) 十一月長狹郡天津村二十六戸焼失。(花房県歴史)
	火 事	正月十五日 (3月5日) 五郷内村樹林寺より出火し、村内民家十五戸、三十五棟に延焼す。(香取郡誌)
	洪 水	五月十八日 (7月5日) より風雨にて常水より一丈五尺二寸増水して桐ヶ作村、東高野村の堤防欠潰す。(関宿県歴史)
	暴 風 雨	七月九日 (8月24日) 暴風雨、周准郡 (君津郡の一部) 村々風災に罹る。潰家百六戸、半壊二百九十二戸、破船大小共二十三隻、人畜の死傷なし。(飯野県歴史) 九日朝長柄郡中里村海岸へ難破船漂着。(宮谷県歴史原稿) 天羽郡村々風災にて潰家百七十四軒あり。(佐貫県歴史)
	暴風雨高潮	七月十九日 (9月3日) 朝より大風雨、深川鉄砲州、沙村、逆井、堀江、猫ざね、行徳 海嘯。今井村人家八十余宇流失す。凡そ十里四方ほどの荒なり。(武江年表) 風雨海嘯あり。(東葛飾郡誌)
	暴風雨高潮	七月二十二日 (9月6日) 暁より暴風雨にて市原郡岩崎新田海岸の堤防二十間余崩壊し、海水漲溢して田圃を浸す。人畜死傷なしと雖も収獲皆無となる。(鶴牧県歴史) 七月大風あり、望陀郡木更津村、桜井村、吾妻村、長須賀村の家多く破壊す。戸数不詳但し死傷なし、手当金若干を給す。(桜井県歴史)

年 号 (西曆)	災 異 種 別	災 異 記 事
明治 5 (1872)	暴風雨高潮	七月二十二日 (8月25日) 午後四時頃より暴風雨、午後九時頃より次第に衰え翌朝に止む。人畜の死傷、農作物の被害、家屋の破損、倒木、沿岸にては押潮のため堤防の決潰あり。(木更津郷土誌) 竈木村家屋倒壊数軒。町の普門院もまた、この厄に遭う。(古城村誌)
明治 6 (1873)	暴 風	2月30日 午前十二時 仏船ヲルマヲ号 烈風のため安房国平郡多田良村地元に坐礁 (木更津県文書)
	暴 風 雨	4月30日 明治天皇 習志野において演習御統監のおり夜半より暴風雨になる。(測候瑣談)
	早 魃	3月より7月まで武射、山辺、長柄三郡、降水甚だ稀なり。(山武郡誌) 夏早す。(香取郡誌) 4月以来潤雨少く。旧印旛県管下高地の天水場は田面旱燥して挿苗困難のところ6月下旬に至り、連日の雨天にて養水湛足するも時期既におそく換作を行う。(千葉県文書)
		8月28日 朝よりの降雨にて30日午後6時、江戸川筋関宿向下河岸橋戸乗越堤決潰す、31日中利根川筋草野井村鶴巻外堤決潰す。(千葉県文書)
	洪 水	9月22日 暁より降雨、23日午前9時頃西風に転じ風雨共いよいよ猛烈となり、江戸川筋金杉村定抗九合五勺、小山村十一合八勺余出水。堤切流失、倒家等多く死者あり。(千葉県文書) 24日 利根川出水十三尺 (東葛飾郡誌)
	火 事	11月某日 返田村原野より発火し、村内民家の大半を焼く。(香取郡誌) 17軒焼失。(佐原市史)
	火 事	12月9日上島村出火あり、十四戸延焼す。(香取郡誌)
明治 8 (1875)	火 事	3月3日 木更津村百八十軒、寺院二焼失。(木更津郷土誌)
明治 9 (1876)	火 事	1月某日 本矢作村大火あり、村中の大半に延焼す。(香取郡誌) 30軒焼失。(佐原市史)
	火 事	2月某日 香取村火災あり。民家十五戸を焼き、神宮第二鳥居に至る。(香取郡誌)
	洪 水	9月17日利根川出水十三尺。(東葛飾郡誌)
	火 事	秋、今松川楼のある所より発火、仲町、田面通に延焼し五十余戸を焼払う。(木更津郷土誌)
	津 波	5月11日、九十九里浜では正午ころ俄かに海辺へ大浪が打ちあげ、そのうち穏やかになったが、午後4時ころに再び沖の方から大波が打ち寄せ、見る間に海岸が平ら一面の浪になり、溺死者負傷者が出た。(読売新聞)
明治 10 (1877)		註 この津波は5月9日チリ北部沿岸に発生した地震によるものである。

年 号 (西暦)	災 異 種 別	災 異 記 事
明治 13 (1880)	火 事	1月下旬、飯沼観音境内芝居小屋より出火、罹災約六十戸。 (銚子市史)
	暴風・高潮	10月3日暴風の為海嘯を起し、家屋の破損流失するもの多し。 四名溺死。(八幡町誌) 大風あり。(香取郡誌)
	火 事	12月29日午後、一宮中下宿、大川端、沢井町焼け大火となる。 (一宮町史)
明治 14 (1881)	火 事	1月某日小見川新田町に火を發し、西風烈しく黒部川を越えて小学校に及ぶ。十五六戸焼失。(香取郡誌)
明治 15 (1882)	暴 風	10月15日本郡地方大風 (香取郡誌)
	洪 水	10月29日利根川出水、十二尺五寸 (東葛飾郡誌)
明治 16 (1883)	火 事	12月18日午前一時東金止宿より出火し、南西の烈風にて新宿まで延焼す。焼失戸数三百八十四、棟数二千余、郡役所、警察署共に灰燼に帰す。(山武郡誌)
明治 17 (1884)	高 潮	8月24日船橋漁師町殆ど全部約八百戸浸水、船の流失多し。 (船橋市史)
	洪 水	9月18日利根川出水、十五尺 (東葛飾郡誌)
明治 18 (1885)	洪 水	6月下旬より降雨連日。7月1日大風雨、利根川洪水あり。 3日神崎橋向地先の堤防破壊し二千三百五十七町歩の浸害あり。干潟地方の出水も亦甚しく大いに禾穀を害す。(香取郡誌) 1日利根川出水、十三尺。(東葛飾郡誌) 1日暴風雨、2日平郡川上村大森山崩潰し、山麓人家三戸、田圃山林等を埋没して別に一小邱を成す。(安房郡誌)
	洪 水	8月7日八筋川字元洲地先の堤防破壊し、十四ヶ村耕地千七百十六町歩を浸す。防禦に五昼夜を要す。干潟地方も亦出水す。 (香取郡誌、佐原町誌)
	旱 魃	6月より降雨なく、入野、清和、大寺、秋田、萬力、萬歳の諸村被害尤も甚しく、亀裂の地二千七百五十九町歩に及ぶ。(香取郡誌)
明治 19 (1886)	暴 風 雨	月日不詳、暴風雨のため出漁中の漁船沈没、漁夫多数死傷(白子町史)
	火 事	2月24日小見川村火災あり。百三十戸に延焼す。(香取郡史)
	火 事	3月27日夜10時ころ田町より出火、60余棟全焼。(旭消防白書)
	火 事	3月29日神崎町火災、数戸を焼く。この日河外の田圃にある者火事

年 号 (西暦)	災異種別	災 異 記 事
明治 2 1 (1888)	火 事	場に急がんとして舟を争いて転覆、溺死する者男女十五名。 (香取郡誌)
		1 月 1 6 日、小見川村火災あり、西風烈しく百二十戸に延焼す。 (香取郡誌)
	洪 水	7 月 2 4 日、利根川出水十五尺 (東葛飾郡誌)
	洪 水	1 0 月 6 日、利根川出水十五尺 (東葛飾郡誌) 銚子測候所日雨量 1 0 0 耗を観測す。
明治 2 2 (1889)	洪 水	9 月 1 0 日、利根川出水十三尺 (東葛飾郡誌)
明治 2 3 (1890)	火 事	4 月 1 2 日午後 9 時 2 0 分頃、板井村火災、二十二戸を焼失。この火事鎮火したと思ふ間もなく、今度は木更津仲片町より出火、南片町、下谷町、弁天町、南町 (西側のみ) 新田町貝淵に延焼し、四百七十九軒を焼く。 (君津小学校沿革誌)
	火 事	春、九日市南町より出火、約 8 0 戸類焼す。 (船橋町誌)
	洪 水	8 月中旬より利根川出水。 (佐原町誌)
		2 1 日、2 3 日中利根川出水十五尺 (東葛飾郡誌) 2 7 日 十六島被害す。田圃の浸水三千三百五十六町余。 (香取郡誌) 8 月大洪水あり。中川の水溢れて南葛飾郡一帯に浸水す。(葛飾区史)
明治 2 5 (1892)	火 事	4 月 1 0 日、吾妻町から出火して本町、市場、千葉寺に延焼し、4 6 0 戸焼失。 (千葉市史)
	洪 水	8 月 2 4 日利根川出水十三尺。 (東葛飾郡誌)
	火 事	1 2 月 2 8 日、佐原町協橋附近より出火、北西風烈しく小野川を越え諸町に延焼す。本郡未曾有の大火なり。 (香取郡誌) 焼失戸数凡そ三百八十餘、棟数千二百餘に及べり。 (佐原町誌)
	暴風雨高潮	9 月 3、4、7、8 日、前原海岸は海嘯のため浜側宅地家屋一帯に潮水浸入し、倒壊家合せて 3 0 余戸に及び・・・9、1 0 日も引き続き激浪にて崩壊潰家続出す。 (鴨川沿革史) 月日不詳、暴風雨のため家屋及び船体の破損多数。 (白子町史)
明治 2 6 (1893)	降 雹	4 月 2 5 日、銚子に雹降る。小豆大。 (銚子測候所)
明治 2 7 (1894)	旱 魃	挿苗前より 8 月 9 日まで数十日間久しく旱し、一旦植付したる稲草及び苗代のまゝ黄枯れせしもの多からず。 (鴨川沿革史) 当郷各村とも旱害の為植付出来ず。 (白子町史) 神門部落において、天水田 2 0 町歩余が大災害を受く。 (土産村史) 6 月～8 月旱魃、農民大いに騒ぐ。月降水量 6 月 1 6.2 耗、7 月 5.9 耗、8 月 1 1 1.5 耗。 (銚子測候所)
	洪 水	8 月 1 2 日、中利根川出水十四尺五寸。 (東葛飾郡誌) 銚子測候所 日雨量 7 2.6 耗を観測す。

年 号 (西暦)	災異種別	災 異 記 事
明治 2 8 (1895)	火 事	1 月 2 5 日夜 2 時ごろ、九日市東納谷より出火、附近 1 0 7 戸類焼 せり。(船橋町誌)
	洪 水	8 月 9 日利根川出水十七尺 (東葛飾郡誌)
明治 2 9 (1896)	洪 水	7 月 2 2 日 利根川出水、利根運河口二十八尺、富勢十四尺。 江戸川関宿十六尺三寸、利根運河二十八尺六寸。2 4 日松戸十三尺 三寸。(東葛飾郡誌)
	洪 水	9 月 1 0 日 利根運河十七尺出水 (東葛飾郡誌) 秋霖雨、利根川出水。堤防を破壊し人家を流し田圃を害す。 (佐原町誌、香取郡誌)
明治 3 0 (1897)	暴 風 雨	9 月 9 日利根川出水八尺。(東葛飾郡誌) 九月暴風雨のため建築中の帆岳小学校々舎一棟破壊す。(本納町誌) 銚子測候所における最大風速 $25.6 m/s$ (9 日 7 時)、 日雨量 8 日 54.2 耗 9 日 22.6 耗
	火 事	1 0 月中旬、新生浜宿の火災に約十九戸を焼く。(銚子市史)
明治 3 1 (1898)	洪 水	7 月中旬、大雨屢々降り利根川洪水。金江津の堤防を破壊し、十六 島及び常陸地方を浸す。(香取郡誌)
	洪 水	9 月中旬より霖雨。利根川出水して沿岸諸町村を浸し多少の被害あ り。米登らず。(香取郡誌) 銚子測候所 9 月 1 3 ・ 1 4 日の合計雨量 6 2.0 耗。
明治 3 2 (1899)	火 事	5 月 大須賀村一坪田区火災あり。民家十九戸に延焼す。 (香取郡誌)
	暴 風	1 0 月 7 日大風、家屋を破り、樹木を折損し被害夥し。(香取郡誌) 銚子測候所 南南東 $36.8 m/s$ を観測す。

第 二 部

1900年～1968年

明治33年（1900年） 1月22日 降 灰

22日6時40分の浅間山の噴火に伴い、吹き上げられた噴煙は北北西の気流にのせられ、千葉県北西部より九十九里海岸まで灰を降らせた。

降灰は東葛飾郡、千葉郡の大部分と市原郡、山武郡、長生郡の約半分を蔽い、8時30分頃より始まり30分ないし4時間続いた。（気象要覧臨時増刊）

明治33年（1900年） 4月19日～22日 洪 水

19日より22日に亘り県下には50～60mmの降水あり。

22日利根川出水11尺。（東葛飾郡誌）

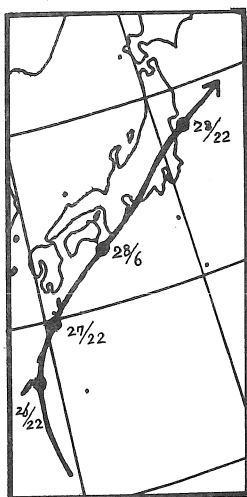
明治33年（1900年） 9月27日～29日 洪 水（台風）

28日午後、東海道に上陸、関東地方を通過して金華山沖に抜けた台風がある。この台風の接近に伴い、27日本県中部に100mmに達する降雨があった。

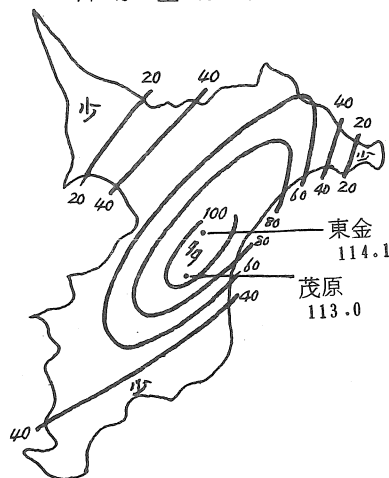
29日利根川出水8尺。（東葛飾郡誌）

気象要素	地 名	布 良	銚 子
最低気圧 mb		992.4	990.6
最大風速 m/s		549.1	530.3
4時間降水量の最大mm		37.8	8.2

1900年9月
台風経路図



1900年9月27日
降水量分布図



明治33年（1900年） 10月6日～8日 洪 水

6～7日 県南部に60mm、北部に20mmの降水あり。

8日利根川出水10尺5寸。（東葛飾郡誌）

明治34年（1901年） 5月31日 雷雨、降雹、竜巻

群馬県下に発生、埼玉県、東京府を通過して千葉県に侵入した雷雨は各地で落雷、降雹、竜巻による被

害を起した。

1. 流山方面では落雷甚しく、樹木焼失、家屋破損多く、人畜に被害あり。
2. 千葉、八幡から茂原、大多喜に至る幅3里、長さ10里の間に15時頃より電が降って被害が甚しかった。
3. 君津郡宇平田から村上、柳原、疋田、権現堂、佐是附近までの各部落に、15時50分より17時頃まで竜巻が起こり、圧死1、重傷1、家屋全潰9、半潰2 及び落雷による感電死1を生じた。また、この竜巻には降雹も加わり、農作物の被害も多かった。(気象要覧)

明治34年 (1901年) 8月22日～25日 洪水

22日～25日の間、布良附近で100mm、県中部で80mmに達する降水あり。

25日 利根川出水11尺。(東葛飾郡誌)

明治34年 (1901年) 11月9日 地震

9日 18時56分霞ヶ浦附近を震源とする地震が発生し、佐原附近では壁が落ちた。

M=7.0 (地震観測法追録)

明治35年 (1902年) 1月8日 竜巻

8日早朝、静岡県沼津南方に発生し、雨、雪、雹を降らせながら東進した小低気圧に附随して、5時30分頃神奈川県久里浜西方に竜巻が起つた。この竜巻は本県に侵入し、君津郡富田、市場、久留里及び市原郡古敷谷の各部落において強烈を極め、死者1、家屋倒壊2、大破4、小破70余の被害を出した。(気象要覧)

地名		布良	銚子
気象要素			
最低気圧	mb	999.8	997.1
最大風速	m/s	32.7	19.2
4時間降水量の最大mm		0.2	8.8

明治35年 (1902年) 2月26日 火事

26日夜、木更津町に起こった火事は仲片町、南片町に延焼し、弁天町に飛火して遂に50余戸の罹災戸数を出す大火となる。(木更津郷土誌)

明治35年 (1902年) 3月1日 竜巻

日本海の低気圧から南西に延びる前線の通過に伴い、1日14時頃 海上郡飯岡町に竜巻が発生し、茨城県波崎を通って鹿島灘に抜けた。この竜巻により飯岡町三川村で家屋の破壊20余戸、飯岡町及び西銚子町で樹木、家屋の損害あり。(気象要覧)

地名		布良	銚子
気象要素			
最低気圧	mb	990.2	990.1
最大風速	m/s	28.4	13.0
4時間降水量の最大mm		3.3	11.3

明治35年 (1902年) 3月25日 地震

25日14時35分佐原附近を震源とする地震あり。佐原においては壁土の落下、土蔵の亀裂少なからず。 $M=7.0$ (気象要覧)

明治35年 (1902年) 4月11日～14日 結霜

11日から14日まで冬型の気圧配置の為結霜が続き、下総、上総、安房一円に多少の被害があった。
(気象要覧)

明治35年 (1902年) 6月23日 地震

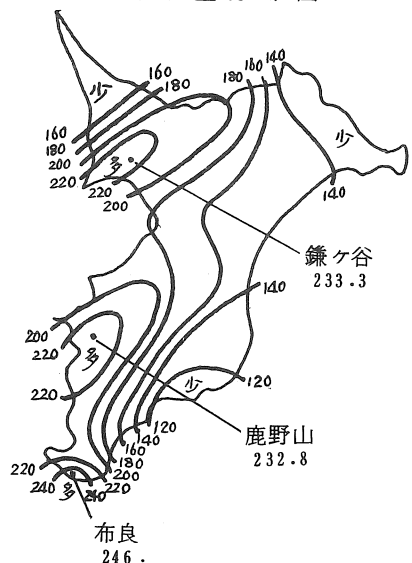
23日07時42分東京湾口を震源とする地震あり。房総半島は震動甚しく、狼狽の余り死傷せる者あり。 $M=6.8$ (気象要覧)

明治35年 (1902年) 8月2日～9日 大雨

月始めの2～4日に大雨があつたところに、7～9日にも再び大雨が降った。この為2～9日の雨量は君津郡、安房郡及び県北西部において200mmを越え、その他の地方でも140mmに達した。

10日利根川出水14尺。 (東葛飾郡誌)

1902年8月2～9日
降水量分布図



明治35年 (1902年) 9月19日 降雹

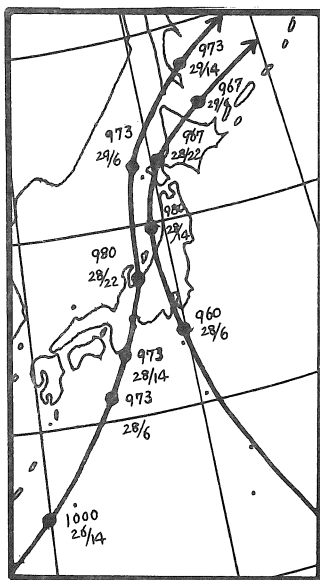
19日午後、群馬県北部から東京を経て、本県に侵入した雷雨に伴い印旛、山武、匝瑳の諸郡に降雹あり。田畑に甚大な被害を及ぼした。横芝町、栄村では拇指大より直径1寸位の雹が2～3寸積った。
(気象要覧)

明治35年 (1902年) 9月28日 暴風雨(台風)

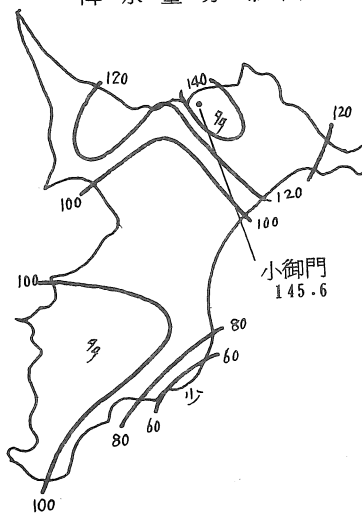
28日朝、房総半島をかすめて三浦半島に上陸し日本海に抜けた台風と、同日午後伊勢湾を通り、富山附近より日本海に入った別の台風がある。この為28日早朝より30日早朝まで暴風となり、雨は27日朝より28日夜半まで続いた。

気象要素 \ 地名	布 良	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	956.0	969.3	983.3
最大風速 m/s	SSW 41.7	-	SSE 44.9
4 時間降水量の最大 mm	48.4	29.0	39.3

1902年9月
台風経路図



1902年9月25~28日
降水量分布図



関東地方北部より本県に侵入した雷雨に伴い、八幡では落雷による死傷者を出し、木更津では2寸に達する降雹があつた。(気象要覧)

雷雨に伴って降雹あり、香取、匝瑳、海上郡下1000町歩の田畑が被害を受けた。(気象要覧)

明治36年 (1903年) 7月9日 降 雹

降雹のため、早稲全減に瀕し、山林の被害も多し。 (海上郡 豊岡村誌)

明治36年 (1903年) 8月19日 降雹、竜巻

19日夕刻より降雹に竜巻を伴い、山武郡13ヶ村は田畑4500町歩の被害を受け、負傷1、倒壊家屋11棟、漁船破損、樹木の倒折あり。匝瑳郡内の3ヶ村にては田畑500町歩が被害を受けた。

(気象要覧)

明治36年 (1903年) 十月下旬 火 事

高神村出戸の火災に賢徳寺その他約三十五戸類焼す。 (銚子市史)

明治37年 (1904年) 3月24日~25日 雪 雨

日本海北部を通過した低気圧に伴い雹を交えた雷雨があり、房総半島及び関東地方に多少の被害があった。 (気象要覧)

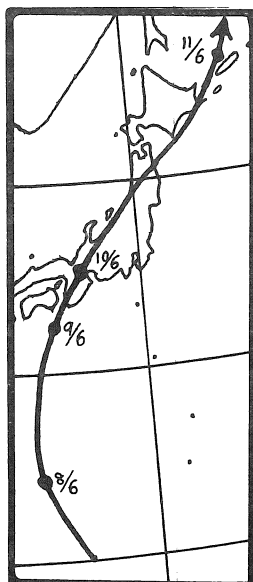
明治37年 (1904年) 7月7日~12日 暴風雨(台風)

9日 和歌山県に上陸し、日本海を経て千島方面に去った台風がある。この台風通過前の7日から通過後の12日まで県下一般に40mm以上の降水があり、県南西部及び北西部では120mmに達した。

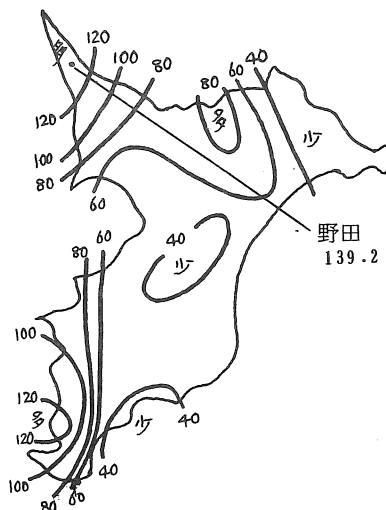
13日 利根川出水12尺。 (東葛飾郡誌)

最大風速 布良SE23.3m/s 銚子SSE15.9m/s

1904年7月
台風経路図



1904年7月7日~12日
降水量分布図



明治38年（1905年） 8月 冷 夏

北海道より鹿児島まで本邦各地は凶冷となり、水稻の減収率は全国平均で82%となったが、本県の減収は軽微であつた。（気象要覧）

銚子における8月の平均気温は平年より3.6℃低い。

明治39年（1906年） 1月21日 地 震

21日 22時49分房総遙か沖合を震源とする地震あり。片貝村では長さ4～5間の小亀裂数ヶ所に生じ、陶器店に被害あり。（気象要覧）

明治39年（1906年） 2月23日～24日 地 震

23日 18時49分（ $M=7.3$ ）及び24日9時14分（ $M=7.7$ ）に夫々安房沖及び東京湾を震源とする地震あり。安房、上総沿岸で最も強く、壁の小亀裂あり。（気象要覧）

明治39年（1906年） 7月12日～16日 洪 水

11日から17日にかけて東海、関東に大雨あり。本県における12日～16日の総雨量は40mm以上となり、北西部及び南部山地80mm、銚子及び飯岡附近で100mmに達した。

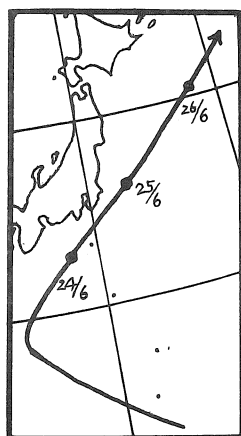
17日 利根川の出水 関宿15尺、利根運河口31尺、富勢15尺。江戸川の出水 関宿18尺。野田14尺、利根運河口29尺、松戸13尺。（東葛飾郡誌）

明治39年（1906年） 8月24日～25日 暴風雨（台風）

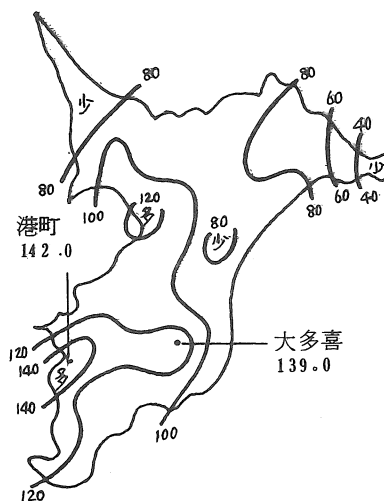
24日夕刻 台風が房総沖を北東に進んだ為、関東南部では風雨強く鉄道線路、橋梁、家屋の破損、船舶の遭難多く、河川の洪水、家屋の浸水、山崩も多数発生した。軍艦高尾は勝浦沖に

おいて台風の中心附近に突入し、頗る難航したが無事であつた。（気象要覧）

気象要素		地名	布 良	勝 浦	銚 子
最低気圧	mb		982.5	974.2	968.7
最大風速	m/s		NW34.2	NE18.9	ESE17.6
4時間降水量の最大mm			67.5	35.9	13.1



一九〇六年八月 台風経路図



一九〇六年八月二五
降水量分布図

明治40年（1907年） 3月23日 暴風（低気圧）

22日 東支那海より東進した2つ玉低気圧の為、23日関東南部は暴風となり道路の破損家屋の倒壊、人畜の死傷あり、漁船及び船舶の遭難多し。

気象要素 \ 地名	布良	勝浦	銚子
最低気圧 mb	992.6	997.7	992.0
最大風速 m/s	S 30.7	SE 13.3	SE 23.9
4時間降水量の最大mm	3.1	10.1	13.0

23日 銚子沖において遭難せし漁船百余隻漁夫数百人。政府は軍艦を派遣し、赤十字社また救護班を派して救援に当る。惨状天曉に達し、特に侍従を遣わして御沙汰を賜われたり。（海上郡誌）

明治40年（1907年） 4月11日 降雹、竜巻

山梨県より千葉県に侵入した雷雨に伴い、降雹及び竜巻の被害あり。

1. 降雹は千葉、市原、印旛、香取、匝瑳、海上、山武、長生の各郡に及び被害反別4000町歩金額8000円余に上る。
2. 竜巻は長生郡長南町坂本に起こり、鶴枝村上永吉、下永吉を経て東郷村六ツ野を襲い、家屋倒壊8、物置倒壊5、その他の被害あり。（気象要覧）

明治40年（1907年） 8月21日～28日 洪水（台風）

25日から28日にかけて3つの台風が房総沖合を通過した。本県においては、これら台風通過前の21日より雨となり、28日までの総雨量は100～280mmに達した。

8月25日 利根川出水 関宿16尺、富勢14尺。

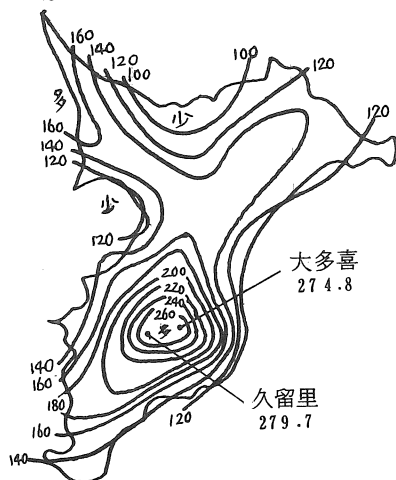
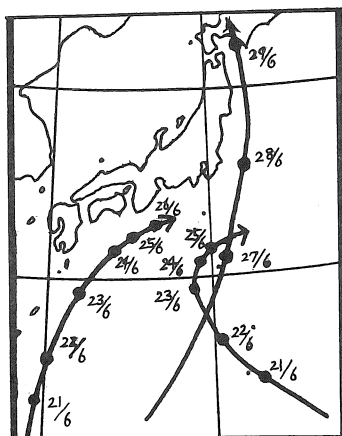
8月26日 江戸川出水 利根運河口30尺、松戸13尺。

8月28日 利根川利根運河口32尺。（以上 東葛飾郡誌）

9月 2日 香取郡八筋川地先堤防決潰して十六島冠水したが、早稲は刈取後であったので多少の損害を免る。（香取郡誌）

8月下旬よりの雨により利根川氾濫す。（海上郡誌、佐原町誌）

1907年8月
台風経路図



一九〇七年八月二一～二八日
降水量分布図

明治41年(1908年) 2月12日 火事
寒川から五田保にかけ380戸焼失。(千葉市史)

明治41年 (1908年) 6月8日 降 雹

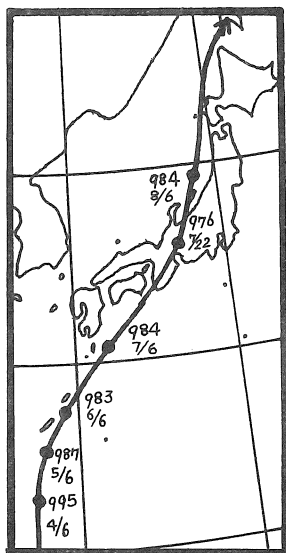
気圧の谷の通過に伴い、東葛飾、香取、山武、匝瑳、海上の諸郡に大雹あり。浦安町、匝瑳郡共与村では鶏卵大、府馬から銚子にかけては直径1.5寸のものがあつた。農作物の被害は950町歩に及ぶ。群馬、埼玉、東京三府県の被害が甚しい。(気象要覧)

明治41年 (1908年) 8月6日～7日 暴風雨(台風)

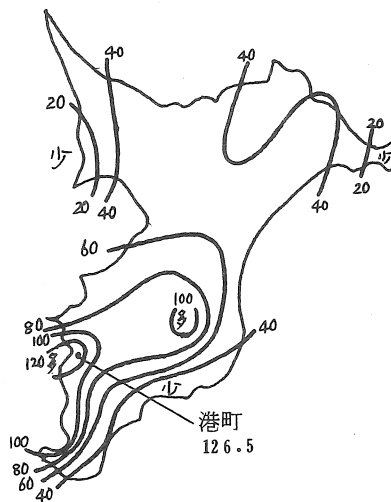
7日午後 紀伊半島に上陸し、8日早朝日本海に抜けた台風に伴い暴風雨となり、房州沖において汽船萬国丸が沈没した。6～7日の総雨量は県南西部において80～120mmに達したが、北部は20～40mmに止まつた。(気象要覧)

気象要素	地 名	布 良	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		987.8	993.3	991.7
最大風速 m/s		SE32.8	SW15.9	SSE20.9
4時間降水量の最大mm		22.2	13.2	6.7

1908年8月
台風経路図



1908年8月6～7日
降水量分布図



明治42年 (1909年) 3月13日 地 震

13日8時20分(M=7.2)及び、23時30分(M=8.2)に夫々銚子沖及び房総沖を震源とする地震発生し、名洗にては巾1尺長さ12～13間に及ぶ亀裂を生じ、家屋3戸が損傷を受け、銚子にては硝子店、陶器店の被害があつた。(気象要覧)

明治42年 (1909年) 8月20日 雷 雨

山梨県から千葉県及び茨城県に侵入した雷雨に伴い、布佐町において感電による死者を出した。(気象要覧)

明治43年（1910年） 3月12日

暴風雪（低気圧）

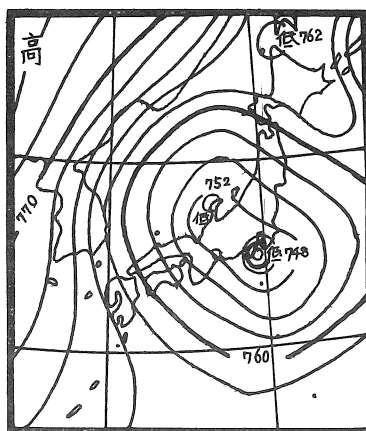
12日早朝、相模地方に発生した低気圧は、急速に発達しながら房総沿岸を通り、13日朝三陸沖に去った。この為、銚子沖から鹿島灘一帯は暴風雪に襲われ、漁船の大遭難を起した。

気象要素	地名	布良	勝浦	銚子
最低気圧 mb		998.5	996.0	990.9
最大風速 m/s		S 21.6	SW 11.8	NW 17.8
4時間降水量の最大mm		4.8	6.1	19.0

12日 犬吠岬沖合20海里附近において操業中の鮪漁船82隻は、午前11時俄かに暴風雪に襲われ未帰還船34隻、死者13、行方不明314人を出した。県は水産試験場所属の坂東丸を急行せしめ、軍艦高千穂の救援を請い、日本郵船神奈川丸を傭船して捜索に当る。天皇、皇后より金千円下賜せらる。（海上郡誌）

茨城県の被害も頗る多く、漁船沈没12隻、行方不明15隻、死者及び行方不明585人に上る。

1910年3月12日6時
地上天気図



明治43年（1910年） 8月6日～16日 大雨（前線と台風）

5日頃より梅雨前線による降雨が続いていたところに、11日房総沖を通過した台風と、14日伊豆半島に上陸して関東地方を縦断した台風により豪雨となり、月始めから15日までの県下の総雨量は250～650mmに達し、平群では725mmを観測した。

9日 関宿において利根川9尺、江戸川10尺出水。

12日 関宿において利根川18尺、江戸川19尺出水。利根川及び江戸川の堤防決潰66ヶ所、未曾有の洪水となる。耕地の浸水、流失又は埋没4390町歩、家屋浸水2719戸、流失53戸、全壊21戸、半壊又は破損220戸、死者5人。天皇は侍従を遣わして水害地を巡視せしめ、又、恩賜金を下し給えり。（以上 東葛飾郡誌）

15日 佐原町本町岩ヶ崎の堤防決潰し、本町の南岸濁流に浸る。

16日 午後9時半筭島地先の堤防決潰し、稲田3000余町歩、民家1000戸水底に没す。

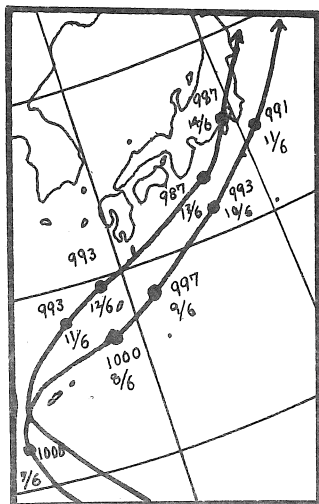
（以上 佐原町誌） 罹災民921人、佐原小学校に避難す。（佐原市史）

8月中旬連日の暴風雨により利根川は未曾有の大洪水となり、滑川堤及び十六島等各所の堤防決潰して泥海に变じ、浸水は家の軒端に達す。佐原町内の浸水1190戸、流失2戸。（香取郡誌）8月大洪水あり、天明6年以来の水害にして堤防破壊数十ヶ所、死傷者多数、浸水実に13日に及ぶ。（葛飾区史）7月下旬来降雨引続き、8月10日夜来特に強風となり、稀にみる増水騒ぎとなり村内の橋梁殆んど流失、崖崩れ続出する。（鎌足村誌）

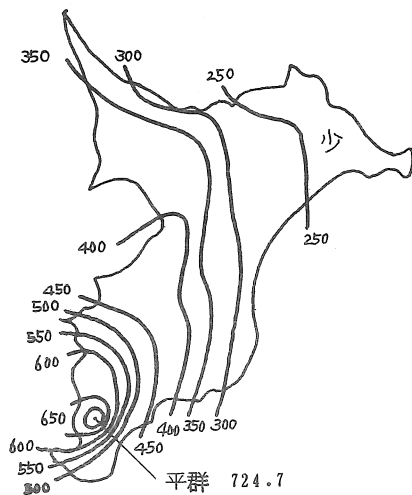
この前線と台風による被害は中部、関東、奥羽地方に及び死者1231、傷者767、行方不明126家全壊2765、流失3832、浸水家屋51万8千戸、堤防決壊7063、橋梁流失7266、山崩れ18799

気象要素 \ 地名	布良	北条	勝浦	銚子
最低気圧 mb	991.3	-	993.1	994.4
最大風速 m/s	SE 21.8	ESE 12.6	ENE 10.3	ESE 10.8
4時間降水量の最大mm	55.0	71.2	34.2	51.0

1910年8月
台風経路図



1910年8月1~15日
降水量分布図



明治44年 (1911年) 1月5日 暴風雨 (低気圧)

日本海を発達しながら北上した低気圧の為、暴風雨となり、房総沖において遭難せる漁船及び船舶多し。(気象要覧)

最大風速 布良 S 28.6m/s, 銚子 SW 14.8m/s

明治44年 (1911年) 5月21日 火事

21日午前3時頃、九日市西納谷より出火、附近60戸焼失す。(船橋町誌)

明治44年 (1911年) 6月19日 暴風・高潮(台風)

18日夜、九州に上陸、四国、近畿、北陸を経て、19日午後三陸沖に抜けた台風がある。この為、19日早朝より暴風となり夕方まで続く。

19日早朝俄かに暴風起り、波浪高く船舶の難破頗る多し、溺死する者もあり、

(千葉郡誌) 千葉郡誌には6月20日夜と誤記する。

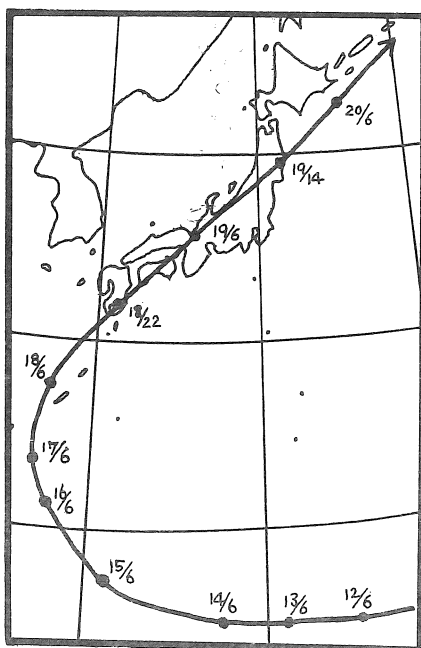
気象要素 \ 地名	布良	北条	銚子
最低気圧 mb	994.1	994.4	990.7
最大風速 m/s	S 33.3	SW 16.3	SSW 22.5
4時間降水量の最大mm	6.3	15.2	9.0

午前9時頃暴風雨となり、9時半頃最も激し。南風による高潮は沿岸田野の作物を荒し、家屋を潰す。海岸より一里も離れた奥地まで害を被る。船橋町内の被害、家屋倒壊10戸、半壊106戸、死者1、負傷6、道路堤防の破壊12ヶ所、電柱倒壊16本。（船橋市史）

〔参考〕 高 潮

台風や低気圧は、周囲より気圧の低い区域であると共に、まわりの空気が反時計廻りに渦巻きながら中心に近づいて行く暴風域である。台風や低気圧が海上から陸地に接近するか或は上陸する場合には、気圧の低下に応じて海面が上昇し、その上暴風の方向が沖合から内陸に向って吹きつける場合には、海水が吹き寄せられて沿岸の海面は一層盛り上がる。そして、激浪と共に陸上に打上げ津波同様の被害を起す。これを「暴風津波」又は「高潮」という。

1911年6月 台風経路図

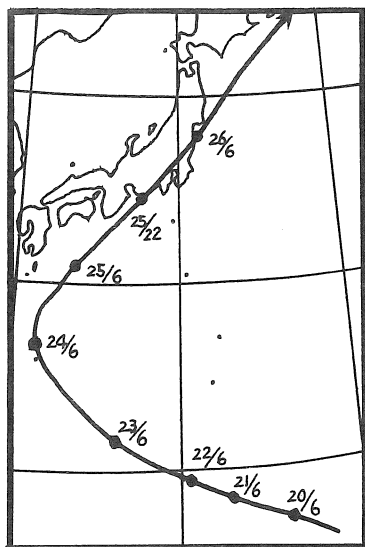


明治44年（1911年） 7月25日～26日 暴風雨・高潮（台風）

25日夜、東海道に上陸、関東地方を経て、26日朝、福島県北部より太平洋に抜けた台風がある。この為、25日夜半より暴風雨となり26日午後まで続く。

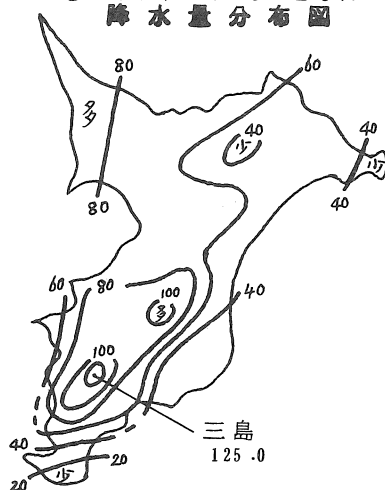
気象要素	地 名	布 良	北 条	銚 子
最低気圧 mb		977.4	984.6	983.8
最大風速 m/s		SE39.2	SE20.4	S 31.9
4時間降水量の最大mm		8.9	19.3	21.5

25日夜、暴風雨となる。南風の為、朝3時頃より高潮に襲わる。船橋町内の被害、家屋流失109戸、破壊112戸、浸水2290戸、死者13人、負傷3人、道路決壊35ヶ所、堤防7ヶ所、船の打上げ多し。（船橋市史）



一九一一年七月台風経路図

1911年7月25～26日
降水量分布図



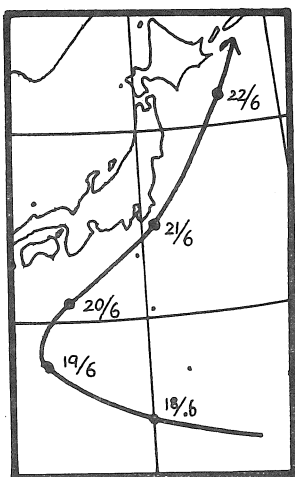
明治44年（1911年） 8月21日 暴風雨（台風）

21日朝、房総半島に接近して海上を北東進した台風の為、早朝より暴風雨となり正午頃まで続く。

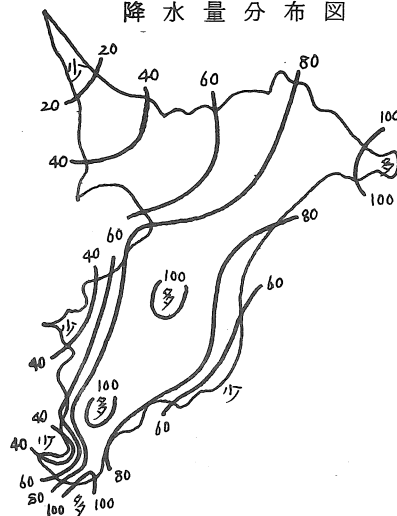
房総海岸では漁舟、船舶の遭難せるもの夥しく溺死者尠からず。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布 良	北 条	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	991.8	989.0	-	984.7
最大風速 m/s	N 27.4	N 17.0	N 10.6	N 27.3
4時間降水量の最大mm	39.5	12.8	44.8	47.2

1911年8月
台風経路図



1911年8月19～21日
降水量分布図



明治45年（1912年） 1月25日 火 事

25日夜半、椎名内浜仲町より出火、63戸 84棟全焼す。（旭 消防白書）

大正1年（1912年） 9月1日 暴風雨・高潮（台風）

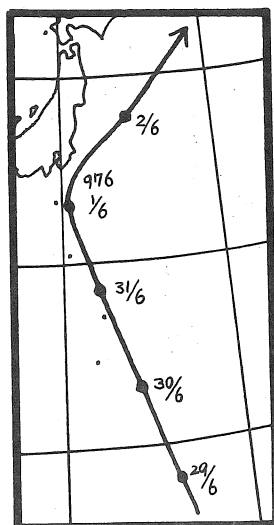
小笠原方面より北上し、1日房総沖より北東に進んだ台風がある。この為、1日 早朝より暴風雨となり夕方まで続く。

九十九里浜は高潮による家屋の倒壊、流失、破損多く、浸水家屋数百戸。（気象要覧）

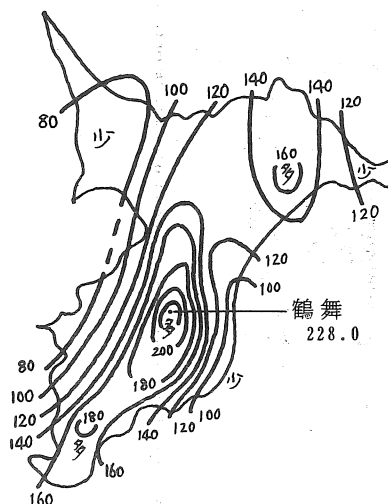
気象要素 \ 地名	布 良	北 条	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	976.2	977.3	977.7	976.7
最大風速 m/s	N 22.0	NNW 15.9	E 13.1	E 14.8
4時間降水量の最大mm	64.0	52.5	27.7	31.1

〔注〕 勝浦の風速計は故障となる。

1912年8～9月
台風経路図



1912年8月31日～
9月1日
降水量分布図



大正 2年 (1913年) 5月22日 地震

22日5時36分鹿島灘を震源とする地震あり。佐倉附近では、棚上のものが落下し、藍屋の蓋瓶に亀裂を生じ、陶器店に被害あり。 $M=6.9$ (気象要覧)

大正 2年 (1913年) 6月11日 火事

11日午前3時頃、九日市漁師町に放火あり、全焼50棟56戸、半焼5棟6戸を出す。

(船橋町誌)

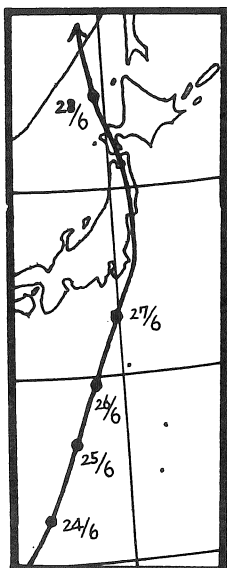
大正 2年 (1913年) 8月27日 暴風雨(台風)

本邦南海上より北上し、27日正午過ぎ銚子沖をかすめて仙台湾より上陸、奥羽地方を縦断した台風がある。この為、27日早朝より暴風雨となり夜まで続いた。26～27日の総降水量は県中央部で160mmに及び千葉市附近では210mmに達した。

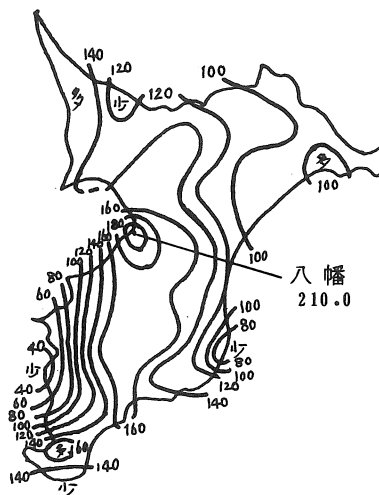
27日 千葉県暴風雨あり。(千葉県誌)

気象要素 \ 地名	布 良	北 条	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	963.9	967.8	971.0	954.2
最大風速 m/s	SE 24.9	WNW 20.6	SW 15.5	SE 23.2
4時間降水量の最大mm	59.6	73.5	71.0	37.7

1913年8月
台風経路図



1913年8月26～27日
降水量分布図



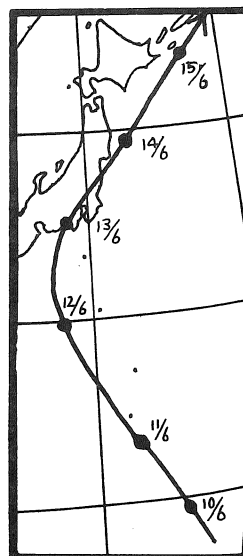
大正 3 年（1914 年） 8 月 13 日～14 日 暴風雨（台風）

13 日朝 駿河湾より上陸、関東地方を経て三陸沖に抜けた台風がある。この為、13 日朝より 14 日早朝まで暴風雨となる。12～13 日の県内の総降水量は太平洋側 20～40 mm、東京湾側 60～80 mm。関東甲信越の被害甚大。利根川上流で 300 mm 程度の降水あり。

13 日より 15 日まで木間ヶ瀬、二川、川間、布佐の四ヶ町村が洪水の被害を受けた。（東葛飾郡誌）

気象要素	地名	布良	北条	勝浦	銚子
最低気圧 mb		984.7	989.8	995.1	993.8
最大風速 m/s		S 38.4	ESE 13.3	S 16.9	ESE 17.7
4 時間降水量の最大 mm		27.3	26.5	9.1	7.2

1914 年 8 月
台風経路図



〔参考〕 八朔の荒れ

平安朝時代には、陰暦七・八月の暴風——現代語で言えば、台風に伴う暴風——を「野分」と呼んだ。野分はまた、その発生が七・八月に多いことから「八朔の荒れ」とも呼ばれた。

鎌倉時代以降になると「八朔」を「たのみの節」と云つて「田の実」の豊じょうを天地神明に頼む意味の礼事が朝廷及び幕府において取行われるようになった。

つまり、八朔には、われわれの祖先が台風の来襲時期であるということを中心に戒めると共に、風雨のわざわいがないようにと神に祈る気持が托されていたのである。そして、この頃に風雨があれば「八朔の荒れ」として怖れたのである。（この項 49 頁の「二百十日の起源」に続く）

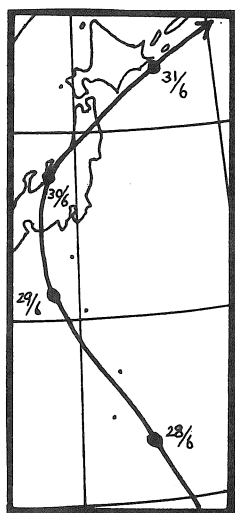
大正 3 年 (1914 年) 8 月 28 日～30 日 水 害 (台風)

29 日午後、東海道に上陸、佐渡を経て秋田県に再上陸し、北海道南岸をかすめた台風がある。この為 28 日午後より暴風雨となり 30 日夕刻まで続く。25 日から 30 日まで利根川上流に 300 mm の降水あり。

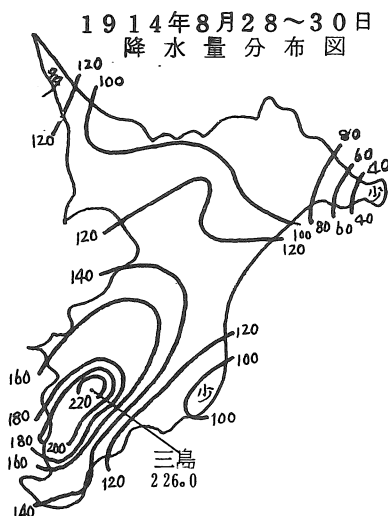
29 日前原海岸は狂瀾怒濤の為護岸工作物潰倒し、民家危害を受く。(鴨川沿革史)

8 月 30 日より 9 月 1 日にかけて利根川、江戸川洪水。堤防決潰 4 ケ村 5 ケ所、堤防亀裂 4 ケ町村 12 ケ所、堤防漏水 4 ケ村 39 ケ所、浸水水田 8 ケ町村 2347 町歩、畑 18 ケ町村 3407 町歩、家屋浸水床上 478 戸、床下 113 戸。(東葛飾郡誌)

気象要素	地 名	布 良	北 条	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		998.4	1000.2	1005.3	1004.0
最大風速 m/s		SE 27.2	ESE 17.9	SW 12.5	SE 18.3
4 時間降水量の最大 mm		49.6	44.6	28.3	10.4



一九一四年八月台風経路図

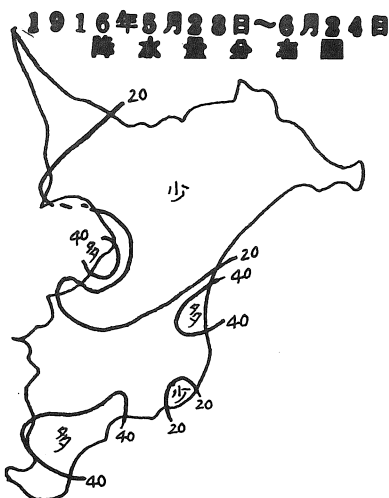


大正 5 年 (1916 年) 5 月～6 月 旱 害

5 月末より 6 月下旬まで雨少なく、5 月 28 日から 6 月 24 日までの県下の総降水量は 20～40 mm に止る。

5～6 月の間、大旱し、水田亀裂して田植をする能はず各地に亘り惨状を極む。(香取郡誌) 5～6 月の交大旱、水田亀裂 (古城村誌)

近江、信越、関東、奥羽で水田亀裂を生じたる地方多く殊に房総地方において甚しかった。(気象要覧)



大正 5 年 (1916 年) 7 月 26 日～30 日 暴風雨 (台風)

29 日朝、房総南部に上陸し、能登半島より日本海に入った台風がある。

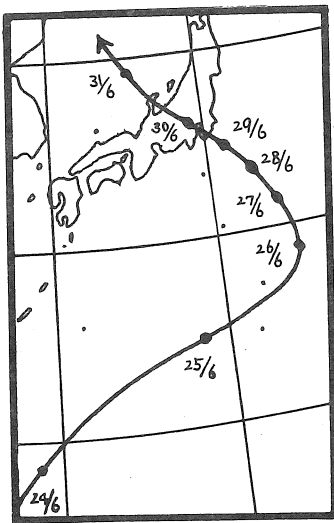
この台風接近前の 26 日朝より暴風雨となり、30 日夜まで続く。29 日の降水量特に多く、千葉、松戸、茂原、東金、大多喜においては 200 をいし 250 mm に達し、鶴舞では 289 mm を観測す。

24 日より 30 日迄降雨、29 日 30 日は、北東風強烈、諸川満水、川田及び前原下等の田地一面に浸水し、横渚大溜池も氾濫す。(鴨川沿革史) 30 日朝、一宮川の宮原堤防約 30 m が決潰し、家屋流失 2 軒、傾斜 3 軒 (一宮町史) 29 日から翌朝にかけて暴風に伴う雨猛烈を極め大洪水となり、南白亀沿岸より川口に至る間被害甚大、また、多数の稲、畑作の被害があり、およそ 10 万円といわれた。(白子町史) 7 月大洪水起る。(茂原市史)

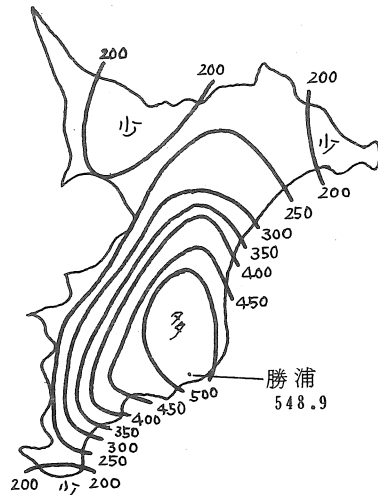
千葉県被害総数 死者 28 人、負傷 37 人、家屋全壊 98 戸、半壊 135 戸、船舶流失 44 隻、電柱倒壊 16 本、橋梁流失 80 田畑浸水 10800 町歩、家屋浸水 2000 余戸。(気象要覧)

気象要素	地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		983.5	983.7	985.3	998.0
最大風速 m/s		S 25.3	N 16.6	NE 15.3	NNE 15.5
4 時間降水量の最大 mm		25.7	33.6	79.4	49.2

1916 年 7 月
台風経路図



1916 年 7 月 26～30 日
降水量分布図



〔参考〕 二百十日の起源

「野分」や「八朔の荒れ」はひとり農家の関心事であるのみならず、海上を航行する船乗にとつても生命にかかわる一大脅威であつた。

しかし、陰暦の場合は太陽暦と違つて 19 年間に 7 回の閏月が入ることになつてゐるので、八朔が必ずしも台風時期と合致しないことがある。そこで、船乗は独自の台風警戒日を案出した。即ち、南北朝時代から室町時代に瀬戸内海を中心にばつこした所謂「海賊衆」は、地球と太陽とが毎年同じ相対位置に来て、地球上の季節も毎年同じ状態を繰返す「二十四節気」のうちの「立春」に着目し、この日から 210 日目に当る日を台風警戒日とした。

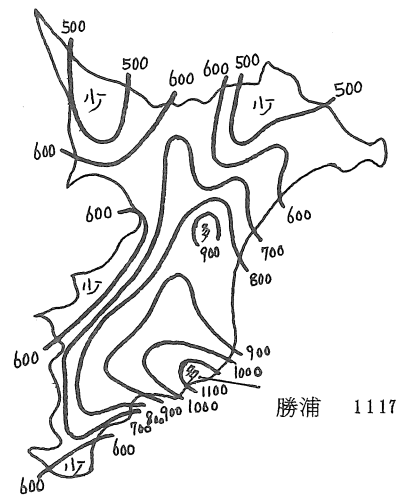
このように、海賊衆の間に生れた「二百十日」は、徳川時代になつて暦の上にも載せられ、一般に通用するようになったのである。

大正 5 年 (1916 年) 7 月～8 月 長 雨

7 月下旬より 8 月中旬過ぎまで雨降り続き 7 月、8 月の合計雨量は勝浦方面 1000mm、茂原方面 900mm、利根川方面 600～500mm に達し、平年の 3 倍から 2 倍になった。

7 月下旬より 8 月に亘り霖雨、利根川沿岸及び干潟諸村の水田浸水し損害頗る大なり。(香取郡誌、古城村誌)

1916 年 7～8 月
降水量分布図



大正 6 年 (1917 年) 1 月 18 日

暴風雨 (低気圧)

18 日朝、日本海西部にあった低気圧は発達しながら北東に進み、19 日朝、北海道東方海上に去った。この為 18 日正午頃より 19 日朝まで暴風となり、雨は 18 日朝より同日午後まで続いた。

気象要素	地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb		994.2	994.2	992.8	990.5
最大風速 m/s		S 31.1	W 20.5	WSW 18.8	S 17.4
4 時間降水量の最大 mm		22.8	19.2	20.8	29.9

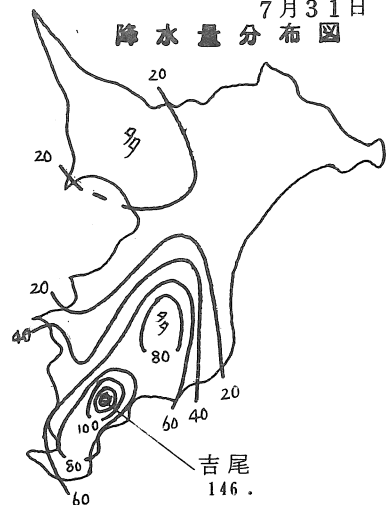
18 日午前 11 時頃俄かに暴風起り、当時鯛網漁に出漁中の古所の漁船 2 隻 (夫々 9 人乗組) 行方不明となる。五井の漁船 3 隻もまた遭難し、上界村に 2 人、蓮沼村海岸に 4 人、緑海村海岸に 4 人、海上郡矢指村海岸に 1 人の死体漂着し、銚子沖漂流中の船中に 5 人が死体となって発見された。(白子町史)

大正 6 年 (1917 年) 6 月～7 月 旱 害

6 月下旬より 7 月末まで降雨少く、6 月 24 日より 7 月 31 日までの総雨量は県北部 10～20mm、県南部 80mm に止る。

6 月、7 月の間大旱、其の程度は前年を超え水田は亀裂し、田畑作物の損害甚大にして、各地の井戸水涸渇するもの多し。(香取郡誌、古城村誌)

1917 年 6 月 24 日～
7 月 31 日
降水量分布図



大正 6 年 (1917 年) 7 月 16 日 電 雷

県下各地に雷雨あり、北条及び和田町に落雷す。小学生 1 名死亡した。(気象要覧)

大正 6 年 (1917 年) 9 月 30 日～10 月 1 日 暴風雨・高潮 (台風)

30 日夜半駿河湾より上陸、10 月 1 日 3 時浦和附近を経て奥羽東部を北上し、北海道中部を縦断してオホーツク海に入った台風がある。この為、9 月 30 日夜半より暴風雨となり、1 日正午まで続き、浦安より五井に至る沿岸一帯は未曾有の高潮に襲われた。

気象要素 \ 地名	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	970.7	973.7	974.5
最大風速 m/s	SE25.1	S14.9	SE35.6
4 時間降水量の最大 mm	20.6	12.1	19.0

被害は東葛飾郡 41ヶ町村全般に及ぶ。最も悲惨なるは浦安町、南行徳村、行徳町、葛飾村、船橋町とす。この五ヶ町村は暴風雨に加うるに猛烈なる 2 回の海嘯に襲撃されしものにして惨状筆紙に尽し難し。

死者 122 人、負傷 164 人、行方不明 4 人、住家流失 201 戸、全壊 350 戸、半壊 600 戸、浸水床上 4980 戸、床下 240 戸、附属建物流失 438 棟、全壊 802 棟、半壊 464 棟、学校全壊 5 半壊 3、社寺工場その他流失 9、全壊 40、半壊 25、船舶流失 192 隻、破損 424 隻、田畑収獲皆無面積 247 町歩、5 割以上減収 232 町歩。利根川、江戸川最高水位関宿台町地先 16 尺、旭村目吹地先 20 尺、田中村大室地先 15 尺、富勢村布施地先 17 尺、二川村 15 尺、川間村 19 尺、流山 15 尺、松戸 14 尺、行徳 13 尺、浦安 14 尺。千葉県に対し天皇より御内帑金 25,000 円下賜さる。

(以上 東葛飾郡誌)

浦安、船橋辺は 1 日午前 2 時及び 3 時頃津波に襲わる。2 回目の津波特に大なり。海岸より 14～15 町離れた八栄村、東夏見村まで潮水溢れる。

船橋町内の被害、死者 61 人、負傷 180 人、行方不明 1 人、住家流失 104 戸、全壊 44 戸、半壊 186 戸、浸水床上 814 戸、床下 297 戸、附属建物流失 2 棟、全壊 24 棟、半壊 12 棟、社寺工場全壊 7 戸、半壊 2 戸、船流失 1 隻、大破小破 120 隻、堤防決潰総延長 849 間。

葛飾村の被害、死者 2 人、負傷 2 人、家屋流失 13 戸、全壊 13 戸、半壊 21 戸、浸水床上 56 戸、床下 9 戸、附属建物流失 165 棟、全壊 8 棟、半壊 20 棟、社寺工場全壊 12、半壊 3、船破損 2 隻。

八栄村の被害、学校全壊 1、住家全壊 14 戸、半壊 6 戸半、附属建物全壊 82 棟。(船橋市史)

9 月 30 日夜半大暴風襲来し農作物の大被害あり。特に海岸地方一帯は丈余の大海嘯に襲われ、10 月 1 日未明沿岸民屋は殆ど倒壊流失す。海岸国道は洗い去られて砂原と化す。(千葉郡誌)

天保の末期頃から町田、廿五里村を中心に作られていた密柑は、この地方の特産物であったが、大正 6 年の大暴風雨に伴う大津波を契機とし漸次衰退した。(五井町歴史年表)

30 日夜に入って未曾有の大風となり、家屋倒壊幾十、大木も所々倒る。農作物損失大。

(君津郡 鎌足村誌)

9 月 30 日夜半風雨大いに起り、10 月 1 日午前 1 時より 5 時に至り猛烈を極め、家屋の倒壊破損、樹木の倒損は論なく死傷者を出すに至れり。死者 19 人、負傷 36 人、住宅全壊 1116 棟、半壊 370

棟、附属建物全壊1704棟、半壊435棟、学校全壊3棟、半壊1棟、社寺全壊6宇、半壊1宇、船舶流失70隻、被害水田11547町歩余、桑園923町歩、畑2115町歩。(香取郡誌)

全壊母屋80棟、附属家屋115棟、半壊16棟、鎭木区下宿の被害劇甚にして全壊の家数からず、願勝寺もまた倒壊せり。損害14000円と称す。被害は明治35年よりも甚だし、されど幸い人畜の死傷はなかった。(古城村誌)

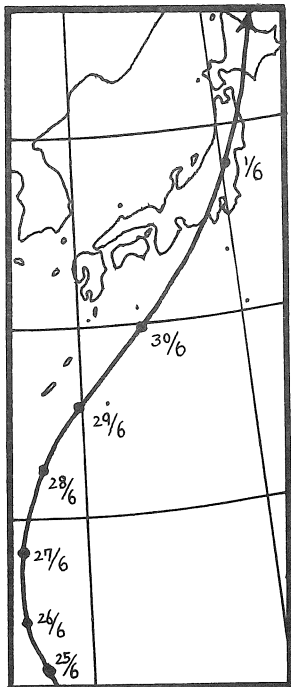
9月関東一帯に大風雨あり。香取神社境内の巨松、その他各地の大樹倒るるもの多し。(海上郡誌)
家屋全壊9戸、半壊4戸、崖崩れ多し。(海上郡豊岡村誌)

30日午後、12時俄然大暴風襲来し田畑損害高約7000円。民家の倒壊、破損頗る多く惨状を極む。皇族官殿下より罹災者22人に夫々御下賜金、家屋全壊罹災者14人には救助金が下賜された。

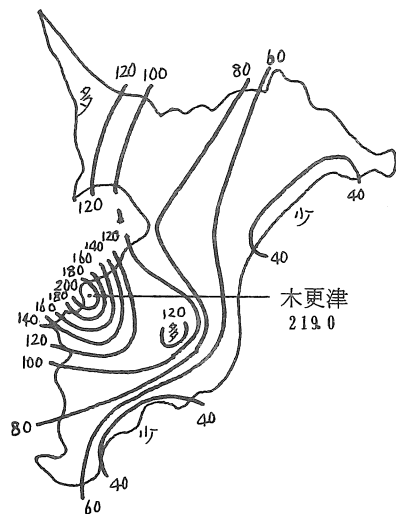
(白子町史)

この台風による被害は東海道、関東、奥羽、北海道に及び、被害総計は、死者1127人、負傷2022人、行方不明197人、家屋全壊36459戸、半壊21274戸、流失2442戸、浸水家屋302917戸、船舶流失沈没8182隻、その他に上る。

1917年9～10月
台風経路図



1917年9月29～30日
降水量分布図



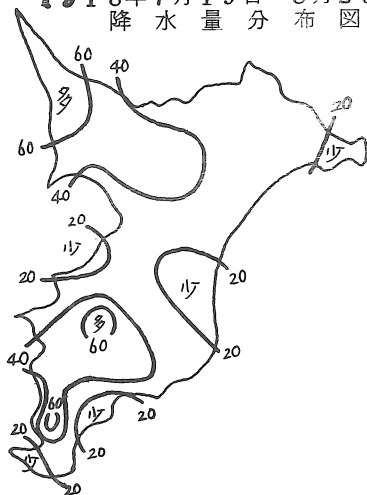
大正 7年 (1918年) 7月～8月 旱 害

7月、8月の雨量少く、7月19日より8月26日までの県下の総降水量は20～60mmに止る。

7月8月大旱、往年に倍し田圃の被害少なからず。井戸水涸渇するもの多し。(香取郡誌)

米1円につき2升内外に暴騰す。(古城村誌)

1918年7月19日～8月26日
降水量分布図



〔参考〕 旱 害

長期間にわたって雨が少いと、水不足による被害が起る。前後2ヶ月間の降水量が平年の30パーセント以下になると、如何なる場合でもかんばつ被害が発生する。

かんばつの被害を最も受け易いのは農作物、特に水稻である。梅雨期に雨が降らず「からつゆ」になれば田植が出来なくなり、夏に日照りが続けば水田に亀裂を生じ、稲が枯れたりする。海に近い川筋では、水枯れして海水が浸入すれば塩害を起す。その外イモチ病やウンカなどの病虫害も多くなる。

かんばつはまた、水力電気の発電能力を低下させ、上水道の水源を枯渇させ、工業用水の不足等深刻な被害を起す。

大正 7年 (1918年) 9月23日～24日 暴風雨(台風)

24日昼頃、東海道上陸、中部地方を経て日本海に入り、奥羽及び北海道西岸を北上した台風がある。

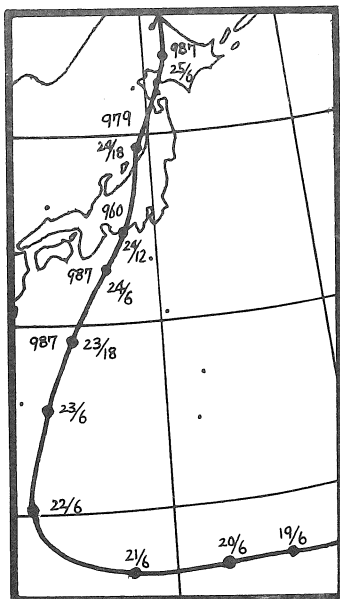
この為、23日朝より暴風となり24日夜半まで続く。県下の降雨は台風

接近前の20日より始まり24日夕刻止んだが、23日の雨量殊に多し。

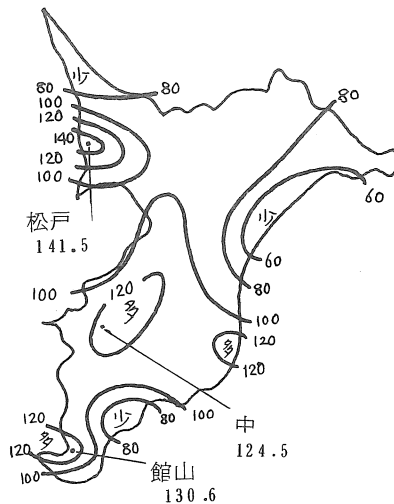
24日 台風により南東強風あり禾穀を害す。(香取郡誌)

気象要素	地 名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		982.9	984.4	987.8	988.4
最大風速 m/s		S 37.7	SW 17.8	SSW 21.8	SSE 25.6
4時間降水量の最大mm		16.0	44.4	21.8	18.7

1918年9月 台風経路図



1918年9月20～24日
降水量分布図



大正 8年 (1919年) 2月8日～9日 雪

8日夜 房総沖を通過した低気圧に伴い、8日朝より9日早朝まで雪となる。

8日、9日雪大いに降る。積量2尺から3尺に達す。(香取郡誌)

大正 8年 (1919年) 2月24日 雷雨

24日、19時頃平群附近に発雷し、22時頃長生郡土睦村下ノ郷に落雷して家屋1戸を焼く。

(気象要覧)

大正 8年 (1919年) 3月14日～15日 雷雨

14日 23時20分頃安房郡和田町沖に発生した雷雨は北東に進み、夜半銚子附近に達す。15日 2時すぎ犬吠岬灯台に落雷し、避雷針、電鈴、電話、官舎硝子等が破壊され、一時通信が杜絶した。

(気象要覧)

大正 8年 (1919年) 4月26日 火事

神崎町小松火災、民家20余戸数十軒に延焼す。(香取郡誌)

大正 8年 (1919年) 5月25日 雷雨

25日 本県各地で雷雨があり、10時頃八日市場駅に落雷し非常な混雑となる。又、12時過ぎ安房郡西条村に落雷、電灯引込線より電気伝わり電灯下の婦人感雷焼死す。姉ヶ崎及び香取郡6ヶ村に降電あり。(気象要覧)

大正 8年 (1919年) 夏 旱 魃

夏大旱、萬力区三軒家、秋田区、竊木区宿地方の高田殊に被害多し。(香取郡 古城村誌)

大旱魃、被害甚大、米価高騰す。(白子町史)

大正 8年 (1919年) 10月上旬 火事

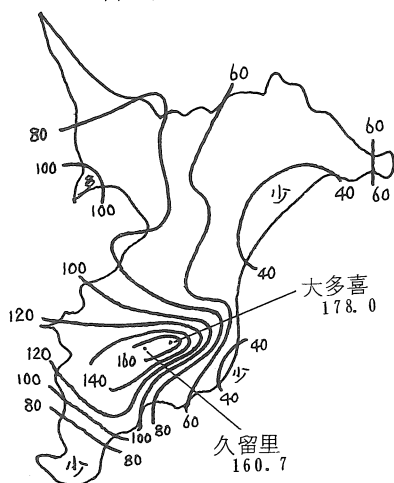
本銚子町笠上の火災に罹災23棟を出す。(銚子市史)

大正 9年 (1920年) 5月10日 洪水(低気圧)

7日朝鮮と九州附近にあつた低気圧が2つ玉となつて、ゆつくり東進し11日関東沖に去つた。この為、関西から奥羽地方にかけ雨となる。加うるに月始めより雨が続けていたので利根川洪水となる。

10日 関宿町谷中の堤防が決潰した為、関宿町は台町を除き、全部浸水、漸次二川村に及び被害は甚大であつた。(東葛飾郡誌)

1920年5月7～9日
降水量分布図



〔参考〕 利根川のはん濫

利根川の流路は、幹川322km、支流を合せた総延長440km、流域面積は約16000km²。そのうち平地が60%、山地が40%である。しかも、流域の西北端は標高2000～3000mの山岳地帯となつている。従つて、下流には洪水を起すような大雨がなくとも、上流地方に大雨があれば下流域にはん濫する。

昭和22年9月カスリン台風によつて、千葉県境に近い栗橋附近の堤防が決壊して、埼玉県東部及び江戸川沿いの東京都内に広くはん濫した。

これ以来、利根川の改修計画が再検討され、上流には洪水調節ダムの建設が行われているが、これを以つて万全とは云い難い。水防体制の充実が望まれる所以である。

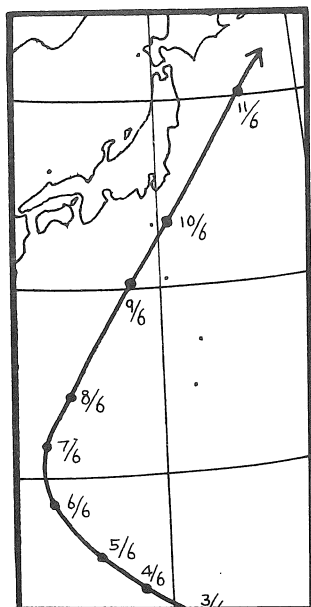
大正10年（1921年）10月5日～10日 暴風雨（台風）

9日朝、鳥島西方より北上し、10日朝から午後にかけて房総沖を通過して北東に進んだ台風がある。この台風接近前の5日夜半より暴風雨となり10日夕刻まで続く。9日県下の雨量殊に

気象要素	地名	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb		993.4	992.6	991.1
最大風速 m/s		N 14.9	NNE 7.8	NE 18.8
4時間降水量の最大mm		100.2	115.8	29.1

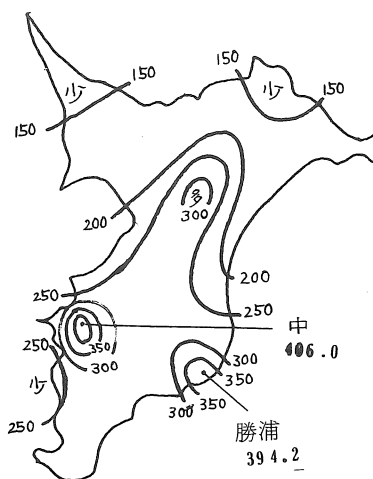
多し。君津郡秋元村崖崩れ2、家屋倒壊3戸、圧死6、水死2、手賀沼氾濫し、印旛郡大森附近浸水家屋40余戸。鉄道北条線崖崩れ数ヶ所、トンネル崩壊あり。（気象要覧）

10日 円覚寺うしろの山腹崩壊、庫院埋没、本堂も殆ど倒壊に瀕す。（郷土誌「久留里郷」）



一九二一年一〇月 台風経路図

1921年10月5～10日
降水量分布図



大正10年（1921年） 12月8日 地震

8日21時31分茨城県竜ヶ崎附近を震源とする地震起り、印旛郡下において石燈籠倒壊、壁亀裂の被害あり。地面に小亀裂を生ず。 $M=7.1$ （気象要覧）

大正10年（1921年） 11月～12月 海難

11月3日～5日 房総沖で静岡県水産試験場所属の富士丸遭難。

12月5日 銚子沖で発動機船1隻遭難、4名は救助されたが、6名行方不明。

12月16日～17日 房総沖で汽船大松丸（1203トン）が遭難、甲板上の荷物全部激浪にさらわれ辛じて横浜に入港。（以上 気象要覧）

大正11年（1922年） 1月20日～22日 利根川結氷

20日銚子汽船会社下川岸約20間から30間位氷結す。同日飯貝根扱所新地川岸約10間位氷結す。22日まで3日間続く。

大正11年（1922年） 2月11日～12日 暴風（低気圧）

11日朝、朝鮮南部にあつた低気圧が東進して、12日朝、銚子沖に抜けた。この為11日夜半より12日朝まで暴風となる。

12日 犬吠埼沖において発動機船3隻転覆、行方不明25人。（気象要覧）

最大風速 銚子S 16.9 m/s 勝浦SW 16.5 m/s、布良SSE21.1 m/s

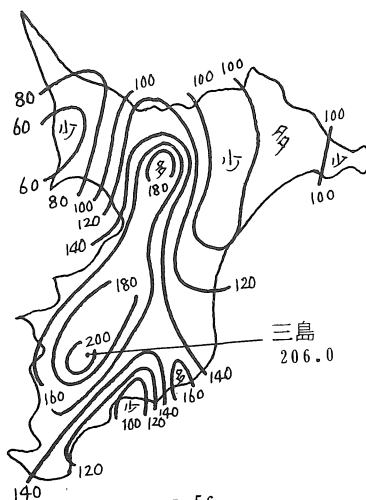
大正11年（1922年） 2月16日～17日 暴風雨（低気圧）

16日朝、九州の南海上にあつた低気圧が北東に進み、16日夜半房総半島をかすめて三陸沖に去つた。この為15日朝より16日夜半まで雨強く、16日朝より17日夜まで暴風となる。

千葉県死者、重傷者多数、山崩れ道路堤防の決潰、家屋の倒壊、浸水多く、総武本線6ヶ所不通となる。

（気象要覧）

気象要素	地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb		991.4	991.3	992.3	991.4
最大風速 m/s		SSE28.2	NNW11.4	SSE15.6	SE 27.1
4時間降水量の最大mm		-	39.2	43.3	17.5



一九二二年二月一五
降水量分布図

大正11年 (1922年) 3月15日 暴風(前線)

日本海の低気圧より南西にのびる寒冷前線の通過に伴い、15日午後より夜まで暴風となる。

15日、銚子沖において発動機船1隻遭難 溺死6 (気象要覧)

最大風速 銚子NW 16.7m/s 勝浦SW 15.8m/s 布良SSW 15.8m/s

大正11年 (1922年) 4月18日 突風・降雹(前線)

強い突風と雷雨を伴った前線が通過し、18日朝、6時頃より11時頃まで暴風となる。

君津郡沿岸で漁夫10名行方不明となる。印旛郡宗像村で雹5寸積る。(気象要覧)

最大風速 銚子N 21.6m/s 勝浦S 6.0m/s 布良NNW 12.5m/s

大正11年 (1922年) 4月26日 地震

26日10時11分木更津附近を震源とする地震あり。(M=6.9)

君津郡の被害 小学校傾斜1校(巖根村)土蔵倒壊1棟(木更津)県道亀裂延80間(小糸村60
秋元村20)道路損壊1ヶ所(鎌足村)練瓦煙突破損1本(湊町)湊駅構内地入りして軌条湾曲し、金
庫20cm移動、その他壁の落下・亀裂各所にあり。

安房郡の被害、家屋全壊3戸(豊房、館野、船形)崖崩れによる家屋全壊3戸(富崎)家屋大破73
戸(北条40 館山18 豊房4 館野3 神戸3 勝山3 保田2)練瓦煙突折損2本(館山)布良
の望楼(石造り)大破す。

この他、夷隅郡大多喜に土蔵壁の落下あり。(気象要覧)

大正11年 (1922年) 5月31日～6月1日 暴風(前線)

沿海州の低気圧より南西にのびる寒冷前線の通過に伴い、31日夜より1日正午前まで暴風となる。

31日 銚子港において発動機船数隻大破、乗組員数十名負傷。(気象要覧)

最大風速 銚子NNE 17.5m/s 勝浦SSW 9.2m/s 布良SE 11.8m/s

大正11年 (1922年) 8月12日 雷雨

各地に雷雨あり。15時30分頃 山武地方強雷に襲われ、成東町、東金町、白里町に落雷す。民家
1棟焼失。(気象要覧)

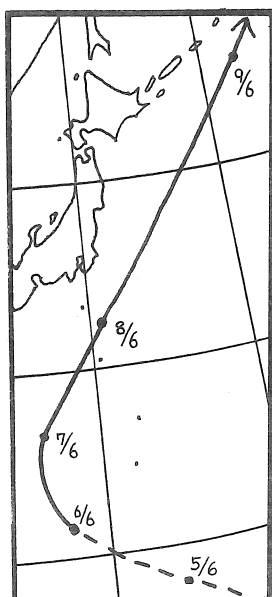
大正11年 (1922年) 10月8日 暴風雨(台風)

8日午前中、房総沖を通り千
島方面に去った台風がある。こ
の為、8日早朝より正午すぎま
で暴風となり、強い雨は6日所
々に降り出し7～8日全県に広がる。

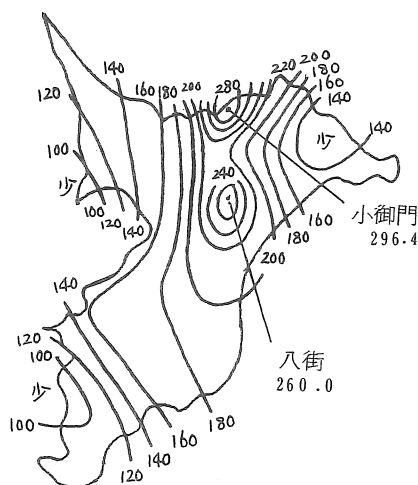
気象要素 \ 地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb	981.7	985.1	983.9	983.7
最大風速 m/s	N 28.6	N 22.5	N 12.5	N 33.1
4時間降水量の最大mm	35.1	26.2	41.6	40.9

8日朝 千葉県沿岸漁船遭難多し。(気象要覧)

1922年10月
台風経路図



1922年10月6～8日
降水量分布図



大正12年（1923年）1月3日 利根川結氷

利根川銚子沿岸は岸より1間位凍る。新川附近は20間位凍る。又、清水地方は下水凍る。

(銚子測候所)

大正12年（1923年）1月15日～16日 突風（低気圧）

15日朝、九州西方にあった低気圧が東進し、15日夜、本県南部から東部を経て北海道東方海上に去った。この低気圧の通過に伴い15日晚より16日朝にかけ突風が起った。

気象要素	地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb		990.0	993.8	994.1	990.5
最大風速 m/s		SSW23.0	WNW17.5	S 20.7	NW15.7
8時間降水量の最大mm		30.6	29.8	14.6	11.1

15日 20時頃館山附近において家屋の倒壊あり。16日伊豆大島附近で勝浦の漁船沈没、18名中8名行方不明となる。(気象要覧)

大正12年（1923年）2月8日 暴風雪（低気圧）

8日朝 低気圧が房総沖を通過して三陸沖に去った。この為、8日早朝より正午すぎまで暴風となり、雨から雪に変わる。

本県に着雪の為電線切断の被害あり。(気象要覧)

最大風速 布良 N 17.5 m/s 勝浦 N 6.4 m/s 銚子 N 19.3 m/s

大正12年（1923年） 4月8日～9日 暴風（低気圧）

8日朝、日本海西部にあった低気圧が9日朝オホーツク海に入る。この為、8日夕刻より夜半まで暴風となる。

鹿島灘に出漁中の発動機船遭難、10名行方不明となる。（気象要覧）

最大風速 銚子SSW 15.3m/s 勝浦SW 16.2m/s 布良SSW 25.6m/s

大正12年（1923年） 4月12日 暴風（前線）

日本海より三陸沖に抜けた低気圧に伴う寒冷前線が12日夕刻本県を通過した。

館山湾において大栄丸（2280トン）坐礁。銚子沖において漁船1隻行方不明となる。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb	982.5	983.7	982.6	980.6
最大風速 m/s	N 16.9	WSW 17.2	SW 16.8	NNW 11.5
8時間降水量の最大mm	19.2	17.0	11.7	33.4

大正12年（1923年） 6月9日 暴風雨（低気圧）

台風くずれの低気圧が大阪湾より上陸、北陸及び関東北部を経て東方海上に去った。この為、9日午後より暴風となり夕刻まで続く。雨は8日深夜に始まり、9日夕刻止む。生憎県下各地の雨量観測はないが、気象官署の9日の日雨量100mmに達す。

和田浦、江見間の築堤崩壊して線路埋没、列車不通となる。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布良	館山	勝浦	銚子
最大風速 m/s	SSW 25.3	S 9.5	S 12.4	S 13.9
9日の日降水量mm	108.5	129.1	113.1	106.1
8時間降水量の最大mm	62.0	78.5	62.8	85.6

大正12年（1923年） 9月1日 地震・津波（関東大震災）

9月1日11時58分関東大地震起る。震源は神奈川県平塚市郊外金目附近の地下約30kmと推定される。（M=7.9） 被害区域は東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、山梨、茨城の1府6県にわたる。地震と共に東京、横浜は未曾有の大火となり、地震による被害よりも火災による被害が大きい。火災はまた神奈川県の小田原、厚木、鎌倉、横須賀等及び本県安房郡の船形、館山、北条等にも発生し、被害を一層大きくした。

震動は安房郡最も強く、殊に内房において激しい。野島崎灯台もこの時倒壊した。両総地方では東京湾沿岸が大で、被害もこれらの地方に著しい。この地震によつて房総南部より市川に及ぶ地域及び三浦半島を中心にして神奈川県南部一帯の地盤が隆起し、沿岸水準測量の結果によれば、船橋0.8m、千葉0.1m、木更津0.2m、佐貫0.91m、竹岡1.21m、北条1.56m、布良2.2m、白浜1.3m、和田0.8m、小湊0.5mの上昇があつた。これに反し、東京及び伊豆大島は夫々0.6m及び0.3m沈下した。また、この地震に伴い房州南端の洲崎村、西岬村、富崎村は津波に襲われ、富崎村の相浜、布良では地震発生後およそ20分にして高さ5～6mの津波が押寄せ、民家60戸、漁船29隻を流失した。

この他、安房郡には断層、地割れ、崖崩れ、地下水の噴出等の地変あり、北条や館山附近の道路亀裂は物凄いのがあった。京浜の大火災によつて起された上昇気流は布片、紙片（帳簿、通帳、有価証券、紙幣、新聞、雑誌等の断片）その他を捲上げ、県下各地に雨の如く降らせた。

この地震に伴う余震は銚子において1日96回、2日240回、3日137回、4日75回、5日50回と漸減したが16日までの総回数は799回に上り、特に2日11時48分勝浦沖を震源とした地震（M=7.4）は、勝浦付近においては本震より強く、多少の被害を生じた。

（大正大地震の回顧と其の復興）

人及び家屋の被害表（大正12年10月3日現在）

種別 郡市名	死者	行方不明	負傷者	全壊		半壊		全焼		流失	
				住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家
千葉市	-	-	9	3	-	3	6	-	-	-	-
千葉郡	-	-	4	5	-	20	27	-	-	-	-
市原郡	21	-	60	574	582	636	735	-	-	-	-
東葛飾郡	15	-	30	24	42	25	41	-	-	-	-
印旛郡	-	-	-	-	3	3	4	-	-	-	-
長生郡	1	-	2	44	80	93	91	-	-	-	-
山武郡	-	-	5	11	14	14	25	-	-	-	-
香取郡	1	-	2	4	6	3	3	-	-	-	-
海上郡	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
匝瑳郡	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-
君津郡	88	8	247	1916	2086	2303	2453	-	-	-	-
夷隅郡	-	-	5	7	18	36	42	-	-	-	-
安房郡	1218	5	2420	10914	13448	3108	4915	438	153	55	5
計	1345	13	2784	13503	16231	6245	8342	438	153	55	5

罹災各府県の被害総計は、死者99331人、行方不明43476人、負傷103733人、家屋全壊128266棟、半壊126233棟、焼失447128棟、流失868棟に上る。

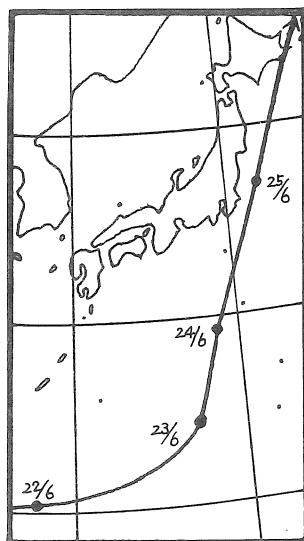
大正12年（1923年） 9月24日～25日 暴風雨（台風）

24日朝、鳥島西方にあった台風が北上し、25日早朝銚子沖を通つて千葉南部に去つた。この為、23日朝より25日朝まで暴風となり、雨は24日朝より25日朝まで続く。特に房総東岸は24日午後より25日早朝まで雨強く、24日の日雨量は200mmに達した。

気象要素	地名	布良	勝浦	銚子
		979.4	978.5	975.4
最低気圧 mb				
最大風速 m/s		NNE34.0	N 12.0	N 32.7
8時間降水量の最大mm		25.7	114.0	117.6

千葉県被害 千葉市：床下浸水13、非住家被害1、
 東金町：床下浸水200、銚子町：家全壊9、半壊2
 非住家全壊3、流失2、床上浸水97、床下浸水195、
 漁船流失及び大破40、木材流失2千円、茂原町：25
 日4時30分頃 稲揚作業中流され溺死1、北条町：
 仮小屋屋根破損、帆船(50トン)沈没、漁船流失大破
 多数、東海村：廿五里地先及野毛地先の堤防決潰し、水
 田約20町歩泥海と化す。(新聞報道)

1923年9月
台風経路図



大正12年 (1923年) 10月10日～11日 暴風雨(台風)

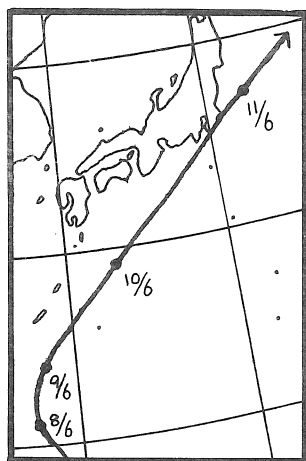
10日朝、九州南方にあった台風が
 北東に進み、10日夜半房総沿岸をか
 すめて三陸沖に去った。銚子において
 は11日2時55分より8時05分ま
 で台風眼に入り無風となる。この台風

気象要素	地名	布良	勝浦	銚子
最低気圧 mb		968.0	976.2	975.8
最大風速 m/s		S 43.5	S 23.0	S 24.2
8時間降水量の最大mm		85.6	54.4	33.0

により10日早朝より11日早朝まで暴風雨となり、県下の雨量は60～100mmに達した。

安房郡那古町で崖崩れの為、仮小屋倒壊し死者数名、道路の破損多し。(気象要覧)

1923年10月
台風経路図



〔参考〕 気象災害の比較

わが国における各種の気象災害の損害高の全ぼうを把握することは困難であるが、国庫から災害復旧費として支出された金額と死者の数について、昭和11年から昭和28年まで8ヶ年間の総計を表示する。

各種損害の損害高

	災害復旧費	死者数
台風	5280億円	3781人
集中豪雨	2990	2313
冷害	71	—
融雪洪水	42	—
低気圧	25	415
かん害	14	—
晩霜	9	—
大火	29	2

左表にみる通り、気象災害のうち台風による損害が全国的にも最も多い。
 千葉県の場合も、同様に台風災害が筆頭に位する。

(註) 貨幣価値は昭和28年現在による。

大正13年（1924年） 5月21日 暴風雨（低気圧）

発達中の低気圧が本州の南岸沿いに東進し、21日朝、銚子沖に抜けた。

この為、20日夕刻より21日夕刻まで暴風雨となる。

銚子沖において汽船1隻沈没し、乗組員数十名死亡。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布 良	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	987.9	991.4	988.4
最大風速 m/s	N 25.7	NNE 6.2	NNE 20.2
8時間降水量の最大mm	25.4	33.1	49.1

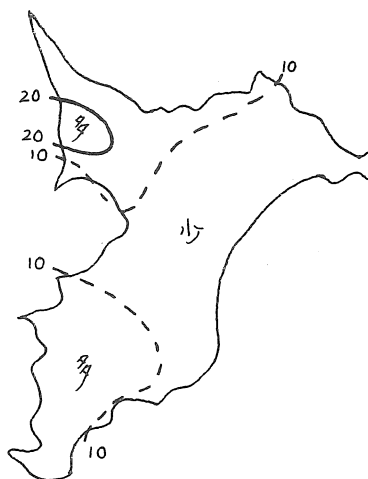
大正13年（1924年） 7月 旱 害

6月末より8月初めまで雨少く旱害となる。
印旛沼は徒歩でわたることが出来たという。

被害の甚しいのは市原郡、山武郡、印旛郡、海上郡で
植付不能反別は市原郡124町歩、山武郡61町余、印
旛郡3町余に上る。海上郡干潟附近の被害も大きい。

（千葉県史 大正昭和編） 九十九里海岸一帯の農作物
の被害甚大。（白子町史） 海上郡下の旱害面積1300
町歩に及ぶ。（旭市年表）

1924年7月
降水量分布図



大正13年（1924年） 9月16日～17日 暴風雨（台風）

紀伊半島はるか沖合より北東に進んだ
台風は17日朝 房総半島をかすめて北
海道東方海上に去った。この為、16日
夕刻より17日夕刻まで暴風雨となる。

御宿、勝浦間の鉄道一時不通となる。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布 良	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	984.4	986.0	992.6
最大風速 m/s	NW 28.9	W 9.3	ESE 17.4
8時間降水量の最大mm	101.5	96.1	60.4

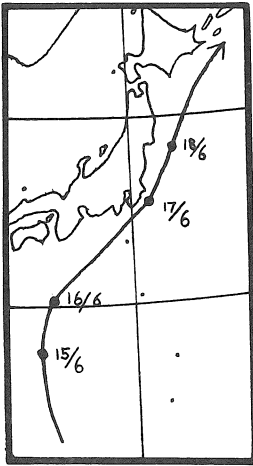
〔参考〕 台風の来襲しやすい日

台風襲来の多い9月には「二百十日」をはじめ「二百二十日」「二百三十日」が一応の警戒日とされている。しかし、これらの警戒日に必ず台風が襲うとは限らない。

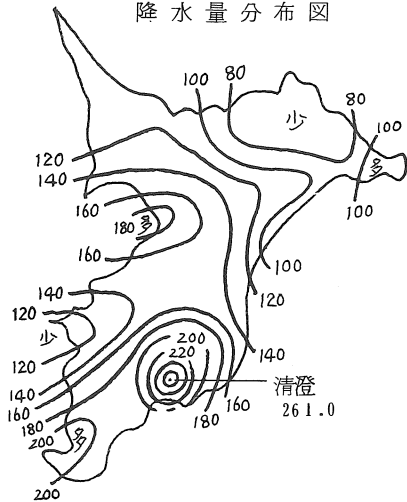
千葉県においては、9月に災害を起した台風の数を調べてみると、昭和31年～40年の10年間に9回あつた。そのうち、上旬の5～10日の間に襲つたのが2回、中旬の13～18日が3回、下旬の24日～27日が4回であつた。

9月の台風は上旬より下旬に至るほど来襲し易くなる傾向がある。

1924年9月
台風経路図



1924年9月16日
降水量分布図



大正13年（1924年）10月21日 暴風雨（低気圧）

18日紀州沖に発生した低気圧は、ゆっくり東進して23日三陸沖に去った。この為、19日夕刻より降り出した雨は23日夜半まで断続し、風は銚子付近において強く、21日7時最大風速NE14.9 m/sに達した。

21日未明より暴風雨となり、午後2時頃より収る。小見川警察署管内死者20余名、崖崩れによる被害多し。古城村にて山腹崩壊又は暴風による家屋全壊2戸、半壊4戸、附属家3戸、家屋の倒壊による圧死児童1人、重傷大人1人、山腹の崩壊は数十ヶ所に及び田畑の損害也多し。（香取郡 古城村誌）

大正13年（1924年）11月9日～10日 暴風（低気圧）

9日から10日にかけて日本海より三陸沖に抜けた低気圧のため9日午前より10日午後の間、時々暴風となる。

9日、館山沖で農商務省監視船得撫丸坐礁（気象要覧）

最大風速 布良SW 18.2 m/s（9日） W 28.8 m/s（10日）

大正14年（1925年）3月30日 暴風雨（低気圧）

九州西方より東進し、30日早朝関東北部を経て北海道方面に去った低気圧のため30日早朝暴風雨となる。

30日午前1時頃、房総沖で汽船金比羅丸（200トン）沈没、13名全員救助される。（気象要覧）

最大風速 布良SSE 33.3 m/s 銚子SSW 17.5 m/s。

大正14年（1925年）4月30日 雷雨

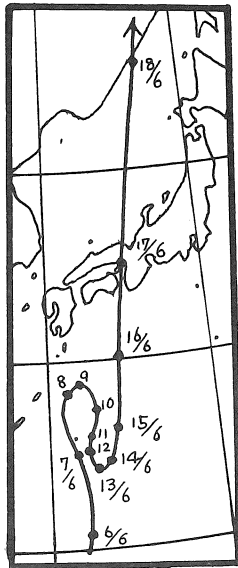
富崎附近に発生した雷雨に伴い、落雷による感電死1名、家屋焼失1棟を出す。（気象要覧）

大正14年（1925年） 8月16日～17日 大雨（台風）

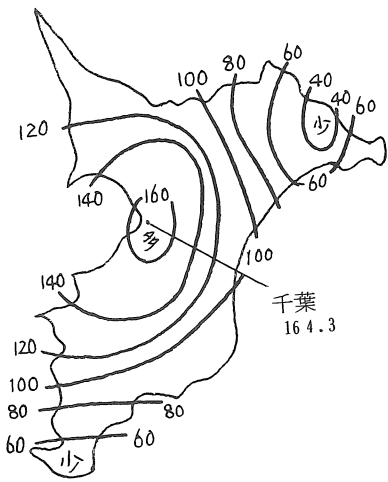
四国はるか沖合において1週間にわたり低回し、17日朝 和歌山附近を経て日本海を北上し、沿海州に去った台風がある。この為 本県では13日より17日まで大雨となる。

17日 利根川増水、養老川堤防決潰す。（千葉県史 大正昭和編）

1925年8月
台風経路図



1925年8月13～17日
降水量分布図



大正14年（1925年） 9月28日～10月1日 暴風雨（台風）

四国沖より東北東に進み、10月1日朝、房総沖を経て東方海上に去った台風がある。この為、1日午前中暴風となる。台風に伴う雨は、9月28日より降り始め29日～30日の雨量殊に多し。

気象要素		地名			
		布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧	mb	985.6	991.3	988.8	989.3
最大風速	m/s	N 26.3	NNW13.0	NNE 4.8	NNE17.6
8時間降水量の最大mm		76.4	69.7	101.8	128.5

上総湊～浜金谷間、保田～勝山間、勝山～岩井間、太海～鴨川間の鉄道一時不通となる。（気象要覧）

〔参考〕 豆 台 風

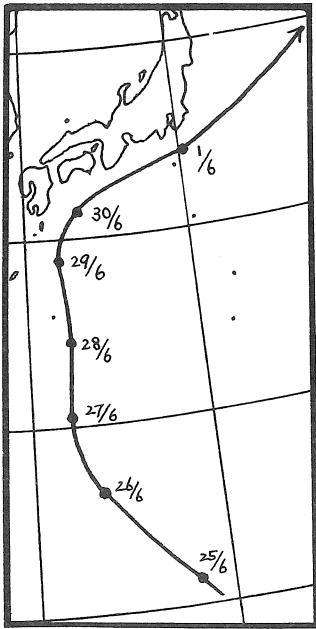
昭和14年8月5日のことであるが、相当大的な台風が小笠原の北東海上にあつて、関東地方への上陸が心配されていた。ところが、銚子測候所では5日の朝から風雨が次第に強くなり、10時には北の風21 m/s、13時には北々西30.0 m/s、最大瞬間風速40.5 m/s、14時すぎには最低気圧967.5 mbとなつた。

予報俾は小笠原の台風が急に北上したのかとびつくりしたが、実は別の小型の台風が銚子沖に発生したものであつた。この小型台風は14時すぎ銚子北方の鹿島沿岸に上陸、栃木、群馬を経て佐渡ヶ島方面に去つた。台風の勢力は上陸と共に急速に衰弱したので被害は軽微であつた。

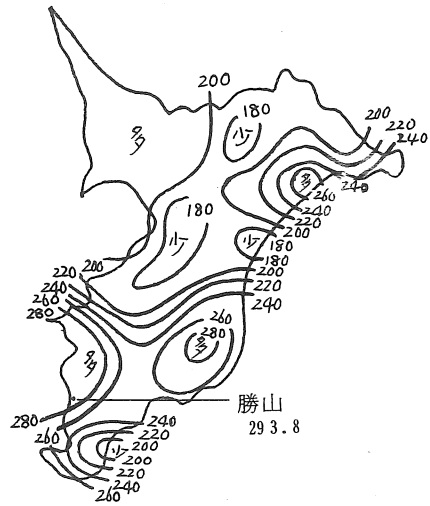
この時以来、観測網をめぐり抜け、突如現われる小型台風を「豆台風」と呼ぶようになった。

但し、現代ではレーダーや気象衛星等の観測技術が進歩しているので、豆台風によつて不意を衝かれることはなくなつた。

1925年9～10月
台風経路図



1925年9月28日～
10月1日
降水量分布図



大正15年（1926年） 3月～4月 海 難

- 3月8日～12日 房総沿岸において発動機船 安清丸（8トン）遭難、魚流失2000円、船体損害4000円の被害を出す。11日風強し。最大風速 布良WNW 20.4m/s
- 4月3日 17時頃 鮪をつんで銚子に入港しようとした岩王丸（17トン）は風浪のため利根川口の小島に衝突して船体を粉碎し、全員8名行方不明となる。
最大風速 銚子NNE 19.0m/s
- 4月21日 房総沖において鮪漁中の漁船15隻 行方不明となる。
最大風速 布良SSE 26.1m/s 勝浦SW 12.5m/s 銚子SW 14.4m/s

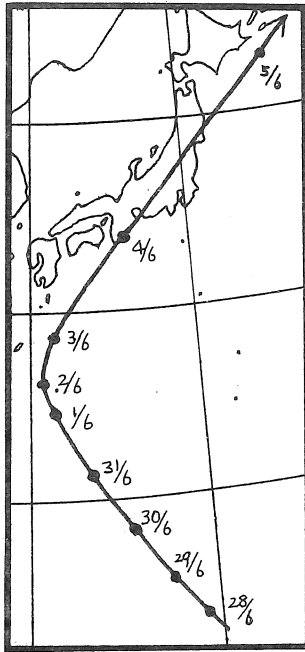
大正15年（1926年） 9月4日 暴 風（台風）

4日朝、紀伊半島に上陸、中部地方から奥羽地方を経て北海道東方海上に去った台風がある。この為4日午後より夜まで暴風となる。雨量は少ない。

本県沿岸において漁船の遭難あり。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	1002.6	1003.1	1003.1	1001.1
最大風速 m/s	SSW21.3	SSW10.9	S 17.0	SSW15.8
8時間降水量の最大mm	16.4	24.4	8.0	11.1

1926年8～9月
台風経路図



〔参考〕 二百十日

二百十日というのは、立春から数えて210日目の日で、9月1日か2日に当る。この頃は台風の襲来が多く、暴風雨に対する警戒が必要だという暦の上の目印である。

「二百十日」が厄日として暦にのせられたのは、今から三百余年前の明暦2年（1656年）の「伊勢暦」が始まりで、それから30年後の貞享3年（1686年）から「京都暦」にものせられるようになり、現在に及んでいる。

暦にはしるされていないが「二百二十日」、「二百三十日」という厄日もまた昔間では話題にされる。実際には、これらの厄日に必ずしも台風が来襲するとは限らないが、9月という月には、災害を起す台風の襲来することが一番多い。

大正15年（1926年） 9月24日～25日 暴風雨（低気圧）

24日、東支那海より東進した低気圧と満州北部より南下した低気圧が合併し、発達しながら日本海を北東に進み、25日朝樺太南部を横断してオホーツク海に去った。この為、24日夜半より25日朝にかけて風雨やゝ強くなる。

白瀉駐在所の報告によれば、暴風雨襲来し、24日午後5時より翌朝2時にかけて猛威を振った。家屋倒壊8戸、半壊4戸、樹木の損害多く、交通機関の自動車は不通、電話も不通となる。（白子町史）

大正15年（1926年） 12月2日 暴風（低気圧）

日本海を北東に進んだ低気圧の為、外房の風殊に強し。

2日午後、館山湾に避難中の汽船鳥海丸（1282トン）は八幡海岸に吹寄せられて坐礁した。

最大風速 布良W 25.0W/S 館山WSW 22.6W/S （気象要覧）

昭和 2年（1927年） 3月 海難

9日 13時勝浦港口において発動機船明神丸（25トン）転覆、13名全員溺死。

最大風速 勝浦S 26.1m/s

10日 勝浦所属の力丸、妙見丸、福一丸の3隻は出漁中消息を断ち50余名生死不明となる。

20日 銚子川口において第一龍王丸転覆、11名行方不明となる。

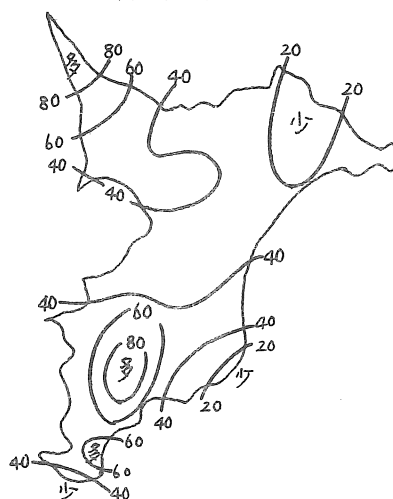
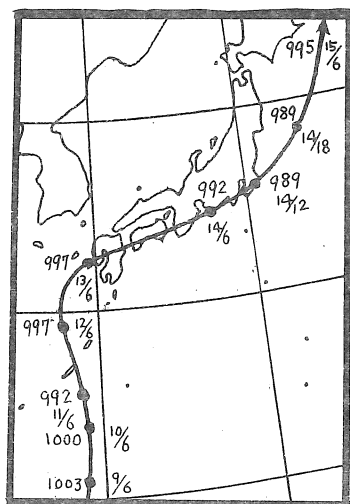
鹿島灘沿岸において若宮丸（2217トン）は暗礁に乗揚げて大破、37名全員救助される。

最大風速 銚子NE 22.9m/s （以上 気象要覧）

館山港では暴風信号号倒壊、北条町では電柱の倒壊、屋根瓦が飛ばされる等の被害あり。京浜地方の風水害多し。(気象要覧)

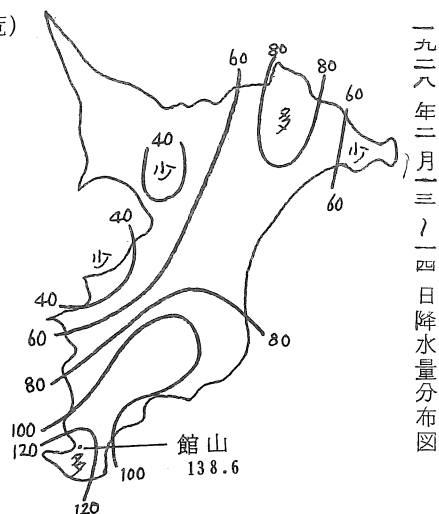
気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	993.0	992.4	992.8	989.3
最大風速 m/s	SSW29.2	WSW19.7	S 28.0	SSW20.2
8時間降水量の最大mm	26.4	30.4	16.3	22.0

1927年9月13~14日
降水量分布図



九十九里沿岸において大小の漁船 37 隻行方不明となり、15 日朝に至るも発見されず。この外県内に電話線の切断、電柱倒壊、土砂崩壊の被害あり。(気象要覧)

気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 m b	994.6	994.4	993.1	989.3
最大風速 m/s	W 13.8	NW 17.6	WSW 9.5	W 20.1
8時間降水量の最大mm	67.2	78.7	43.4	46.3



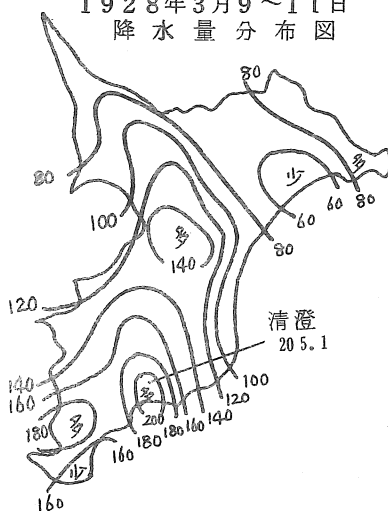
昭和 3 年 (1928 年) 3 月 10 日～11 日 暴風雨 (低気圧)

本州南岸を発達しながら東進した低気圧は 11 日早朝房総沖を通り、東方海上に去る。この為、10 日夕刻より 11 日深夜まで暴風となる。雨は 9 日より 11 日まで続き、10 日の雨強し。

11 日、銚子沖において甲隆丸 (5226 トン) 択捉丸 (4127 トン) 第 23 歌神丸 (2428 トン) 第一室蘭丸 (1225 トン) 第 6 高栄丸 (1130 トン) の 5 隻遭難、多数の人命を奪う。(気象要覧)

気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	982.6	983.0	981.3	982.6
最大風速 m/s	N 22.4	NNW 23.6	NNW 9.3	NNE NNW 24.0
8 時間降水量の最大 mm	69.7	58.1	50.6	27.1

1928 年 3 月 9～11 日
降 水 量 分 布 図



昭和 3 年 (1928 年) 4 月 19 日 火 事

19 日午後 7 時 10 分ころ、浜宿の長屋より出火、風向き南々西で 37 世帯を焼失す。(佐原市史)

昭和 3 年 (1928 年) 9 月 21 日 雷 雨

21 日 15 時頃より 5 時間に亘って、県南部地方に大雷雨あり、御宿町、興津町、総野村に落雷す。勝浦においては 15～18 時の 3 時間に 129 mm の豪雨が降った。(気象要覧)

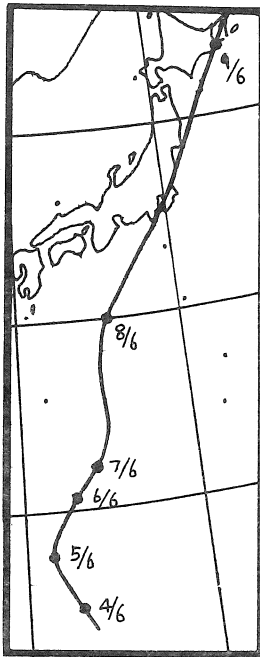
昭和 3 年 (1928 年) 10 月 8 日～9 日 暴風雨 (台風)

紀州はるか沖合より北東に進んで東京湾に入り、8 日夕刻本県北部を通過、常陸沿岸より三陸沿岸を経て北海道方面に去った台風がある。この為、8 日夕刻より 9 日早朝まで暴風雨となる。

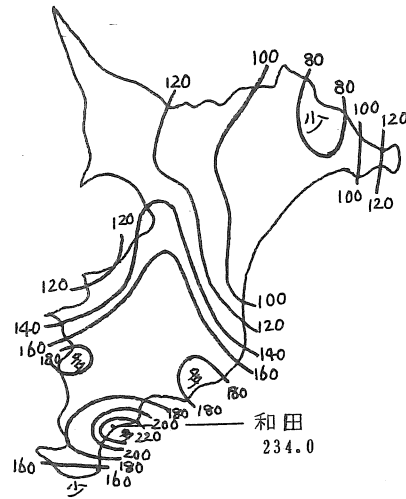
勝浦港において漁船 3 隻激浪の為陸上に打上げられ、屋根瓦、塀、看板の破損あり。(気象要覧)

気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	969.3	969.6	971.0	971.8
最大風速 m/s	SSW 23.8	W 22.8	SSE 35.7	S 25.6
8 時間降水量の最大 mm	58.8	70.9	78.6	67.2

1928年10月
台風経路図



1928年10月6～8日
降水量分布図



昭和 3年 (1928年) 11月15日 竜巻

15日午後 君津郡南東山岳部に雷雨発生して北東に進んだ為、県中部から銚子半島にかけ一時豪雨となり、長生郡白濁村には竜巻起り家屋破壊される。古所という所最も強し。(気象要覧)

昭和 4年 (1929年) 3月13日 火事

古所の海岸大火、午前11時出火、午後2時すぎ鎮火。11世帯19棟焼失。(白子町史)

昭和 4年 (1929年) 4月21日 暴風(低気圧)

21日 日本海にあった低気圧が奥羽地方を通過して北海道東方海上に去った。この為、21日朝より晩まで暴風となる。

勝浦において屋根、看板、板塀等破壊され、農作物の被害も生じた。(気象要覧)

最大風速 布良WSW 28.8m/s 勝浦SSW 20.0m/s 銚子WSW 17.5m/s

昭和 4年 (1929年) 5月23日～24日 雷雨(低気圧)

23日夕刻本州南沖合より房総南部に接近し、夜半銚子半島を横切って北海道東方海上に去った低気圧がある。この為23日は雨強く、雷を伴う。

気象要素	地名	地名			
		布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧	mb	984.7	984.4	984.2	981.8
最大風速	m/s	WSW12.5	NW15.7	E 8.6	ESE19.2
8時間降水量の最大mm		53.4	68.1	54.1	35.0

暴風は23日正午すぎより24日午後の間断続する。

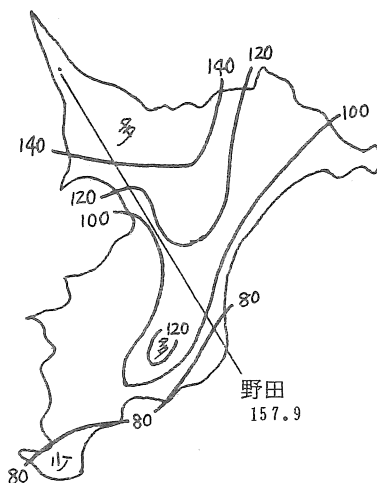
23日 16時30分頃、東葛飾郡手賀小学校に落雷して全焼す。(気象要覧)

〔参考〕 千葉県の雷災

千葉県において、昭和元年から昭和43年末まで43年間に、被害を起こした雷雨の全回数は23回である。そのうちひょう害を伴ったもの11回(農作物の大被害4回)、雷撃によって死者を出したものの7回、(死者総数11人)、局部的な集中豪雨によって水害を起こしたものの8回である。

雷雨の発生は冬にもあるが、雷災を起すものは4月から9月までの期間に限られ、5月が特に多い。

1929年5月22～23日 降水量分布図



昭和 5年 (1930年) 11月2日 暴風(低気圧)

日本海と本州南岸に中心を持つ2つ玉低気圧の通過に伴い、2日正午前後暴風となる。

蘇我町今井の沖合において発動機船転覆して7名中6名溺死。(気象要覧)

最大風速 布良 SSW 20.2 m/s 勝浦 S 17.4 m/s 銚子 S 16.3 m/s

昭和 6年 (1931年) 1月10日 暴風(低気圧)

9日本州南海上を東進した低気圧は10日朝三陸沖において大いに発達した。この為、10日午後暴風断続し、雨から雪になる。

10日 23時頃、安房郡岩井町において強風の為橋から吹落され1名死亡。(気象要覧)

最大風速 布良 W 28.3 m/s 勝浦 WSW 15.1 m/s 銚子 W 19.3 m/s

昭和 6年 (1931年) 2月1日 海難(濃霧)

1日14時頃、東京湾入口において濃霧の為、汽船高雄丸(4281トン)はアラビヤ丸(9414トン)の舷側に衝突して大損害を与えた。死傷者なし。(気象要覧)

昭和 6年 (1931年) 9月25日～27日 暴風雨(台風)

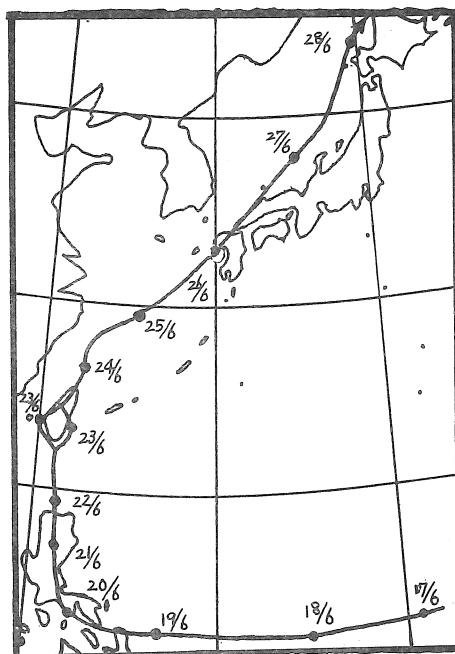
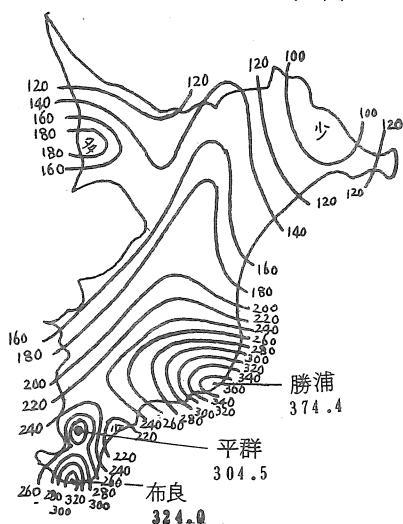
26日朝、九州北部を経て日本海に入り、28日朝、北海道西岸に達した台風がある。この為、26日夜半より27日朝まで暴風となる。雨は25日より降り始め26日の雨量殊に多し。

気象要素	地名	布良	館山	勝浦	銚子
最低気圧 mb		1000.5	1000.5	1000.3	999.7
最大風速 m/s		SW 16.5	S 12.5	SSW 11.6	ESE 21.4
8時間降水量の最大 mm		178.3	144.4	217.3	79.4

千葉県への被害 死者4人、負傷者7人、家屋全壊32戸、半壊32戸、流失10戸、床上浸水483戸、床下浸水984戸、落雷による焼失1戸、非住家全壊19戸、半壊9戸、流失4戸、浸水170戸、道路埋没、流失、破損107ヶ所、橋梁流失、破損52ヶ所、堤防決潰、破損3ヶ所、鉄道線路破損13ヶ所、鉄橋破損、陥落2ヶ所、電柱倒壊21本、崖崩れ41ヶ所、山崩れ23ヶ所、田崩壊、埋没163町歩、浸水5730町歩、畑崩壊、埋没24町歩、浸水177町歩、森林被害8町歩、家畜の喪失等、以上損害見積16万円に上る。(気象要覧)

1931年9月台風経路図

1931年9月25～26日
降水量分布図



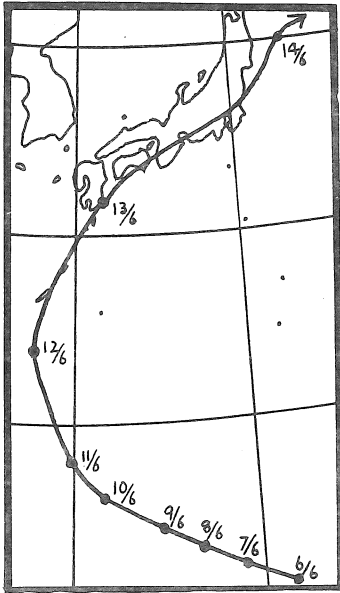
昭和 6年 (1931年) 10月13日 暴風雨(台風)

13日朝、四国南岸をかすめ、和歌山に上陸して東海道を通り、13日夜半関東を経て三陸沖に抜けた台風がある。この為、13日朝より夜半まで暴風雨となる。

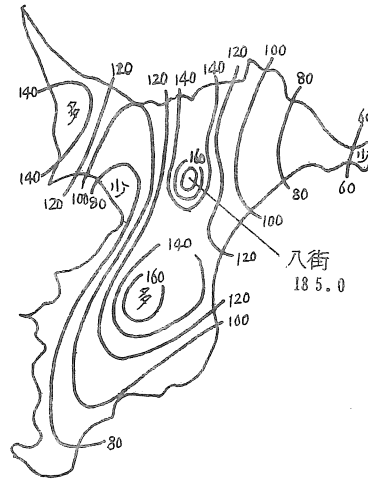
勝浦において貨物船興福丸(100トン)激浪のため沿岸に打上げられ、屋根瓦、塀、看板、及び農作物に多少の被害あり。(気象要覧)

気象要素 \ 地名	布 良	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	997.0	997.3	995.1	994.1
最大風速 m/s	SW 25.4	S 11.9	S 22.3	SSSE 27.0
8時間降水量の最大mm	41.8	43.8	39.8	39.3

1931年10月台風経路図



1931年10月12～13日
降水量分布図



昭和 7年 (1932年) 2月25日～26日 暴風雨(低気圧)

本州南海上を北東に進み、25日夜半房総沖を通り東方洋上に去った低気圧がある。この為、25日夕刻より暴風雨となり、一時雪を交える。

26日 7時40分頃、銚子附近において漁船難破する。(銚子測候所)

最大風速 銚子N 18.3m/s 勝浦NW 10.4m/s 布良N 14.2m/s。

昭和 7年 (1932年) 11月14日～15日 暴風雨(台風)

九州南方海上より北東に進み、14日夜半より15日早朝にかけ房総沿岸をかすめて三陸沖に去った台風がある。この為、14日朝より15日正午前まで暴風雨になる。14日の雨量殊に多し。

千葉県被害表

(気象要覧)

種別		千葉市	千葉	東葛飾	印旛	香取	海上	匝瑳	山武	長生	夷隅	安房	君津	市原	計
県保安課調															
死者		-	-	1	-	-	3	-	1	-	-	3	1	1	10
負傷者		1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	4	2	10
行方不明		-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	1	4	-	21
家	全壊	-	2	36	21	12	-	1	14	7	3	44	68	58	266
	半壊	2	-	59	11	1	12	4	1	4	-	84	150	111	489
	全焼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4
床上浸水	住家	186	17	133	13	28	-	-	153	18	2	1	77	70	703
	非住家	47	5	2	1	30	-	-	48	-	-	1	13	24	171
床下浸水	住家	633	296	777	29	142	29	65	789	191	78	47	213	318	3607
	非住家	59	23	56	19	85	32	30	111	4	9	35	227	139	834
非住家被害		4	60	213	205	104	15	48	38	23	15	288	461	152	1626

昭和 8 年 (1933 年) 6 月～8 月 旱 害

全国的に空梅雨の為、旱害を蒙る。本県では 5 月中旬以降 7 月末までの総雨量は平年の 40～45% に過ぎず、稀にみる旱魃となった。

千葉県旱害状況経過

(気象要覧)

種 別 \ 期 日	6月30日現在	7月5日現在	7月10日現在	7月15日現在	7月20日現在
水田総面積に対する植付不能面積%	11.4	10.5	9.5	7.9	7.8
〃 亀裂状態 %	3.2	3.5	5.8	7.7	9.0
〃 田面水なきもの%	8.5	11.1	10.7	15.4	17.1
植 付 不 能 面 積 町	12185	11176	9672	8450	8321
亀 裂 状 態 に あ る も の 町	3493	5992	6279	8289	9620
田 面 水 な き も の 町	9226	11861	11401	16484	18400
旱 害 総 面 積 町	24904	29029	27352	33223	36341

昭和 9 年 (1934 年) 7 月～10 月 冷 旱 害

九州・四国方面は旱魃、東北・北海道方面は冷害のため全国的に凶作となる。本県では 7 月末まで梅雨が長引いた為、7 月中旬及び下旬の平均気温は平年より 2°内外低く、8 月にはほぼ平年並に回復したが、9 月及び 10 月は再び 1～2°の過冷となった。また、8 月の降水量は少く、平年の 5 分の 1 をいし 3 分の 1 に止まり、上記低温と相俟って農作物特に水稻に悪影響を及ぼした。

千葉県は水田 18308 町歩が被害を受けた。(日本気象災害年表)

昭和 9 年 (1934 年) 9 月 21 日 暴風雨 (室戸台風)

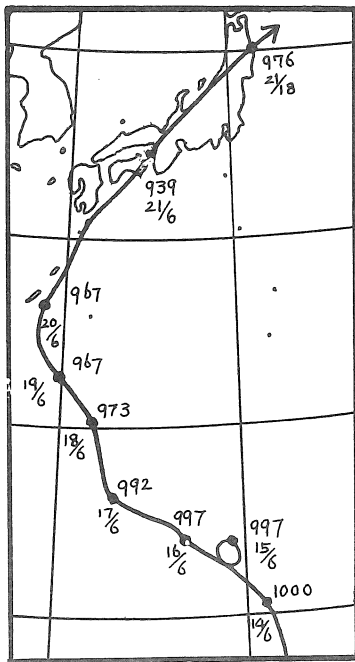
九州南方より北上し、21 日朝、室戸附近に上陸、四国東部及び淡路島を経て神戸に再上陸、北陸から奥羽を通って北海道東方海上に去った台風がある。有名な室戸台風で阪神地方は甚大な被害を受けた。この為、本県では 21 日朝より夕刻まで暴風となる。雨は 17 日より続いていたが、19 日～20 日の雨量やゝ多し。

本県の被害は負傷者 3 人、家屋全壊 2 戸、浸水家屋 17 戸、学校全壊 1 校、橋梁破損 48、道路破損 160ヶ所、堤防決潰 15ヶ所、耕地の被害 13629 町歩に上る。(気象要覧)

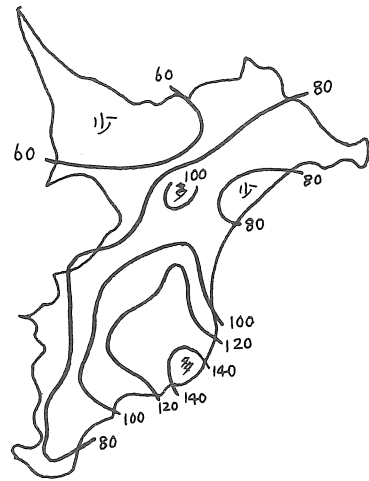
全国被害総計死者 2702 人、傷者 14994 人、行方不明 334 人、家屋全壊 38771 戸、半壊 49275 戸、流失 4277 戸、学校全壊 293、半壊 124、船舶沈没流失 14412 隻、その他、道路、橋梁の破損、堤防決潰等頗る多し。

気象要素 \ 地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	994.1	995.2	994.3	991.7
最大風速 m/s	SSW 27.5	SSW 11.7	SW 22.8	SSW 23.8
8 時間降水量の最大 mm	44.8	41.2	55.8	26.2

1934年9月
室戸台風経路図



1934年9月17～21日
降水量分布図



昭和 9年 (1934年) 12月19日 火 事

銚子市仲町の火災に全半焼約60戸を出す。(銚子市史)

昭和10年 (1935年) 5月21日～22日 降 電

21日午後、東京湾北部より侵入した雷雨と熊谷方面より侵入した雷雨が県北部に電を降らせたが、短時間であつたので被害は軽微であつた。

22日午後、三浦半島より本県南部に侵入した雷雨、東京湾北部より侵入した雷雨及び埼玉県より侵入した雷雨が相次ぎ、県内各地に大豆大から小豆大の電を降らせ農作物に大きな被害を生じた。

(銚子測候所降電調査報告)

5月21日～22日の電害郡別統計

県統計課調

被害 種別 郡名	収 穫 皆 無		5 割以上減収		3 割以上減収		3 割以下減収		被害見積 合 計 千円
	被害面積 反	被害見積 千円	被害面積 反	被害見積 千円	被害面積 反	被害見積 千円	被害面積 反	被害見積 千円	
市 原 郡	440	467.6	340	80.2	303	18.9	754	19.1	585.8
夷 隅 郡	901	158.2	597	71.7	292	20.7	489	9.3	259.9
東葛飾郡	1	0.4	4	1.1	23	1.9	106	6.8	10.2
長 生 郡	58	9.8	28	3.6	14	1.4	20	0.8	15.6
君 津 郡	-	-	7	0.6	3	0.1	11	0.2	0.9
千 葉 郡	-	-	-	-	15	1.6	66	2.1	3.7
印 旛 郡	-	-	-	-	-	-	590	8.4	8.4
香 取 郡	-	-	-	-	-	-	5	0.1	0.1
合 計	1400	636.0	976	157.2	650	44.6	2041	46.8	884.6

昭和10年（1935年） 9月20日～26日 大雨（台風）

24日夜、四国西部から岡山県に進み、

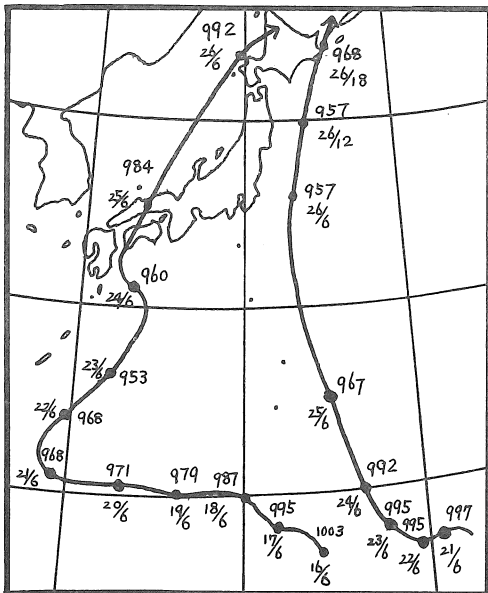
25日朝、米子附近から日本海に抜け、衰弱しながら、北海道西岸に達した台風がある。一方、20日頃より本州南岸に停滞していた前線は台風の接近に伴って活発となり、太平洋岸各地に大雨をもたらした。この為本県は20日より雨が続き24日の雨量が殊に多い。前記台風による風は比較的弱かったが、26日朝、房総沖を北上した別の台風の為、朝より夕刻に至る間暴風が断続した。

利根川の水位、栗橋7.99m、関宿8.27m、佐原5.09m、堤防決潰して小見川全町浸水、江戸川の氾濫により行徳今井附近の被害甚大。（千葉県史 大正昭和編）

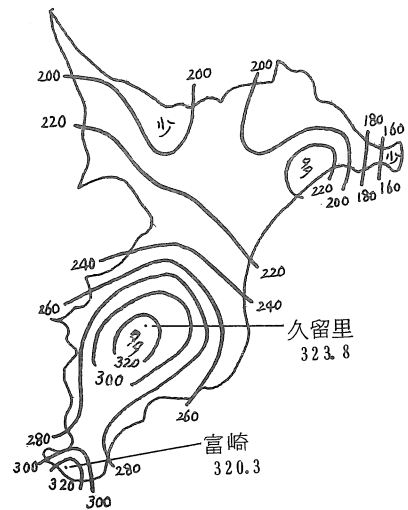
利根川の水位は明治43年の洪水より約1.5m高く、至る所で堤防より溢水する程の危機に陥る。（中利根川の治水史）

千葉県被害、死者1名、負傷者1名、家屋全壊12戸、半壊25戸、流失41戸、床上浸水679戸、床下浸水4019戸、田畑埋没流失1374町歩、橋梁破損流失87、堤防決潰9ヶ所、道路破損466ヶ所、船舶流失沈没32隻。（気象要覧）

1935年9月台風経路図



1935年9月20～25日
降水量分布図



昭和11年（1936年） 2月4日～5日 暴風雪（低気圧）

4日午前、山陰沖より熊野灘に抜けた低気圧は、夕刻房総半島をかすめて東方洋上に去った。

この為、4日夕刻より暴風とな

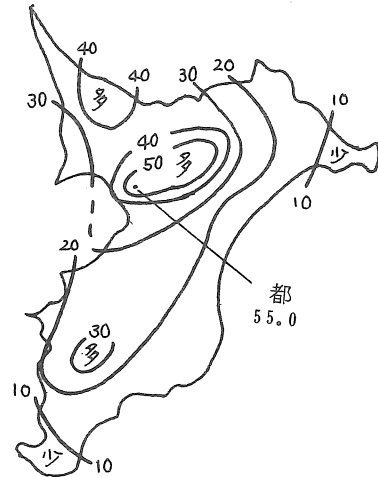
気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		991.7	991.6	990.2	979.6
最大風速 m/s		N 20.7	NW 24.6	NW 9.7	NNW 34.8
8時間降水量の最大mm		19.0	22.0	23.5	22.9

り、4日午後より降り出した雨は夜に入って雪となり、5日早朝まで続いた。

県内各所に家屋の被害、交通杜絶、通信障害、停電あり、銚子地方では船舶の被害が多かった。

(銚子測候所 暴風雪概報)

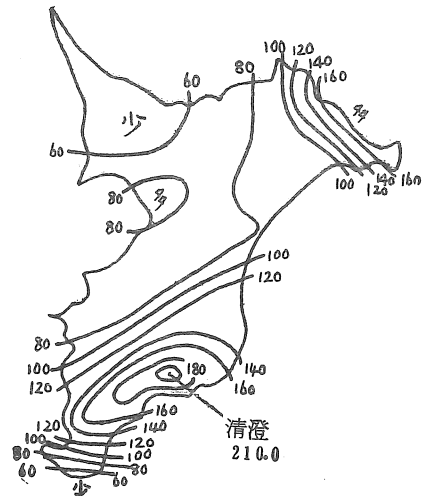
1936年2月4～5日
最深積雪分布図 (Cm)



昭和11年 (1936年) 7月9日～10日 大雨(前線) 1936年7月9日
降水分布図

本州南岸の前線の為、9日夜より10日朝まで大雨降る。

勝浦方面の被害 家屋破損4戸、床下浸水27戸、道路崩壊27間、橋梁破損1。(気象要覧)



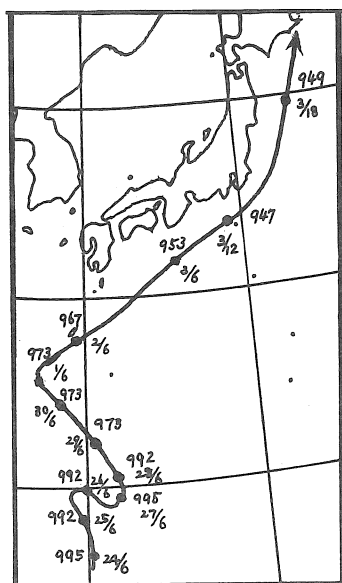
昭和11年 (1936年) 10月3日 暴風(台風)

九州南海上から北東に進んだ台風は、3日正午すぎ房総沖を通過してオホーツク海に去った。これを、3日午前より夜まで暴風断続す。雨量は一般に10～30mm、多い所で50mm。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb	964.3	965.3	963.6	965.3
最大風速 m/s	N 18.5	NW20.1	NNW12.0	NNW23.3
8時間降水量の最大mm	12.6	12.8	24.2	21.4

千葉県被害 負傷者1人 家屋全壊16戸、半壊3戸 (気象要覧)

1936年9～10月
台風経路図



〔参考〕 東京湾にいわしの回遊

昭和11年10月、東京湾の大森沖には時ならぬまい
わしの大群が押し寄せ、地元の漁師はもとより房総方面
からも漁師が集まり、連日漁船で賑つた。

これと同じことが昭和43年にも起つた。43年の場
合は、8月下旬から11月中旬まで可成り長い期間にわ
たつて好漁が続いた。漁場は、最初の頃は羽田沖であつ
たが、次第に富津の沖合に移動した。この年は九十九里
浜のいわしが不漁であつたので、この方面の漁船も東京
湾に出漁した。

昭和13年（1938年） 6月27日～7月3日 大雨（前線・台風）

6月27日 本州南岸の梅雨前線
によつて雨が降り始めた。この頃、
本州遙か南方海上をゆっくり西進し
ていた台風は28日北東に向きを変
え、30日正午前後房総沖を通過し
て北海道東方海上に去つた。この為、

前線は活発となり、28日～29日の雨殊に強く、30日は小降りとなつたが、台風の通過後も前線が
停滞し、7月3日まで大雨が続いた。6月27日より7月3日までの総雨量は県下一般に300～500mm
県南部及び北西部においては600mmに達し、稀有の大雨となつた。

気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子
最低気圧 mb		989.1	989.3	985.1	985.5
最大風速 m/s		N 17.3	WNW14.2	SW 12.8	NNW23.5
最大瞬間風速 m/s		N 24.3	-	-	NNW27.8
1時間降水量の最大mm		38.2	-	-	29.4

警察管内別被害表

7月7日現在

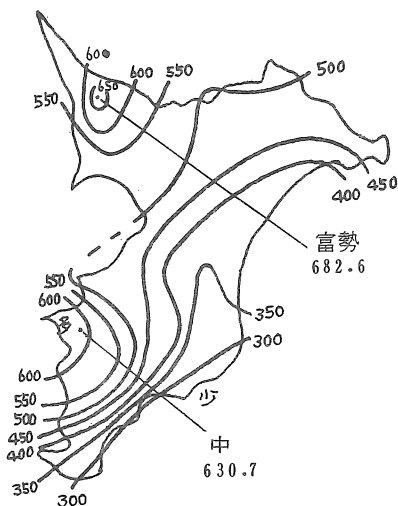
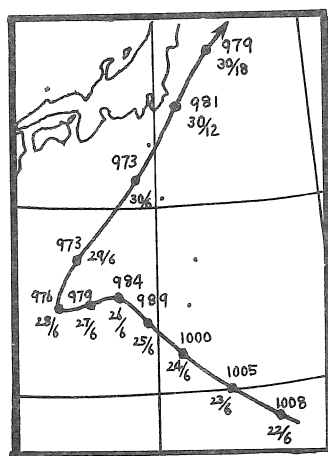
保安課調

種 別	死 者	負 傷 者	家屋全壊	家屋半壊	家屋流失	床上浸水	床下浸水	田 冠 水	畑 冠 水	道路損壊	橋梁流失	堤防決壊	崖崩れ
署 名	人	人	戸	戸	戸	戸	戸	町歩	町歩	ヶ所		ヶ所	ヶ所
千 葉	-	-	-	-	-	-	216	62	16	3	1	1	4
船 橋	-	-	-	-	-	62	254	448	550	-	10	-	7
市 川	-	-	-	-	-	550	930	773	139	1	1	-	1
松 戸	2	-	7	5	-	69	627	2730	222	6	-	-	29
野 田	-	-	-	3	-	60	288	1735	775	8	-	2	3
佐 倉	-	-	3	2	-	20	71	1025	15	1	-	1	19

種別 署名	死者 人	負傷者 人	家屋全壊 戸	家屋半壊 戸	家屋流失 戸	床上浸水 戸	床下浸水 戸	田冠水町歩	畑冠水町歩	道路損壊 ヶ所	橋梁流失	堤防決壊 ヶ所	崖崩れ ヶ所
成田	-	-	8	2	-	192	221	1572	2251	-	-	2	23
木下	1	2	6	19	3	697	676	2739	570	13	-	8	41
佐原	-	-	6	13	4	750	3113	2723	633	70	-	2	51
多古	-	4	16	19	-	24	117	1030	30	29	3	-	29
小見川	2	2	17	33	-	19	468	2600	70	71	-	19	186
銚子	-	-	-	-	-	3	263	50	10	3	1	1	4
旭	-	-	-	1	-	-	470	2000	15	2	-	-	3
八日市場	2	-	8	7	-	39	101	3025	-	11	-	-	8
東金	-	-	2	2	-	-	530	620	40	3	-	-	2
成東	-	1	-	4	-	100	407	800	80	1	-	1	7
茂原	-	-	-	-	-	28	202	2500	150	3	-	-	-
一宮	-	-	-	-	-	3	32	2000	1	10	-	-	-
大多喜	-	-	-	-	-	-	1	193	20	1	-	-	1
大原	-	-	-	-	-	-	10	187	-	2	-	-	-
勝浦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
八幡	-	-	-	-	-	38	146	447	20	20	3	1	1
鶴舞	-	1	1	3	-	1	42	405	50	42	3	-	23
木更津	-	1	5	15	4	900	1196	2494	940	7	3	1	24
湊	-	-	-	-	1	-	200	100	6	22	3	-	10
久留里	-	-	3	4	-	4	52	250	23	61	1	4	137
北条	1	-	4	12	1	110	350	375	1	4	3	-	4
千倉	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
鴨川	-	-	-	-	-	-	7	3	-	3	1	-	3
合計	8	11	86	144	13	3669	10990	32889	6627	397	33	43	625

被害は東海より関東に及び死者708人、行方不明217人、負傷者3393人に上り、その他の水害多し。

1938年6月台風経路図



一九三八年六月二七日七月三日
降水量分布図

昭和13年（1938年） 8月31日～9月1日 暴風雨（台風）

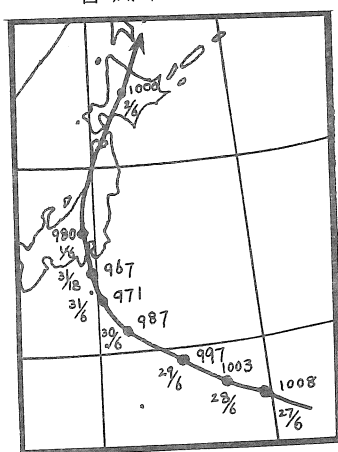
八丈島附近より北上し、31日
夜半房総南部をかすめて三浦半島
に上陸、関東から奥羽西部を経て
北海道に再上陸した台風がある。
この為、31日午後より1日正午
前まで暴風雨となり、京浜沿岸に

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb	966.7	968.8	991.5	998.8	992.7
最大風速 m/s	S 43.5	S 22.4	S 20.9	SE 22.6	SSE 19.4
最大瞬間風速 m/s	S 48.3	-	-	SE 27.9	-
1時間降水量の最大mm	76.6	-	19.8	41.4	38.2

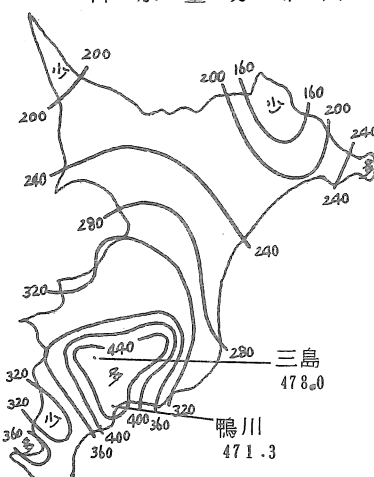
高潮を起す。この台風接近前の25日頃より可成り強い雨が続いており、31日の雨量殊に多し。

千葉県の被害 死者11人、行方不明4人、負傷者25人、家屋全壊1060戸、半壊1594戸、
流失2戸、床上浸水213戸、床下浸水2112戸、橋梁流失38、堤防決潰14ヶ所、道路破損
173ヶ所、田畑冠水6263町歩、船舶流失、沈没14隻。（気象要覧）

1938年8～9月
台風経路図



1938年8月25～9月3日
降水量分布図



昭和13年（1938年） 10月20日～23日 暴風雨（台風）

本州の遙か南海上より北々東に
進み、21日正午頃 房総半島を
かすめて三陸沖に去った台風があ
る。この為、20日夜半より23
日夜半まで暴風となる。雨は20
日より降り始めて22日まで続き、

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb	976.4	978.1	974.1	976.0	988.4
最大風速 m/s	N 34.4	NNW 29.6	NNW 13.3	N 43.3	NNE 15.6
最大瞬間風速 m/s	N 41.6	-	-	N 47.4	-
1時間降水量の最大mm	52.0	-	-	24.8	17.0

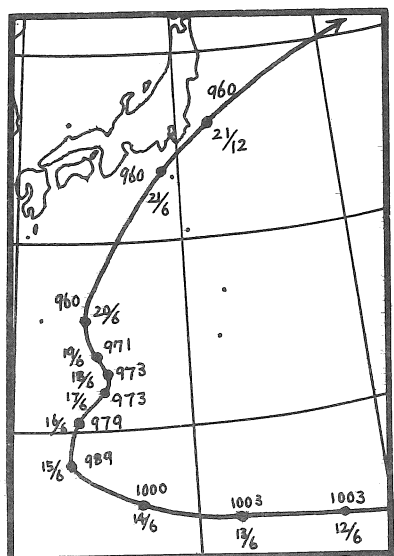
20日の雨量殊に多し。富崎における20日の日雨量は222mmに達し、測候所創立以来の最高記録となる。

安房郡における家屋全壊15戸、半壊45戸。館山湾において漁船福徳丸（59トン 25人乗組）が
遭難し6人死亡する。（気象要覧）

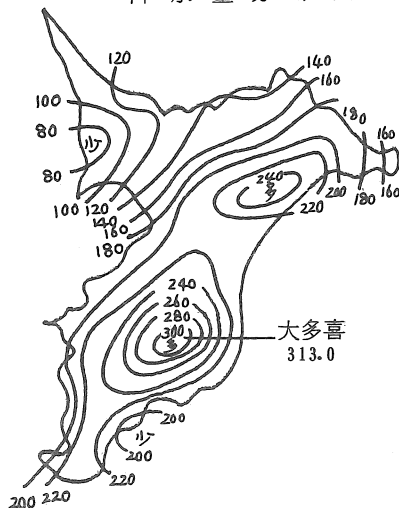
県下全半壊家屋2000余棟に及ぶ。（千葉県史 大正昭和編）

21日、未曾有の大水害で川瀬、北川の2大橋は跡形もなく流失し、南川と富貴楽橋は橋脚だけを残して上部は流失、風呂屋橋は大破通行不能となり、その他、数ヶ所も大破した。(長生郡 土蔵村史)

1938年10月台風経路図



1938年10月20～22日
降水量分布図



昭和15年 (1940年) 5月～6月上旬 旱魃

昨年12月より3月まで降水少く旱魃気味であったところ、5月始めより6月上旬まで再び旱魃となり、雨量は平年の半ばにしか達せず田植の遅れた所、植付の出来なかつた所が多かつた。然し6月中旬からの降雨により被害は著しく軽減された。(富崎・銚子測候所旱魃報告)

昭和15年 (1940年) 6月20日 雷雨

20日正午すぎ関東各地に雷雨が発生した。中でも17時半頃、群馬県南西部に発生した雷雨は21時すぎ東京に達して猛烈を極め、更に千葉県に侵入して22時すぎ太平洋に抜けた。この為、東京市内の落雷は百数十ヶ所に及び大手町の官庁街を焼き、電気工作物に多大の被害を生じた。

本県の被害は京葉間に限られたが、京成電鉄23件、鉄道省電気局関係8件の落雷事故と東京電力、日本発送電に停電があつた。(中央气象台 雷雨報告)

昭和16年 (1941年) 3月22日 火事

22日午前3時20分頃、旭町ロの区より出火し、塚前仲町、田町に延焼して午前7時45分頃鎮火す。68戸、75世帯、200余棟焼失、開闢以来の大火なり。(旭 消防白書)

昭和16年 (1941年) 4月30日 竜巻・降雹

30日午後の雷雨に伴い、山武郡豊海村栗生附近に竜巻が発生し、物置、納屋数棟を破壊した。この他、九十九里浜の数ヶ所で降雹があつた。(気象要覧)

昭和16年（1941年） 7月10日～22日 大雨（前線・台風）

10日から15日まで本州南岸に停滞する梅雨前線によって可成強い雨が断続した。この前線は小笠原東方より接近した台風によって再び強化し、19日から22日まで大雨となった。この為10日から22日までの県下の総雨量は400～690mmに達し、手賀沼、印旛沼附近及び佐原、小見川一帯は大洪水となった。この洪水は昭和13年6月末のよりも甚だしく、布佐附近では地上の洪水が利根川の水位よりも高くなったという。台風は22日夜半房総西岸を北上して青森県に至り、八戸附近より北海道東方海上に去った。台風による暴風は22日夕刻より23日午後まで続いた。

22日、利根運河の堰が破壊した。23日、利根川の最高水位 栗橋8.26m、三堀7.82m、船戸8.06m。 (中利根川の治水史) 23日江戸川の最高水位西関宿8.08m、野田5.64m、流山5.94m、松戸6.41m。 (利根川の洪水 資料編)

警察管内別被害表

保安課調

種別 署名	死者 人	負傷者 人	家屋全壊 戸	家屋半壊 戸	床上浸水 戸	床下浸水 戸	道路損壊 ヶ所	橋梁破損
千葉	-	-	1	4	62	464	2	-
船橋	-	-	1	-	3	86	3	2
市川	-	-	-	-	18	250	-	-
松戸	-	-	1	-	53	535	-	-
野田	-	-	1	-	139	98	-	-
佐倉	1	-	21	11	50	251	3	-
成田	-	-	10	14	139	393	-	-
木下	-	-	9	-	88	398	-	-
佐原	-	-	13	-	419	1249	1	-
小見川	-	-	1	1	928	785	2	-
銚子	-	-	3	2	13	74	-	-
旭	-	-	-	-	-	52	-	-
八日市場	1	-	10	8	43	85	1	3
東金	-	-	10	-	1	51	2	-
成東	-	-	6	-	20	330	2	-
茂原	-	1	4	3	34	211	10	6
一宮	-	-	-	-	7	94	2	1
大原	-	-	4	-	-	50	-	-
八幡	-	-	5	-	6	133	-	-
鶴舞	-	-	-	-	30	37	5	-
木更津	-	-	5	3	-	277	10	-
館山	-	-	2	1	-	45	1	1
その他	-	-	4	3	12	59	1	1
合計	2	1	111	50	2065	6007	45	14

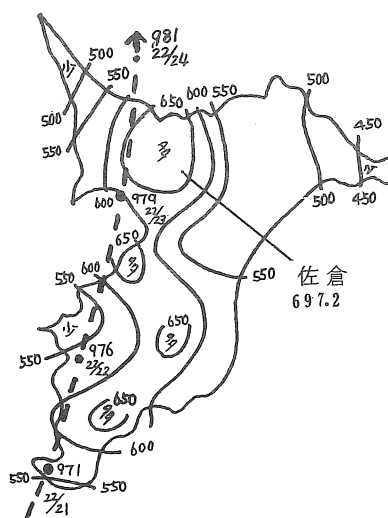
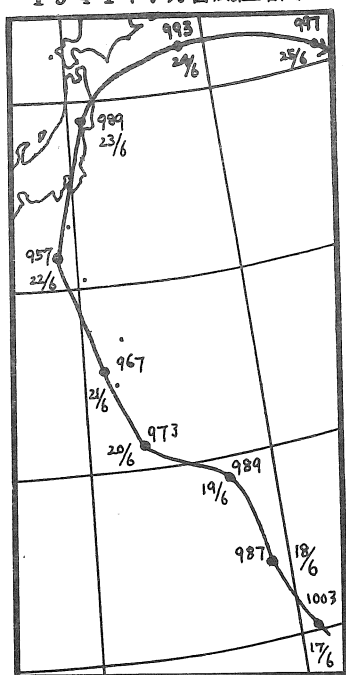
上表の外、堤防決潰1ヶ所、崖崩れ25ヶ所あり。収穫皆無面積は水稻10097町歩、畑作物2012町歩に及ぶ。

農産物検査所調

郡名 月日	安房	夷隅	君津	長生	山武	市原	千葉	東葛	印旛	香取	海上	匝瑳	計
7月15日	-	-	-	80	1000	3	79	800	635	2053	100	335	5085
20日	-	-	-	331	130	-	42	427	971	1635	201	120	3857
23日	477	38	977	2614	4470	1069	679	4215	4742	7520	995	2070	29866
25日	-	-	20	515	495	-	215	3850	4636	5622	645	757	16755
30日	-	-	-	-	-	-	185	2595	4212	4388	80	-	11460

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb	977.1	977.3	982.6	989.7	980.3
最大風速 m/s	SW 23.0	E 14.1	S 21.5	S 24.8	SSW14.0
最大瞬間風速 m/s	SW 27.2	-	-	S 36.6	SSW21.0
1時間降水量の最大mm	39.5	-	28.4	32.6	38.0

1941年7月10~22日
降水量分布図



この年の夏は7月の大雨に加えて7月～8月の気温は1℃内外低く、県下の水稻は8月15日現在13%の減収となる。この冷害は全国に及び、特に東北、北海道は大凶作となった。(気象要覧)

7月及び8月の平均気温と平年偏差(℃)

地名 要素 月	富 崎		勝 浦		銚 子	
	平均気温	平年差	平均気温	平年差	平均気温	平年差
7 月	23.6	-0.8	22.2	-1.3	21.1	-1.6
8 月	25.2	-0.6	24.2	-1.1	23.9	-0.8

昭和18年 (1943年) 4月～5月 旱 害

4月下旬より5月半ばまで雨少く、九十九里方面は水稻植付に影響を及ぼす。(銚子測候所)

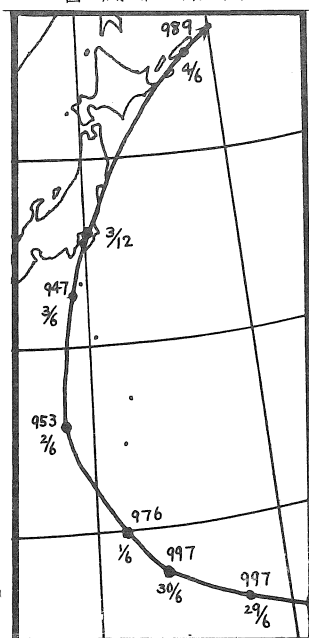
昭和18年 (1943年) 10月2日～3日 暴風雨(台風)

鳥島南方より北上した台風は、3日 10時頃、館山附近に上陸して房総半島を縦断、常磐及び三陸沿岸を通過して千島北部に去った。この為、3日朝より夕刻まで暴風となる。台風北上中の2日の雨強し。館山及び布佐で台風眼を観測した。

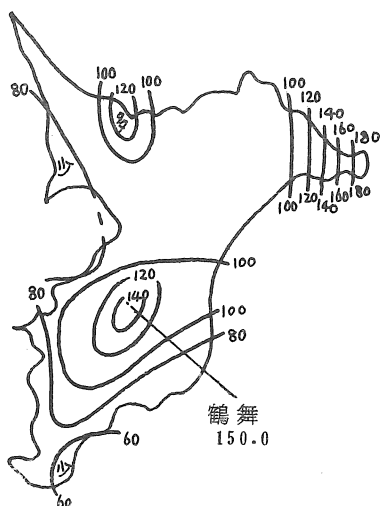
千葉県被害 家屋全壊41戸、半壊23戸、流失3戸、床下浸水91戸、船舶の流失又は沈没13隻。(気象要覧) 全県にわたり奥稲殆ど倒伏、被害程度大なり。(銚子測候所)

気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		965.0	965.5	965.3	971.0	968.3
最大風速 m/s		SW 25.8	SW 13.7	S 31.3	SSE 30.2	SSW 13.7
最大瞬間風速 m/s		SW 34.2	SW 23.4	S 35.0	SSE 42.3	SSW 24.1
1時間降水量の最大mm		15.0	13.0	12.8	37.4	39.3

1943年9～10月
台風経路図



1943年10月1～3日
降水量分布図



昭和18年（1943年） 10月10日 暴風雨（台風）

9日朝、九州南方海上において北東に転向した台風28号は、10日夕刻より夜半にかけて房総沿岸をかすめ三陸沖に去った。この為、9日夜半より10日夜半まで暴風となり、雨は9日朝より10日夜まで続く。

全県にわたり、奥稲の残りしものすべて倒伏し、平坦地の甘藷畑は冠水したが、被害は何れも中程度に止る。（銚子測候所）

昭和19年（1944年） 4月23日 降 雹

23日、11時半ころより約20分銚子附近に発生した雷雨に伴い、小豆大より大豆大の雹が降って農作物に被害を出した。

被害区域は銚子市の北西方、余山町、四日市場町、赤塚町、柴崎町、垣根町、三宅町の一部より船木村 岡野台、三門に及ぶ。各種作物の被害率（作付総面積に対する収穫皆無面積の百分比）は上表の如し。

		被 害 率				銚子測候所調	
区域	種別	大麦	裸麦	小麦	菜種		
	船木村	17.9%	4.7%	6.9%	48.7%		
銚子市		3.6	5.7	0.6	16.5		

昭和20年（1945年） 5月10日 火 事

10日 成田町3500坪を焼く。（気象要覧）

昭和20年（1945年） 3月～8月 戦 災

3月 9日 銚子市1070戸焼失。矢指村役場及び矢指小学校焼失。

4月13～14日 白子町 仏閣1宇 農家9戸、附属建物36棟焼失。

6月10日 千葉市 415戸焼失、死傷391人。

7月6～7日 千葉市 8389戸焼失、死傷1204人

7月10日 白子町 爆弾投下により家屋全壊1戸、半壊2戸、死者10人、負傷者3人。

7月19～20日 銚子市 3766戸焼失。

8月 3日 銚子市 306戸焼失。

3回に互る銚子の戦災では死者332人、負傷者849人を出す。

以上の外、松戸、市川、船橋に軽微な被害あり。

（銚子市史、旭消防白書、千葉県史大正昭和編、白子町史）

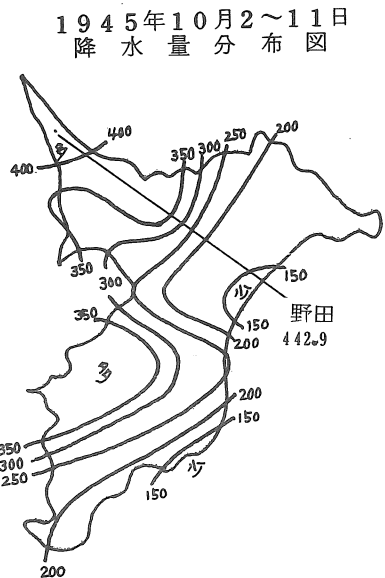
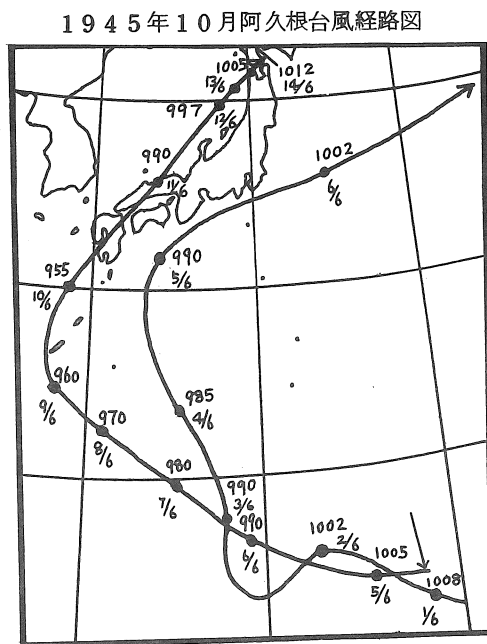
昭和20年（1945年） 10月2日～11日 大 雨（台風・前線）

本州南方海上より北上し、東海道沖を東に進んで5日午後房総沖を通り東方海上に去った台風と、10日九州南西部に上陸し、九州及び中国を横断して11日朝、日本海に入り北海道南部に至って消滅した台風（阿久根台風）がある。

これらの台風による暴風は強いものではなかったが、台風の通過前より本州附近に前線が停滞し、雨

が降り易くなっていたところに台風が接近した為2～5日、7～11日の9日間雨が降り続き水害を起した。

千葉県被害 床上浸水1300戸、床下浸水1300戸、田畑浸水17162町歩。(気象要覧)
被害は北海道を除く各府県に及び和歌山、兵庫、鹿児島が特に多い。



昭和22年 (1947年) 4月22日～23日 晩霜

22、23日の両日、北海道附近に停滞した優勢な低気圧に伴い、大陸方面の寒気が流入して関東以西の各地に降霜があった。

千葉県では桑50%、馬鈴薯30～50%が被害を受けた。(気象要覧)

昭和22年 (1947年) 7月～8月 旱魃

7月は雨少く、県下の雨量は多い所で40mm、少ない所は2mmという稀にみる旱魃となり、8月も雨量の少い所が多かった。この為、農作物の成育は次第に悪化し旱害を受けた。

千葉県の被害 7月31日における水稻の収穫皆無に換算せる総面積3213町歩。8月の水稻成育状況は銚子、笹川、佐原は少々不良、小御門、佐倉、成東は少々不良ないし不良、湊は不良。

(気象要覧)

昭和22年 (1947年) 9月11日～16日 大雨(カスリン台風)

本州南方海上より北上した台風は東海道沖より北東に進み、15日18時頃房総南端を通過して三陸沖に去った。台風による暴風は15日午前から16日朝にかけて断続したが、本州附近に停滞する前線によって11日から15日まで雨が続いた。この台風は群馬、栃木、埼玉、東京等に大水害を

起したカスリン台風として名高い。

16日の最高水位、利根川三堀7.51m、船戸6.85m、布佐9.48m。

江戸川 西関閘8.85m、野田6.24m、流山6.40m、松戸6.60m。

16日午前1時頃栗橋の水位は9.17mに達して、堤防が決潰し、氾濫は埼玉県に拡がり東京にも及んだ。この決潰なかりせば利根川下流の被害は更に大なるものがあつたと推定される。

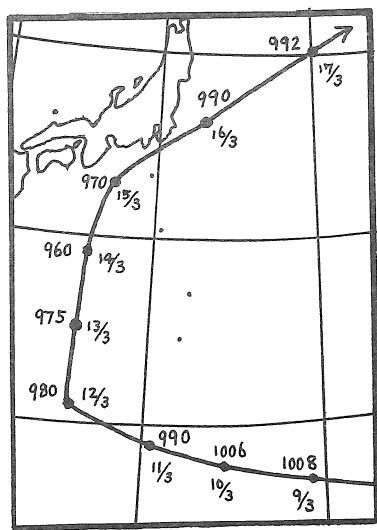
(利根川の洪水 資料編)

千葉県の被害 死者1人、行方不明3人、家屋浸水917戸、水田冠水1500町歩、畑800町歩、堤防決潰2、道路破損276ヶ所、橋梁破損52。(利根川の洪水 資料編)

被害は関東から北海道に及び明治43年以来の大水害となった。総被害は死者1057人、行方不明853人、家屋倒壊5301戸、流失3997戸、堤防決潰4222ヶ所、橋梁流失2280 その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		988.7	989.8	990.6	990.4	990.2
最大風速 m/s		NNE13.7	SE 9.7	S 11.8	NNW19.7	NW 11.7
最大瞬間風速 m/s		SSE18.6	SE13.9	S 15.3	-	NNE14.2
1時間降水量の最大mm		15.1	12.6	12.4	38.6	14.0

1947年9月
カスリン台風経路図



昭和23年（1948年） 8月12日～14日 大雨（ユニス台風）

小笠原南東洋上から北西に進み、14日朝、八丈島附近を通過して四国沖に至り、消滅した台風ユニスがある。

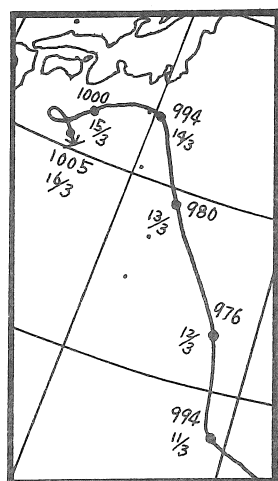
台風の中心が遠いので風は弱かったが、前線が停滞して

た為12日から14日まで雨が続いた。

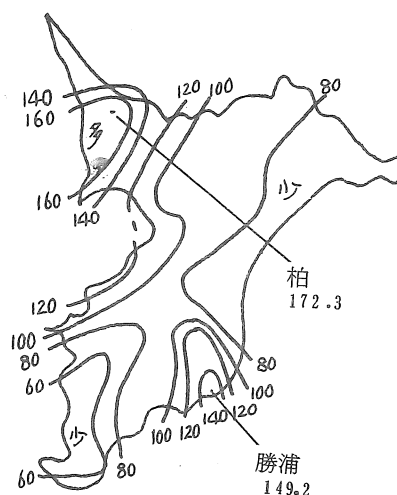
千葉県の被害 勝浦市内において浸水家屋約30戸を出す。（気象要覧）

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		999.0	1000.0	999.2	1000.7	1000.8
最大風速 m/s		NNE 8.7	NNE 5.8	NE 6.5	NNE 17.5	ENE 10.2
最大瞬間風速 m/s		NNE 12.0	NNE 8.7	-	-	NE 11.1
1時間降水量の最大mm		14.4	12.2	80.0	20.7	31.8

1948年8月
ユニス台風経路図



1948年8月12～14日
降水量分布図



昭和23年（1948年） 9月16日 暴風雨（アイオン台風）

硫黄島南東海上から紀州沖に至り、ここより向きを変えて北東に進み、16日19時頃、君津郡湊附近に上陸、房総半島を縦断して鹿島灘に抜け、三陸沖を通して千島方面

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		959.5	957.9	967.7	963.2	968.5
最大風速 m/s		SSW 46.7	S 22.3	SSW 42.5	SSE 48.0	NNE 21.3
最大瞬間風速 m/s		S 60.1	S 34.0	-	-	NNE 23.4
1時間降水量の最大mm		30.4	26.6	24.4	18.0	33.7

（註） 銚子の風速は風速計破損の為推定値である

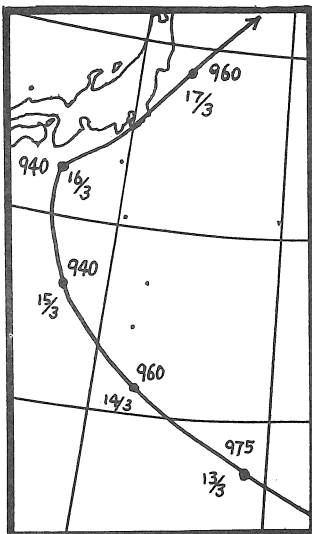
に去った有名なアイオン台風がある。この為16日、朝より夜半まで暴風雨となる。雨量は比較的小なかつたが、風は頗る強く、太平洋沿岸では40 m/sを越し、県内各測候所開設以来の最大記録となる。千葉県の被害 死者22人、行方不明1人、負傷者441人、住家全壊1521戸、半壊4771戸、非住家全壊1669戸、半壊4853戸、床上浸水402戸、床下浸水343戸、道路破損48ヶ所、堤防決潰15ヶ所、橋梁流失29、船舶流失28隻、海水浸入田6町歩、水田冠水2373町歩、稻流失6750町歩、稻倒伏7162町歩、畑作被害2900町歩。（銚子測候所、アイオン台風報告）

電気関係の被害 電柱倒壊 1 4 6 5 本、折損 1 5 6 2 本、傾斜 2 6 3 9 本。(関東配電調)
 通信関係の被害 電柱倒壊 8 8 1 本、折損 5 6 1 本、傾斜 1 2 1 5 8 本。(千葉電気通信工
 事局調) その他、送電、電信線の障害多し。

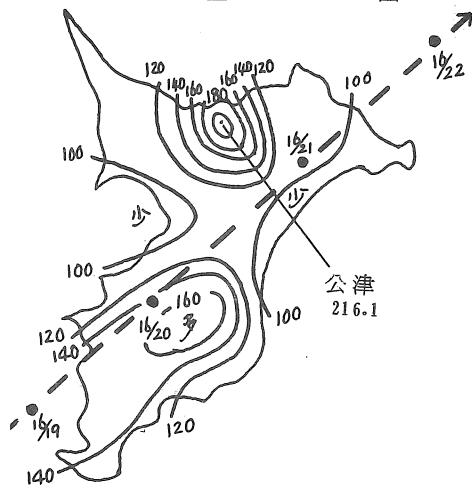
鉄道関係の被害 線路浸水 1 ヶ所、土砂崩壊 6 ヶ所、橋脚洗掘 1、跨線橋破損 4、建物倒壊破損
 2 5 2 棟。(国鉄千葉管理部調)

この台風による風水害は東海道から関東、奥羽に及び総被害は死者 5 1 2 人、行方不明 ~~1 9 5 6~~ ^{3 2 6} 人
 負傷者 ~~3 2 6~~ ^{1 9 5 6} 人、家屋全壊 4 5 7 7 戸、半壊 1 2 1 2 7 戸、流失 1 3 1 3 戸、その他多数に上る。

1948年9月
アイオン台風経路図



1948年9月15~16日
降水量分布図



昭和24年 (1949年) 1月3日 竜巻

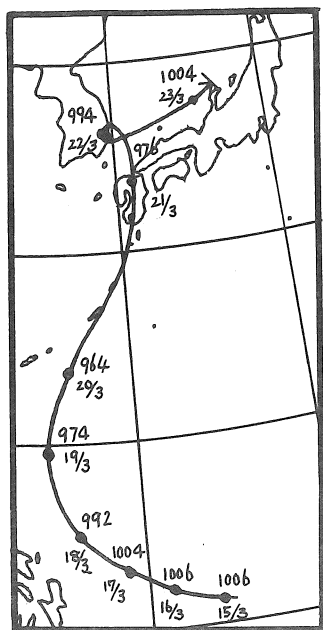
3日17時頃、海上郡鶴巻村倉橋に竜巻が起り、住家全壊5戸、半壊6戸を出し、20分後には約
 4軒離れた飯岡町横根において住家8戸の屋根を巻き上げた。幸い死傷者はなかった。(気象要覧)

昭和24年 (1949年) 6月18日~21日 大雨(デラ台風)

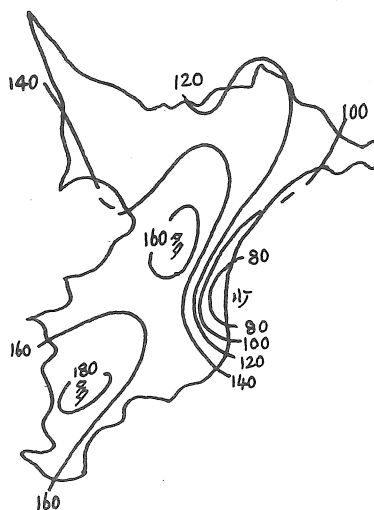
20日夜から21日朝にかけて九州を縦断して日本海に入り、朝鮮東部を低回して能登半島沖に至
 り消滅した台風デラがある。台風が中心が遠かったため風は弱かったが、本州附近に前線が停滞して
 いたため18日から21日まで雨となった。

千葉県被害 死者1人、家屋半壊1戸、水田流失埋没276町歩、同冠水153町歩。(気象要覧)
 九州及び関西では風水害が多かったが、水害は東北地方にも及んだ。総被害は 死者252人。行
 方不明216人、負傷者367人、家屋全壊1293戸、半壊4005戸、流失103戸、船舶沈没
 497隻、流失599隻、その他多数に上る。

1949年6月
デラ台風経路図



1949年6月18～21日
降水量分布図



昭和24年（1949年） 8月30日～9月1日 暴風雨・高潮（キテイ台風）

小笠原東方海上より北西に進み、八丈島附近より北上して31日19時、神奈川県真鶴岬に上陸、夜半柏崎附近から日本海に抜け樺太方面に去った台風キテイがある。この

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		980.5	982.7	992.7	997.8	992.1
最大風速 m/s		S 36.3	S 21.1	S 20.0	ESE 23.6	SSE 20.5
最大瞬間風速 m/s		S 51.6	S 33.9	-	SE 32.8	SSE 29.7
1時間降水量の最大mm		13.0	14.0	5.8	11.0	10.2

為、31日朝より1日朝まで暴風となり、東京湾に高潮を起した。雨は関東平野周辺の山岳部に多かったが、県下の雨量は60～160mmに止る。

31日20時頃 浦安町に高潮襲う。潮位は平常の満潮時より1.5m高く、堀江部落400戸は軒下まで浸水した。大正6年以来の高潮であったが、朝より避難命令が出されていたので人命に別状はなかった。その他、船橋では1～0.5m、木更津では1mの高潮があった。

千 葉 県 被 害 表

9月5日現在 千葉県調

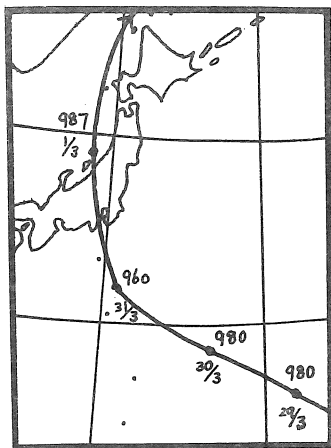
郡市別 区 分	千 葉 郡	市 原 郡	東 葛 飾 郡	印 旛 郡	長 生 郡	山 武 郡	香 取 郡	海 上 郡	君 津 郡	夷 隅 郡	安 房 郡	千 葉 市	船 橋 市	市 川 市	銚 子 市	館 山 市	木 更 津 市	松 戸 市	合 計
行 方 不 明	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-	-	8
負 傷 者	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	6
住 全 壊	4	6	-	5	-	4	-	-	5	-	8	-	1	1	-	-	2	1	37
半 壊	5	4	2	6	2	-	-	-	-	-	20	-	31	42	2	1	-	-	115
家 流 失	-	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50

郡市別		千葉郡	市原郡	東葛飾郡	印旛郡	長生郡	山武郡	香取郡	海上郡	君津郡	夷隅郡	安房郡	千葉市	船橋市	市川市	銚子市	館山市	木更津市	松戸市	合計
区分		-	-	2003	-	3	-	104	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	2116
床上浸水		-	-	361	-	2	-	424	-	-	-	3	1	60	-	-	-	-	-	851
非住家	全壊	9	3	482	45	5	1	-	-	20	2	27	8	5	10	-	2	5	4	628
	半壊	29	8	4	44	-	-	-	-	2	3	20	7	2	7	-	1	2	-	129
田畑の被害	倒伏町	44	600	407	133	71	405	250	-	786	45	-	-	-	-	-	-	-	-	2741
	冠水町	-	20	1	45	-	-	397	594	306	2	-	2	1	5	-	-	10	-	1383
	畑の被害町	30	298	71	53	47	22	15	7	20	2	58	-	-	-	-	-	70	-	693
道路決壊		-	-	2	-	1	-	-	-	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	8
橋破壊		-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	-	-	6
堤防決壊		-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	1	-	45	-	-	-	-	-	64
船舶	沈没	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	3
	坐礁	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	大破	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	-	-	-	-	-	45
	流失	-	-	2500	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2501

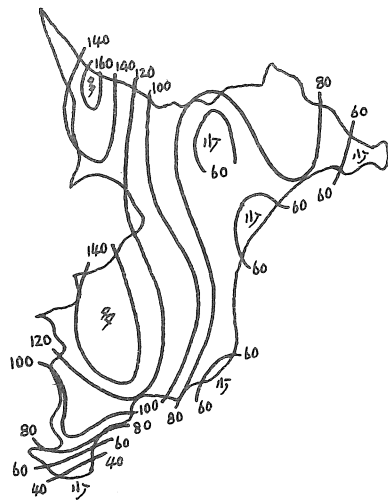
上表の被害の外 本県の水稲は200万石の予想収穫に対し15万石の減収が見込まれ、国鉄千葉管理部管内において210件の被害があった。

この台風による風水害は関東、甲信越より東北・北海道にも及び、死者127人、行方不明33人、負傷479人、家屋全壊3027戸、半壊13470戸、流失685戸、その他多数に上る。

1949年8～9月
キテ1台風経路図



1949年8月30～9月2日
降水量分布図



昭和24年 (1949年) 10月27日～28日 暴風雨 (パトリシア台風)

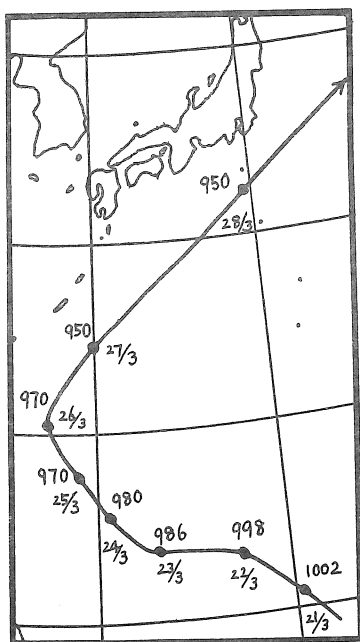
沖縄南方海上より北東に進み
28日朝、房総沖を通過して金
華山沖に去った台風パトリシア
がある。この為、27日夜より
28日正午すぎまで暴風雨とな
る。

気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐
最低気圧 mb		986.1	986.8	986.6	989.0	995.6
最大風速 m/s		N 28.4	NNW 18.0	N 19.1	NE 32.8	N 17.7
最大瞬間風速 m/s		N 36.0	NNW 30.4	-	NE 43.8	N 21.4
1時間降水量の最大mm		20.0	13.2	22.0	19.1	8.5

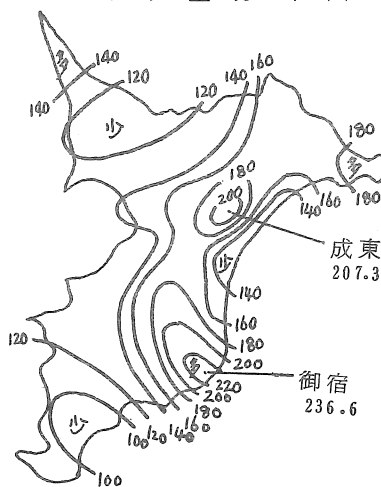
千葉県被害 行方不明2人、負傷1人、家屋全壊14戸、半壊36戸、床上浸水37戸、床下浸水459戸、非住家損害58棟、水田流失埋没60町歩、冠水931町歩、畑流失埋没531町歩、冠水448町歩、道路破損8ヶ所、通信施設被害9ヶ所、船舶沈没11隻、破損25隻、その他4隻。

(気象要覧)

1949年10月
パトリシア台風経路図



1949年10月26～27日
降水量分布図



〔参考〕 台風と気象観測船

台風パトリシアは上陸しなかったが、四国沖の南方定点観測船と金華山沖の北方定点観測船を直撃して、最大風速は南方定点41m/s、北方定点35m/s、最大波高は南方定点12m、北方定点8mという大時化を起し、気象観測船は九死に一生を得る思いをした。

現在では、金華山沖の北方定点は廃止され、四国沖の南方定点だけが、毎年5月下旬から10月末まで5ヶ月余の期間、梅雨前線や台風の前しよう観測に当たっている。

また、昭和40年11月、火山の爆発に脅やかされて休止した鳥島測候所に代り、観測船を鳥島の周辺に回遊うさせて、台風期の7月下旬から10月中旬まで凡そ3ヶ月間、気象観測が行われている。

昭和25年（1950年）1月10日 暴風（低気圧）

台湾附近に発生した低気圧が発達しながら本州南海上に北東に進み、10日正午頃房総沖を通過して北海道東方海上に去った。この為10日正午から夜半まで暴風となる。県下の雨量は10～30mmで少い。

千葉県被害 死者1人、行方不明5人、家屋全壊1戸、船舶沈没1隻、消息不明3隻(気象要覧)

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb	981.9	983.5	982.3	981.0	984.7	985.2
最大風速 m/s	N 19.6	NW 13.5	NW 14.4	N 18.0	WNW 19.1	NW 15.2
最大瞬間風速 m/s	N 24.1	NNW 21.7	—	N 27.6	WNW 21.3	—
1時間降水量の最大mm	13.0	11.0	10.3	7.5	4.7	—

昭和25年（1950年）6月9日～14日 大雨（前線）

9日より14日にかけて東海道から関東沖合に停滞した前線によって連日雨となった。特に13日には前線上に発生した小低気圧が東海道沖に停滞した為日雨量40～130mmに達した。

利根川の増水は警戒水位を突破すること取手において44cm、布佐（押付）において98cm、佐原（横利根）において26cmに及び、我孫子、布佐一帯の堤防は河水の浸透により一時決壊の危機に陥ったが、幸い漏水による冠水のみで決壊の難は免がれた。その他の県内各河川もまた可成増水し、各所に堤防決壊、橋梁流失、田畑冠水の大きな被害があった。（銚子測候所 大雨報告）

郡別被害表

14日11時現在 国警警備課調

種別 \ 郡名	東 葛 飾	印 旛	長 生	香 取	千 葉	合 計
田 冠 水 町	374	116	1443	2015	60	4008
畑 冠 水 町	—	—	7	5	—	12
床 下 浸 水 戸	—	—	6	—	4	10

土木関係の被害

15日正午現在 県土木課調

種 別	被害件数	復旧費(千円)	備 考
道 路	78	19,501	千葉一佐原線中郷村東山地先20m流失
橋 梁	10	2,255	君津郡菊水橋流失
河 川	24	45,170	小糸川、小櫃川、平群川、保田川、加茂川の堤防決壊
砂 防	2	1,860	丸山川堤防20m流失
合 計	114	68,786	

昭和25年（1950年）8月3日～4日 暴風雨（熱低）

鳥島南方より北上し、3日22時すぎ勝浦附近に上陸、4日0時30分ころ布佐附近を経て新潟に至り、酒田沖で消滅した熱低がある。この為3日夜より4日朝まで暴風雨となる。

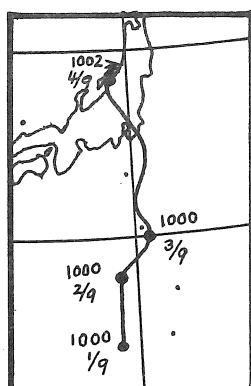
千葉県被害 非住家全壊1棟、同半壊2棟、床上浸水35戸、床下浸水340戸、田冠水2037町歩、畑冠水117町歩、稲倒伏53町歩、道路損壊3ヶ所、崖崩れ1ヶ所、船流失1隻。（7日9時現在 国警千葉調）

この外、国鉄総武線 八街―南酒々井間において土砂崩れあり。

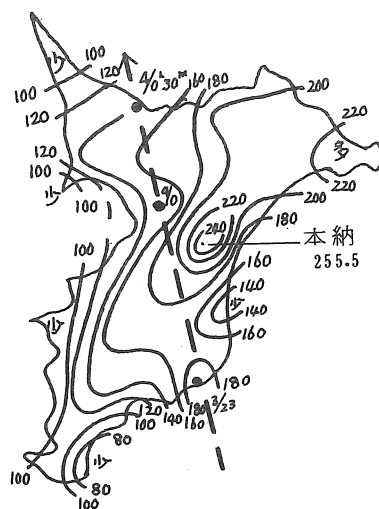
郡別農作物被害率			統計事務所調			
郡名	種別	水 稲	麦 類	菜 種	馬 鈴 薯	甘 藷
東	葛	8.0%	16.4%	9.6%	7.0%	—
香	取	8.9	3.4	—	—	1.7%
長	生	2.7	—	—	—	—

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		996.7	997.0	991.7	996.9	992.4	994.4
最大風速 m/s		N 16.9	NW 9.8	SSW 17.4	S 21.4	NNE 10.8	ENE 7.3
最大瞬間風速 m/s		N 22.5	NW 11.0	—	S 25.7	NNE 16.0	ENE 8.1
1時間降水量の最大mm		20.2	—	23.3	26.6	31.0	21.7

1950年8月
熱低経路図



1950年8月2～4日
降水量分布図



昭和25年（1950年）9月10日 地震

10日 12時21分ころ、九十九里浜南部沿岸を震源とする顕著な地震（ $M=6.5$ ）あり。千葉県
 県の大部分で震度Ⅳを観測した。

一宮においては堤防に地割れ、地沁りを生じ、関東配電銚子管内に電線の切断、トランスの焼失あり。（気象要覧）

昭和25年（1950年）10月31日 暴風雨・高潮（ルビー台風）

本州南海上より北東に進み、31日正午すぎ房総沖約200kmを通過して北海道東方海上に去った
 台風ルビーがある。この為本県では31日未明より夕刻まで暴風雨となり、台風通過後の18時から
 20時にかけて太平洋沿岸に潮位の異常を起し、銚子における潮位は推算値より約40cm高く、富崎で
 は周期約5分、最大振幅96cmに及ぶ異常振動があった。

銚子外川港では19時30分すぎ3回にわたって大波が押寄せ、高さ約2mの防波堤を越えて港内
 に侵入し築堤崩壊、小型漁船破損24隻、流失1隻、死者1人、負傷者3人を出す。九十九里浜及び
 外房沿岸においても2～3回大波が打寄せ、御宿町では平常の汀線より200mの陸地まで波が上り、
 勝浦では小型漁船が約50m陸上に押上げられた。この外夷隅川の氾濫による被害が大きい。（銚子
 測候所 台風概報）

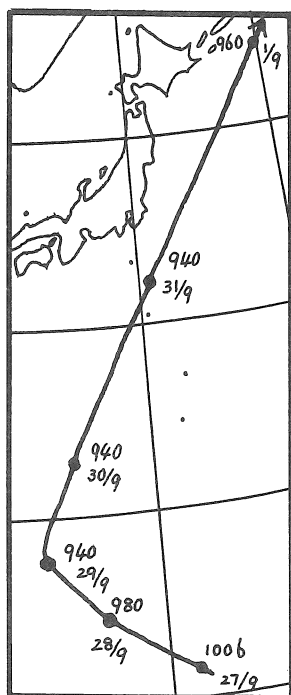
県内被害表

種別 地域	死 者 人	負 傷 者 人	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	稲 倒 伏 町	田 冠 水 町	道 路 決 壊 ヶ所	橋 梁 破 損	堤 防 決 壊 ヶ所	船 舶 破 損 隻	鉄 道 被 害 ヶ所
県南部	—	—	52	48	2.5	599	3	5	2	1	1
県北部	1	3	—	—	280	—	—	—	—	26	—

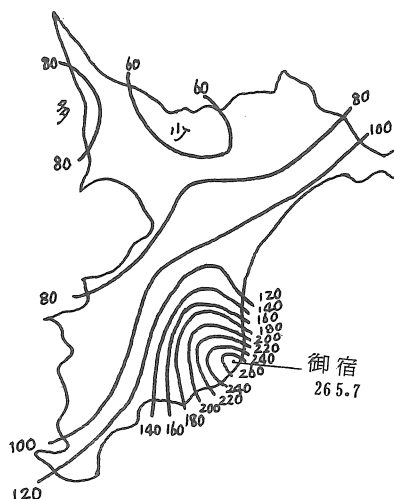
- 注 1. 県南部の被害は主として大多喜町猿稻地先の夷隅川堤防決壊によるものである。
 2. 鉄道被害は房総東線 勝浦—御宿間第2トンネル附近の土砂崩れである。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		988.3	988.7	985.2	984.3	989.2	989.8
最大風速 m/s		NNE17.3	NNW 9.8	NNW15.0	NE 19.1	NNE14.7	NE 6.1
最大瞬間風速 m/s		NNE22.3	NNW10.9	—	NE 23.9	N 19.8	NNE11.6
1時間降水量の最大mm		13.3	11.3	47.6	23.7	8.8	7.8

1950年10～11月
ルビー台風経路図



1950年10月29～31日
降水量分布図



昭和26年（1951年）1月9日 地震

3時32分養老川中流域を震源とする地震（ $M = 6.2$ ）が発生し、久留里町附近において家屋に小被害を生じた。（気象要覧）

昭和26年（1951年）2月14日～15日 暴風雪（低気圧）

台湾附近に発生した低気圧は発達しながら本州南海上を東進し、15日早朝房総沖を通過して北海道東方洋上へ行った。この為14日夜半より15日夕刻まで暴風となり、銚子附近を除く県下各地に未曾有の大雪を降らせ、千葉郡白井村では積雪133cmを観測した。

郡市別被害状況

（2月19日現在） 国警千葉本部警備課調

種別 郡市別	死 者人	行方 不明人	住 家		非 住 家		床下 浸水 戸	電柱 倒壊 本	電線 切断 所	船 舶		立木 倒壊 本
			全潰 戸	半潰 戸	全潰 戸	半潰 戸				流 失 隻	沈 没 隻	
千 葉 市	—	—	—	—	—	1	—	10	20	—	—	—

種別 郡市別	死 者	行方 不明	住 家		非 住 家		床 下 浸 水	電 柱 倒 壊	電 線 切 断	船 舶		立 木 倒 壊
			全 潰	半 潰	全 潰	半 潰				流 失	沈 没	
銚 子 市	—	—	8	28	18	12	50	—	—	65	11	—
館 山 市	—	—	—	—	—	—	—	70	67	9	9	—
千 葉 郡	—	—	1	—	3	—	—	—	—	—	—	—
東 葛 飾 郡	—	—	—	—	—	6	—	—	—	—	—	—
香 取 郡	—	—	—	—	10	20	—	377	—	—	—	—
海上・匝瑳郡	—	—	—	—	1	62	2	444	5	—	—	—
山 武 郡	—	—	2	—	—	—	—	1515	700	—	—	3718
長 生 郡	—	—	6	—	—	—	—	50	50	—	—	—
夷 隅 郡	—	—	—	—	—	—	—	129	559	8	—	—
安 房 郡	2	3	—	7	—	8	—	90	—	1	1	—
君 津 郡	1	1	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—
印 旛 郡	1	—	1	2	—	1	—	—	—	—	—	—
合 計	4	4	18	37	34	110	52	2685	1401	83	21	3718

上表の外に農作物、果樹、花卉の被害多し。

通信・送電線電柱の被害

種別	折 損	倒 壊	傾 斜	備 考
電 信 電 話	1 5 7 8	4 3 4 6	1 4 5 4 4	千葉電気通信部調
送 電 線	4 9 3 3	3 9 8 6	8 2 2 1	関東配電千葉支店調
通 信 信 号	5 3	2 4 8	8 0 4	千葉鉄道管理局調

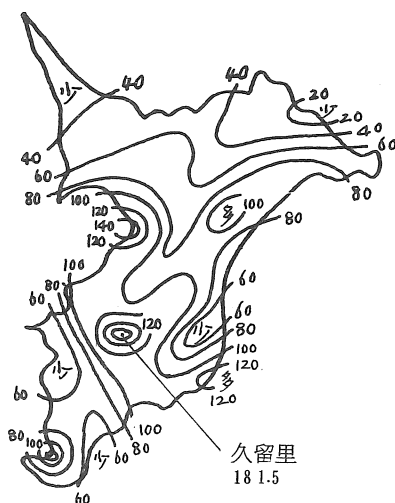
上表の外に断線、トランス落下等による障害多し。（銚子測候所 暴風雪概報）

国鉄においては、線路上1～3 mに及ぶ吹溜が各所に生じて、電車汽車共一時は県内全線不通となり、除雪人夫延9 2 8 7人を出動させ、千葉駅では、乗客約5 0 0人に対し炊出しを行った。

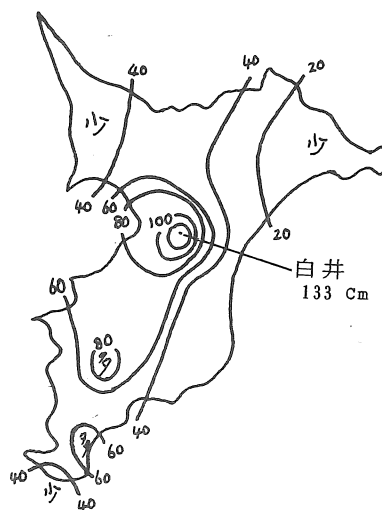
（千葉鉄道管理局 雪害記録）

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		986.4	989.5	986.3	988.1	994.2	995.9
最大風速 m/s		NNE22.6	—	N 15.7	NNE34.3	N 14.2	NNW18.0
最大瞬間風速 m/s		NNE32.8	NNW16.2	—	NNE42.8	—	NNW23.2
1時間降水量の最大mm		—	—	14.2	7.5	—	—

1951年2月14~15日
降水量分布図



1951年2月15日
積雪分布図 (Cm)



昭和26年（1951年） 7月~8月 旱害

7月中旬より8月中旬まで降雨少く、この間の総降水量は木更津から千葉、佐倉にわたる一帯において30mmに達したのが最高で、太平洋岸及び野田方面は10~2mm、柏、布佐附近は1mm以下という寡雨であった。この為農作物は著しい旱害を受けた。被害は東葛飾郡、印旛郡、手賀沼周辺において甚だしい。（銚子測候所 旱魃報告）

主要農作物被害状況

9月10日現在 千葉統計調査事務所

	作付面積	平年収量	減収量	被害面積	被害程度			
					100~70%	70~50%	50~30%	30%以下
水稻	町 101818	石 209745	石 3890	町 1271	町 7.8	町 30.3	町 164.9	町 1068.0
陸稻	9200	石 99360	石 21256	5789	308.2	530.9	1099.7	3850.2
甘藷	25280	千貫 88480	千貫 2338	3903	20	120	540	3223
大豆	8055	石 62829	石 20943	5300	—	1500	2000	1800
里芋	1745	千貫 3839	千貫 1798	1450	250	600	400	200

この旱害は全国的なもので九州、四国、中国、北陸、関東、東北に及ぶ。

昭和26年（1951年）10月15日 暴風雨（ルース台風）

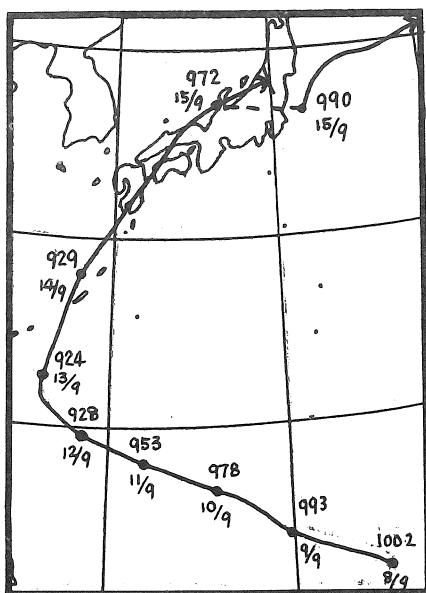
沖縄南方より北上し、14日19時頃鹿児島県西部に上陸したルース台風は大分、山口県を通過したのち山陰沖において分裂したが、主勢力は、15日鹿島灘に発生した副台風に移って北海道東方海上に去った。この為15日朝より夜半まで暴風となり、雨は13日から降り出し15日朝まで続いたが県下の総雨量は60～20mmで比較的少なかった。

千葉県の被害 家屋半壊1戸、床上浸水4戸、床下浸水52戸、非住家破損1棟。（気象要覧）

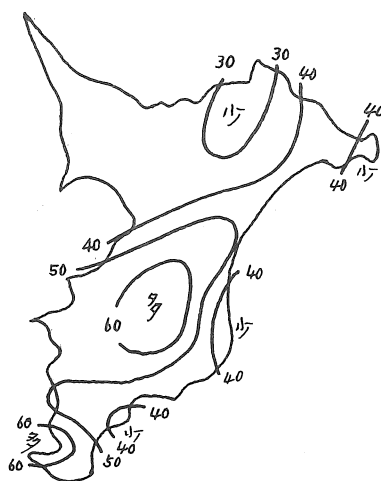
この台風の被害は、九州、四国、中国、近畿に多く、総被害は死者572人、行方不明371人、負傷者2644人、家屋全壊21527戸、半壊47948戸、船舶沈没1289隻、その他多数に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		985.5	987.1	986.6	983.9	981.6	982.0
最大風速 m/s		SW 26.7	SW 18.0	SW 24.1	SW 20.8	WSW 22.9	SSW 18.0
最大瞬間風速 m/s		SW 29.9	SW 25.4	SW 30.6	SW 25.1	WSW 25.1	SSW 25.3
1時間降水量の最大mm		5.7	7.7	5.9	5.9	4.6	3.0

1951年10月ルース台風経路図



1951年10月13～14日
降水量分布図



昭和26年（1951年） 11月24日 火 事

24日0時40分頃 勝浦町勝浦測候所附近の旅館より出火し、折からの 20 m/s を越す強風にあおられ79戸を全焼す。死者9人、負傷者3人を出し、焼失面積1500坪、損害9000万円に上る。測候所も1時40分頃焼失した。

勝浦測候所は3時45分SSW 2.0 m/s の最大風速を観測した。

昭和27年（1952年） 2月18日～19日 大雪（前線）

15日頃より小雪又は小雨が降ったり止んだりしていたが、17日夕刻日本海沿岸にあつた寒冷前線が南下して夜半より雪に変わり、19日夕刻まで続いた。19日朝より正午頃までの降雪が殊に多い。最深積雪は内陸部において30～40cmに達した。

被害概要 国道千葉一市川、千葉一木更津、県道千葉一東金線に除雪ブルドーザー出動、千葉一天津線は鶴舞附近積雪40cmの為交通が杜絶した。バスは成田一八日市場、成田一佐原、八日市場一錦木、小見川一銚子、茂原一大多喜の各線が運休した。

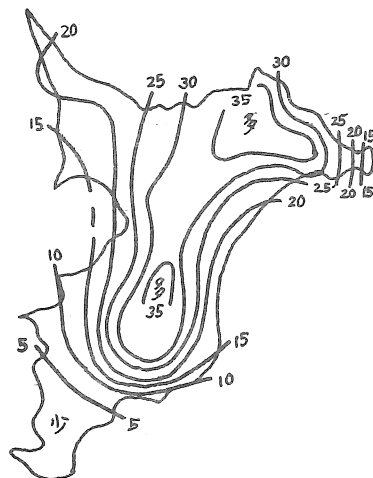
農作物は菜種、びわ、夏みかん等は作付面積の約2割、裏作大小麦は約1割が被害を受け8,000万円に及ぶ損害を出した。

電力関係では、断線、混線、トランス焼損等の被害があつたが、電信電話関係の被害は比較的少ながつた。

（銚子測候所 大雪概報）

この年の冬は雪が多く、2月7～8日には内陸部に10～15cmの積雪があつて農作物やびわに損害を与え、3月7～8日にも10cmの積雪があつて国電、京成電車は1時不通になり、通信、電力線の着雪による被害も生じた。

1952年2月18～19日
最深積雪分布図 (Cm)



昭和27年（1952年） 3月25日 地 氾

25日午後3時頃 安房郡曾呂村東地先の山腹に巾300m、長さ1500mにわたって地氾が起り、住家1戸、非住家3棟を半壊し、木橋1を破損、道路や田畑に亀裂、陥没、隆起を生じ、田畑、山林15町歩が被害を受けた。幸い人畜には死傷はなかった。（千葉新聞）

昭和27年（1952年） 6月23日～24日 暴風雨（ダイナ台風）

台湾方面より北東に進み紀伊半島南東部をかすめて浜名湖附近に上陸、24日 2時50分頃東京を通り柏、布佐を経て鹿島灘に抜け、東方海上に去った台風ダイナがある。この為23日夜半より

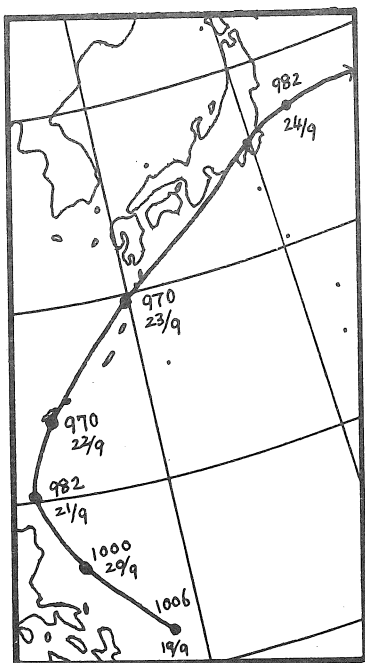
24日朝まで暴風雨となる。

千葉県被害 死者4人、行方不明39人、家屋全壊5戸、半壊8戸、非住家破損2棟、床下浸水80戸、水田冠水2071町歩、畑417町歩、道路破損46ヶ所、橋梁2、堤防決潰7ヶ所、山崩12ヶ所、電柱倒壊93本、鉄道線路障害1ヶ所、船舶沈没4隻、流失19隻、破損7隻。この外通信、電力関係の障害多し。(気象要覧) 死者、行方不明は安房郡の漁船遭難によるもので、田畑の冠水は安房、夷隅、長生、印旛の各郡に多く、安房郡の特殊作物は70%が被害を受けた。

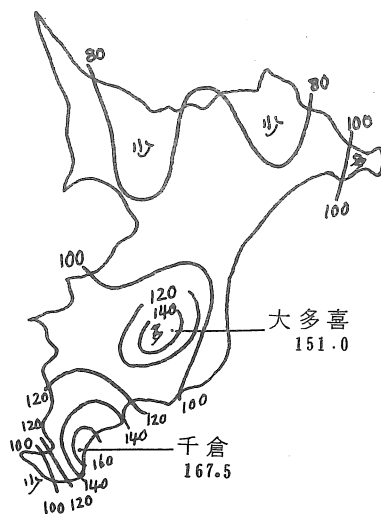
この台風による被害は九州より関東に及び静岡県被害が大きい。被害総計 死者65人、行方不明70人、負傷28人、家屋全壊52戸、半壊89戸、流失21戸、その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		988.0	988.0	988.4	984.5	984.8	986.5
最大風速 m/s		ssw32.5	sw 19.6	sw 33.6	w 25.7	N 13.4	NW 12.5
最大瞬間風速 m/s		sw 39.1	sw>28.2	sw 41.6	s 34.4	N 16.3	wnw13.0
1時間降水量の最大mm		25.3	20.8	21.2	27.0	15.7	18.9

1952年6月
ダイナ台風経路図



1952年6月22~24日
降水量分布図



昭和27年（1952年） 10月16日 突風（前線）

沿海州を通過してオホーツク海に抜けた低気圧に伴う寒冷前線が16日早朝本県を通過した。

16日3時頃 津田沼附近では豪雨中に 30 m/s 以上と推定される突風が起り、軽傷2人、家屋全壊1戸、半壊4戸、一部破損41戸、非住家倒壊1棟、罹災者425人、のり船大破2隻の被害を出した。

16日 4時30分頃 香取郡小見川町でも豪雨中の突風の為、老朽家屋1戸が倒壊し、屋外に飛出した少女が軒下に垂下った電線に触れて感電死した。（気象要覧）

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb	1006.5	1007.2	1006.9	1006.3	1005.7	1005.3
最大風速 m/s	SSW15.8	S 9.4	SSW17.1	SSW13.9	SW 8.7	SSW11.7
最大瞬間風速 m/s	S 18.5	S 14.0	S 20.8	SSW18.0	SW 12.9	-
1時間降水量の最大mm	7.6	11.8	13.8	7.0	11.6	6.1

昭和28年（1953年） 2月15日 突風（前線）

大陸の優勢な高気圧の前面にあった寒冷前線が15日夕刻より夜半にかけて本県を通過した。

15日 17時30分頃、房州南部に突風が起り、小型漁船4隻が遭難した。（気象要覧）富崎測候所は最大風速WSW23.6 m/s を観測した。

昭和28年（1953年） 4月13日～5月3日 凍霜害

4月13日から5月3日までの間に8回に及ぶ結霜があり、桑及び農作物は大きな凍霜害を受けた。

5月15日現在の農林省統計調査部の調査による本県の被害 収穫皆無換算面積 桑206町歩（香取、山武、東葛飾郡）、茶181町歩（印旛、東葛飾、君津郡）。被害面積 小麦4469町歩、大麦1510町歩、裸麦199町歩馬鈴薯1432町歩、菜種293町歩、野菜365町歩、果樹285町歩。（朝日新聞）

昭和28年（1953年） 6月23日～24日 大雨（前線）

日本海西部を北上し、浦塩附近において消滅した低気圧に伴う前線によって23～24日大雨となる。雨量は安房、夷隅の外房において120mmに達し、この方面の水害が大きい。

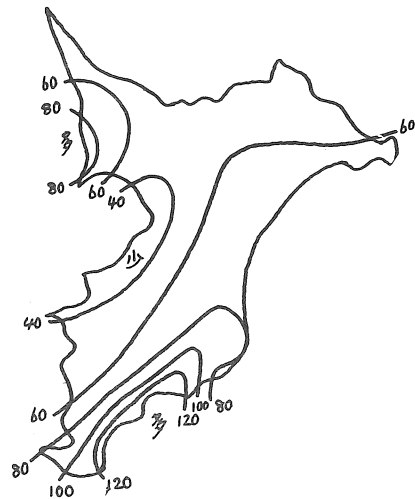
安房郡の被害 家屋半壊2戸、浸水32戸、道路損壊6ヶ所、橋梁流失、破損各1、山崩1ヶ所、水田流失4町歩、冠水487町歩、農作物被害52町歩。（富崎測候所報告）

夷隅郡の被害 小湊町崖崩の為家屋半壊1戸、鶏小屋埋没3棟、鶏200羽生埋。総野村山崩の為死者2人、負傷1人、家屋全壊1戸。小湊一天津間崖崩の為鉄道不通となる。興津町床上浸水2戸、床下浸水30戸。（朝日新聞）

水田冠水 大多喜地方250町歩、長生郡239町歩、印旛、手賀沼周辺250町歩、東葛飾郡30町歩、
(朝日新聞)

富崎測候所は24日6時に1時間降水量53.0mmを観測した。

1953年6月23～24日
降水量分布図



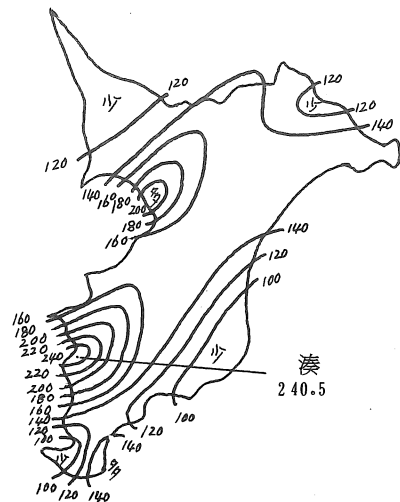
昭和28年(1953年) 7月18日～20日 大雨(前線)

本州附近に停滞する梅雨前線によつて18日から20日まで雨となる。18～19日の雨量がやや多い。

千葉県の被害 床下浸水99戸、水田冠水1031町歩、畑流埋1町歩、山崩3ヶ所、(気象要覧)

この梅雨前線による大雨は九州では16～20日、中国から奥羽までは、18～24日の間に起り、近畿地方の水害が甚しい。被害総計は死者713人、行方不明411人、負傷5819人、家屋全壊3431戸、半壊2125戸、流失4273戸、一部破損1060戸、その他田畑の冠水、道路、堤防の決潰、山崖崩等多数に上る。

1953年7月18～20日
降水量分布図



昭和28年(1953年) 8月

冷 夏

8月は陰曇で平均気温は平年より1.2～1.6℃低く、日照時間は平年の半ば以下、降水量は平年の2倍に近い多雨となり、農作物に冷害を生じた。夷隅郡では中生稻が3500町歩にわたって青立となり、50～60%の減収が見込まれた。(気象要覧)

気象要素		地名	富 崎	勝 浦	銚 子
気 温	8月平均℃		24.6	23.6	23.2
	平 年 差℃		－ 1.2	－ 1.4	－ 1.6
日 照	8月合計h		120.1	97.7	85.7
	平 年 比		0.45	0.38	0.36
降水量	8月総量mm		280.6	271.6	300.0
	平 年 比		1.83	1.94	2.27

昭和28年(1953年) 9月25日～26日 暴風雨(テス台風)

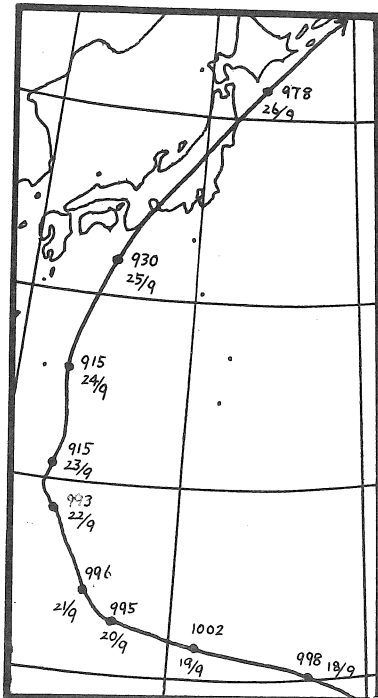
本州南海上より北上して志摩半島を横切り、25日18時半頃知多半島に上陸、中部、北陸、奥羽を経て三陸沖に抜け千島方面に去った台風テスがある。この為25日夕刻より26日早朝まで暴風となる。台風接近前より前線が本州南岸に停滞していた為22日より雨が降り出し25日まで続く、23～24日の雨量がやや多い。

千葉県の被害 行方不明2人、負傷1人、家屋全壊2戸、半壊3戸、一部破損31戸、床上浸水14戸、床下浸水221戸、非住家破損10棟、水田冠水361町歩、畑冠水38町歩、道路破損2ヶ所、堤防決壊14ヶ所、山崩11ヶ所、電柱倒壊29本、板塀破損236、鉄道被害1ヶ所、通信被害15ヶ所、船舶沈没2隻、流失1隻、破損1隻、罹災世帯133、罹災者数662人、安房郡における水稻倒伏1668町歩、潮風害2500町歩。(気象要覧)浦安海岸に高潮あり。(朝日新聞)

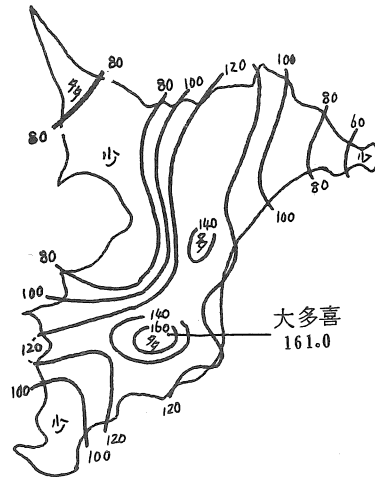
この台風による被害は全国に及んだが近畿、中部地方が甚だしい。被害総計は死者393人、行方不明85人、負傷2559人、家屋全壊5989戸、半壊17467戸、流失2615戸、一部破損60321戸、その他多数に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	布 佐	柏
最低気圧 mb		990.0	990.4	989.3	987.3	984.3	984.7
最大風速 m/s		SW 27.8	SSW17.1	SSW 7.0	SSW23.2	SW 18.7	S 17.1
最大瞬間風速 m/s		SW 36.4	SSW28.7	SW 33.5	SSW26.8	SW 29.1	S 24.7
1時間降水量の最大mm		21.3	19.8	26.0	8.8	5.2	20.2

1953年9月台風経路図



1953年9月22～25日
降水量分布図



昭和28年(1953年) 11月26日 地震・津波(房総沖地震)

26日2時49分頃大東岬の南東約150kmを震源とする顕著な地震($M=7.5$)が起り、地震発生の約30分後、銚子で3m、勝浦、富崎で1.5mの津波が押寄せた。地震による直接の被害はなかったが、銚子では津波の為に馬船1隻が流失した。(気象要覧) 地震の最中、富崎の南方海上に3回にわたって青白い発光現象が見られた。(朝日新聞)

昭和29年(1954年) 1月23日～24日 暴風雪(低気圧)

沖縄西方に発生し、発達しながら東進した低気圧は、24日正午すぎ房総沖を通して東方洋上に去った。この為24日朝より晩まで暴風雪となる。内陸地方では23日午後より雪となったが外房沿岸では、始め雨のち雪に変わった。積雪は笹川50cm、久留里47cm、内陸地方30cm以上となる。

警察管内別被害表

国警千葉県本部調

種別 \ 地区	松戸	東金	佐倉	湊	成東	木更津	茂原	八日市場	計	備 考
死 者	1	—	—	—	—	—	—	—	1	左の外木更津管内には電線切断（東電）2515ヶ所あり。
建 物 全 壊	1	1	—	—	—	—	—	—	2	
電 柱 倒 壊	—	—	2	—	31	110	—	—	143	
板 塀 倒 壊	—	—	—	—	2	—	—	—	2	
通 信 施 設 被 害	—	8	33	11	6	428	1	21	625	

上表被害の外、果樹、野菜、花卉の雪害、竹の雪折、房州杉の倒壊等による損害約7300万円に上る。

(県農業技術課)

交通関係 東武電車一時運休、各地でバスも一部運休した。

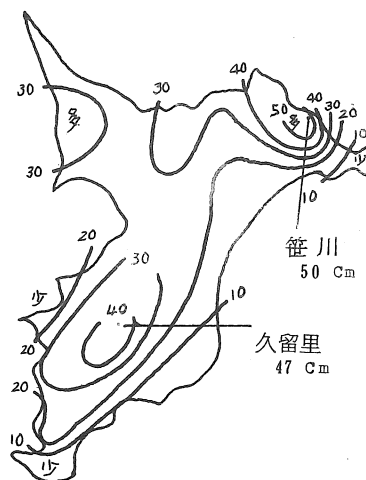
電力関係 送電線支持物の被害はなかったが、高圧送電線が4ヶ所において断線し、全饋電線の大半が送電停止となる。（東電千葉支店）

通信関係 電話326回線、電信12回線、警察電話14回線の障害あり。（電々千葉電気通信部）

鉄道関係 通信・信号線の断線は全管内5000ヶ所に及び、特に房総西線木更津—青堀間、亀山線木更津—横田間の被害多く、この区間だけで電柱折損5本、倒壊56本、傾斜69本、断線2299ヶ所に達す。

(千葉鉄道管理局)

(以上 銚子測候所風雪速報)

1954年1月24～25日
積雪分布図 (Cm)

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	996.9	998.2	996.3	995.7	1002.6	1000.3	1001.0
最大風速 m/s	NNE16.8	NNW 9.8	N 14.0	NNE22.5	NNW14.9	NNE 9.1	NNW 7.8
最大瞬間風速 m/s	NNE24.3	NNW15.6	N 22.7	NNE27.6	—	—	NNW 9.4
1時間降水量の最大mm	4.5	2.8	3.3	4.9	0.3	—	—

昭和29年(1954年) 4月21日・28日 凍霜害

21日及び28日は高気圧に蔽われて夜間の冷え込みが強く、各地に結霜による被害があった。

農林省発表による千葉県の被害面積 麦類1190町歩、馬鈴薯70町歩、菜種140町歩、果樹103町歩。(千葉新聞)

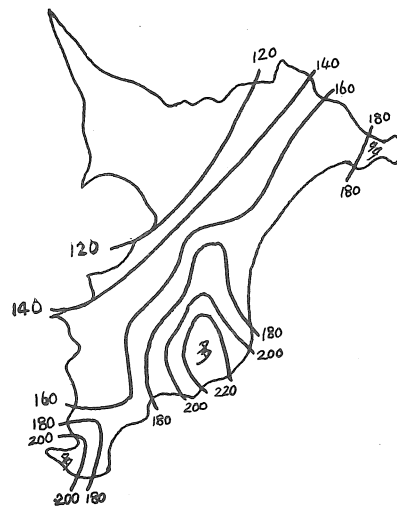
昭和29年(1954年) 6月22日～30日 長雨(低気圧・前線)

22日から23日にかけて本州南岸を東進し、24日早朝房総沖に達した低気圧は、22～23日の両日県下に60～100mmの雨を降らせ、24日は一旦止んだが、25日より月末まで梅雨前線が停滞して連日雨となった。

千葉県の被害 水田冠水1132町歩、畑流埋1町歩、道路損潰2ヶ所、山崩5ヶ所、鉄道線路被害1ヶ所。(気象要覧)

この長雨による被害は西日本に多く、被害総計は死者13人、行方不明12人、負傷25人、床上浸水3841戸、水田冠水34870町歩、畑冠水2232町歩、その他多し。

1954年6月22～30日
降水量分布図



昭和29年((1954年) 8月19日～20日 暴風雨(台風5号)

沖縄南方より北東に進み、九州南部、四国を経て、19日9時琵琶湖附近に達した頃若狭湾に副低気圧を発生させたが、本体は衰弱しながら東海地方を通過、19日夜半千葉県北部を経て鹿島灘に抜け、金華山沖で副低気圧と合併して東方海上に去った。この為19日朝より20日早朝まで暴風となる。雨は安房、夷隅の外房沿岸に多く、県北は少い。

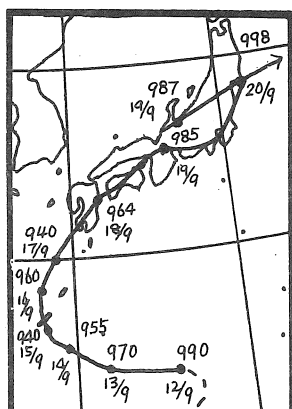
千葉県の被害 防波堤及び護岸決潰4ヶ所、道路破損1ヶ所、稲倒伏5町歩、船舶沈没1隻

(銚子測候所 台風概報)

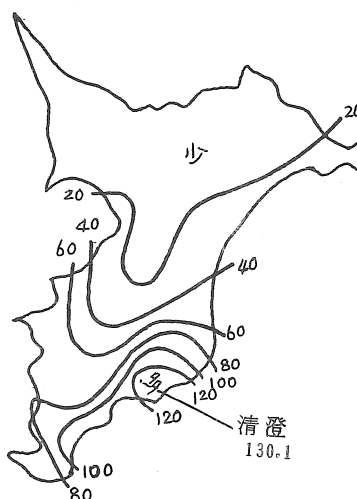
この台風による被害は九州、四国、東海に多く、被害総計は死者30人、行方不明33人、負傷77人、家屋全壊332戸、半壊1321戸、流失29戸、床上浸水3797戸、水田冠水24547町歩、船舶沈没63隻、流失49隻、その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		992.3	992.5	993.2	992.5	991.1	992.7	992.5
最大風速 m/s		SSW 21.3	SSW 13.9	SSW 22.2	SSW 17.3	SSW 15.7	SW 14.4	S 12.9
最大瞬間風速 m/s		SSW 29.3	SSW 21.8	SW 25.0	SSW 22.1	—	SW 20.0	S 19.7
1時間降水量の最大mm		17.4	15.7	55.7	18.3	7.0	2.1	3.6

1954年8月
台風5号経路図



1954年8月18～19日
降水量分布図



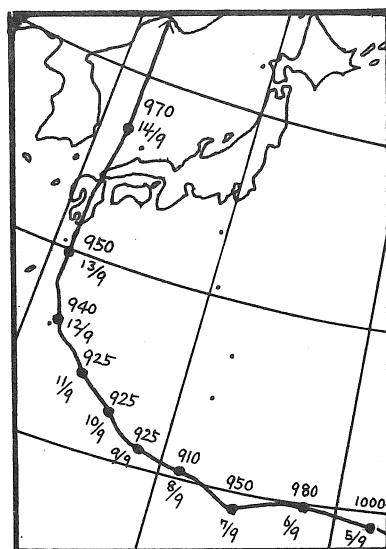
昭和29年（1954年） 9月14日 風雨（台風12号）

本州南海上を北西に進んで13日15時頃鹿児島県に上陸九州を縦断して14日早朝日本海に抜け、浦塩方面に去った台風12号がある。この為14日朝より夜半まで10～13 m/sの風が吹き、12日、13日の両日は雨となったが県下の雨量は20～70mmに止まった。

千葉県の被害 行方不明2人、家屋全壊1戸。（気象要覧）

この台風による被害は 九州、四国、中国に多く、被害総計は 死者107人、行方不明37人、負傷311人、家屋全壊1648戸、半壊5749戸、流失514戸、床上浸水45040戸、水田流埋1585町歩、畑流埋1615町歩その他に上る。

1954年9月台風12号経路図



三十一

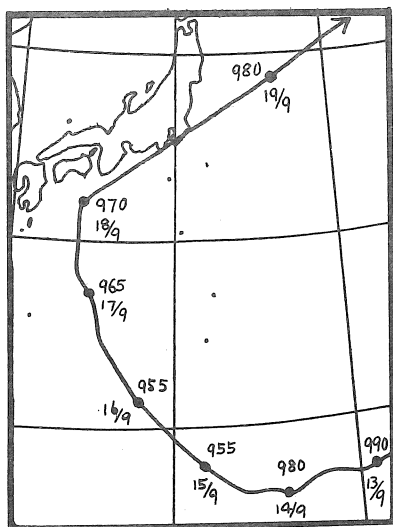
本州南海上を北上して潮岬沖より北東に転じ御前崎をかすめて伊豆半島を横断し、１８日２３時４０分頃安房勝山附近に上陸、久留里、本納を経て　１９日１時３０分頃、銚子附近より鹿島灘に抜けアリューシャン方面に去った台風１４号がある。この為　１８日夜より１９日朝まで暴風雨となる。台風接近前の１６日から１７日にかけて本州を横断した寒冷前線によって　１６日から雨が降り出し、台風の雨がこれに続いた。

千葉県被害 行方不明 1 人、家屋全壊 1 戸、半壊 1 戸、一部破損 5 戸、床下浸水 2 2 9 戸、非住家破損 1 棟、水田冠水 4 3 1 町歩、畑冠水 6 9 町歩、道路損壊 2 ヶ所、堤防決壊 3 ヶ所、電柱倒壊 2 本、通信障害 3 8 0 ヶ所、板塀破損 1 0 4。(気象要覧)

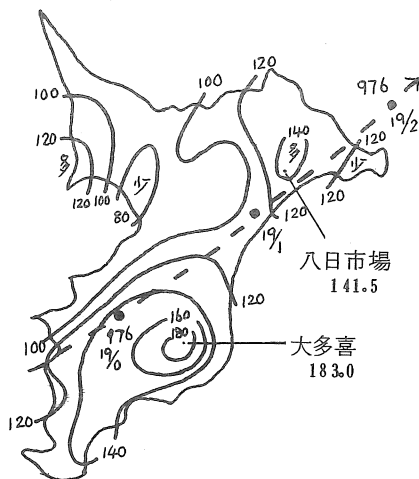
この台風の被害は、紀伊、東海、関東、奥羽南部に及び、特に静岡県が多い。被害総計は死者36人、行方不明24人、負傷59人、家屋全壊92戸、半壊141戸、流失27戸、床上浸水6057戸、水田冠水60876町歩、船舶沈没34隻、流失61隻、その他に上る。

地名 気象要素	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉	布	佐	柏
最低気圧 mb	977.3		977.6		976.7		976.8		981.4		984.8		985.2
最大風速 m/s	WNW23.3		WNW15.8		S 24.1		SE21.0		NW22.0		N 14.5		NW12.9
最大瞬間風速 m/s	—		WNW23.3		S 32.0		NW30.7		—		N 20.6		NW15.9
1時間降水量の最大	20.0		19.0		31.8		26.1		17.8		11.2		17.6

1954年9月台風14号経路図



1954年9月16~18日
降水量分布图



昭和29年（1954年） 9月26日 暴風（洞爺丸台風）

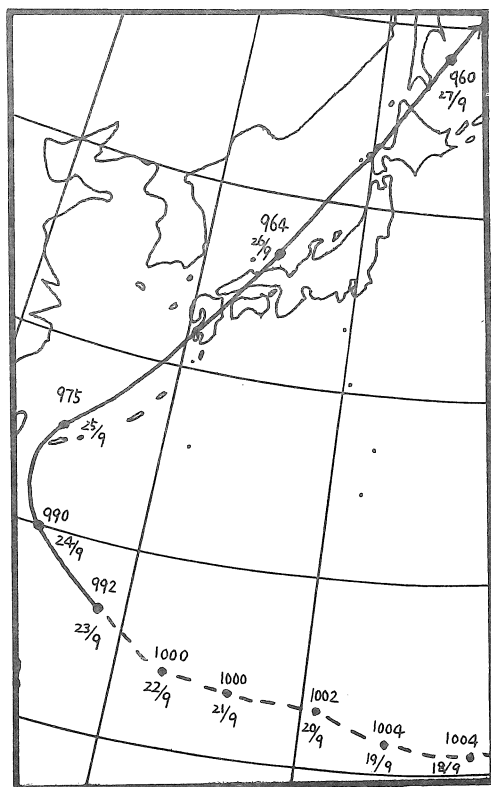
石垣島附近より北東に進み九州南東部を経て中国地方を横断、26日8時頃山陰沖に抜け、日本海を北上して北海道西岸を通りオホーツク海に入った台風15号がある。この為26日朝より晩まで暴風となり、千葉市海岸では高波により護岸堤防が決壊した。

千葉県の被害 家屋全壊1戸、半壊4戸、床下浸水54戸、非住家破損4棟、電柱倒壊5本、板塀破損9、通信施設障害3ヶ所。（気象要覧）

この台風は函館において洞爺丸外4隻の連絡船を沈没せしめ、1400人に上る死者及び行方不明者を出し洞爺丸台風と命名された。被害は全国に及び被害総計は死者1361人、行方不明400人、負傷1601人、家屋全壊8005戸、半壊21771戸、水田流埋1090町歩、畑流埋244町歩、船舶沈没925隻、流失800隻その他に上る。

気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	桃	子	千	葉	布	佐	柏
最低気圧 mb		998.9		999.1		998.6		996.5		995.9		994.5		994.0
最大風速 m/s		SSW22.0		SW13.0		S 19.7		SSW21.0		SSW23.8		SSW19.0		S 14.2
最大瞬間風速 m/s		SSW29.5		SSW21.6		S 25.2		SSW25.1		—		SSW32.9		S 21.9
1時間降水量の最大mm		5.0		6.8		4.2		6.2		0.5		1.4		—

1954年9月洞爺丸台風経路図



〔参考〕 台風襲来の特異日

洞爺丸台風以来、9月26日は大型台風が本邦を襲撃する「特異日」として注目されている。

昭和33年には、伊豆の狩野川に大洪水を起した「狩野川台風」があり、昭和34年には、名古屋附近に未曾有の高潮被害を出した。「伊勢湾台風」がある。

更に、昭和10年にさかのぼれば、当時三陸沖において大演習を行っていた旧帝国海軍の艦艇が台風の暴風圏内に突入し、駆逐艦2隻が船首を切断され、57名の将兵がじゆん職したのがある。記録によれば、台風中心の南東約260Kmにおいて、高さ20〜30mの三角波（中には50mと見た者もいる）が起り、これが船体に打込んで船体を分断したという。

昭和29年（1954年）11月28日～29日 暴風雨（低気圧）

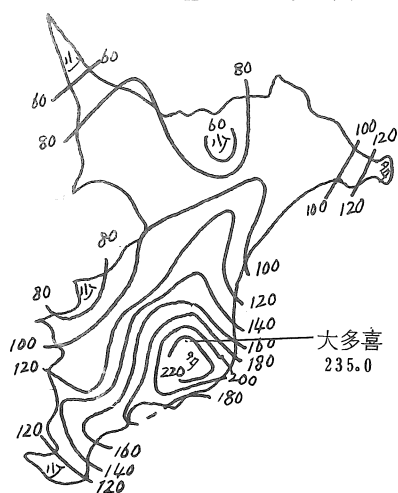
27日九州南方海上に発生し、発達しながら東進して28日正午すぎ八丈島と三宅島の間を通過して東方海上に去った低気圧がある。この為28日早朝より29日午後まで暴風となる。雨は27日夕刻より降り出し28日夕刻に止んだが、28日午後の雨特に強く、強風と相俟って台風なみの暴風雨となる。

千葉県被害 死者1人、家屋全壊1戸、半壊1戸、一部破損3戸、非住家破損28棟、床上浸水97戸（うち大多喜45戸）、床下浸水305戸（うち成東100戸、大多喜44戸）、田畑冠水5町歩、道路損壊14ヶ所、橋梁破損1、堤防決壊1ヶ所、山崖崩12ヶ所、通信障害7ヶ所、電柱倒壊20本、板塀破損244、船舶破損3隻、（気象要覧）その他、花卉の茎折、倒伏60町歩損害約4000万円、みかん、びわ、柿の枝折30町歩、損害約400万円、えんどう、そら豆浸水、ビニールハウス1000坪 損害200万円。鉄道線路の土砂崩、砂利流失7ヶ所に起り県下全線にわたってダイヤ混乱、通信、電力の被害多し。（銚子測候所暴風雨概報）

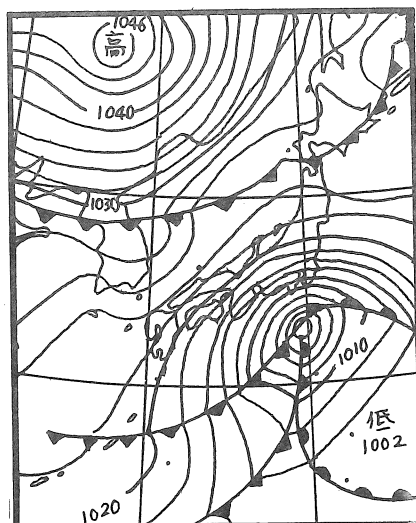
この低気圧による被害は関東南部に多く、死者10人、行方不明19人、負傷4人、家屋全壊108戸、半壊392戸、その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		1001.1	1000.1	1002.0	1005.4	1004.9	1009.7	1009.3
最大風速 m/s		NNE25.5	N 19.0	N 18.5	NE29.3	NE23.8	NNE15.8	NNW10.0
最大瞬間風速 m/s		NNE35.2	N 30.2	N 35.2	NNE34.8	—	NNE23.0	NNW12.1
1時間降水量の最大mm		21.0	15.5	40.8	41.3	10.7	12.4	11.0

1954年11月27～28日
降水量分布図



1954年11月28日9時地上天気図



昭和30年（1955年）2月20日 暴風（低気圧）

19日朝鮮東岸に発生して東に進み、発達しながら奥羽、北海道を経てオホーツク海に入った低気圧がある。一方この低気圧と並行して、九州から本州南岸を通して関東地方に達した別の低気圧は、20日正午頃日本海の低気圧に吸収された。このような経過によって日本海の低気圧は益々発達し、大陸高気圧の張出しと相俟って全国的に季節風が強くなった。この為20朝より夕刻まで暴風となる。

千葉県の被害 非住家倒壊5棟、家屋破損2戸、板塀破損8、通信障害7件、東京湾沿岸のり柵に相当の被害あり。（気象要覧）

この暴風による被害は全国に及び死者16人、行方不明104人、負傷者18人、家屋全壊42戸、半壊100戸、船舶沈没32隻、流失18隻その他を出す。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	987.2	987.5	985.7	982.3	981.8	979.9	980.5
最大風速 m/s	WSW25.5	SW13.5	SW23.6	SW21.6	WSW27.5	SW18.0	SSW12.9
最大瞬間風速 m/s	WSW33.8	SW27.7	S 33.6	WSW27.5	—	SW27.3	SSW26.1
1時間降水量の最大mm	2.0	1.9	2.0	2.8	2.9	3.0	3.7

昭和30年（1955年）5月15日 降 雹

15日午後、寒冷前線の通過に伴い県下各地に雷雨が発生し、木更津、一宮を結ぶ線を中心としが附近一帯に大豆大から直径2cmに及ぶ雹が降り農作物は大被害を受け、損害は10億円と報道された。

郡別雹害面積（単位 町）5月16日現在（千葉新聞）

種別 \ 郡別	君 津 郡	夷 隅 郡	長 生 郡	市 原 郡
果 樹	15	10	40	5
苗 代	17	17	11	—
野 菜	1000	100	500	100
麦 類	150	—	65	—
甘 薯	6.7	1.7	0.7	1.5
煙 草	26	—	—	—
桑	—	10	—	—

この日、静岡、山梨、茨城、栃木の各県にも大きな雹害があった。

昭和30年（1955年）8月3日 雷 雨

3日夕刻寒冷前線の通過に際し、県中部以北に突風を伴った強い雷雨が起り、家屋の破損、落雷による感電死、火災を生じた。雨量は北部に多く（野田63mm、布佐47mm、笹川61mm）、成田附近では水害を起した。

被害 死者2人（船橋、成田）、家屋全壊2戸（成田、小見川）、半壊2戸（成田）、全焼3戸、（南総、多古、習志野）、床下浸水400戸（成田）、水田埋没1.5町歩。（気象要覧）

昭和30年（1955年）8月24日～9月2日

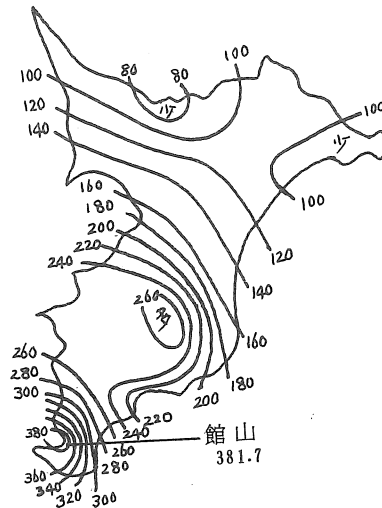
長 雨

24日頃より9月2日にかけて本州南海上を3つの弱い低気圧が低回して消滅した。また29日には大陸方面より東進した台風くずれの低気圧が日本海に入り、31日奥羽北部から太平洋に抜けた。この為24日より9月2日まで雨が断続し、26日、31～1日にはやや強い雨があった。特に26日の雨は県南地方において強く100～200mmに達した。

県警本部の調査による9月2日現在の被害

床上浸水7戸、水田流埋6町歩、冠水7町歩、道路損潰2ヶ所、山崖崩2ヶ所。（気象要覧）

1955年8月24～9月2日
降 水 量 分 布 図



昭和30年（1955年）10月11日

暴風雨（台風25号）

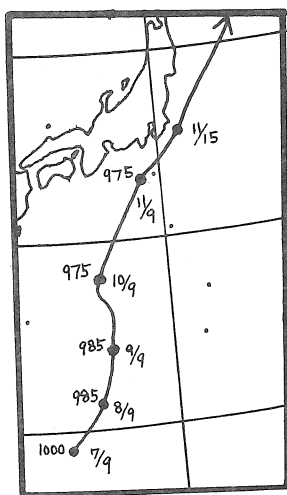
9日 沖の鳥島西方に発生し、北々東に進んで11日午後房総沿岸から約100Kmの沖を通り、千島方面に去った台風25号がある。この為11日正午頃より夕刻まで暴風となる。雨は台風接近前の9日夕刻より降り出し、11日夕刻まで続いたが、11日の雨量が特に多い。

千葉県被害 死者7人、負傷1人、家屋全壊8戸、半壊10戸、一部破損9戸、床上浸水141戸、床下浸水1355戸、非住家破損10棟、水田流埋6町歩、同冠水924町歩、畑冠水27町歩、道路損潰40ヶ所、橋梁破損9、堤防決潰9ヶ所、山崩41ヶ所、板塀破損96、鉄道線路被害14ヶ所、電柱倒壊11本、通信施設被害48ヶ所。（気象要覧、銚子測候所台風概報）

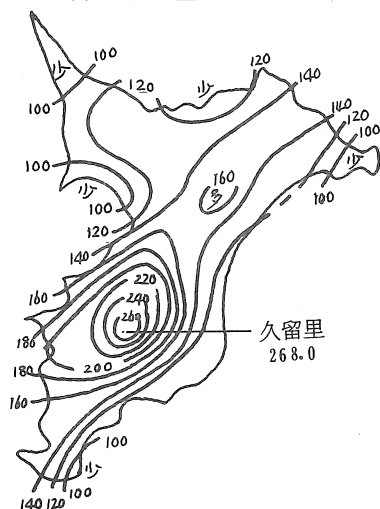
被害は関東、東海に及んだが、本県の被害が最も多い。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	984.1	984.4	980.9	980.7	987.3	990.0	991.1
最大風速 m/s	N 27.5	NNW18.4	NW18.0	NW30.3	NNW24.7	NE11.3	NW10.5
最大瞬間風速 m/s	N 33.0	NNW27.8	NW26.5	N 34.8	—	NE18.7	—
1時間降水量の最大mm	40.0	42.0	26.0	15.9	14.1	33.5	25.0

1955年10月
台風25号経路図



1955年10月9～11日
降水量分布図



昭和30年（1955年）10月18日 竜巻

18日朝四国沖から北東に進んだ小さな低気圧は、 10 m/s 程度の暴風を伴いながら房総東岸を通過し、18日23時頃銚子附近に達した。一方日本海沿岸より南下しつつあった寒冷前線も銚子附近を通過せんとしていた。このような状況において、23時17分銚子市名洗海岸に突然龍巻が上陸し、銚子半島を北東に進んで東部の黒生より海上に去った。龍巻は上陸地点の名洗において最も強く、直径も120mと推定されたが、次第に衰え黒生に達した頃の直径は約50mに縮まった。

被害 死者1人、負傷11人、家屋全壊27戸、半壊34戸、一部破損20戸、非住家破損36棟、板塀倒壊22、通信施設被害2ヶ所、電柱倒壊1本、機動船大破7隻、伝馬船大破26隻 その他。（気象要覧）

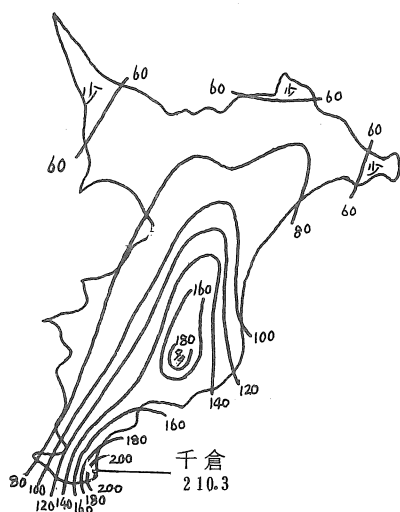
龍巻の経路より約1km離れた銚子測候所の最大風速は 13.7 m/s 、瞬間最大は 18.2 m/s であった。

昭和30年（1955年）11月21日 暴風雨（低気圧）

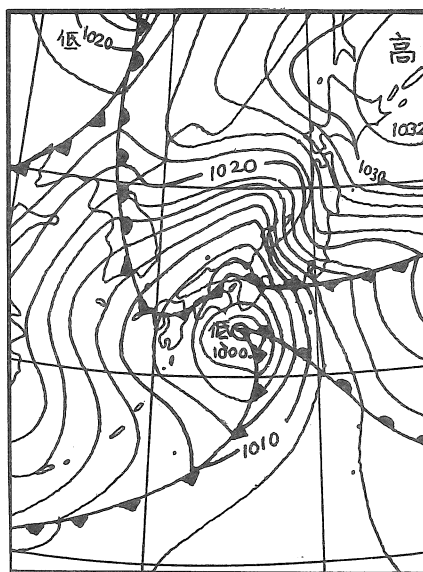
20日15時頃九州南西海上に発生した低気圧は発達しながら北東に進み、21日午後房総半島をかすめて北海道東方海上に去った。この為21日早朝より夕刻まで暴風雨となる。県南外房の雨量が特に多い。

千葉県の被害 死者1人、家屋全壊1戸、床下浸水25戸、非住家破損2棟、道路損壊4ヶ所、鉄道線路被害2ヶ所。（気象要覧）

1955年11月20～21日
降水量分布図



1955年11月21日9時地上天気図



昭和31年（1956年）1月23日～24日 大雪（低気圧）

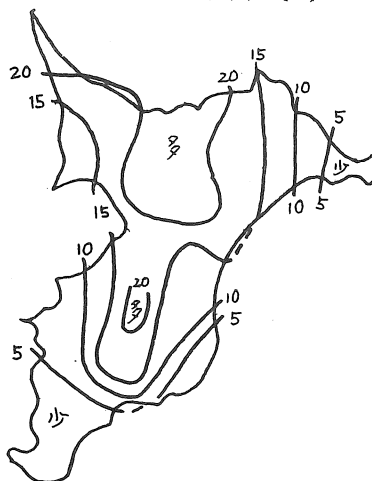
23日朝東海道沖に発生し、正午頃房総沖を東進した低気圧に伴い午前中より雨又は雪となったが、この低気圧の後面より優勢な高気圧が張出し、大陸方面の寒気が流れ込んで来た為午後には殆ど全県にわたって雪となり24日朝まで続いた。積雪は内陸部において20cmに達し、送電・通信線の被害が多く、バス路線も一部不通となったが、農作物の被害は軽微であった。

県警本部の調査による被害状況 電柱倒壊24本（安食、松尾、東金、小見川、横芝）、電線切断190ヶ所（成東、横芝、東金、小見川、八日市場）電話不通91回線、警察電話不通47回線、板塀倒壊2（成東）

東電千葉支店管内の被害 電柱折損158本（高圧57、低圧101）、電柱傾斜207本、変圧器故障23、引込線事故4759、断線1117（高圧152、低圧965）、混線300（高圧91、低圧209）。

（以上銚子測候所 大雪概報）

1956年1月24日9時
積雪分布図（cm）



〔参考〕 暴風雪

北陸地方においては、季節風が止んで風の弱い夜半から明け方に大雪となることが多い。しかし、千葉県の場合には低気圧が沖合を通過して風がやや強い時に雪が降り、暴風雪となることが少なくない。

著しい暴風雪の例としては、明治43年3月12日銚子沖において漁船の集団遭難があり、昭和26年2月15日未曾有の大雪の時には、千葉市附近の積雪は80cmであつたが、暴風のため吹溜りの出来たところでは1.5mにも達したことがある。

電信・電話線の被害 千葉電気通信部調

種別	地名	八日市場	銚子	佐原	東金	茂原	市川	計
電柱折損		13	—	2	6	—	1	22
〃 倒壊		66	1	15	—	—	8	90
〃 傾斜		649	20	50	—	19	—	738
支線断線		92	6	20	70	—	—	188
〃 抜上		391	—	45	—	—	—	436
〃 弛み		363	—	—	74	—	—	437
裸線断線		825	202	155	105	—	—	1287
〃 混線		306	120	90	—	—	—	516
腕木折損		44	—	62	—	—	—	106
〃 傾斜		375	—	120	—	—	—	495
碍子破損		428	—	70	—	—	—	498
引込ゴム線		32	—	15	50	—	—	97

昭和31年（1956年） 1月30日 霜 害

28日、日本海にあった低気圧は発達しながら北東に進み、29日オホーツク海に入った為沿海州方面の寒気が流入すると共に、夜間の放射冷却が加わり30日朝には県北部一帯に強い霜が降り、農作物に大きな被害を与えた。被害総額は1億6千万円に達するものと推定された。

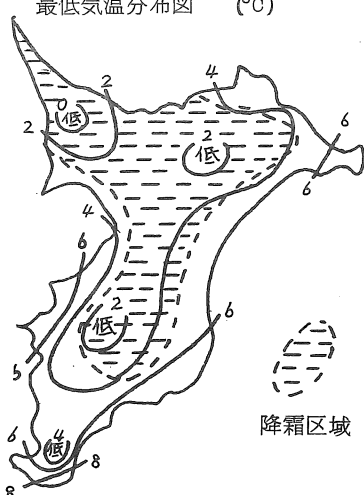
県特産課調べによる被害 トマト、キュウリ、白菜等の被害は東葛地方において45町歩、馬鈴薯は県北台地において160町歩が被害を受け、約3割の減収が見込まれた。果樹の被害は梨250町歩、柿30町歩、印旛郡及び東葛郡の茶は7割5分以上の被害を受けたもの245町歩、それ以下のもの82町歩。香取郡北部及び千葉郡では109町歩の桑が被害を受け、5割以上の被害を受けたものの10町歩に達した。（朝日新聞）

昭和31年（1956年） 4月30日 晩 霜

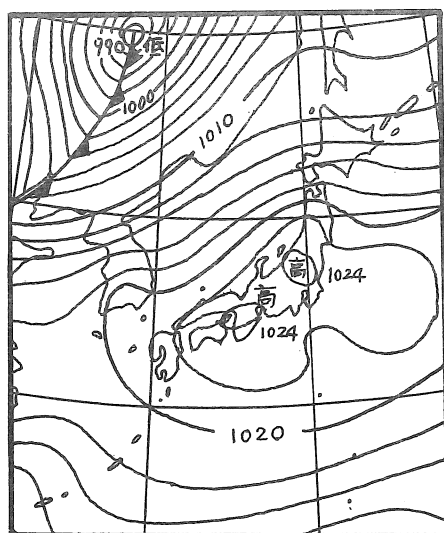
シベリヤ方面より南東進した移動性高気圧が29日から5月1日にかけて本邦を通過した為夜間の放射冷却が強く、奥羽南部より九州北部に及ぶ各地に著しい霜害をもたらした。本県では30月の朝内陸地方において最低気温が4℃以下となり霜を結んだ。大体は薄霜であったが、北西部では並霜になった所もあり、農作物にかなりの被害を生じた。

県農業技術課の調べによる被害 三里塚附近の馬鈴薯50～70%の被害を受けたもの15町歩、30～50%の被害15町歩、20%の被害20町歩。野田、柏方面では馬鈴薯171.5町歩、トマト52町歩、苺10町歩、梨12町歩、そら豆12.5町歩、キュウリ10.5町歩、西瓜15.3町歩、メロン3反歩、水稻苗代13.3反歩が被害を受けた。（銚子測候所 凍霜害概報）

1956年4月30日
最低気温分布図 (°C)



1956年4月30日9時地上天気図

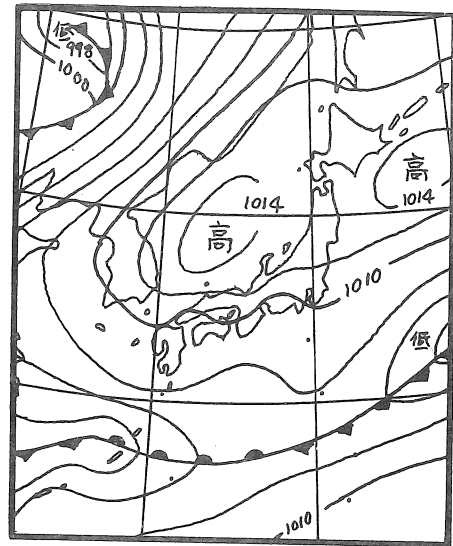
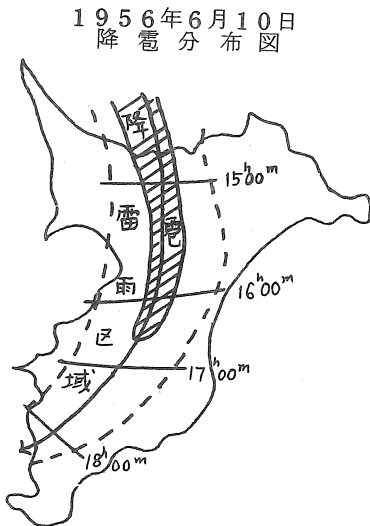


昭和31年（1956年）6月10日 雹 害

10日正午すぎ筑波山附近に発生した雷雨は南下して15時頃布佐附近より千葉県に入り、印旛町（印旛郡）、臼井町（佐倉市）、泉町（千葉郡）、土気町（山武郡）、長柄町（長生郡）を経て天羽町（君津郡）に至り、18時すぎ海上に去った。この雷雨は14時土浦の西方を通過する頃より雹を伴い、16時半長柄町を通過する頃まで続いた。降雹の最も強かったのは印旛町附近で、巾8～9Kmにわたって直径2～3cmの雹が約10cm積り、同町発作では5～6cmの雹も降ったという。泉町を通る頃には降雹区域の巾も約4Kmに狭まり、雹の大きさは1～2cm、積った厚さは約2cmになった。この雹による農作物の被害は6億5千万円に上るものと推定された。（銚子測候所 降雹概報）

降 雹			被 害		
作物種類	被害面積	減収量	作物種類	被害面積	減収量
水 稻	2707 町	32538 石	茄 子	72 町	169千貫
陸 稻	101 "	340 "	西 瓜	81 "	244 "
大麦・ビール麦	127 "	5871 "	梨	19 "	50 "
小 麦	2325 "	16542 "	桃	2.6"	5.8"
裸 麦	15 "	185 "	ぶ ど う	0.9"	2.1"
落 花 生	1189 "	576千斤	菜 種	144 "	1208 石
甘 藷	473 "	619千貫	葉 煙 草	67 "	118 屯
馬 鈴 薯	426 "	261 "	花 卉	1 "	
大 豆	96 "	573 貫			
ト マ ト	87 "	434千貫	ビニールハウス	400 坪	
き う り	63 "	175 "	温 室	600 坪	

1956年6月10日21時地上天気図



昭和31年（1956年）9月27日 暴風雨（台風15号）

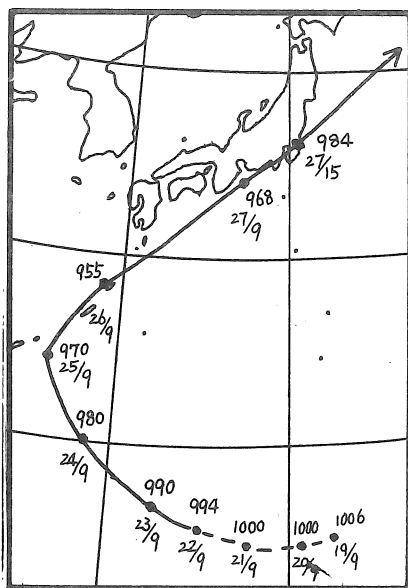
25日朝石垣島南東海上において北東に転向した台風15号は、27日正午頃御前崎をかすめて伊豆半島に上陸、衰えながら東京の北部から千葉県北部を通り、16時頃鹿島灘に抜けた。この為27日正午頃より夕刻まで暴風となる。雨量は台風中心の通過した県北西部において100mm前後の大雨となったが、その他の地方は10～20mmに止まった。

千葉県警の調査による被害負傷 4人（千倉2、袖ヶ浦2）、住家一部破損1戸（天羽）、田冠水22町歩（行徳20、市川2、海ぞいの水田で満潮時に冠水）、花畑被害5町歩（白浜、波浪と潮風による）、板塀倒壊8（千葉、印西、南行徳、天羽）、通信線被害18回線（勝浦、鴨川間2、警察電話16）、船舶沈没2隻（館山、油槽船8トン、木更津、漁船1.5トン）。

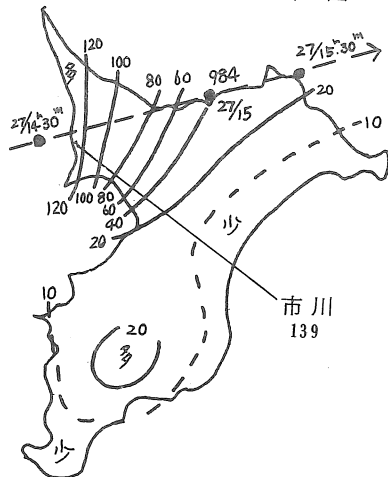
この台風による被害は、四国、近畿、東海地方に多く、総被害は死者20人、負傷41人、行方不明11人、家全壊489戸、半壊653戸、流失10戸、船舶沈没8隻、流失5隻その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		985.9	988.0	989.3	988.8	987.9	988.7	988.9
最大風速 m/s		SSW30.7	SSW18.7	SW26.5	NNW21.6	NW23.9	NNW16.5	N 11.8
最大瞬間風速 m/s		SSW37.2	SSW25.4	SW32.0	N 27.8	—	N 20.8	NNW16.1
1時間降水量の最大mm		3.8	3.6	1.4	2.9	6.7	26.0	—

1956年9月
台風15号経路図



1956年9月26～27日
降水量分布図



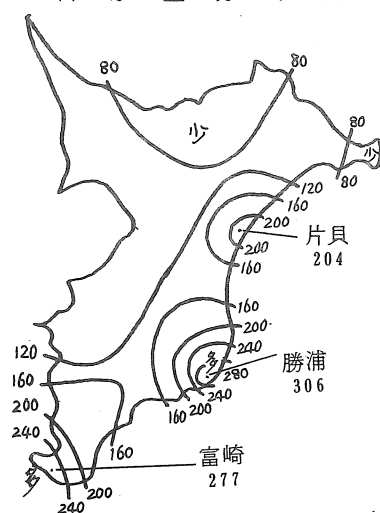
昭和31年（1956年）10月1日～3日 水害（北高気圧配置と前線）

1日から2日にかけて千島方面の高気圧が本州に張出すと共に、本州南岸沖に前線が停滞した。この為1日から3日朝まで降り続いた雨は、山武郡以南の太平洋岸及び房州において、局地的に200～300mmの豪雨となり、少なからざる被害を生じた。2日の1時間降水量の最大は富崎測候所で76.0mm、勝浦測候所で55.9mmを観測した。

豪雨による被害表 県警調（朝日新聞）

種別 都市別	死 者	家 全 壊	床上 浸 水	床下 浸 水	非住家 被害	田 流 失	田 冠 水	畑 冠 水	道路 損 壊	橋 流 失	崖 崩
安房郡	—	—	—	6	—	町	町1	町0.5	3	—	—
夷隅郡	2	2	45	295	9	2	88	51	4	1	12
長生郡	—	—	—	54	—	—	28	—	—	—	—
山武郡	—	—	—	130	—	—	138	—	—	—	—
館山市	—	—	—	15	—	—	40	—	1	—	2
東金市	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
計	2	2	45	500	9	2	170.8	51.5	9	1	14

1956年10月1～2日
降水量分布図



昭和31年（1956年） 10月28日～30日 水害（前線、低気圧）

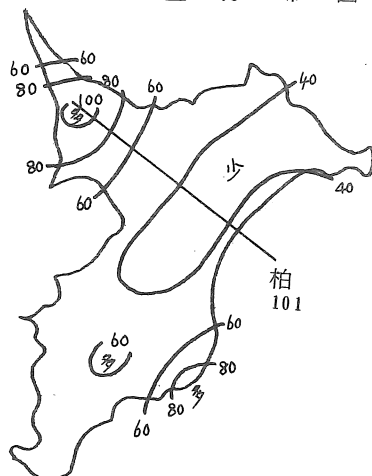
千島方面に中心を持つ高気圧の張出しと本州南岸沖の前線によって28日より雨が続いてきたところ、30日午後には日本海と四国沖に中心を持つ2つ玉低気圧が現われ、31日午前関東地方を通過した。この為28日に降り出した雨は31日朝まで続いた。

県内大部分の総雨量は40～60mmで被害はなかったが、北西部の柏、松戸方面では100mmに達し床下浸水160戸、鉄道線路被害1を出した。（気象要覧）

30日からの雨による被害は九州から奥羽に及んだが、和歌山、三重、神奈川の3県が特に多い。

被害総計は 死者23人、行方不明47人、負傷22人、家屋全壊47戸、半壊51戸、流失35戸、床上浸水671戸、床下浸水4702戸 その他に上る。

1956年10月28～30日
降水量分布図



昭和32年（1957年） 3月8日～9日 暴風雨（低気圧）

7日午後台湾北方海上に発生した低気圧は、発達しながら本州南海上に北東に進み、8日夜房総沖を通過して北海道東方海上に去った。この為8日午後より9日夕刻まで暴風となり、雨は8日朝より夜半まで続く。県下の雨量は40～70mmであったが、最大風速は17～26m/sに達し、船舶の被害が多かった。

本県の被害 家屋半壊1戸、床下浸水18戸、非住家被害7棟、船舶沈没17隻、流失1隻、破損1隻。（気象要覧）

この低気圧による被害は福島、岩手、青森及び北海道に及び、被害総計は家屋全壊31戸、半壊32戸、流失3戸、床上浸水66戸、床下浸水270戸、船舶沈没21隻、流失38隻等に上ったが、福島県沿岸、青森県沿岸、北海道渡島半島沿岸、十勝沿岸等に暴浪による護岸や堤防の決壊が起り、世人の注目をひいた。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	986.4	987.6	982.3	976.4	988.7	991.2	993.1
最大風速 m/s	NNW20.5	NW14.9	NW17.1	NNW26.1	NW25.2	NW18.0	NW16.8
最大瞬間風速 m/s	NNW26.2	NW24.7	NW23.6	NW31.0	—	NW22.7	NW20.3
1時間降水量の最大mm	7.8	8.9	9.0	8.7	8.1	6.6	7.0

昭和32年（1957年） 6月26日～28日 暴風雨（低気圧、梅雨前線）

25日夜台湾北部に上陸後、東支那海に入った台風5号は、27日朝九州西方海上において上海附近より東進して来た低気圧と合併して温帯低気圧となり、西日本から関東地方にのびる梅雨前線を東進して、27日夜半関東東南部に達し、28日早朝銚子沖に抜けた。一方、台風の台湾通過と共に本州の南海上から北上した梅雨前線によって、26日夜半から降出した雨は、低気圧の接近するに従い時々大降りとなり、28日朝まで続いた。27日の雨量が特に多い。また低気圧は本県北部を通過したので27日夜半から28日早朝にかけ暴風となった。

郡 市 別 被 害 表

県警本部調

種別 都市別	死 者	家 全 壊	家 半 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	非 住 家 被 害	田 流 埋 町	田 冠 水 町	畑 冠 水 町	道 路 損 壊	橋 破 損 壊	堤 防 決 壊	崖 崩 壊	鉄 軌 被 害	通 信 被 害	罹 災 世 帯	罹 災 者
千葉市	—	—	1	2	299	1	—	284	—	2	—	—	—	—	—	3	不明
市川市	—	—	—	10	33	—	—	18	5	—	—	—	—	—	—	10	45
船橋市	—	—	—	—	68	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
松戸市	—	—	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佐原市	—	1	—	—	40	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
木更津市	—	—	—	—	91	—	—	455	—	—	—	—	—	—	—	—	—
成田市	1	1	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	1	7
八日市場市	—	—	—	—	3	—	—	134	—	—	—	—	—	—	—	—	—
佐倉市	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	不明
東金市	—	—	—	—	—	—	—	31	51	1	—	—	—	—	—	—	—
旭市	—	—	—	—	—	—	—	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—
市原郡	—	1	—	48	238	—	1	406	—	6	—	—	—	—	—	49	188
印旛郡	—	—	2	—	2	—	—	320	—	—	—	—	1	—	—	—	—
長生郡	—	—	—	1	1	—	—	929	130	2	—	—	—	1	—	1	4
山武郡	—	—	—	—	159	—	—	151	—	1	—	1	12	1	2	—	—
香取郡	—	1	—	—	—	1	—	30	—	1	—	—	—	—	—	1	9
匝瑳郡	—	—	—	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
君津郡*	—	1	—	—	187	—	2	390	—	16	6	2	22	2	—	1	4
夷隅郡	—	—	—	—	37	—	—	583	5	1	—	1	3	—	—	—	—
安房郡*	—	—	1	—	—	—	2	150	—	5	1	3	4	—	—	—	—
合 計	1	6	4	61	1177	2	5	3983	191	36	7	7	42	4	2	67	

*印は 富崎測候所大雨概報による。

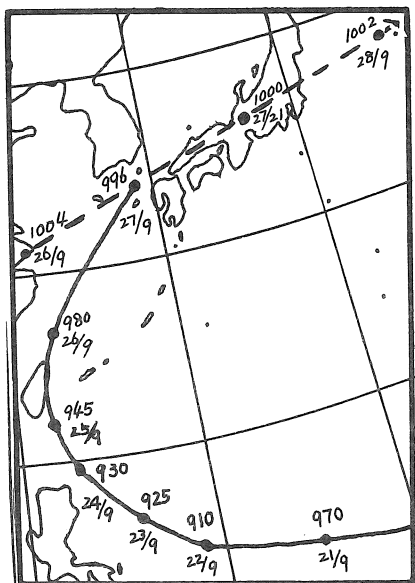
国鉄千葉管理局管内線路関係被害件数 軌道1、線路4、築堤4、路盤5、切取17。

(銚子測候所 大雨概報)

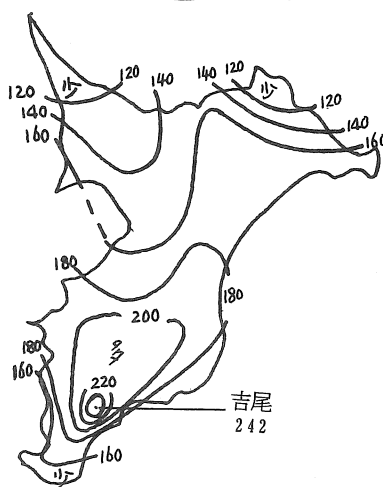
この暴風雨による被害は関東以西に多く、被害総計は死者30人、行方不明23人、負傷者33人、家屋全壊62戸、半壊127戸、流失46戸 その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		1002.0	1001.9	1000.8	999.6	997.4	1000.9	1000.8
最大風速 m/s		SSW 20.5	SSW 14.5	SSW 21.4	SSW 18.4	SSW 23.1	E 8.2	E 7.6
最大瞬間風速 m/s		SSW 27.6	SSW 22.7	SSW 24.6	SSW 21.5	—	E 10.0	—
1時間降水量の最大mm		27.4	29.9	23.0	34.6	21.1	23.3	—

1957年6月
台風5号経路図



1957年6月26～28日
降水量分布図



昭和32年 (1957年) 7月22日～23日 大雨(低気圧梅雨前線)

22日朝四国附近に発生した弱い低気圧は本州南岸に横たわる梅雨前線を東進し、23日朝房総南部を経て三陸沖に去った。この為22日夕刻より降り出した雨は房総半島東部において大雨となり、23日朝まで続いた。雨量は県北西部20～30mm、房総西部10～20mm、房総東部100～120mmで、夷隅郡及び山武郡の一部に被害を生じた。

大多喜町の被害 夷隅川氾濫、床上浸水2戸、床下浸水13戸、道路損壊8ヶ所、鉄道被害2ヶ所、橋梁流失2、水田冠水4町歩、畑冠水1町歩。

夷隅町の被害 水田冠水 5.5 町歩、土砂崩 2 ケ所。

成東町の被害 水田冠水 2.0 町歩、崖崩 2 ケ所。

(以上千葉日報)

昭和32年 (1957年) 9月6日～8日 暴風雨(台風10号・前線)

6 日午後九州南部に上陸、四国及び岡山県を経て日本海に入った台風10号は、7 日夜半北陸の沖合を通過し、秋田沖に至って温帯低気圧となり、青森県北部を通って太平洋側に抜け千島方面に去った。一方、台風の九州接近と共に本州の南海上より北上した前線によって6 日早朝より降り出した雨は、時々大降りとなり8 日早朝まで続いた。また台風の接近によって7 日夕刻より暴風となり8 日正午頃まで続く。

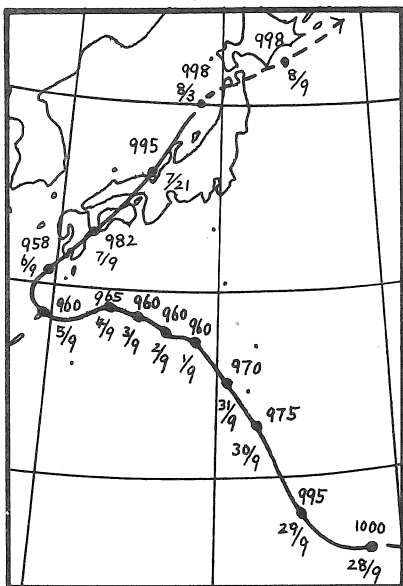
千葉県警調査による被害 床下浸水10戸(大原)、非住家被害1棟(千葉)、道路損壊5ヶ所(東金、丸山、和田、長狭、鴨川)、崖崩れ1(峰上)。

農業技術課調べによる被害 水稻倒伏12365町歩、予想減収20650石。水田冠水312町歩。草花苗床被害90町歩、損害推定2億5千万円(江見、和田)。

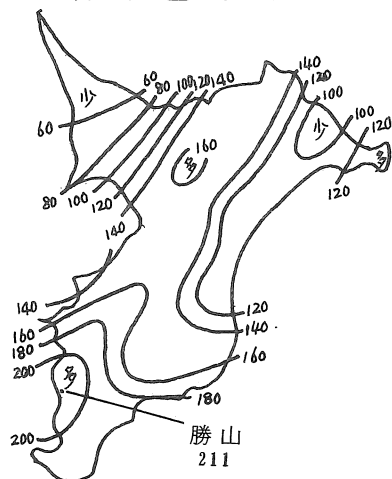
(銚子地方气象台 大雨速報)

この台風による被害は関東以西、殊に九州四国に多く、被害総計は死者13人、行方不明14人、負傷31人、家屋全壊1116戸、半壊1457戸、流失27戸、その他に上る。

1957年8～9月
台風10号経路図



1957年9月5～7日
降水量分布図



気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	1006.2	1006.2	1006.6	1006.3	1005.7	1004.5	1004.4
最大風速 m/s	SSW19.3	SSW11.3	SSW17.1	SSW17.9	S 18.0	SSW12.5	SSW10.5
最大瞬間風速 m/s	SSW23.3	SSW16.6	SSW22.8	SSW21.0	—	SSW22.3	S 12.3
1時間降水量の最大mm	35.7	44.9	27.4	20.7	33.2	12.9	11.6

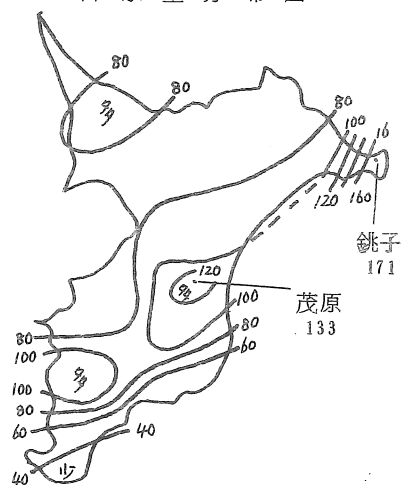
昭和32年（1957年）10月6日 大雨（前線・低気圧）

3日朝台湾北東海上に発生した低気圧は四国沖から北々東に進み、6日午後大阪附近を経て日本海に抜けた。この低気圧に伴った前線は6日午後より閉塞し始め、閉塞前線の先端に当たる閉塞点は可成の雨を伴いながら東海地方を東進して、21時頃千葉県に達し、新たに低気圧が発生した。この為6日朝から降り出した雨は午後より強くなり、夕方からは雷雨となって夜半に止んだ。特に銚子附近では21時20分より22時20分までの1時間に111.6mmという豪雨を記録した。風は内陸では弱かったが外房では夕刻より夜半前まで暴風となった。

千葉県の被害 房総西線上総湊一竹岡間において土砂崩れの為列車が脱線転覆し死者2人、負傷6人を出した。床上浸水126戸（銚子）、床下浸水792戸（うち銚子776、市原13）田、畑、冠水3町歩、道路破壊26ヶ所（うち君津3、市原2、長生2）、橋梁流失1（夷隅）。山崩れ2ヶ所。

（銚子地方气象台 大雨概報）

1957年10月6日
降水量分布図



昭和32年（1957年）12月13日 暴風・高潮（低気圧）

黄海から朝鮮南部を経て、13日早朝日本海に入った低気圧は発達しながら北東に進み、午後奥羽北部を横断して太平洋側に抜け千島方面に去った。この為13日早朝から午後まで台風なみの暴風となった。雨量は県北西部で30mmに達したが、その外は10mm内外に止る。

千葉県の被害 負傷2人、家屋半壊2戸（成東）。浦安町では高潮のため境川が氾濫し床上浸水5戸、床下浸水1200戸を出し、海苔2万冊が全滅して損害3億円と推定さる。貝取舟（5トン）沈没1隻（成東）海苔取舟大破8隻（習志野）。

東京電力千葉支店管内の被害 電柱倒伏17本、傾斜7本、高圧断線7ヶ所、同混線2ヶ所、引込線切断500ヶ所（主として銚子、館山）、塩害による高圧電柱腕木の焼損33本。（以上朝日新聞）

被害は全国に及び死者14人、行方不明29人、負傷156人、家屋全壊255戸、半壊964戸、一部破損14693戸 その他に上る。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	993.9	994.7	993.0	990.7	991.0	990.3	990.7
最大風速 m/s	SW26.1	SW15.8	SSW28.2	SW24.5	SSW22.9	SSW13.7	SSW10.7
最大瞬間風速 m/s	SSW35.2	SW23.8	SSW32.1	SSW34.8	—	SSW23.7	SSW14.2
1時間降水量の最大mm	5.2	9.6	4.9	2.6	1.1	3.6	16.8

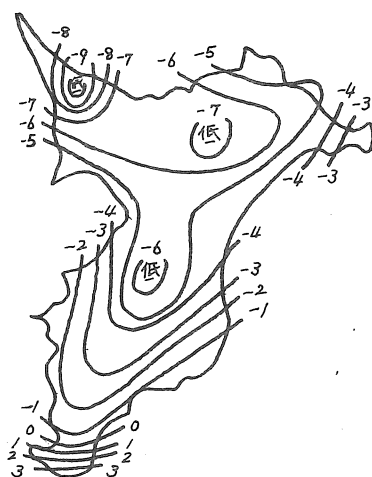
昭和33年（1958年）3月4日 凍霜害

大陸高気圧の張出しによつて関東地方は4日朝の冷え込みが強く、千葉県及び茨城県に凍霜害を生じた。

最低気温は房州南部を除いて零度以下に降り、県北部及び内陸では平年より7～8℃低く、麦類2560町歩が被害を受け、908トンの減収が見込まれた。

（日本気象災害年表）

1958年3月4日
最低気温分布図（℃）



〔参考〕 植物の凍霜害 (1)

寒候期の夜間には、地上の物体は熱を放射して冷却し、霜を結ぶ。霜を結ぶのは、明け方の気温（地上約1.5mの高さの温度と定義されている）が4～5℃より低くなり、地面付近では0℃以下になる場合である。

夜間の冷却に伴い、植物体温が0℃以下になると凍霜害が起る。特に、暖気が続いた後に強い夜間冷却が起つた時の凍霜害がひどい。

昭和33年（1958年）3月28日～31日 凍霜害（雪・低温）

3月上旬末から下旬半ばすぎまで高温に経過し、4月中頃の暖かさであったが、27日午前寒冷前線の通過と共に気温が低下し、28日午後より降り出した雨は、大陸の冷い高気圧の張出しによつて夜半から雪となった。雪は29日午前中に止み晴天となったが、雪と共に押寄せた寒気は31日まで続き、夜間の冷却と相俟って農作物に大きな凍霜害を与え、損害は22億と推定された。（銚子地方気象台 凍霜害概報）

農作物被害

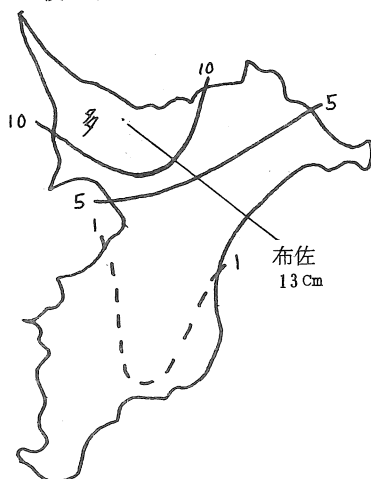
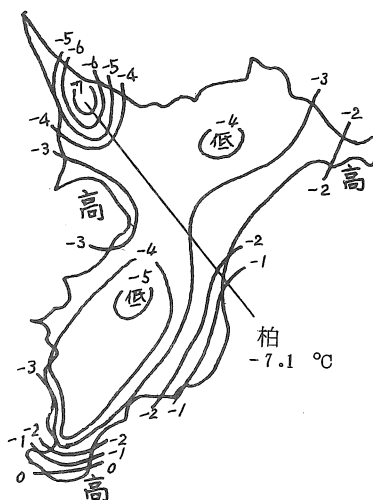
4月11日現在

県農林部調

作物名	被害 被害面積	被害程度別内訳					収換 稈皆無 面積
		30%以下	30~50%	50~70%	70~90%	90%以上	
苗代	70000坪	70000坪	—	—	—	—	3500坪
麦類	40372町	10281町	7700町	10149町	11589町	654町	21257町
そさい	2587〃	1627〃	890〃	70〃	—	—	723〃
果樹	115〃	57〃	48〃	10〃	—	—	222〃
草花	65〃	8〃	155〃	155〃	14町	12町	39〃
菜種・茶等	4628〃	1518〃	2245〃	865〃	—	—	1726〃
燕麦・牧草等	529〃	356〃	153〃	4〃	16町	—	146〃

被害は君津郡 富津 大佐和において著しい。

この凍霜害は北海道、東北を除く、殆ど全国に及ぶ。

1958年3月29日9時
積雪分布図 (Cm)1958年3月31日
最低気温分布図

昭和33年（1958年）5月～6月 旱害

4月から5月中旬まで雨量が少く早魃気味のところ、5月下旬から6月上旬にかけては雨らしい雨がなく、一時は田植の出来ないところ、植付しても成育不良のところが水田総面積の28%(24080町歩)にも達し、利根川下流では海水の逆流によって塩害が起り、水稻以外の全農作物にも影響が現われた。この旱害は6月4日、7～8日、11日の雨によって一応危機を脱することが出来た。

新聞記事による旱害の状況

- 5月 4日 茂原地方 雨降らず植付できぬ
- 5月29日 香取地方 塩害で水田枯れだす。
- 5月30日 香取地方の塩害水田1000町歩

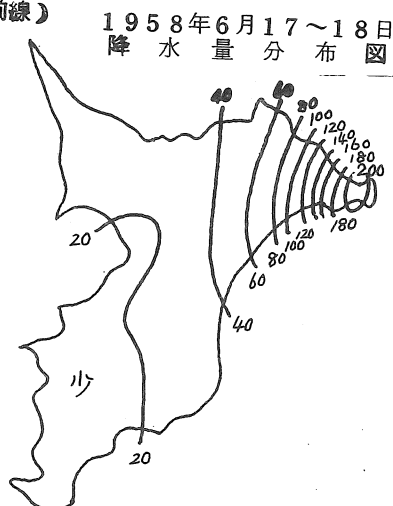
- 県下の田植未了面積 3 0 0 0 町歩、特に九十九里一帯がひどい。
- 6 月 1 日 利根川の濁水新記録、海水が逆流し水郷でカレイが釣れる。
旱害は水稻以外の全農作物にも影響、茂原市の一般家庭も水不足。
山武郡の旱害ふえる、1 5 0 0 町歩が枯死寸前。
- 6 月 5 日 長生地方の水田 1 6 % (1 2 7 7 町歩) が枯死寸前、君津都市 9 0 0 町歩植付できず。
- 6 月 1 9 日 大利根の塩害地帯 1 8 日の雨で一安心。

(以上 朝日新聞)

昭和33年 (1 9 5 8 年) 6 月 1 8 日 局地大雨 (梅雨前線)

オホーツク高気圧が東日本に張出し、本州南岸には梅雨前線が停滞した為 1 7 日午後より 1 8 日夜半まで雨となる。特に銚子附近では 1 8 日朝より正午すぎまで豪雨となり、8 時 2 0 分より 9 時 2 0 分までの 1 時間雨量は 4 7 mm に達し、降り始めから降り終りまでの総雨量は 2 0 0 mm となって市内各所に被害を生じた。この雨は銚子附近を除いては旱天の慈雨であった。

銚子市内の被害 床上浸水 1 7 戸、床下浸水 9 6 戸、路上冠水 5 ケ所、道路損壊 4 ケ所、田冠水 5 町歩、鉄道線路冠水約 7 0 0 m、市内バス運休。(銚子地方気象台 大雨概報)



昭和33年 (1 9 5 8 年) 7 月 2 0 日 ~ 2 3 日 暴風雨 (台風 1 1 号)

九州南海上より北東に進んだ台風 1 1 号は 2 3 日 6 時御前崎をかすめて静岡県に上陸、1 0 時頃熊谷附近、1 5 時頃仙台附近を経て三陸沖に抜け、千島方面に去った。この為 2 3 日早朝より夜半まで暴風となる。台風通過に伴う雨は 1 0 ~ 5 0 mm で比較的少なかったが、2 0 日正午頃より前線の影響で降り出した雨は、台風の北上によって時々大降りとなり、2 2 日まで 3 日間の雨量は県南部で 2 0 0 ~ 2 5 0 mm、北部で 5 0 ~ 1 0 0 mm に達し、被害について暴風被害を生じた。

千葉県被害状況

2 3 日 1 7 時現在

県警本部調

被害種別	件 数	被害種別	件 数	被害種別	件 数
負 傷 者	5 人	田 冠 水	5 4 4 町歩	通 信 被 害	2 0 回線
家屋 全 壊	5 戸	畑 冠 水	3 3 1 "	木 材 流 失	5 石
" 半 壊	6 "	道 路 破 損	8 7 ケ所	船 舶 沈 没	2 隻
" 一部破損	1 1 3 "	橋 梁 流 失	1 "	" 流 失	3 "
床 上 浸 水	2 7 "	堤 防 決 壊	2 "	" 破 損	6 "
床 下 浸 水	3 7 4 "	崖 崩 れ	5 "	罹 災 世 帯 数	4 0 戸
非 住 家 破 損	8 7 棟	鉄 道 被 害	6 "	罹 災 者 概 数	2 0 2 人

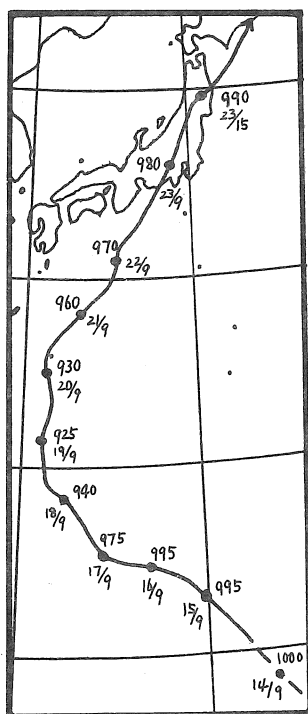
そ菜類は夏作から秋作への転換期に当り、被害は少なかったが、葉煙草及び桃、梨等の園芸作物の被害が大きく、2 億円に上る損害が見込まれた。

(銚子地方気象台 台風 1 1 号速報)

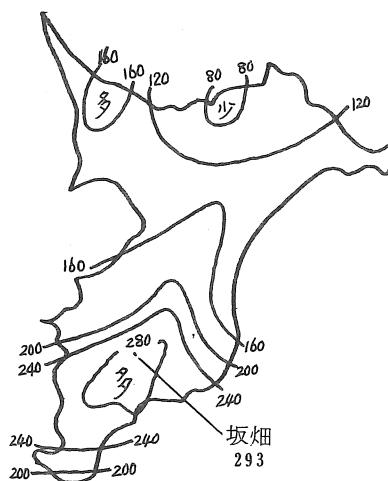
この台風による被害は東海、関東、東北、北海道に及び、被害総計は死者26人、行方不明14人、負傷64人、家屋全壊106戸、半壊159戸流失33戸 その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		991.1	992.0	994.0	993.4	990.2	989.3	988.8
最大風速 m/s		S 27.0	S 16.6	S 29.2	SSW 24.1	SSW 23.9	SSW 17.4	SSW 21.1
最大瞬間風速 m/s		S 45.4	S 24.0	S 35.2	SSE 32.7	—	SSW 28.7	SSW 23.9
1時間降水量の最大mm		28.8	42.8	36.8	33.0	18.7	25.7	30.8

1958年7月
台風11号経路図



1958年7月20～23日
降水量分布図



昭和33年（1958年）9月16日～18日 暴風雨（台風21号）

14日沖縄南方海上から北東に進んだ台風21号は三浦半島を横断して東京湾に入り、18日8時40分頃京葉間に再上陸して本県北部を通り鹿島灘に抜けた。この為18日朝より正午すぎまで暴風となる。一方15日より17日にかけて満州からオホーツク海に移動した低気圧に伴う前線が関東地方に接近し、15日頃より降り出した雨は台風通過の18日正午頃まで続いた。17日の雨量がやや多い。

千葉県被害状況

19日12時現在 県警本部調

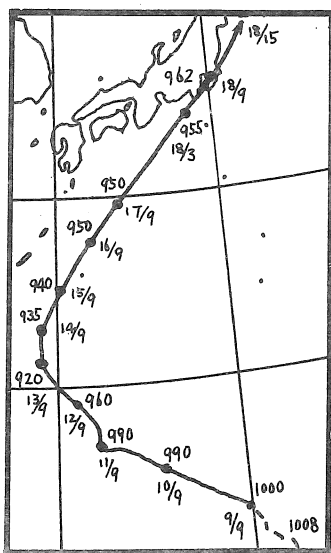
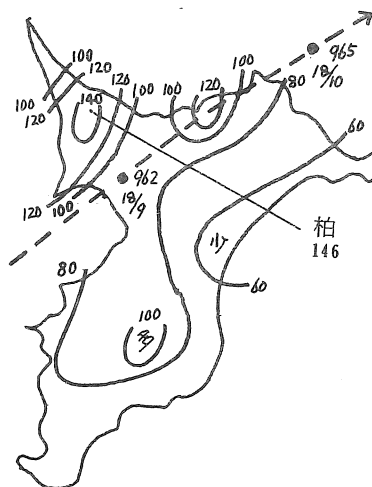
被害種別	件数	被害種別	件数	被害種別	件数
死者	4人	非住家被害	1091棟	鉄道被害	4ヶ所
負傷者	28〃	田流失	9町歩	通信被害	820回線
行方不明	1〃	〃冠水	1451〃	木材流失	148石
家屋全壊	114戸	畑流失	5〃	船舶沈没	6隻
〃半壊	259〃	〃冠水	293〃	〃流失	11〃
〃流失	4〃	道路損壊	34ヶ所	〃破損	146〃
床上浸水	135〃	橋梁流失	1	その他の船	74〃
床下浸水	420〃	堤防欠壊	24ヶ所	罹災世帯	432戸
家屋一部破損	3401〃	崖崩れ	4〃	罹災者概数	1,872人

上表の外水陸稲被害12000町歩、減収5500トン、野菜類2800町歩、減収9500トン、

(銚子地方気象台・台風21号速報)

この台風による被害は関西、関東、東北に及び、被害総計は死者25人、行方不明47人、負傷111人、家屋全壊264戸、半壊526戸、流失126戸その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		962.7	963.9	965.4	965.8	964.1	964.8	965.4
最大風速 m/s		SW30.2	SE24.8	S 33.9	S 32.0	W 24.1	SE20.8	W 15.8
最大瞬間風速 m/s		S 49.4	SE29.6	SSW40.3	SSE44.8	—	SE32.2	E 20.5
1時間降水量の最大mm		11.7	14.5	11.8	10.1	21.5	18.0	24.3

1958年9月
台風21号経路図1958年9月16～18日
降水量分布図

昭和33年（1958年）9月26日～27日 暴風雨（狩野川台風）

本州南方海上より北上した台風22号は、26日21時頃伊豆半島南端をかすめ、27日0時頃江の島附近に上陸して京浜地方を通り、2時頃筑波山附近を経て福島県相馬沖に抜け北海道方面に去った。この台風は狩野川を中心とする伊豆半島一帯に死者、行方不明1000人に上る大被害を生じ狩野川台風と命名された。

本県では26日夕刻より27日早朝まで暴風となる。雨は本州南岸に停滞した前線によって21日頃より続いたが26日夜半に止む。26日の雨量が特に多く北西部及び南部山地では200～360mmに達した。

水害の甚だしい市川、千葉、船橋、佐原の4市に初めての災害救助法が発動された。

千葉県被害状況

29日現在 県警本部調

被害種別	件数	被害種別	件数	被害種別	件数
死者	13人	非住家被害	211棟	鉄道被害	42ヶ所
行方不明	2〃	田流埋	216町歩	通信被害	291回線
負傷	7〃	〃冠水	5211〃	船舶沈没	2隻
家屋全壊	43戸	畑流埋	142〃	〃流失	21隻
家屋半壊	49〃	畑冠水	662〃	船舶破損	5隻
〃流失	5〃	道路損壊	201ヶ所	その他の船	3隻
床上浸水	5845〃	橋梁流失	31	罹災世帯	5441戸
床下浸水	12257〃	堤防決壊	50ヶ所	罹災者概数	22497人
家屋一部破損	395〃	崖崩れ	360〃		

上表の外水稻の被害14億円、そ菜類5億円、花卉8億円、と報道された。

（銚子地方気象台・台風22号速報）

この台風による被害は近畿から北海道に及び静岡県が特に多い。被害総計は死者888人、行方不明381人、負傷1138人、家屋全壊1289戸、半壊2175戸、流失829戸、床上浸水13227戸、船舶沈没46隻 その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		977.1	978.8	983.1	984.7	977.2	976.0	973.2
最大風速 ms		SSW34.1	SSW19.9	S 25.2	S 22.8	SSW25.5	NE20.2	SE18.7
最大瞬間風速 m/s		SSW43.5	SSW26.9	SSW34.0	SSW27.9	—	NE32.9	SE23.7
1時間降水量の最大mm		64.8	51.5	35.9	19.7	50.0	38.6	66.6

部では0～2℃に低下し、農作物に凍霜害を生じた。

麦類の被害面積2800町歩、減収量600トン。（日本気象災害年表）

香取郡下総町 とうもろこし、茶、陸苗代に中程度の被害あり。（気象要覧）

昭和34年（1959年） 6月4日 雹害・落雷

4日午後関東各地に雷雨があり、降雹、落雷を伴った。本県では東葛飾郡関宿町においてピンポン玉大の雹、安房郡長狭町では直径1.5cmの雹、印旛郡印西町及び栄町では大豆大の雹が降って農作物に被害を生じた。また印旛郡栄町安食では落雷による感電死1名を出した。

関宿町 葉煙草、野菜の被害が大きい。大多喜町葉煙草に中程度の被害。（気象要覧）

長狭町 葉煙草2ha、桑1ha、が全滅、みかん畑5haが被害を受け、損害は350万円と推定された。（読売新聞）

昭和34年（1959年） 8月14日 暴風雨（台風7号）

鳥島南方より北々西に進んだ台風7号は14日6時30分頃静岡県富士川河口附近に上陸し、10時頃直江津附近より日本海に入り、沿海州東部に至って消滅した。この為13日夜半より14日朝まで暴風雨となる。この台風通過に伴う県下の雨量は20～50mmで比較的少なかったが、本州南岸に停滞した前線によって11日から13日にかけて可成の大雨があった為水害を大きくした。

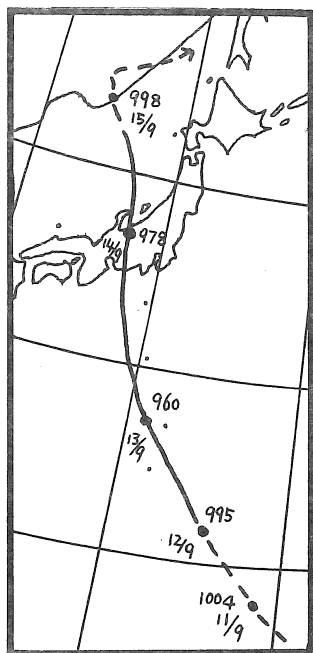
警察庁調査による千葉県の被害 家屋流失1戸、床上浸水1戸、非住家被害1棟、田冠水1085ha、畑冠水300ha、道路損壊1ヶ所、崖崩れ1ヶ所、通信被害23回線、小船流失1隻、罹災世帯2戸、罹災者7人。（気象要覧）

その他 水陸稲被害10000町歩、減収8500トン。県農地農林部の調査によれば水稻損害3億円、青果、切花類、2千万円と報告された。

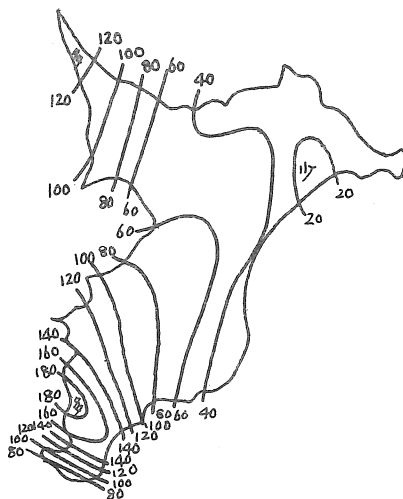
この台風による被害は近畿、東海、北陸、関東に及び、特に山梨、長野、静岡の被害が大きい。被害総計は死者188人、行方不明47人、負傷1528人、家屋全壊3322戸、半壊10139戸、流失767戸その他に上る。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	993.1	993.6	996.9	998.7	996.1	996.6	995.9
最大風速 m/s	S 19.3	ESE 16.5	SSW 16.5	SE 19.9	ESE 17.3	SE 15.5	S 13.5
最大瞬間風速 m/s	SSE 28.2	ESE 23.3	SSW 27.5	SE 26.7	ESE 26.5	SE 22.7	E 18.0
1時間降水量の最大 mm	14.5	15.5	7.4	9.5	11.5	4.7	9.5

1959年8月
台風7号経路図



1959年8月11～13日
降水量分布図



昭和34年（1959年）9月26日～27日 暴風雨（伊勢湾台風）

本州南海上より北上した台風15号は26日18時すぎ潮岬附近に上陸、21時頃名古屋市の西方50Km附近を通過、24時頃富山市附近より日本海に入り、衰えながら北上して秋田西方海上に達し27日朝宮古附近に発生した副低気圧に勢力を移して三陸東方洋上に去った。この台風は伊勢湾一帯に暴風と高潮による未曾有の大災害を生じた為伊勢湾台風と命名された。

本県では26日夕刻より27日午後まで暴風となる。雨は台風の北上に伴って本州南岸に近づいた前線によって24日夜より降り出し、27日早朝に止んだ。24日夜より25日朝までの雨量が殊に多く、九十九里沿岸では160～200mmに達した。

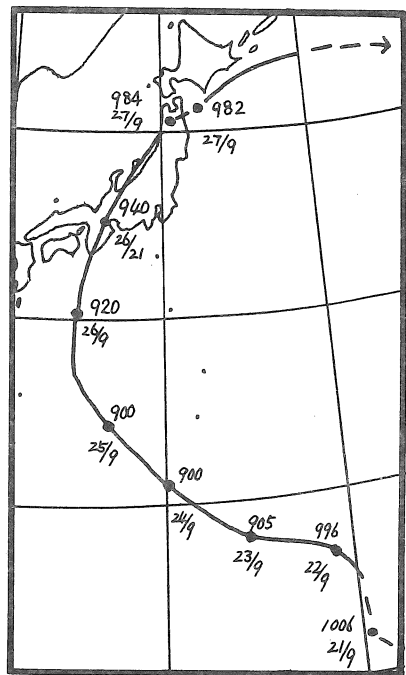
警察庁調査による千葉県の被害 死者1人、負傷3人、家屋全壊5戸、一部破損164戸、床下浸水182戸、非住家被害36棟、田冠水59ha、畑冠水20ha、道路損壊22ヶ所、橋梁流失3、崖崩れ4ヶ所、通信被害211回線、船舶流失1隻、破損2隻、ろかい等による舟3隻、罹災世帯5戸罹災者34人。（気象要覧）

この他水陸稲の被害12000町歩、減収4000トン。甘藷1500町歩、減収1700トン。県下農作物の損害は3億3千万円に上るものと推定された。

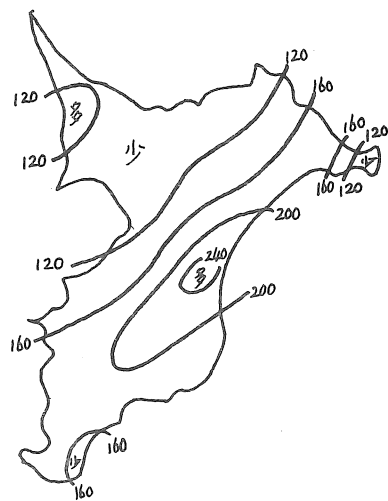
この台風による被害は九州を除く全国に及び、特に愛知、三重、岐阜の被害が大きい。被害総計は死者4697人、行方不明401人、負傷38921人、家屋全壊36135戸、半壊113052戸、流失4703戸、船舶沈没1136隻、流失1295隻 他に上る。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	993.7	993.7	994.0	993.2	991.3	990.5	990.2
最大風速 m/s	SSW29.9	SSW17.4	SSW24.7	SSE24.4	SSW23.8	S 16.8	SSW19.3
最大瞬間風速 m/s	SSW39.0	SSW25.0	SSW30.7	SSE29.0	SSW30.0	S 30.2	SSW28.8
1時間降水量の最大mm	27.2	37.6	41.3	12.4	5.9	12.3	23.2

1959年9月伊勢湾台風経路図



1959年9月24～26日
降水量分布図



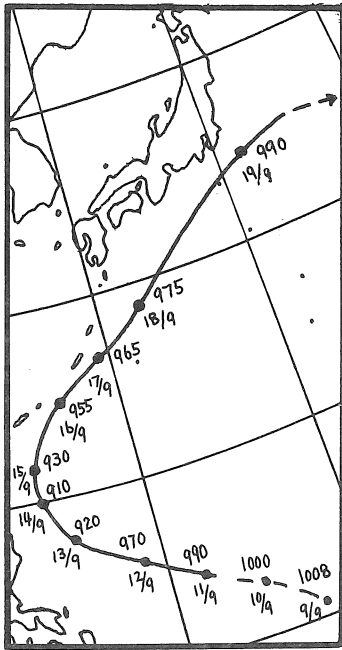
昭和34年（1959年）10月18日～19日 暴風雨（台風18号）

バシー海峡東方において転向した台風18号は琉球列島に沿って北東に進み、東海道沖を通過して19日朝房総沖に達し、衰えながら東方洋上に去った。この為18日夕刻より19日夕刻まで風雨となる。最大風速は銚子において21 m/sに達したほかは10～15 m/s、雨量は40～80 mmで被

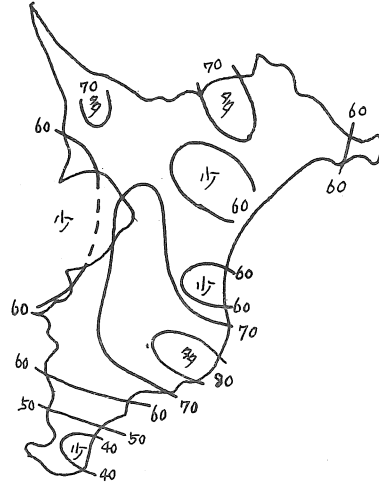
害は軽微であった。

千葉県被害 負傷1人、床上浸水1戸、床下浸水5戸、崖崩れ2ヶ所。(気象要覧)

1959年10月
台風18号経路図



1959年10月18～19日
降水量分布図



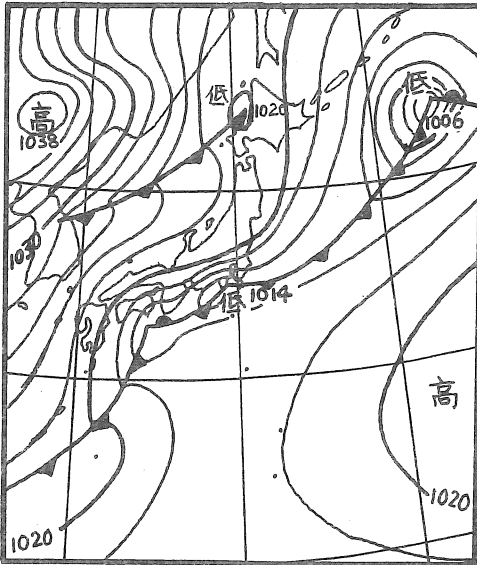
昭和34年 (1959年) 11月25日

漁船遭難(低気圧)

日本海を通過した低気圧に伴い、銚子附近には24日午後より10^m/s内外の強風が吹いていたが夜半より次第に弱くなったので25日朝にはアグリ船70～80隻が銚子沖10^m附近において操業していた。しかし東海道沿岸を東進していた小さな低気圧が房総半島に接近し25日9時30分頃より再び風が強くなり、これらの漁船は一斉に帰港したが、11時45分頃銚子川口一の島灯台附近において第5七五三丸(29トン)の乗組員1人が大波にさらわれ、12時5分には殆ど同じ場所において第5幸辰丸(33トン)が転覆し、乗船者34人(乗組員18人、応援者16人)のうち死者2人、行方不明26人を出した。(朝日新聞、千葉日報)

銚子における最大風速は18.4^m/s、最大瞬間風速は21.9^m/s(何れも11時45分頃)であった。

1959年11月25日9時
地上天気図



〔参考〕 銚子川口の遭難

「阿波の鳴門か 銚子の川口 伊良湖渡合が恐ろ
しや」といわれたように、利根川の河口は昔から船
乗りの恐れていた所である。地元では「川口のテン
デンしのぎ」と云い、自分の船を操るだけが精一つ
ばいで、よその船のことは構ってられないという
意味である。

昭和34年11月25日には第五幸辰丸の遭難が
あつたが、昭和43年12月19日にも第一稲荷丸
(60トン、23人乗組)が遭難し、死者行方不明
14人を出した。何れも茨城県波崎の漁船であつた。

昭和35年 (1960年) 5月24日 津波(チリ地震津波)

23日4時11分(日本時間)ごろ南米チリ沿岸(41°S , 73.5°W)にて $M=8\frac{3}{4}$ の大地震が発生し、これに伴う津波は大太平洋を横断して約22時間後の24日2時40分ごろ本邦沿岸に達し、北海道、三陸沿岸をはじめ太平洋岸各地に被害を与えた。

本県における津波の最高は朔望時の平均の満潮位より高きこと銚子153cm、布良67cm、東京9cmで、銚子では第4波、布良では第7波、東京では第2波の高さが最も高く、これらは何れも満潮時を1.5～2時間すぎた5時9～32分の間に起った。津波の周期は太平洋岸では不規則で10～50分、東京湾の奥では比較的規則正しく50～80分であった。津波による被害は24日早朝に九十九里浜を中心として銚子一勝浦の間と木更津、天羽附近に起り、木更津、天羽では17時頃の満潮時にも再び津波の侵入があった。

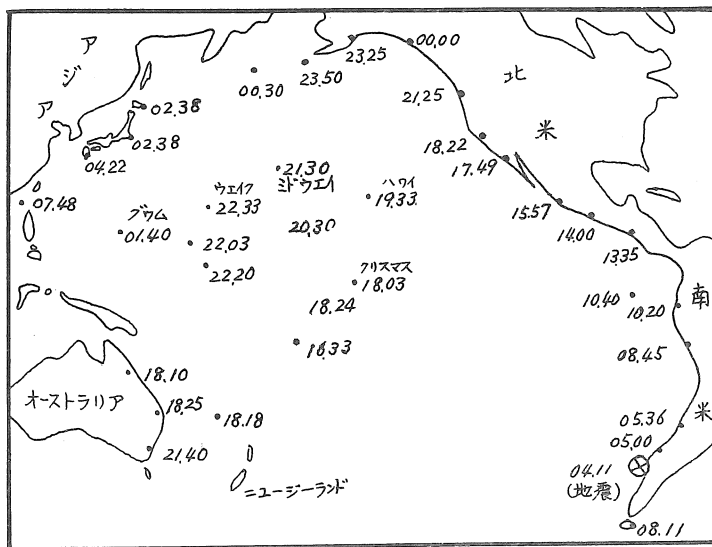
警察庁調べによる本県の被害 死者1人(銚子)、負傷2人、家半壊11戸、非住家被害3棟、床上浸水2戸、床下浸水86戸、道路損壊2ヶ所、橋梁流失1(白子)、田冠水137ha、畑冠水36ha、木材流失10m³、船舶沈没4隻、大破26隻、ろかいによる舟2隻、罹災世帯13戸、罹災者55人。(気象要覧) 造林地被害68ha。(千葉日報)

この津波による被害は三陸、北海道、紀州、四国、九州南部に多く、被害総計は死者119人、行方不明20人、負傷872人、家屋全壊1571戸、半壊2183戸、流失1259戸、船舶沈没94隻、流失1036隻 その他に上る。

千葉県沿岸における津波の状況

観測所	第1波の初動 開始時刻	最高潮位	
		起 時	朔望平均満潮位 上の高さ
銚子(名洗)	02 ^h 42 ^m	05 ^h 32 ^m	153 ^{cm}
布 良	02 38	05 09	67
東 京	03 25	05 22	9

津波のおこった時刻(時分) 5月23～24日(日本時)



昭和35年(1960年) 8月20日～21日 暴風雨(台風14号)

20日朝八丈島南西において北東に転向した台風14号は、20日夜房総沖を通り、21日朝福島県東方沖合に達したが、ここより東南東に進み23日朝銚子東方約1200Kmに至って反転し、進路を西から北に変えながら千島南部に至って衰弱した。この為20日午後より21日朝まで暴風となる。雨は台風がまだ小笠原附近にあった18日夕刻より降り出して21日早朝まで続き、20日の雨量が特に多い。暴風よりも大雨による被害が多く、夷隅川の氾濫によって大水害を受けた大多喜町には災害救助法が適用された。

千葉県被害状況

8月22日9時現在 警察庁調

被害種別	件 数	被害種別	件 数	被害種別	件 数
負 傷	4 人	田流失・埋没	11ha	鉄 道 被 害	18ヶ所
家屋全壊	3 戸	田 冠 水	2555 //	通 信 被 害	311回線

家屋半壊	3 //	畑流失・埋没	20ha	木材流失	1m³
〃流失	2 //	畑冠水	63 //	船舶被害	3隻
床上浸水	691 //	道路損壊	72ヶ所	罹災世帯	699戸
床下浸水	3091 //	橋梁流失	12	罹災者	3598人
家屋一部破損	12 //	堤防決壊	11ヶ所		
非住家被害	27棟	崖崩れ	188 //		

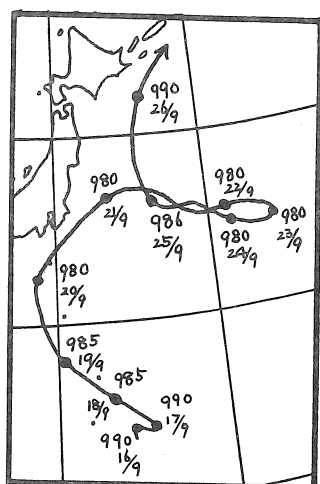
(気象要覧)

上表の被害の外 稲の倒伏、水稻11000ha、陸稲600ha、梨の落果21万Kg、甘薯、こんにゃく、桑等にも大きな被害を生じた。

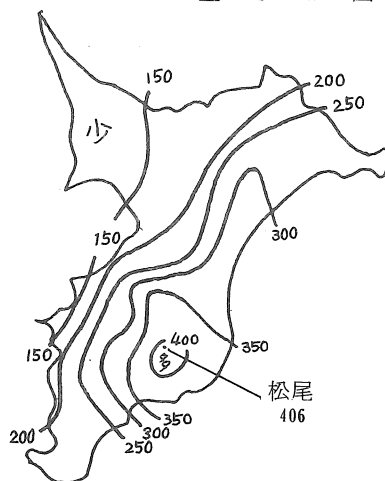
この台風による被害は千葉県が最も多く、豆南諸島と茨城県にも多少発生した。

気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb	991.0	991.7	990.1	988.6	996.2	996.9	999.0
最大風速 m/s	NNE18.8	NNE15.0	NNW17.4	N 28.1	NE15.7	NNE12.7	ENE11.2
最大瞬間風速 m/s	NNE24.6	NNE22.5	N 28.5	N 35.1	NE21.3	NNE18.1	—
1時間降水量の最大mm	33.6	26.6	48.4	28.6	19.5	9.6	11.6

1960年8月
台風14号経路図



1960年8月18～20日
降水量分布図



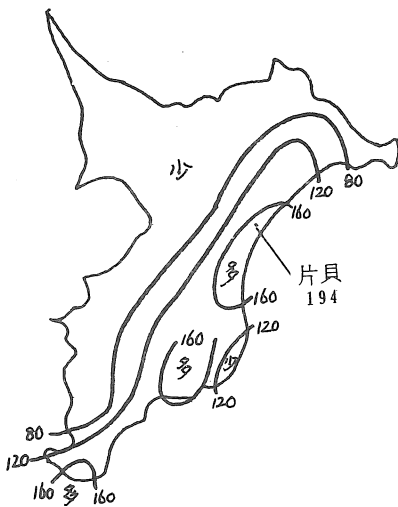
昭和35年（1960年）10月7日 水害（低気圧）

7日朝四国沖に発生した小さな低気圧は優勢な前線を伴いながら東に進み、夜半房総沖を通過、8日朝鹿島灘沖合で消滅した。この為7日朝より8日早朝まで雨となり、県東部には集中的な大雨が降った。

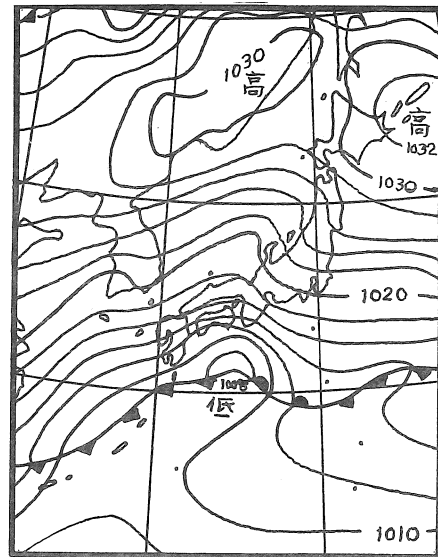
千葉県被害 床下浸水60戸（八日市場30戸、飯岡30戸）、道路損壊2ヶ所（大多喜、天津小湊）、崖崩れ1ヶ所（勝浦）、大多喜町において夷隅川が増水し工事中の木橋が損害を受けた。

（千葉日報）

1960年10月7日
降水量分布図



1960年10月7日9時地上天気図



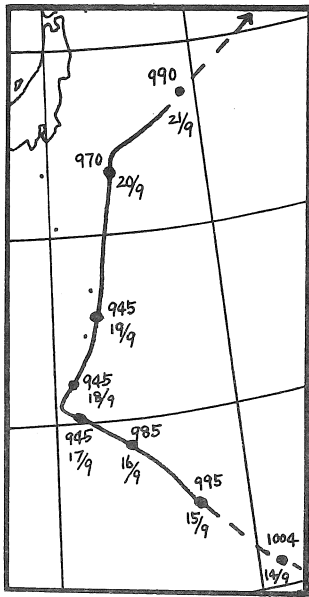
昭和35年（1960年）10月20日～21日 高波（台風24号）

小笠原方面より北上した台風24号は20日朝八丈島東方約350Km（銚子南東約380Km）において北東に向きを変え、21日朝には熱低となって三陸沖に去った。この為19日朝より21日朝まで風雨となる。陸上の風は10～20 m/s、雨量は5～30 mmで風雨による被害はなかったが、太平洋岸には20日夕刻より21日朝にかけ瞬間風速30 m/sに近い強風と共に4～5 mの高波が打寄せ被害を生じた。

千葉県被害 床下浸水47戸（銚子10、白子7、白里40）、畑冠水1.5 ha（白子）、和田一千倉間の砂防林は4～5 kmにわたり倒伏し、塩害も受けた。漁船沈没1隻、流失6隻（大原）、19日午後より銚子名洗沖に避難中の貨物船広南丸（697トン、17人乗員）は流されて旭市中谷里浜に坐礁したが、乗組員は全員救助された。（千葉日報、読売、朝日新聞）

高波による被害は福島、茨城の海岸にも発生し、家屋流失6戸、床上浸水26戸、床下浸水187戸、家屋半壊11戸、耕地塩害277 haを出した。

1960年10月
台風24号経路図



昭和35年（1960年）10月27日

水害（台風25号）

25日沖の鳥島西方において北東に転向した台風25号は、27日朝房総沖約320Kmを通りアリューシャン方面に去った。

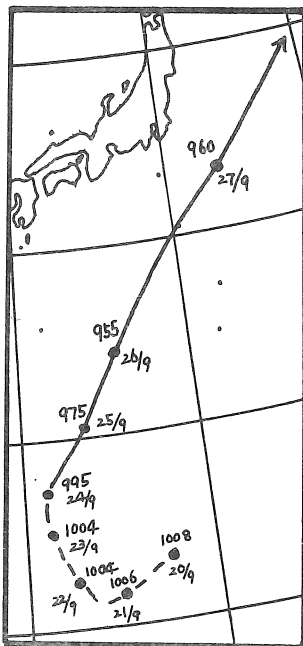
この為27日早朝より正午頃まで風やや強く（10～15 m/s）、26日午後より27日朝まで雨となる。

千葉県の被害

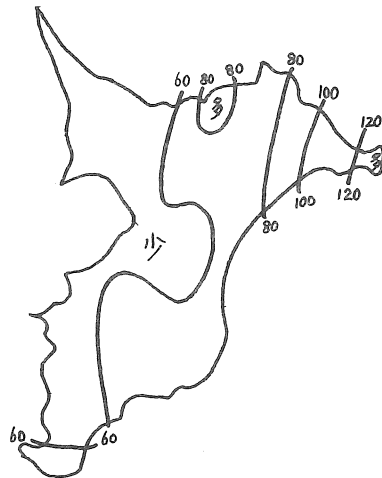
八日市場において床下浸水30戸

（読売新聞）

1960年10月
台風25号経路図



1960年10月26～27日
降水量分布図



昭和35年（1960年）11月4日 水害（低気圧）

4日朝伊豆沖に発生した低気圧は房総沿岸を通り、同夜鹿島灘において消滅した。この低気圧の通過に伴い勝浦の海上には正午頃龍巻が現われ、山武郡の白里一片貝海岸には1時半ごろから2時間にわたり雹を交じえた局所的な大雨が降って床上浸水10戸、床下浸水300戸を出した。

（読売新聞）

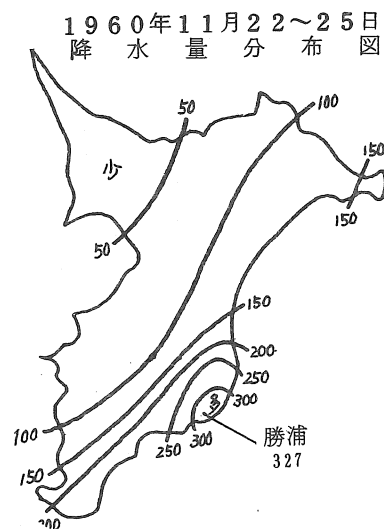
昭和35年（1960年）11月17日 水害（発生期の低気圧）

16日夜北日本は高気圧に蔽われ、房総沿岸には低気圧が発生しかかっていた為銚子地方は16日夕刻より小雨が降り出し、17日1～2時には雷を伴った局所的な大雨となり床下浸水40戸を出し、市内の県道は30mにわたって浸水した。（読売新聞）

銚子における総雨量86mm、1時間雨量の最大32.5mm。

昭和35年（1960年）11月22日～25日 水害（低気圧）

朝鮮方面より南東に進み、23日朝紀州沖に達した低気圧は24日午前房総沖を通り、三陸沖に至って消滅した。この為22日朝より25日まで雨となる。房総東岸では23日の雨量が特に多く、勝浦では24日9～12時には122mm、10時20分～11時20分には56.5mmに及ぶ大雨があった。



（千葉日報、読売新聞）

県内被害表

被害種別	地名	勝浦	御宿	大原	長者	鴨川	八市	日場	飯岡	長南	その他	合計
家屋半壊		1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
床上浸水		—	3	47	—	—	—	—	—	—	—	50
床下浸水		30	19	644	7	15	16	42	7	—	—	780
非住家被害		1	1	1	—	—	1	—	—	—	1	5
道路損壊		4	1	2	—	—	—	—	—	—	2	9
橋梁流失		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
山(崖)崩れ		1	—	—	—	—	1	—	—	—	7	9
鉄道被害		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1
通信被害		—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1

昭和36年（1961年） 4月2日 突風（寒冷前線）

日本海より南下した優勢な寒冷前線の通過に伴い 2日 11～15時の間県下各地に瞬間風速15～22 $\frac{m}{s}$ に達する突風があり、銚子では大豆大の雹も降った。

本県の被害 家屋一部破損2戸（酒々井）、納涼台倒壊2棟（千葉）、送電線切断7ヶ所、通信施設被害15回線、夏みかん落果約50トン（安房郡 長狭、鴨川、江見）。（読売新聞）

昭和36年（1961年） 6月27日～28日 水害（昭和36年梅雨前線豪雨）

24日四国及び紀南に始った梅雨前線による豪雨は、25～26日には近畿、東海に移り、27～28日には中部から関東え、29～30日には越後から山陰へと順次移動し、7月に入ってから3日から5日にかけて奥羽西部、北陸、山陰、九州に豪雨があった。この豪雨は40都府県にわたって水害を越した為「昭和36年梅雨前線豪雨」と命名された。

本県では5月下旬より6月中旬までの雨量は平年の50～70%で旱魃による被害が憂慮されていたところ、23日より降出した雨は29日まで続き、関東地方が豪雨域に入った28日の雨量が特に多く、君津郡一帯は日雨量300 mm に達した。この為安房郡長狭町は加茂川の氾濫によって大水害を受け、災害救助法が適用された。この外養老川、小櫃川、夷隅川、一の宮川の氾濫による流域各地の水害も大きい。

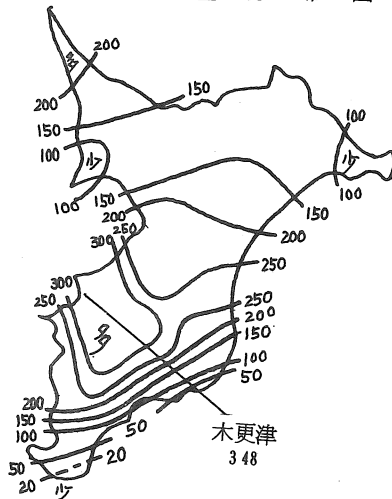
警 察 管 内 別 被 害 表

県 警 本 部 調

種 別 署 別	死 者 人	行 方 不 明 人	負 傷 人	家 屋 全 壊 戸	家 屋 半 壊 戸	家 屋 流 失 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	非 住 家 被 害 棟	田 流 埋 ha	田 冠 水 ha	畑 冠 水 ha	道 路 損 壊 ヶ 所	橋 梁 流 失 ヶ 所	堤 防 決 壊 ヶ 所	崖 崩 れ ヶ 所	鉄 道 被 害 ヶ 所	通 信 被 害 回 線	船 流 失 隻	船 破 損 隻	罹 災 世 帯 戸	罹 災 者 人
千 葉	—	—	—	—	1	—	3	206	—	—	32	4	4	—	—	6	4	9	2	—	4	17
船 橋	—	—	—	—	—	—	10	77	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	105
松 戸	—	—	—	—	—	—	—	157	—	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
野 田	—	—	—	—	—	—	5	47	—	—	165	—	1	—	—	—	—	—	—	—	5	25
柏	—	1	—	—	—	—	—	171	—	—	156	—	3	—	—	1	—	—	—	—	—	1
佐 倉	—	—	—	—	1	—	—	6	—	—	95	—	—	—	—	1	2	—	—	—	1	6
成 田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	160	5	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—
印 西	—	—	—	—	—	—	1	12	—	—	309	20	2	—	—	8	—	—	—	—	1	6
成 東	—	—	—	—	—	—	—	19	—	—	201	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—
東 金	—	—	—	—	—	—	—	195	—	—	237	23	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—
茂 原	1	—	1	6	2	—	78	88	1	—	786	—	6	2	1	6	—	—	—	—	85	395
一 宮	—	—	—	—	—	1	5	54	1	—	140	5	6	—	1	1	—	—	—	—	6	24
市 原	1	—	2	2	1	—	126	724	3	—	555	122	78	10	27	36	1	22	—	—	129	645
南 総	—	—	—	—	—	—	85	56	—	—	482	—	18	1	2	4	4	—	—	—	85	389
木更津	—	—	1	—	—	—	170	402	—	8	1376	12	21	3	4	15	4	9	—	—	170	648
上 総	3	—	2	2	1	1	101	101	—	32	430	5	6	3	1	18	8	7	—	—	103	535
館 山	—	—	—	1	—	1	66	288	1	2	500	22	1	13	—	3	—	—	—	—	68	237
鴨 川	—	—	—	—	—	2	410	750	—	—	895	35	—	19	—	—	—	10	—	—	461	1504
その他	—	—	1	1	1	—	5	27	—	—	134	10	9	8	—	13	1	—	—	1	6	35
合 計	5	1	7	12	7	5	1065	3380	6	42	6653	293	156	59	37	115	24	57	2	1	1144	4622

この豪雨による被害は東北地方から九州に及び、被害総計は 死者 302 人、行方不明 55 人、負傷 1320 人、家屋全壊 1088 戸、半壊 1908 戸、流失 670 戸、道路損壊 8889 ヶ所、橋梁流失 1879 その他に上る。関東では神奈川県の被害が特に大きい。

1961年6月27～28日
降水量分布図



〔参考〕 梅雨前線豪雨

梅雨期には、日雨量100ミリ以上数百ミリに達する集中豪雨の降ることが多い。特に、台風が本邦に接近しているような場合には、南方洋上の高温高湿な空気が流れ込み、前線活動を強化して雨量が多くなる。

最近、この種の集中豪雨に対し名称をつけることが行われている。命名第1号は「36.6豪雨」第2号は「39.7豪雨」、第3号は「42.7豪雨」である。

昭和36年（1961年） 8月28日 雷雨（前線）

26日 日本海にあった前線は雷雨を伴いながらゆっくり南下し、28日11時から15時にかけて千葉県を通過した。この為小見川町において落雷による感電死1人、旭町において附近落雷によるショック死1人、八日市場において床下浸水25戸を出した。（千葉日報）

昭和36年（1961年） 9月16日 暴風・高潮（第2室戸台風）

15日朝奄美大島附近において北東に転向した台風18号は、16日9時38分ころ室戸岬附近に上陸後、阪神間に再上陸し、京都、敦賀附近を経て、18時ころ能登半島より日本海に入り、17日朝樺太南部よりオホーツク海に去った。この台風は 昭和9年9月の室戸台風とほぼ同じ経路をとり再び大阪湾周辺に高潮による大被害を生じたので「第2室戸台風」と命名された。

本県では16日朝より夜半まで暴風となる。県下の雨量は1～14mmと極めて少く、そのため農作物、送電線に潮風による塩害を生じた。また東京湾沿岸には最大偏差40～72cmの高潮が押寄せ、船橋、習志野、千葉、木更津、天羽に浸水家屋があった。

警 察 管 内 別 被 害 表

県警本部調

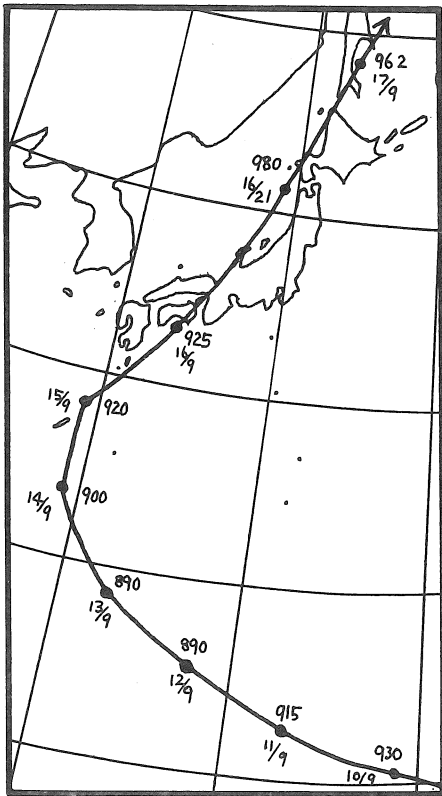
種 別 署 別	負 傷 人	家 屋 全 壊 戸	家 屋 半 壊 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	家 破 屋 一 部 損 戸	非 住 家 被 害 棟	護 岸 決 潰 ヶ 所	鉄 道 被 害 ヶ 所	通 信 被 害 回 線	船 舶 被 害 隻	罹 災 世 帯 戸	罹 災 者 人
千 倉	1	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—
野 田	1	1	—	—	—	2	2	—	—	—	—	1	6
船 橋	—	—	3	2	50	—	2	—	1	4	—	2	9
柏	—	—	2	—	—	3	4	—	—	—	—	6	25
千 葉	—	—	—	1	10	1	—	—	—	—	—	1	6
習志野	—	—	—	—	18	3	1	—	—	1	—	—	—
市 川	—	—	—	—	—	12	2	—	—	114	—	—	—
葛 南	—	—	—	—	—	20	20	—	—	—	—	—	—
成 東	—	—	—	—	—	1	—	—	—	18	—	—	—
市 原	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—
木更津	—	—	—	—	2	4	—	—	—	3	1	—	—
松 戸	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—
佐 倉	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—
天 羽	—	—	—	—	10	—	1	—	—	6	—	—	—
成 田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
銚 子	—	—	—	—	—	—	—	1	—	77	—	—	—
館 山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	—	1
東 金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	2	—	—	3	—	—	—
合 計	2	1	5	3	90	47	36	1	1	243	1	10	47

上表の被害の外、沿岸漁港における岩壁、防波堤等22ヶ所が小中破を受け、暴風による梨の落果塩害による甘薯、そ菜等農作物の損害が8400万円に上った。また千葉、習志野、船橋では送電線の塩害により約4万戸が停電した。

この台風による被害は殆ど全国に及び、特に近畿地方が甚しい。被害総計は 死者194人、行方不明8人、負傷4972人、家屋全壊14681戸、半壊46662戸、流失557戸、船舶沈没339隻、流失619隻その他に上る。

気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		991.3	992.3	991.6	990.8	989.7	987.9	987.0
最大風速 m/s		SSW 25.2	S 15.7	SSW 24.0	SSW 22.0	SSW 21.4	SSW 19.4	SSW 17.2
最大瞬間風速 m/s		S 35.8	SSW 24.5	SSW 32.6	SSW 29.3	SSW 27.9	SSW 28.4	—
1時間降水量の最大mm		5.9	1.4	1.5	0.8	4.4	0.8	—

1961年9月
第二室戸台風経路図



〔参考〕 室戸台風と高潮

昭和9年9月の「室戸台風」及び昭和36年9月の「第2室戸台風」は何れも大阪湾周辺に高潮による被害を生じた。

大阪における高潮の高さ（東京湾中等潮位上）は、第1室戸台風が2.5m、第2室戸台風が3.4mであつた。

大阪府だけの被害をあげれば、第1室戸では死者行方不明1888人、全壊家屋13642戸、流失726戸、第2室戸では死者29人、行方不明なし、全壊家屋2591戸、流失79戸で、第2室戸における被害が著しく少なくなっている。

これは大阪が、第1室戸及び昭和25年9月同じく大阪湾に高潮を起したシエン台風の教訓を活かし、防潮堤を増設すると共に既設の堤防をかき上げることによつて防潮効果を発揮したことに他ならない。

昭和34年の伊勢湾台風以来、高潮の起り易い海湾については国及び各地方自治体によつて一応の防禦対策が整備されているが、之を以つて万全を期することが出来ない。特に、東京、名古屋、大阪等の大都市では、多数の工場やビルが地下水を汲上げるために地盤沈下と共に、堤防の防潮効果が年々低下して行くからである。

昭和36年（1961年）10月2日～3日 水害（前線）

本州南岸に停滞した秋雨前線のため県下一帯に1日より5日まで雨が続いたが、夷隅郡東部では、2日夜半より3日早朝にかけ局所的な大雨があり、大原町内に床上浸水10戸、床下浸水60戸、畑冠水5ha、崖崩れ1ヶ所、トンネル内落盤1ヶ所を出した。（朝日新聞）

勝浦では2日9時より3日9時までの一日雨量が149mm、2日23時40分より3日0時40分までの一時間雨量が44.2mmに達した。

昭和36年（1961年）10月9日～10日 暴風雨（台風24号）

9日朝鳥島南西約480kmにおいて北北東に転向した台風24号は10日8時には勝浦、9時には銚子を通過し、三陸沖において温帯低気圧となって千島方面に去った。この為9日午後より10日正午頃より暴風雨となる。

10日2時頃より4時頃までの雨量が特に多い。

警 察 管 内 別 被 害 表

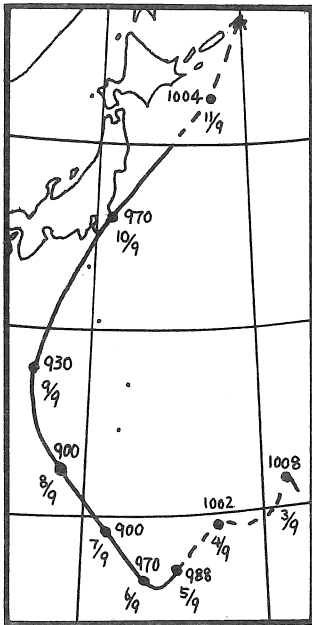
10日16時現在 県警本部調

種別 署別	死 者 人	負 傷 人	家 屋 全 壊 戸	家 屋 半 壊 戸	家 屋 流 失 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	家 破 屋 一 部 損 戸	非 住 家 被 害 棟	橋 梁 流 失	堤 防 決 壊 ヶ所	崖 崩 れ ヶ所	船 舶 沈 没 隻	船 舶 破 損 隻	舟 の 破 損 による 隻
千 葉	-	-	-	-	-	-	113	-	-	-	-	-	-	-	-
船 橋	-	-	-	-	-	-	53	1	-	-	-	-	-	-	-
市 川	-	-	-	-	-	-	902	-	-	-	-	-	-	-	-
葛 南	-	-	-	-	-	10	30	-	-	-	-	-	-	-	-
柏	-	-	-	-	-	40	306	-	-	-	-	-	-	-	-
小見川	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-
成 東	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-
東 金	-	-	-	2	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-
一 宮	-	-	-	-	-	6	40	-	-	-	-	-	-	-	-
勝 浦	-	2	-	-	-	4	58	2	2	1	-	-	-	10	5
大 原	-	-	-	-	-	-	10	1	-	-	-	-	-	-	-
市 原	-	-	-	-	-	7	185	-	-	-	1	1	-	-	-
木更津	-	1	-	-	-	71	838	1	1	-	-	15	4	-	-
上 総	-	-	-	-	-	-	15	-	-	1	-	2	-	-	-
天 羽	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	3	-	-	-
館 山	1	-	-	-	-	3	2	-	3	-	-	5	9	-	-
千 倉	-	-	1	-	-	-	10	-	13	-	-	-	-	-	-
鴨 川	-	1	4	12	1	6	21	-	3	-	-	1	-	-	7
その他	-	-	1	-	-	-	2	-	5	-	-	2	-	-	-
合 計	1	4	7	14	1	147	2681	5	28	2	1	29	13	10	12

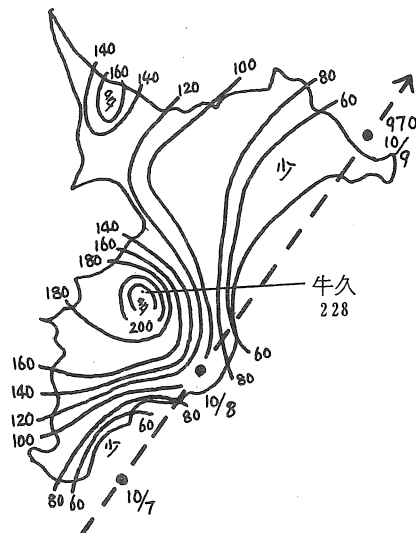
上表の被害の外 田流埋1 ha、田冠水3 ha、畑冠水3 ha、道路決壊28ヶ所、通信施設被害136回線あり。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐	柏
最低気圧 mb		975.9	976.6	975.2	976.7	980.9	983.4	985.0
最大風速 m/s		N 22.8	NNW 18.5	NW 16.0	SSE 18.3	WNW 22.6	NE 16.1	NW 13.7
最大瞬間風速 m/s		N 37.5	NNW 25.9	S 22.0	SSE 28.6	WNW 27.3	NE 25.1	NW 14.9
1時間降水量の最大mm		34.5	30.1	22.5	11.7	41.0	42.7	—

1961年10月
台風24号経路図



1961年10月9日
降水量分布図



昭和36年（1961年）11月22日 水害（低気圧）

21日午後より22日朝にかけて日本海西部から津軽海峡西方に達した低気圧の通過に伴い、21日夜半紀伊半島附近に発生した別の低気圧は22日正午すぎ関東南部を経て三陸沖に去った。この為21日夕刻より降り出した雨は22日正午頃まで続き、房州方面では21日9時より22日9時までの日雨量60～80mmに達する局地的な大雨となり、軽微ながら被害を出した。

安房郡下の被害 崖崩れによる家屋全壊1戸（天津小湊）、床下浸水3戸（富浦）、木橋流失2（天津小湊、丸山）崖崩れ1ヶ所（天津小湊）。（千葉日報）

昭和36年（1961年）11月～12月 海 難

1. 11月27日 21時ころ勝浦東方約9Kmの海上においてイカ釣船豊丸（2トン2人乗組）は15^m/s前後の強風の為遭難して行方不明となる。（千葉日報）
2. 11月28日 10時30分ころ姉ヶ崎沖1300mにおいて埋立工事の作業員1人突風の為海中に転落して死亡す。
同11時30分ころ千葉西方8Kmの海上において風速15^m/s前後（最大瞬間風速22^m/s）の中をエンジン不調のため曳航されていた第6協進丸（86トン、2人乗組同伴家族2人）は高波を受けて突然沈没し、2人は救助されたが、1人は死亡、1人は行方不明となる。（千葉日報）
3. 12月6日 23時45分大吠埼北々東32Kmの海上において茨城県平潟港の底曳漁船第6政豊

丸(31トン、12人乗組)と貨物船多摩川丸(6844トン)は小雨で視界不良のため衝突して第6政豊丸は沈没 3人は救助されたが、9人は行方不明となる。(千葉日報)

4. 12月7日 14時ころ五井の沖合1300mにおいてダルマ独航船第11栄福丸(78トン、2人乗組)は強風のため沈没し、1人は救助されたが、1人は行方不明となる。(千葉日報)

この日東京湾は11~15時の間、推定15~25m/sの強風で、東京湾内の釣舟9隻が沈没して32人が遭難し、11人が死亡した。

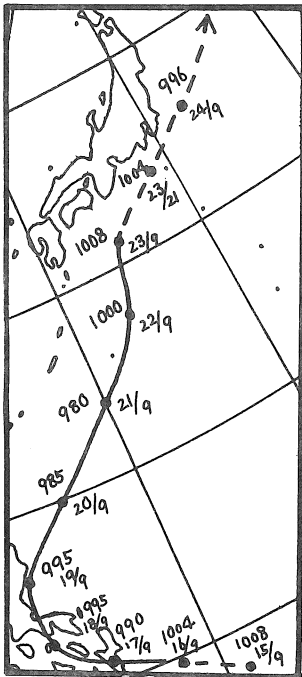
昭和37年 (1962年) 5月23日~24日 水害(台風3号)

ルソン方面より北東に進んだ台風3号は、23日朝四国沖において温帯低気圧となり、24日早朝房総沖を通過して千島方面に去った。この為24日早朝より夕刻まで暴風となる。雨は23日午後より降り出して24日正午頃まで続き、太平洋沿岸の勝浦、銚子附近の雨量が特に多い。

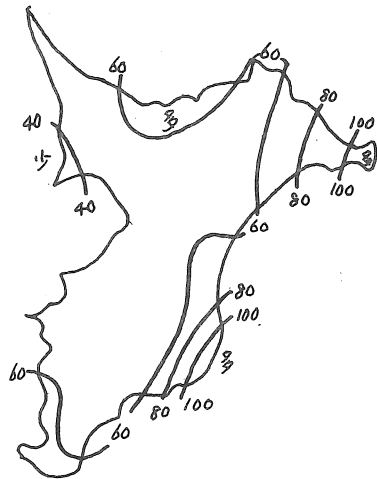
本県の被害 床下浸水23戸(銚子)、麦類の倒伏10000ha、水田冠水300ha(銚子)

(読売新聞 朝日新聞)

1962年5月
台風3号経路図



1962年5月23日
降水量分布図



昭和37年（1962年）5月25日 降 雪

24日から25日にかけて日本海から本州南海上にのびる気圧の谷が通過し、東海、甲信、関東の1部に雷雨が発生した。本県では25日午前埼玉県より東進して県北部を通過したものと、正午前後にかけて県南の勝浦、鴨川方面に発生したものと2系統の雷雨があった。

安房郡天津小湊町では10時20分ころから凡そ10分間直径1cmの雹が降って水稻苗代20ha、葉煙草2haが被害を受け、その他の農作物にも損害があった。（千葉日報）

昭和37年（1962年）6月3日～14日 長雨（梅雨前線）

この年の梅雨活動は活発で、平年より約7日早い6月3日に「ツユ入り」し、15日より20日まで一時休止したが、月末まで関東以西の各地に大雨があった。本県では3～8日の間は雨が断続したが、9日より14日まで連日降り続き、3日より14日までの総雨量は120～220mmに達した。

本県の被害 12日現在 死者2人、家屋一部破損1戸、道路損壊4ヶ所、崖崩れ7ヶ所、鉄道被害2ヶ所。（県警本部調）

13日 成田及び四街道において水田冠水24ha。（朝日新聞）

13日夜 流山町において床上浸水60戸、床下浸水300戸。（千葉日報）

16日付新聞報道 県下において刈入前の麦類が発芽したもの2400ha、印旛地方の西瓜、東葛香取地方のトマト、馬鈴薯、キュウリの生育阻害さる。（千葉日報）

7月7日付新聞報道 長雨による県下の麦の被害は5800haに及び6600トンの減収で損害は約4億円。菜種は作付面積の60%が被害を受け、損害は約1億円。西瓜、梨、桃等も日照不足で湿潤害で5～10%の被害が見込まれる。（朝日新聞）

昭和37年（1962年）6月19日 雷 雨

寒冷前線の通過に伴い18日午後より夜半まで新潟、長野及び関東北部にかなり強い雷雨と降雹があり、19日にも関東及び静岡に弱い雷雨が起った。本県では19日の日中県北部及び県南丘陵地帯に雷雨があり、三里塚、下総、牛久、大多喜、清和、鋸南の各地には雹も降ったが、雹による被害はなかった。

香取郡大栄町では19日14時すぎ落雷があり農婦1人が感電死した。（朝日新聞）

昭和37年（1962年）7月2日 竜 巻

2日紀伊半島から東海道を経て鹿島灘にのびていた梅雨前線によって、三河地方は朝から夕刻まで大雨が降り、千葉県でもやや強い雨があって柏、船橋では路上の浸水、下水の氾濫があった。また14時30分ころ霞ヶ浦南部の茨城県稲敷郡東村に発生した龍巻は千葉県佐原市北部の三島部落をかすめて対岸の茨城県牛堀町に入り、更に東北東に進んで15時ころ鹿島灘に去った。

佐原市の被害 負傷2人、家屋全壊1戸、一部破損1戸、非住家被害2棟。（朝日新聞）

この龍巻による被害は茨城県側に多く、牛堀町では八代小学校々舎が倒壊して児童2人が死亡、重

軽傷 28 人を出し、通過町村には家屋倒壊 5 戸、半壊 35 戸等があった。

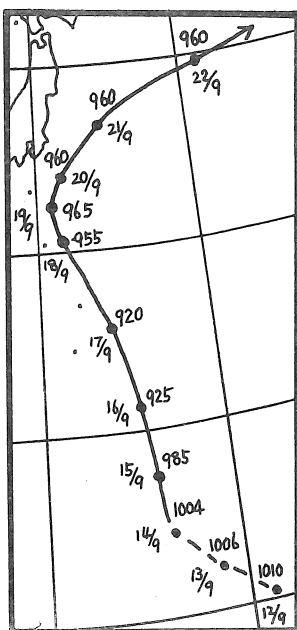
昭和 37 年（1962 年） 8 月 18 日～21 日 暴風雨・高波（台風 12 号）

マリアナ方面より北々西に進んだ台風 12 号は、20 日朝八丈島東方において北東に向きを変え、20 日夜房総沖約 170 Km を通って三陸東方海上に去った。この為 20 日午前より 21 日早朝まで暴風となり、雨は 18 日より 21 日朝まで続いた。風雨は比較的弱かったが、台風が伊豆諸島南部より房総沖を通過するまでの進行速度が遅かった為、房総沿岸には 18 日より高波が押寄せると台風の前ぶれ状態が長びき警戒陣は 3 日間にわたって緊張した。

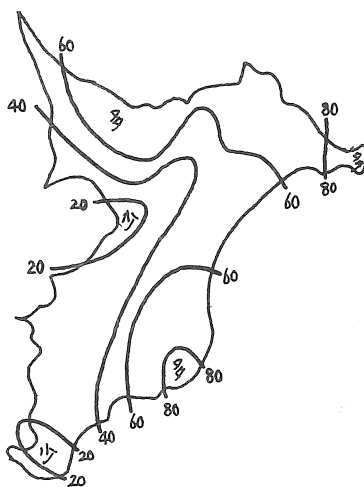
千葉県の被害 床下浸水 32 戸（東金 20、一宮 12）、非住家被害 4 棟（鴨川）、田冠水 3 ha（千倉）、通信施設被害 3 回線（茂原 2、大多喜 1）。（21 日 9 時現在県警本部調） この他富津海水浴場では 18 日高波のため水死 1 人があり、鴨川では海水浴場の施設が全壊し、房総南部では水田 200 ha が塩風害を受けた。（朝日新聞） 山武郡大網白里町の水田 10 ha は高波の浸入により収穫皆無となった。（28 日千葉日報）

気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉	布	佐	柏
最低気圧 mb		994.2		994.8		992.4		992.9		996.4		—		—
最大風速 m/s		NNW 15.8		NNW 13.0		NNW 12.5		NNW 21.0		N 11.3		N 10.3		NNE 6.7
最大瞬間風速 m/s		NNW 23.7		NNW 20.0		N 18.5		NNW 28.9		N 18.0		N 16.7		—
1 時間降水量の最大 mm		6.5		4.1		12.0		24.0		5.2		20.4		—

1962 年 8 月
台風 12 号経路図



1962 年 8 月 18～20 日
降水量分布図



昭和37年（1962年）9月2日 水 害

2日18時ころ秩父山地より東京都東部に移動した雷雲は、2時間にわたり江東より船橋に至る地域一帯に大雨を降らせ、市川では87mmの雨量を観測した。

本県の被害 市川、船橋において床下浸水1700戸。（県警本部調）

この大雨は東京都の城東方面において150mmに達し、床上浸水1300戸、床下浸水9800戸を出した。

昭和37年（1962年）10月11日～12日 暴風雨（低気圧）

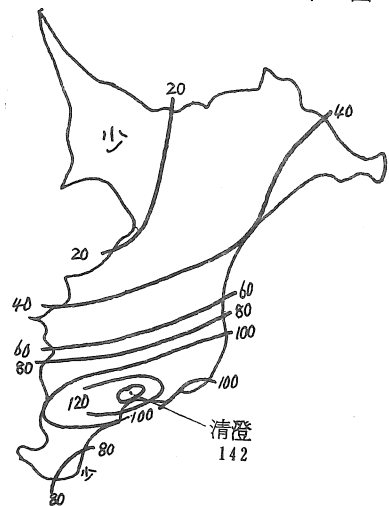
黄海より朝鮮南岸を経て東進した低気圧は11日夜半すぎ本県勝浦附近を通過して東方洋上に去った。この低気圧は優勢な温暖前線を伴い、10日には老岐、対島及び長崎県下大雨を降らせ、本県通過の際にも房総南部に集中的な大雨をもたらした。

房総南部では11日午後より雨が降り出し、夜半からは暴風雨となり、12日4時には風雨共に収まったが、2～4時の間の雨が殊に強く、1時間雨量は勝浦で60mm（2～3時）、富崎で55mm（3～4時）という記録的な豪雨となった。

本県の被害 床下浸水2戸（鴨川）、県道土砂崩れ2ヶ所（鴨川、天津小湊）、護岸決壊1ヶ所（鴨川）、鉄軌道土砂崩れ2ヶ所（房総東線 勝浦一御宿間、安房天津一安房小湊間）。（気象要覧）

この雨は被害の発生した鴨川方面を除いては、8月以来雨が少なかった為、むしろ旱天の慈雨であった。

1962年10月11～12日
降水量分布図



気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉	布 佐
最大風速 m/s	SSW24.2	SSW 9.4	SSW18.7	S 15.2	WNW 5.7	WNW E 5.4
最大瞬間風速 m/s	NW 32.2	SSW19.2	SSW27.3	SSE19.7	WNW 7.5	E 6.8
降 水 量 mm 11日9時～12日9時	88.6	82.8	116.6	55.2	18.0	12.5
1時間降水量の最大mm	55.3	40.4	60.0	9.7	8.0	3.0

昭和37年（1962年） 11月14日 地震

16時48分ころ 銚子の北東沖約30kmを震源とする顕著な地震（ $M=5.8$ ）が発生した。
銚子市内の震度は4（中震）で、ショーウインドの硝子破損1件の被害があった。（朝日新聞）

昭和37年（1962年） 12月6日 海難

川崎港より日立久慈港に向けて航行中の油槽船第8昭和丸（192トン、5人乗組）は6日10時40分ころ折からの強風を避けるため銚子港に入港せんとして一の島灯台附近の暗礁に乗揚げ転覆した。乗組員は全員海上自衛隊のヘリコプターによって救助された。（千葉日報）
銚子における当時の天気は曇、風速は平均14 m/s 、瞬間20 m/s であった。

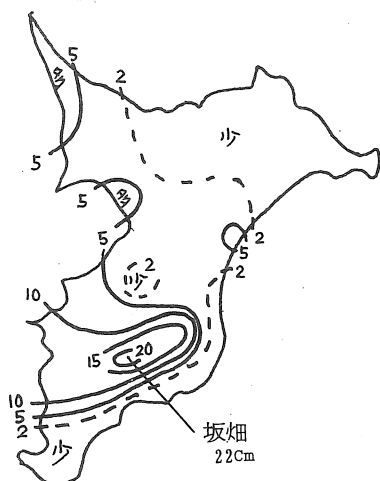
昭和38年（1963年） 1月 異常乾燥・低温

1月は日本海側の北陸、山陰地方に「38.1豪雪」と命名される程の大雪が降ったのに対し、関東以西の大平洋側は雨量が少く異常乾燥が続いた。気温は北日本が温暖、西日本が低温で関東地方の平均気温も平年より1～2°低く、本県では25日の著しい寒波によって与田浦や横利根川が結氷した。
千葉県の被害 農作物は麦類の生育がおくれ、銚子地方のかんらん、大根等の早出し野菜は30%の減収となり、房州の夏みかん、花卉も被害を受け、海産物では内湾の海苔が30%の減収となった。低温による水道事故も多く、20日には船橋市において給水管が破裂し、25日の寒波では成田市内140戸の水道管破裂と船橋市に再び給水管の破裂があった。（以上読売新聞）
異常乾燥により県下の火災は216件に上り、最近10ヶ年平均の2.7倍に達した。（気象要覧）
雨不足のため市原町菊間部落では55戸の井戸水が下旬より急に枯れ、給水車による水の配給が行なわれた。（千葉日報）

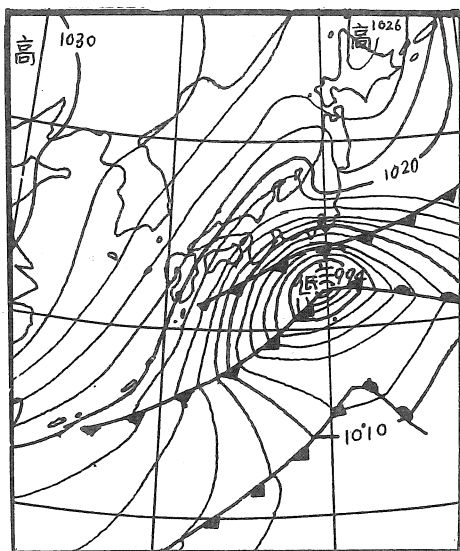
昭和38年（1963年） 3月13日 暴風雪（低気圧）

11日夜四国沖に発生した低気圧は発達しながら東進し、13日朝八丈島南方を通り三陸東方洋上に去った。この為本県南部では12日午後より、北部では夜半より雪が降り出し、13日午後まで続いた。12日夜半すぎより13日正午頃までの積雪が多く、県南の山間部では20cmに達した。房総東岸では13日の風がやや強かった。
千葉県の被害 通信障害930回線、電灯の停電81000軒、房総東線及び西線のダイヤが混乱して列車6本が運休し、房州及び木更津地方の山間部ではバスも運休した。（朝日新聞）
この雪により東京近郊の交通機関が混乱し、伊豆諸島では暴風雨による被害があった。

気象要素 \ 地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉
最低気圧 mb	1009.8		1009.8		1009.8		1012.2		1013.4	
最大風速 m/s	N 12.5		NNE10.8		NNE11.7		NNE19.0		N 9.4	
最大瞬間風速 m/s	N 20.7		NNE17.1		NNE19.4		NE 26.9		NNE14.7	
1時間降水量の最大mm	1.4		1.9		2.5		1.0		—	

1963年3月13日9時
積雪分布図 (Cm)

1963年3月13日9時地上天気図



昭和38年 (1963年) 5月15日～18日 水害(前線・低気圧)

15日頃から本州附近に停滞した前線が大太平洋高気圧の張り出しによって強化すると共に、九州西方に発生した低気圧が、この前線上を東北東に進み、17日早朝中部地方を通過して午後常磐沿岸に至って消滅した。この為15日より降り出した雨は18日朝まで続き、雨量は県南部で90～120mm、県北部で40～50mmに達した。

千葉県被害 崖崩れ 君津郡17ヶ所、安房郡2ヶ所。この内安房郡江見町のものは3000立方メートルの土砂が長さ50m、幅15m、高さ4mにわたって国道上に崩れ落ち、簡易水道をも破壊して300戸が断水した。(朝日新聞、千葉日報)

昭和38年 (1963年) 6月2日～5日 大雨(梅雨前線・台風2号)

沖の鳥島西方より北東に進んだ台風2号は、5日朝房総沖約200kmを通過して東方洋上に去った。この台風は月始めより本州南岸に停滞した梅雨前線を刺戟して、2日から5日にかけて関西から関東に至る各地に大雨を降らせた。本県では2日夜半より降り出した雨は5日正午すぎに止んだが、4日夜より5日朝までの雨が特に強く大きな水害を出した。風は5日朝より正午頃までやや強い。

警察管内別被害表

6月5日17時現在 県警本部調

署名	種別	死者人	家屋全壊戸	家屋半壊戸	床上浸水戸	床下浸水戸	家破屋一部損戸	非被住家害棟	田流埋ha	田冠水ha	畑冠水ha	道路損壊ヶ所	堤防決壊ヶ所	崖崩れヶ所	鉄道被害ヶ所	通信被害回線	罹災世帯戸	罹災者人
千葉		—	—	—	24	246	—	—	—	277	—	—	—	4	2	—	26	129
千葉南		—	—	—	41	199	1	—	—	36	—	—	—	2	—	—	43	190
船橋		—	—	—	12	526	1	1	—	—	—	—	—	3	1	—	16	55
市川		—	—	—	100	683	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	450
葛南		—	—	—	5	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	25
松戸		—	—	—	73	160	—	—	—	231	—	1	—	5	—	—	73	290
佐倉		1	1	—	—	38	—	—	—	50	—	3	—	3	1	—	1	1
成田		3	2	1	5	39	1	2	—	180	—	3	1	5	4	—	8	45
佐原		—	1	—	—	72	—	4	—	930	—	—	—	2	—	—	1	5
多古		—	—	—	—	20	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
小見川		—	—	—	—	122	—	—	—	730	—	2	—	—	—	—	—	—
旭		—	—	—	—	—	—	—	—	1140	—	—	—	1	—	—	—	—
八日市場		—	—	—	—	27	—	—	—	2250	—	—	—	1	—	—	—	—
成東		—	—	—	—	53	—	—	—	115	—	4	—	—	—	—	—	—
東金		—	1	—	—	45	—	—	—	1200	300	—	—	1	—	—	1	5
茂原		—	—	—	—	34	—	—	—	1220	250	14	—	2	—	—	—	—
市原		—	—	—	27	127	—	—	—	340	5	3	—	—	—	—	64	265
南総		1	2	1	—	7	—	—	—	200	—	—	—	8	2	1	3	15
木更津		—	—	—	66	690	—	—	1	770	26	6	—	6	1	—	66	350
上総		—	—	2	8	26	—	1	—	16	—	1	—	2	2	—	10	39
その他		1	—	—	4	46	1	—	—	180	10	15	—	14	2	—	4	21
合計		6	7	4	365	3240	4	8	1	9965	591	52	1	59	15	1	421	1885

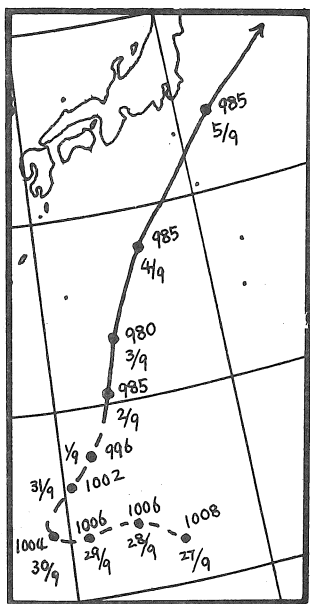
上表のうち東金の家屋全壊は城西分校の崖崩れによる校舎317平方メートルの倒壊である。幸い死傷者はなかった。（銚子地方気象台 異常気象速報）

損害推定額は水稻、野菜等の農作物1億円、灌漑施設、農道等7千万円、道路・河川等の土木関係1億7千万円に上った。尚県内の交通も寸断され国道6ヶ所、県道2ヶ所が不通となり、鉄道も8ヶ所が不通のため列車64本が運休し、バスによる交通もまひ状態になった。（読売新聞、千葉日報）

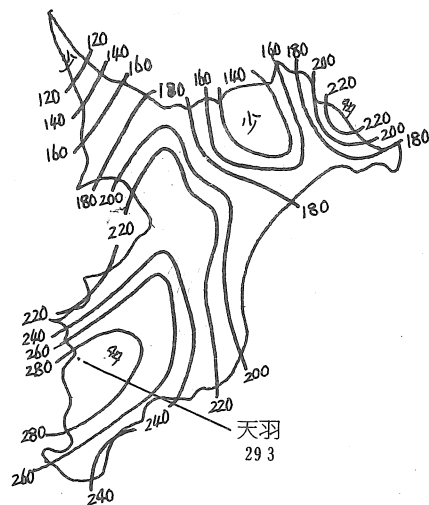
この大雨による被害は四国、中国、近畿、北陸、関東に及び、被害総計は死者17人、負傷33人、家屋全壊26戸、半壊74戸、流失11戸、床上浸水4813戸 その他に上る。

気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉	柏
最低気圧 mb		993.3		993.8		992.7		993.6		995.9		—
最大風速 m/s		N 14.3		NNW 8.2		N 12.0		N 18.0		NNE 10.7		N 4.2
最大瞬間風速 m/s		NNW 19.5		NNW 12.0		NNW 19.0		N 26.1		NNE 15.9		—
日降水量の最大 mm		3日 116.0		4日 127.3		3日 95.0		4日 120.0		4日 181.4		4日 107.4
1時間降水量の最大 mm		20.2		16.4		16.0		20.8		34.7		20.9

1963年5月～6月
台風2号経路図



1963年6月2～5日
降水量分布図



昭和38年（1963年）6月11日～14日 大雨（台風3号・前線）

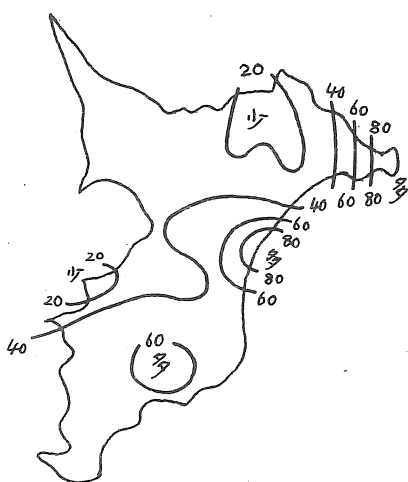
13日22時ころ四国に上陸した台風3号は、14日3時鳥取附近を通過して日本海に入り、温帯低気圧となって青森県を横断して太平洋側に抜け、アリューシャン方面に去った。この台風に伴う風は弱かったが、本州南岸に停滞する梅雨前線を刺激し11日から14日にかけて西日本各地に大雨をもたらした。本県では11日から14日まで雨が断続し、この間の総雨量は県北部で20～40mm、県南部で50～60mmに達した。

県警本部の調査による被害

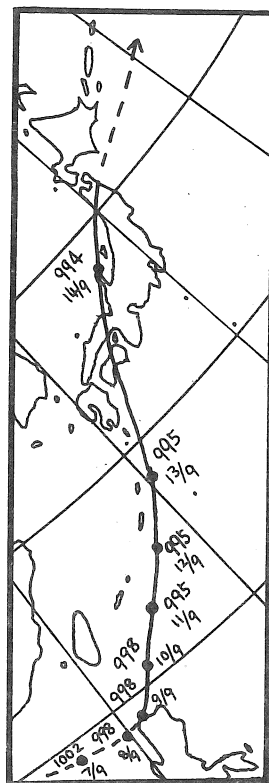
道路損壊 2ヶ所 (大多喜、木更津)、崖崩れ 1ヶ所 (木更津)
13日21時30分ころ夷隅郡大原町沖合300mにおいてギリシヤ貨物船アジ奥斯・イオアニス号(7238トン)が雨の為坐礁したが、乗組員27名は無事救助された。(朝日新聞)

この大雨による被害は四国、中国、近畿、九州南部に及び、被害総計は死者2人、負傷8人、家屋全壊9戸、半壊11戸その他に上る。

1963年6月11～14日
降水量分布図



1963年6月
台風3号経路図



昭和38年 (1963年) 8月25日 雷雨(前線)

北海道東方海上の低気圧より南西にのびる寒冷前線が千葉県より東海道を經て西日本に達し、近畿及び関東南部に強い雷雨が発生した。本県北部では15時すぎより約2時間にわたって強い雷雨があり、落雷と浸水による被害を出した。

本県の被害 16時30分ころ長生郡本納町において落雷による感電死1名。変電所に落雷の為総武線御茶水ー津田沼間において電車4本が運休止、ダイヤが混乱した。落雷の為市川、千葉、茂原市において停電84000戸、市川市内の電話全線不通となる。床上浸水船橋5戸、床下浸水 市川2500戸、船橋209戸。(千葉日報)

昭和38年 (1963年) 8月28日～29日 暴風雨(台風11号)

26日九州南方海上において転向した台風11号は本州南岸沖を東北東に進み、29日朝勝浦沖50

Kmを通過して北海道東方海上に去った。この為28日午後より降り出した雨は、夜に入って電雷を交じえた大雨となって29日朝まで続き、房総南部及び東部においては29日朝より正午すぎまで暴風となる。

警察管内別被害表

29日17時現在 県警本部調

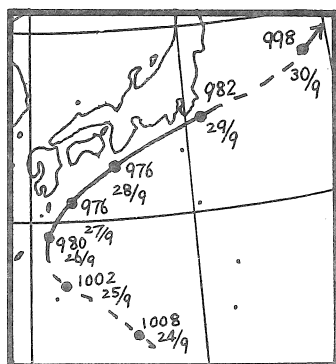
署別	種別	床上浸水 戸	床下浸水 戸	家破屋 一部損 戸	非被 住家害 棟	田冠 水 ha	畑冠 水 ha	道路損 壊ヶ所	崖崩 れ ヶ所	通信被害 回線
習志野		—	—	—	—	2	—	—	—	—
船橋		24	156	—	—	—	—	—	—	—
市川		—	461	—	—	—	—	—	—	—
葛南		—	45	—	—	—	—	—	—	—
松戸		—	1	—	—	—	—	1	—	—
銚子		—	—	—	—	—	—	1	—	—
成東		—	14	—	—	15	—	1	—	—
茂原		—	23	—	—	500	—	2	8	—
大原		—	—	—	1	250	1	3	3	1
大多喜		—	—	—	—	—	—	3	2	3
勝浦		—	20	—	—	8	—	1	2	—
市原		—	10	1	—	—	—	1	1	2
南総		—	—	—	—	70	—	1	1	2
木更津		—	13	—	—	28	11	3	1	—
上総		—	—	—	—	—	—	—	—	2
館山		—	—	—	1	—	—	—	—	—
合計		24	743	1	2	873	12	17	18	10

上表の被害の外 水稻の倒伏による減収1800トン、損害1億5千万円。梨の落果55トン、損害2200万円。無花果落果10トン、損害70万円。河川、道路等土木関係の損害1億6千万円に上る。(朝日新聞) 房州沿岸及び大原、茂原方面において送電線の断線による停電2万戸。(読売新聞)

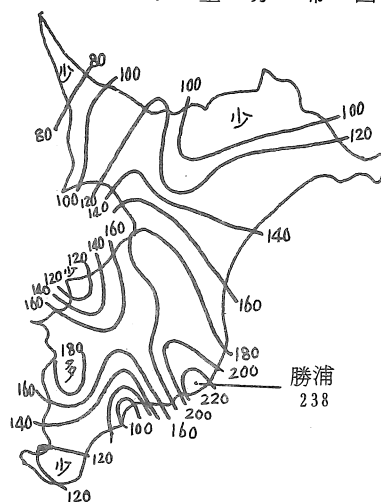
気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉	柏
最低気圧 mb		988.3		991.0		991.7		999.8		1001.7		—
最大風速 m/s		N 19.8		N 15.7		N 17.0		NE 17.0		NNE 13.7		E 4.7
最大瞬間風速 m/s		N 27.6		N 23.6		N 33.5		NE 24.5		NNE 17.9		—
1時間降水量の最大mm		31.4		19.0		69.0		24.5		37.3		24.0

この台風による被害は静岡、神奈川、東京、千葉に及び、被害総計は家屋半壊1戸、床上浸水752戸、床下浸水14692戸、水田冠水1153ha、畑冠水222ha、その他に上る。

1963年8月
台風11号経路図



1963年8月28～29日
降水量分布図



昭和38年（1963年）8月31日 水害（低気圧）

黄海より朝鮮南部を経て、30日夜半対馬海峡に達した低気圧は発達しながら東進して、31日正午には静岡県北部、15時には千葉県北部を通過し、三陸沖に至って消滅した。この為30日夜より31日夕刻まで雷を交えた雨となり、31日午後は風も強くなった。県下の雨量は30mm以上で、県北西部及び県南丘陵地帯では60～90mmに達した。

県警本部の調査による被害 家屋全壊1戸（市川）、床下浸水 市川85戸、松戸69戸、柏83戸、崖崩れ2ヶ所（松戸、柏）、鉄道被害1ヶ所（松戸）。

この低気圧の通過に伴い中国、近畿北部、北陸、東海、関東に多少の被害があった。

昭和38年（1963年）10月9日～10日 暴風雨（前線・低気圧）

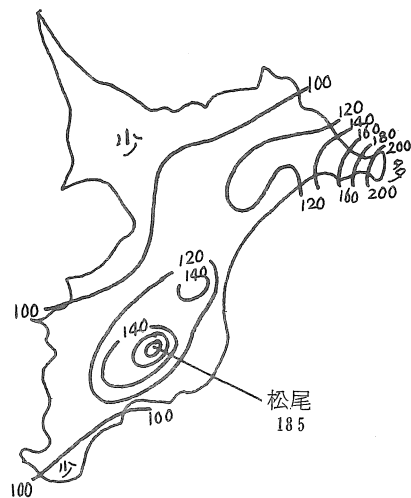
10月始めより本州南海上に停滞していた前線は、カロリン方面より北西に進行中の台風18号が四国遙か南方の北緯20度附近に達した8日頃より活発となり、9日夜には、この前線上の四国沖に低気圧が発生した。この低気圧は発達しながら北東に進み、10日7時ころ三宅島附近を、10時ころ銚子沖を通過して北海道東方洋上に去った。この為9日夜より降り出した雨は10日正午すぎまで続き、10日朝の雨が特に強い。風は10日朝より正午すぎまで暴風となる。銚子の9日の降水量は188.3mmに達した。

警察管内別被害表 10日14時現在

署別	種別	床上浸水戸	床下浸水戸	道路損壊ヶ所	崖崩れヶ所	通信被害回線
船橋	橋	11	-	-	-	-
銚子	子	5	538	4	-	35
成東	東	-	-	1	1	-
大原	原	-	-	1	-	-
市原	原	-	-	2	-	-
木更津	津	-	10	1	-	-
館山	山	-	-	1	-	-
合計		16	548	10	1	35

県警本部調

1963年10月9～10日
降水量分布図



上表の被害の外、銚子市内において水田裏作のキャベツに約1千万円の損害があった。(朝日新聞)
この低気圧の通過に伴い、東京都内及び三宅島に水害、栃木県に暴風による多少の損害があった。

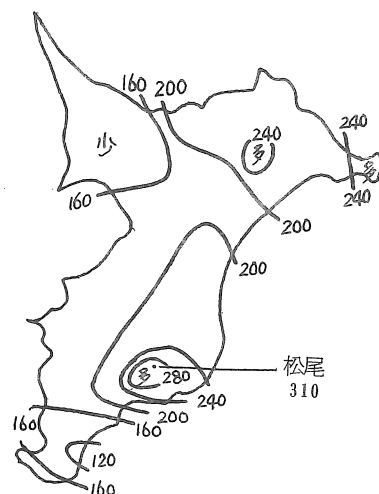
気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉	柏
最低気圧 mb		999.1		999.6		997.2		992.5		999.3		—
最大風速 m/s		N 17.5	NNW	11.2	NNW	13.7	N	24.3	NW	11.8	N	7.8
最大瞬間風速 m/s		N 23.5	NNW	14.9	NNW	22.2	N	35.6	NW	16.5		—
1時間降水量の最大mm		15.6		18.1		15.9		34.6		17.9		17.0

昭和38年(1963年) 10月25日～30日水害(低気圧・前線)

25日 朝鮮中部と九州南部にあった低気圧は千島方面の高気圧に阻まれ、ゆっくり東進して27日には本邦の東方海上に抜けたが、北海道東方の低気圧より関東、東海の南海上にのびる前線が残った。この前線は、28日朝碓黄島西方において北東に転向した台風21号に刺戟されて活発となり、低気圧の通過後もなお雨が降り続いた。この為本県では25日より降り出した雨は30日朝まで続き、この季節としては珍しい大雨となった。

県警本部の調査による被害(30日9時現在) 床下浸水2戸(市川)、道路損壊8ヶ所(千倉1、天羽3、大原1、茂原2、小見川1)、崖崩れ7ヶ所(天羽2、大原1、茂原2、上総2)。

1963年10月26～29日
降水量分布図



昭和38年（1963年）12月25日 海難（濃霧）

樺太方面の低気圧より南西にのびる寒冷前線が、25日夕刻関東地方を通過して気温が急に低下すると共に、風が弱かった為気温の逆転を生じ関東南部一帯に濃霧が発生して夜半すぎまで続いた。

銚子沖の海難 25日23時23分ころ犬吠埼灯台の北東9kmの海上において貨物船栄昭丸（495トン、9人乗組）は貨物船第十天社丸（1174トン）と衝突して沈没し、死者2人、行方不明7人を出した。（朝日新聞）

この濃霧のため東京都を中心に交通機関の遅延、運休が続出し、羽田空港においても上空待機や横田空港への着陸などの混乱があった。

昭和39年（1964年）5月28日～29日 水害・落雷（雷雨）

27日本州を蔽っていた高気圧が東方海上に去り、28日午後には関東地方の上空に寒気が流入して気層が不安定となり、長野、埼玉、千葉の各県に雷雨が発生した。本県では28日15時ころ南東

部から強い雷雨が始り、夜に入って北西部を除く全県に拡って29日朝まで続いた。特に南部及び東部の沿岸地方では南方海上の前線の影響もあって記録的な大雨となり、1時間降水量の最大は富崎48.6mm、勝浦38.0mm、銚子25.2mmに達した。

千葉県被害 崖崩れによる家屋半埋没1戸（勝浦）。落雷による家屋の半焼1戸（飯岡）。床下浸水 勝浦20戸、千倉20戸。田埋没0.4ha（銚子）。田冠水 銚子150ha 勝浦158ha、千倉8ha。道路損壊 銚子3ヶ所、勝浦3ヶ所。崖崩れ2ヶ所（勝浦）。落雷による停電 銚子2500戸、八日市場3500戸、茂原10000戸。（東京管区異常気象報告）

この雷雨により長野県では降雹による農作物の損害が2億4千万円に達し、埼玉県では落雷による感電死1人があった。

昭和39年（1964年）7月 海難（濃霧）

この年の7月は霧の発生が平年に倍加し、濃霧による船舶の遭難が続出した。

1. 1日 19時40分ころ銚子市長崎海岸において貨物船第二福祥丸（420トン）が坐礁したが自力で離礁することが出来た。（朝日新聞）
2. 1日 21時ころ茨城県波崎町舍利海岸において 油槽船聖昌丸（370トン）が坐礁した。
（朝日新聞）
3. 2日 5時ころ銚子犬吠埼灯台の北東12kmの海上において貨物船第一日の出丸（499トン、11人乗組）は油槽船第二英和丸（622トン）と衝突して沈没し、乗組員のうち8人は救助されたが、1人が死亡、2人が行方不明になった。（朝日新聞）
4. 12日 6時15分ころ銚子犬吠埼灯台の北東9kmの海上において鮪漁船太平丸（99トン、22人乗組）は油槽船第十日進丸（970トン）と衝突して船体の一部を破損し、1人が転落して

行方明となった。(朝日新聞)

5. 22日 8時55分ころ勝浦の北東30Kmの海上において貨物船豊丸(497トン、11人乗組)は貨物船神戸丸(6609トン)と衝突して沈没したが、乗組員は全員神戸丸に救助された。

(毎日新聞)

6. 27日 3時20分ころ茨城県波崎町須田海岸において貨物船日進丸(371トン、9人乗組)が坐礁したが、乗組員は全員無事であった。(朝日新聞)

7. 30日 1時ころ夷隅郡太東岬沖において油槽船第三十八庄運丸(874トン)と台湾の貨物船祥雲輪が衝突し、庄運丸は船体に損傷を受けたが航行には支障なく、乗組員も無事であった。

(毎日新聞)

昭和39年(1964年) 7月下旬～8月中旬 旱 害

本年の夏は太平洋高気圧の勢力が強く、7月22日頃の梅雨明けより8月中旬末まで約1ヶ月間、九州より東北部に至る各地は高温、多照、寡雨の旱天が続いた。本県では7月22日から8月18日まで、一部においては数ミリの俄雨のあったほかは28日間も雨がなく、農作物特に陸稲に旱害が現われた。しかし、8月19日～20日には九州の南方海上に接近した台風14号の影響によって20～100mmの降雨があったので一応危機を脱することが出来た。(銚子地方气象台)

昭和39年(1964年) 9月25日 暴風雨(台風20号)

マリアナ方面より北西に進み、屋久島附近において北東に転向した台風20号は、24日夕刻より25日、早朝にかけ九州南東部及び四国北西部を通り、25日午前北陸を経て15時ころ岩手県南部から三陸沖に去った。この為本県では25日朝より夕刻まで暴風となり、雨は本州南岸に停滞した前線によつて22日より降り出し、25日朝まで続いたが、この間の雨量は50～100mmに止まり、雨よりも暴風による被害が多かった。

警察管内別被害表

25日20時現在 県警本部調

署別	種別	死者 人	負傷者 人	家屋全壊 戸	家屋半壊 戸	家破屋一部損 戸	非被 住家害棟	鉄道被害 箇所	通信被害 回線
千葉中央		—	11	—	4	3	4	—	4
千葉南		—	—	—	—	6	1	—	2
習志野		—	—	—	1	—	2	—	1
柏		—	3	—	—	—	—	—	—
佐倉		—	—	1	1	—	8	—	—
成田		—	—	—	2	35	1	—	2
印西		—	—	1	1	6	1	—	—

佐 原	—	1	—	—	3	3	—	1
銚 子	—	—	—	—	—	2	—	2
旭	—	—	—	—	—	2	—	2
茂 原	—	—	1	—	—	2	—	—
市 原	1	3	1	7	—	2	—	—
木 更 津	—	—	—	—	—	3 8	—	1
そ の 他	—	3	1	—	—	3	1	6
合 計	1	2 1	5	1 6	5 3	6 9	1	2 1

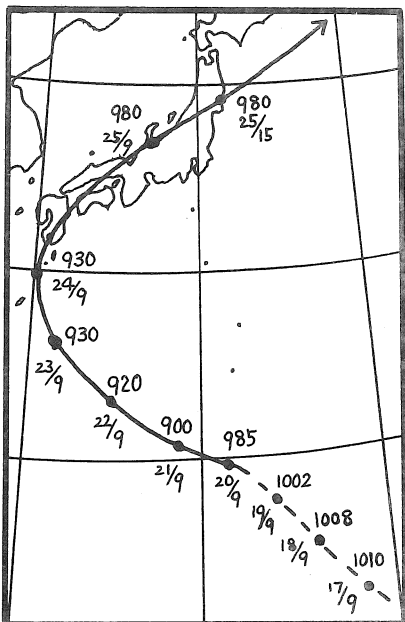
上表の被害のほか 野菜、果実、落花生、桑及び、ビニールハウス等の損害6億4千万円、港湾、河川、道路等土木関係の損害1億5千万円に上り、船橋沖の海苔が殆ど全滅した。

この台風による被害は九州から東北地方に及び、特に近畿以西の被害が甚しい。

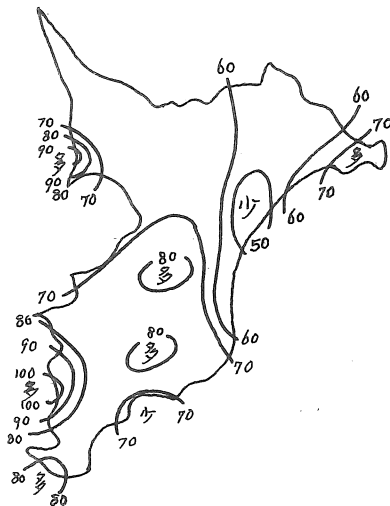
被害総計は 死者47人、行方不明9人、負傷530人、家屋全壊3184戸、半壊7175戸、流失79戸、船舶沈没149隻 その他に上る。

気象要素	地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb		999.8	1000.7	999.3	995.4	995.9
最大風速 m/s		SSW26.0	SW 16.1	SSW23.3	SSW20.7	SSW15.8
最大瞬間風速 m/s		S 32.6	SSW21.7	SSW31.0	SSW33.4	SSW25.5
1時間降水量の最大mm		12.1	4.9	11.2	12.7	5.7

1964年9月
台風20号経路図



1964年9月22～24日
降水量分布図



昭和39年（1964年）10月～12月 海 難

1. 10月8日 21時50分ころ茨城県鹿島郡神栖村沖合において鮪突棒船第五昇栄丸（19.7トン、11人乗組）は強風と雨のため坐礁したが、乗組員は全員無事であった。（朝日新聞）
2. 10月16日 6時ころ勝浦灯台の南2Kmにおいて漁船磯本丸（1トン）が突然大波を受けて転覆し、死者1人を出した。
3. 11月6日 0時15分ころ茨城県鹿島沖合において鯖漁船第十一幸進丸（39トン、17人乗組）は雨による視界不良のため坐礁したが、乗組員は全員無事であった。（朝日新聞）
4. 12月31日 15時30分ころ銚子外川港入口において鯖漁船利栄丸（3トン、5人乗組）は高波のため転覆し、負傷者2人を出した。（毎日新聞）

昭和39年～40年（1964～65年）11月～3月 海岸侵食

海上郡 飯岡町萩園の海岸は11月中旬より侵食が始まり、コンクリート護岸より40～50m先までであった砂浜は次第に侵食されて護岸の基部に及び、12月30日には萩園西方の護岸は宙吊状態になり、31日及び1月1日の2日間に、1300mの護岸のうち1000mが倒壊した。また、この護岸西方に続く三川浜は12月18日より侵食が始まり、10日間に巾約15mの砂浜が侵食されて民家に迫り、1月5日～8日には旭市の東足洗浜から中谷里浜に至る5Kmの海岸も侵食された。更に3月19～20日にも三川浜に侵食があった。

この侵食に対し、12月28日～1月3日の間飯岡町官民による応急工事が行われ、2月2日より公共土木施設災害復旧法による本格的な復旧工事が始められた。（読売新聞、朝日新聞）

昭和40年（1965年）1月～3月 海 難

1. 1月9日 1時ころ犬伏埼の東150Kmの海上において漁船第十八鶴丸（39トン、12人乗組）は強風と高波のため浸水し、乗組員は僚船に乗移ったが、負傷者2人を出した。（朝日新聞）
2. 1月20日 6時50分ころ鯖漁船とよ丸（9.6トン、16人乗組）は霧のため長生郡一宮町東浪見海岸に坐礁したが、乗組員は全員無事であった。（朝日新聞）
3. 3月20日 12時ころ安房郡小湊町鯛の浦200m沖において漁船友栄丸（1.2トン）は強い風波のため沈没し、乗組員は2人とも行方不明になった。（朝日新聞）

昭和40年（1965年）2月～3月 火災（異常乾燥）

1. 2月28日 10時半ころ木更津市祇園山において子供の火花遊びにより山火事を起し、30haを焼いて15時すぎ鎮火した。（朝日新聞）
2. 3月9日 21時ころ平均16～17 $\frac{m}{s}$ の強風下において安房郡富浦町富浦中学校より火を発し、木造平家建校舎3棟及び二階建新校舎4棟合せて1900平方米を全焼、更に附近の民家に延焼して住宅、物置等15棟、山林5haを焼いて10日2時すぎ鎮火した。

（東京管区気象台異常気象報告）

昭和40年（1965年） 5月3日 暴風雨（低気圧）

2日朝台湾附近に発生した低気圧は3日午後紀伊半島南部から東海道沿いに進み、夜半まえ千葉県北部を経て三陸沖に去った。この為3日朝より晩まで風雨となる。風速の最大は $12 \sim 17 \text{ m/s}$ 、雨量は $50 \sim 120 \text{ mm}$ で県南地方が多い。

千葉県の被害 国鉄房総線 土気一大網、勝浦一御宿、久留里線 上総松丘一上総亀山間に土砂崩れがあって列車3本が遅延し、17本が遅延した。（気象要覧）

この低気圧による被害は 四国、近畿、東海、関東に及び、中部地方の山岳では登山者の遭難が多かった。

昭和40年（1965年） 5月11日 雹害（前線）

11日午後中部地方山岳部に発生した弱い低気圧は優勢な寒冷前線を伴って南東に進み、山梨県東部から関東北部一帯に強い雷雨を起し、降雹による被害が続出した。

本県では、17時ころ野田方面に始った降雹は18時30分には佐原一佐倉の線に達し、19時まえ終止した。降雹区域は東葛飾、印旛、香取の3郡に及び、小豆大から直径1cmの雹によって農作物に2億1千万円に上る大被害を出した。（銚子地方気象台 東京管区気象台 異常気象報告）

東葛飾・印旛・香取郡内被害表

県農産課調

種 目	被害面積 ha	被害金額 万円	種 目	被害面積 ha	被害金額 万円	種 目	被害面積 ha	被害金額 万円
かんらん	18.5	496	とまと	27.3	3656	大 根	2.6	69
枝 豆	16.1	1280	茄 子	28.8	927	その他野菜	9.8	230
いんげん	4.5	202	いちご	11.0	1300	梨	115.1	2824
ね ぎ	15.5	490	そら豆	13.5	200	水 稻	50.0	101
馬 鈴 薯	6.5	87	きゅうり	13.8	1422	麦 類	664.8	1310
に ら	6.4	129	小 か ぶ	50.0	144	桑	10.0	70
玉 葱	3.0	150	ほうれん草	45.0	375	葉煙草*	200.0	6000

*専売公社調による。

昭和40年（1965年） 5月26日～27日 暴風雨（台風6号）

ルソン東方海上より北東に進んだ台風6号は、26日夜半四国沖に達し、27日11時ころ安房郡北西部に上陸して房総半島を縦断し、13時ころ鹿島灘に抜けて東方洋上に去った。この為27日9時ころより13時ころまで暴風となる。雨は梅雨前線の影響により26日朝から27日午後まで続き、27日午前の雨がやや強い。

警察管内別被害表

27日18時現在 県警本部調

種別 署別	負傷 人	行方不明 人	床上浸水 戸	床下浸水 戸	非被 住家害 棟	田 流埋 ha	田 冠水 ha	畑 冠水 ha	道路損 壊 ヶ所	崖崩 れ ヶ所	通信被 害 回線	船舶沈 没 隻	船舶流 失 隻
習志野	—	—	—	5	—	—	—	—	1	—	—	—	—
船 橋	—	—	7	104	—	—	—	—	6	—	1	—	—
市 川	—	—	—	156	—	—	—	—	2	1	—	—	—
葛 南	—	—	10	196	1	—	—	—	5	—	—	—	—
柏	—	—	—	65	—	1	26	—	—	—	—	—	—
成 田	—	—	—	—	—	—	50	—	—	—	—	—	—
印 西	—	—	—	—	—	—	120	—	—	—	—	—	—
佐 原	—	—	—	—	—	—	610	—	2	—	—	—	—
銚 子	—	—	—	—	—	—	50	20	2	—	20	—	—
成 東	—	—	—	—	1	—	77	—	2	—	1	—	—
市 原	1	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1
鴨 川	—	—	—	30	—	—	—	—	1	1	—	—	—
その他	—	—	—	1	1	—	2	—	6	3	—	1	—
合 計	1	1	17	557	3	1	935	20	28	5	22	1	1

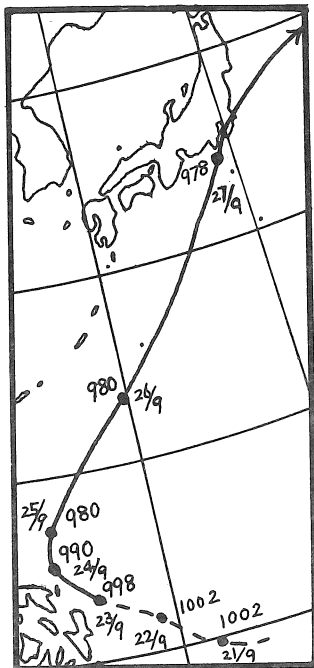
上表の被害の外、梨、桃の落果12.7ha、西瓜、トマト、キュウリ等の被害113.3ha、麦類の倒伏1308ha、ビニールハウスの破損22770坪に達し、電力関係の被害も多い。

(銚子地方気象台 異常気象速報)

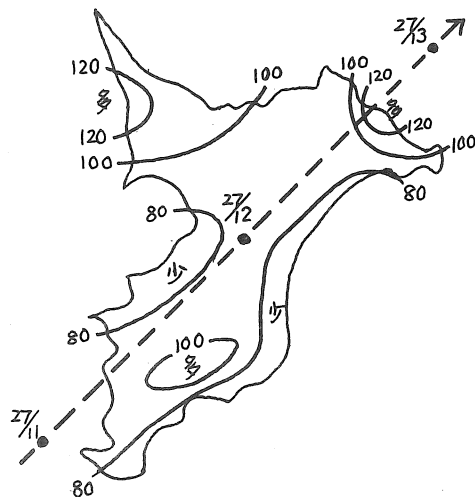
この台風による被害は九州から関東に及んだが、近畿以西は梅雨前線活動による水害であり、東海及び関東は台風による風水害であった。被害総計は 死者19人、行方不明1人、負傷16人、家屋全壊10戸、半壊8戸、床上浸水2299戸 その他に上る。

気象要素	地 名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb		982.8	983.4	983.6	982.3	982.4
最大風速 m/s		SSE21.7	WNW14.7	SSW24.7	SSE22.8	WNW29.5
最大瞬間風速 m/s		S 35.9	WNW20.9	S 33.6	S 38.4	WNW39.0
1時間降水量の最大mm		16.1	18.1	12.7	13.2	16.0

1965年5月
台風6号経路図



1965年5月26～27日
降水量分布図



昭和40年（1965年）5月～8月 海難（濃霧）

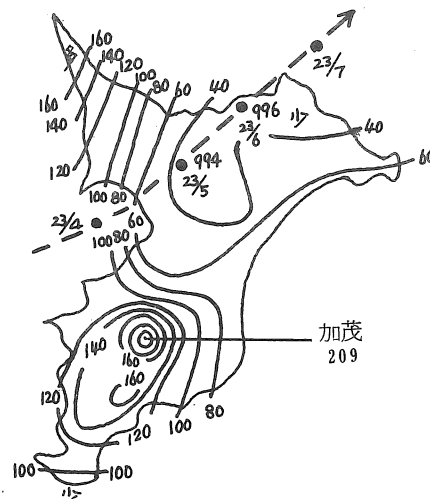
1. 5月8日 8時ころ銚子君ヶ浜沖500mにおいて底曳漁船倉田丸（8トン、3人乗組）は濃霧のため岩礁に乗あげ、船体を放棄するの止むなきに至ったが、乗組員は全員救出された。（朝日新聞）
2. 6月3日 6時ころ犬吠埼南東13kmの海上において漁船金野丸（13トン、11人乗組）は濃霧のため油槽船英和丸（1100トン）と衝突して1時間半後に沈没したが、乗組員は全員英和丸に乗り移って無事であった。（朝日新聞）
3. 8月3日 8時40分ころ銚子黒生海岸500m沖において油槽船宏伸丸（490トン、11人乗組）は濃霧のため坐礁したが、乗組員は全員無事であった。（毎日新聞）

昭和40年（1965年）8月22日～23日 暴風雨（台風17号）

小笠原東方洋上より北西に進み、東海道沖においてゆっくり転向した台風17号は、22日19時ころ伊豆半島南西部に上陸、次第に衰えながら神奈川県から東京湾を経て千葉県北部を通り、23日

23日9時現在 県警本部調

1965年8月20~23日
降水量分布图



昭和40年（1965年）9月10日 暴風雨（台風23号）

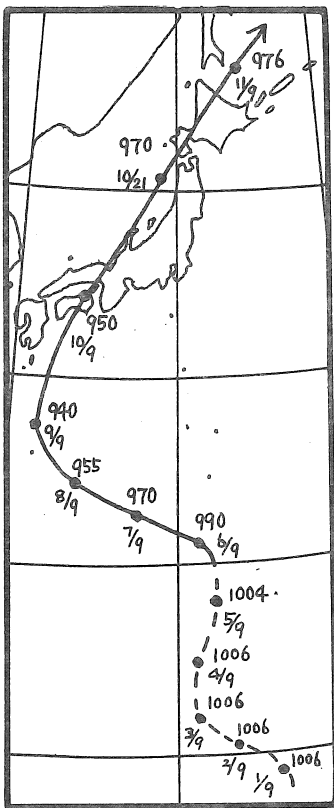
九州南方海上において北々東に転向し、10日8時ころ高知県安芸市附近に上陸した台風23号は兵庫県を経て日本海に入り、夜半ころ北海道渡島半島に上陸して11日朝オホーツク海に去った。この為10日正午まえより夜半まで暴風となる。雨は8日より降り出し、10日夜半まで続いた。

千葉県の被害 浦安町床下浸水40戸、農作物には印旛郡において白菜5000万円、大根2250万円、君津郡において水稻330万円の損害があり、安房郡、夷隅郡にも多少の被害があった。

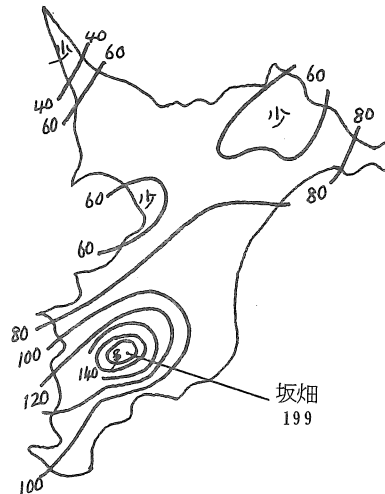
（朝日新聞）

この台風による被害は九州より北海道に及び、兵庫県の損害が特に多い。被害総計は死者67人、行方不明6人、負傷883人、家屋全壊1234戸、半壊2916戸、床上浸水8152戸、船舶沈没73隻、流失37隻 その他に上る。

1965年9月
台風23号経路図



1965年9月8～10日
降水量分布図



気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉
最低気圧 mb		998.4		999.1		999.9		998.8		997.6	
最大風速 m/s		S 16.8		S 10.5		SSW15.3		S 18.3		S 18.5	
最大瞬間風速 m/s		SSE29.4		S 20.5		S 19.4		S 25.0		SSE26.6	
1時間降水量の最大mm		12.2		15.3		15.0		22.6		11.5	

昭和40年（1965年）9月17日～18日 暴風雨・高潮（台風24号・25号）

15日午後沖繩南方海上において北東に転向した台風24号は、17日21時ころ愛知県渥美半島に上陸して中部地方から東北地方を縦断し、18日15時ころ北海道根室附近を通過してオホーツク海に入った。この為17日夜より18日朝まで南寄りの暴風となり、18日2時前後東京湾奥部には推算潮位より約1m高い高潮が押寄せ、浦安、船橋方面の低地に浸水した。雨は台風の北上に伴って活発化した前線の影響により13日ころより降り出し、17日夜まで続いた。尙16日15時ころ、小笠原方面より北上した小型の台風25号が房総沖約390kmを通過した為、16日夜半から17日早朝にかけ、天羽附近及び笹川一土気を結ぶ線を中心とする内陸部に集中的な大雨があった。

警察管内別被害表

18日9時現在 県警本部調

署別	種別	死者人	負傷者人	家屋全壊戸	家屋半壊戸	床上浸水戸	床下浸水戸	家破屋一部損戸	非被住家害棟	田流埋ha	田冠水ha	道路損壊ヶ所	橋梁流失	崖崩れヶ所	鉄道被害ヶ所	通信被害回線	罹災世帯戸	罹災者人
千葉中央		1	—	—	—	—	44	—	2	—	5	—	—	1	—	—	1	1
千葉南		—	—	—	—	—	50	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—
習志野		—	1	—	—	2	42	—	1	—	—	—	—	4	1	1	2	12
船橋		—	—	—	1	15	349	—	—	—	—	1	—	2	2	—	16	96
市川		—	—	—	—	16	70	3	—	—	—	1	—	—	—	—	16	90
葛南		—	—	—	—	50	950	—	—	—	—	—	—	—	—	2	50	300
野田		—	—	—	—	—	—	35	—	—	20	—	—	—	—	—	—	—
成田		—	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—
印西		—	—	—	—	—	—	—	2	—	70	—	—	—	—	1	—	—
小見川		—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	1	—	8	—	—
八日市場		—	—	—	—	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
成東		—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	5	—	—
東金		—	—	—	—	1	150	—	—	—	—	—	—	1	1	—	1	6
市原		—	—	—	—	—	—	—	8	1	1	2	1	1	—	—	—	—
木更津		—	—	1	1	—	88	1	1	—	5	1	—	7	—	—	90	500
天羽		—	—	—	1	—	50	—	—	2	5	28	—	5	6	2	51	255
その他		—	—	—	—	—	—	3	6	—	—	1	—	—	—	4	—	—
合計		1	1	1	3	84	1805	52	25	3	106	34	1	23	10	27	227	1260

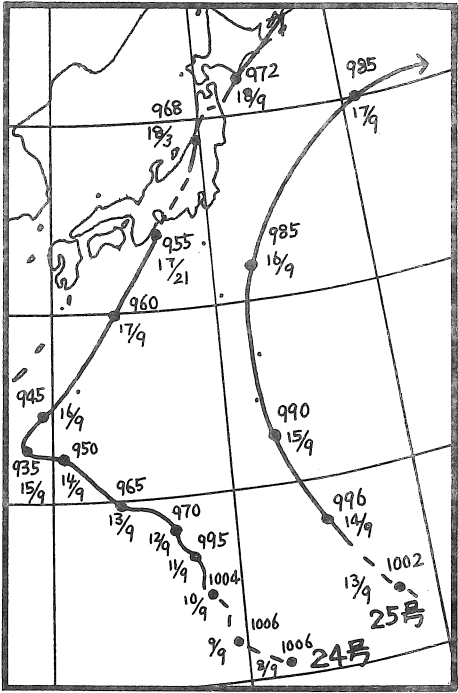
上表の被害の外、千葉地方の白菜及び大根に 1 0 5 0 万円、千葉及び君津地方の水稻に 3 8 0 0 万円の損害があり、香取郡のキュウリ、かんらんにも可成の被害があった。

(銚子地方气象台 異常気象速報)

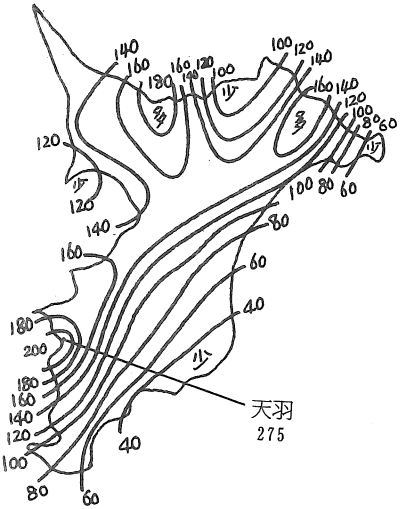
台風 2 4 号による被害は九州から北海道まで 4 1 都府県に及び、北陸、近畿、四国が多い。被害総計は 死者 9 8 人、行方不明 9 人、負傷 3 3 0 人、家屋全壊 4 0 9 戸、半壊 6 6 2 戸、流失 2 5 8 戸、床上浸水 4 3 0 8 2 戸、船舶沈没 2 2 隻、流失 1 6 隻、その他に上る。

気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉
最低気圧 mb		983.8		985.0		986.6		984.7		982.0	
最大風速 m/s		SSW27.8		SSW17.4		SSW23.7		SSW22.5		SSW26.8	
最大瞬間風速 m/s		S 40.8		SSW27.0		SSW34.3		SSW34.8		SSW37.4	
1 時間降水量の最大 mm		15.0		11.8		1.6		5.0		26.0	

1 9 6 5 年 9 月
台風 2 4 ・ 2 5 号経路図



1965年9月13～17日
降水量分布図



昭和40年（1965年）10月4日 高波（台風28号）

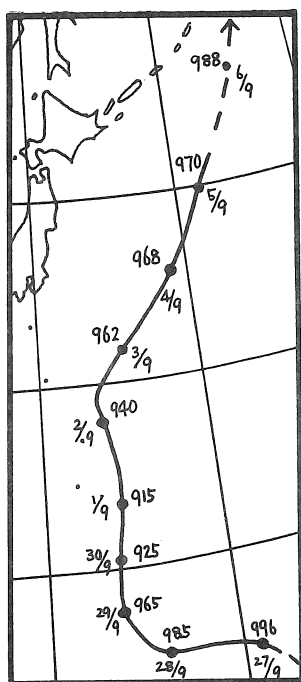
マリアナ方面より北上し、2日夜半 鳥島東方約390Kmにおいて北東に転向した台風28号は、4日夜半金華山沖を通過してアリューシャン方面に去った。この台風は進行速度が遅かった為関東から三陸の沖合は、2日から5日にかけて北ないし北東の強風が続き、沿岸各地に激しい高波が打寄せた。

千葉県被害 4日14時ころ、一宮川が海水の浸入によって氾濫し、一宮町船頭給先の県道が、30mにわたって冠水、附近民家20戸が床下浸水し、白子町でも約20戸が床下浸水した。

（朝日新聞）

この高波のため、青森、岩手、宮城、福島沿岸及び大島、八丈島に少なからざる被害があった。

1965年9月～10月
台風28号経路図



〔参考〕 高 波

高波によって沿岸に浪を起すのは、台風や強い低気圧が接近して、附近の海上に暴風が吹いている場合と、これらの低気圧が通り過ぎて暴風が収まった後に起る場合がある。

昭和25年10月31日の銚子外川港の被害は後者の例である。当日15時、台風は銚子の東方約220Kmにあり、時速60Kmで北東に進行していた。従つて、暴風も次第に収まり、19時には風速も6.7m/sに落ちたのであるが、19時すぎ大砲のごとき音響と共に3mの大浪が突如打寄せ続いて10～15分間隔を以て更に2回同の大浪がおそいかかり、漁船25隻が破損した。

昭和41年（1966年）1月4日 竜 巻（低気圧）

3日午後九州南西海上に発生して北東に進んだ低気圧は、東海道沖を通過する頃より発達し、4日12時から15時にかけて房総半島を縦断して三陸沖沿岸から北海道東方海上に去った。この為4日正午まえより県内各地に雷雨が起り、一部では雹も降ったが、12時48分ころ市原郡加茂村久保の山間部に龍巻が発生し、13時10分ころ南総町真ヶ谷部落に達して消滅した。通過経路は巾30～100m、延長約6Kmに及び、大きな被害を出した。

〔 参 考 〕 竜 巻

龍巻というものは、まず母体となる積乱雲又は乱層雲があつて、その雲底から象の鼻のような漏斗状の雲が垂れ下がってくるもので、漏斗雲が地面又は海面に近づくと、直下の地面は砂塵をあげ、海面ならばしぶきをあげ、その中に漏斗雲が接地する。この漏斗雲は、台風を小型にしたような激しい渦巻きで、旋回の方は反時計廻りであるが、中には時計廻りのこともある。漏斗雲の直径は数メートルから数百メートル、移動の速度は時速40Kmにも及ぶことがある。漏斗雲のまわりの風速は秒速数十メートルから100メートル以上に及び一瞬のうちにあらゆるものを破壊する恐るべきものである。しかし、時には湖水を吸上げ、数キロ離れた所まで運搬していつて、水中の魚と共に放出するという愛嬌をふりまくこともある。

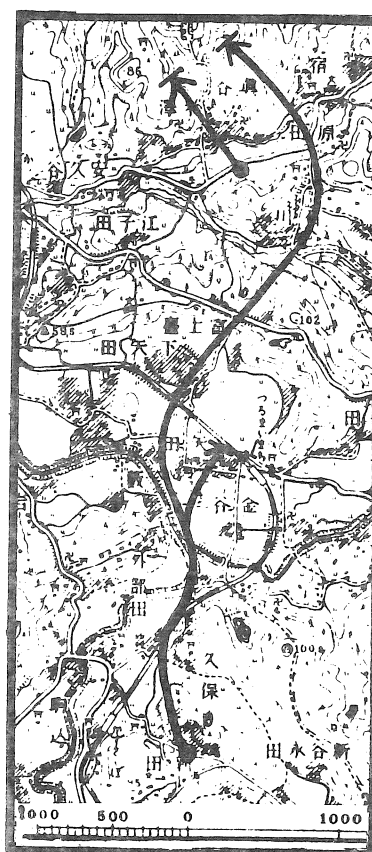
龍巻は発達した低気圧の周辺又は前線上に発生することが多いのである。時には気圧の谷の中、高気圧圏内でも発生することがあつて、予報はすこぶる困難である。

南総町災害対策本部調べによる被害 負傷者8人、
家屋全壊15戸、半壊48戸、罹災世帯57戸、罹災
者概数156人、立木の折損多数。

電力関係の被害 電柱倒壊3本（矢田2、下矢田1）。
電柱傾斜23本（矢田13、下矢田4、真ヶ谷5、久
保1）、電灯線の断線及び浪線56ヶ所（矢田10、
下矢田18、真ヶ谷12、久保16）引込線の断線及
び浪線43ヶ所（矢田19、下矢田10、真ヶ谷9、
久保5）。（東京電力千葉営業所）（以上東京管区気
象台 異常気象報告）

この低気圧により、静岡県に高波による堤防決壊、
青森及び北海道南部に暴風雪による被害があつた。

1966年1月4日
竜巻経路図



昭和41年（1966年）6月28日 暴風雨（台風4号）

九州の遙か南海上より北上した台風4号は、28日朝 潮岬の沖合370Kmに達し、18時から
21時にかけて房総沖80Kmを通過して北海道東方洋上に去った。この為28日夕刻より夜半まで暴

風となり、雨は２７日夕刻より降り出し、２８日夜半まで続いた。２８日の雨量が多い。風は比較的弱かったので、被害は主として大雨による水害であった。

警察管内別被害表																6月29日10時現在		県警本部調	
署別	種別	死者人	負傷者人	家屋全壊戸	家屋半壊戸	床上浸水戸	床下浸水戸	家破屋一部損戸	非被住家害棟	田冠水ha	畑流埋ha	畑冠水ha	道路損壊ヶ所	堤防決壊ヶ所	崖崩れヶ所	鉄道被害ヶ所	通信被害回線	罹災世帯戸	罹災者人
千葉中央		—	—	—	—	—	173	—	—	—	—	2	—	—	2	—	—	—	—
千葉南		—	—	—	—	—	20	—	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
習志野		—	—	—	—	1	5	—	2	21	—	—	4	—	6	1	—	6	18
船橋		—	—	—	—	38	325	—	—	20	—	—	3	—	—	—	—	38	81
市川		1	—	—	—	181	1700	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	181	757
葛南		—	—	—	—	10	119	—	—	250	—	—	9	—	—	—	—	10	42
松戸		—	—	—	—	16	515	—	—	60	—	—	9	—	4	1	—	16	81
野田		—	—	—	—	—	14	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
柏		—	—	—	—	33	114	—	—	203	—	—	3	—	5	2	—	33	130
佐倉		—	—	—	1	—	4	—	1	30	—	—	1	—	2	—	21	1	6
成田		—	—	—	—	—	—	—	—	200	—	—	—	1	1	—	—	—	—
佐原		—	2	—	—	—	19	1	—	25	—	—	1	—	7	—	—	—	2
小見川		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	5
東金		—	—	—	—	—	15	1	1	30	1	—	1	—	2	1	1	—	—
市原		—	—	—	—	—	10	—	—	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—
南総		—	—	—	—	—	—	—	—	51	—	—	2	—	2	—	—	—	—
木更津		—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—
上総		—	—	—	—	—	—	1	—	25	—	—	7	—	8	—	—	—	—
館山		—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	4	—	2	—	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	1	—	5	—	—	14	—	15	—	—	—	—
合計		1	2	1	1	279	3133	5	5	925	1	2	61	1	61	5	22	286	1122

上表の被害の外、農作物の損害１億円余、河川、道路等土木関係の損害３億６千万円に上り、千葉鐵道管理局管内において列車運休８２本、遅延列車８２本を出し、電力関係の被害も少なかった。

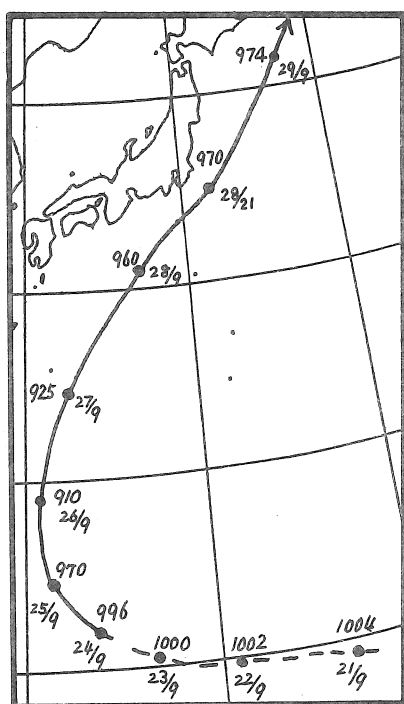
尚、勝浦市浜勝浦地先においては、この大雨の為ゆるんだ地盤が、３０日８時３０分ころ崖崩れを起し、家屋６戸が倒壊し、死者１人、負傷者１人を出した。（銚子地方気象台 異常気象速報）

この台風による被害は関東から奥羽南部に及び神奈川県被害が最も大きい。被害総計は 死者５０人、行方不明１６人、負傷者９６人、家屋全壊１０７戸、半壊１３４戸、流失３戸、床上浸水２５６６戸

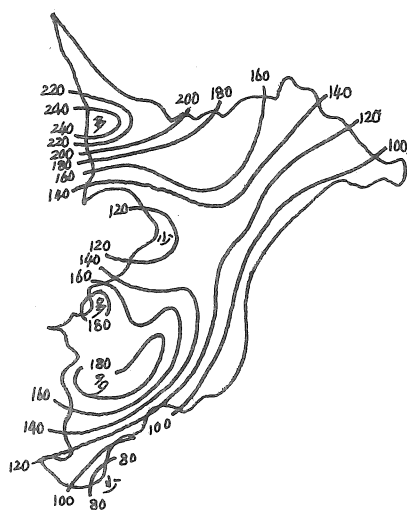
戸、その他に上る。

気象要素	地名	富	崎	館	山	勝	浦	銚	子	千	葉
最低気圧 mb		978.2		978.2		976.7		976.4		980.2	
最大風速 m/s		NNW15.3		NNW14.4		NNW10.8		NNW19.5		N 17.6	
最大瞬間風速 m/s		N 26.8		NNW21.3		NW 20.4		NNW29.9		N 24.0	
1時間降水量の最大mm		13.3		17.3		10.5		12.4		12.5	

1966年6月台風4号経路図



1966年6月27～28日
降水量分布図



昭和41年（1966年）3月～7月 海 難

- 3月21日 14時30分ころ銚子犬吠埼灯台の東方22kmの海上において鯖漁船富丸（7トン 3人乗組）は横波を受けて沈没し、2人が行方不明になった。（東京管区气象台 異常気象報告）
- 7月13日夜 銚子屏風ヶ浦において貨物船第五日本丸（432トン、8人乗組）は濃霧のため坐礁したが、乗組員は全員無事であった。（東京管区气象台 異常気象報告）

昭和41年（1966年）3月～8月 海岸浸食

1. 君津郡天羽町湊海岸は、昨年夏より侵食が始まり、護岸から水際まで約80mあった砂浜は、3月初めには長さ300mにわたって40mも後退し、約50cmの落差を生じた。

（3月4日 朝日新聞）

2. 館山湾沿岸の那古から正木に至る約1.5kmの砂浜は、2年ほど前より侵食が始まり、8月には約10m後退し、中旬より防潮堤200mの工事が始められることになった。また、館山市八幡の砂浜も長さ約800mにわたって巾20mが侵食され、海岸道路まであと十数メートルを残すのみとなった。（8月13日 朝日新聞）

昭和41年（1966年）9月2日 雷雨（前線）

北海道東方海上の低気圧より南西にのびる寒冷前線が関東地方を東西に横ぎり、2日から4日にかけて関東各地に雷雨が発生した。

本県では2日の雷雨が強く、京葉方面では15時ころより17時ころまで強い雨と落雷があり、千葉市周辺6000戸、船橋市1000戸が停電し、国鉄市川―千葉、千葉―四街道間の電車、列車が一時不通となった。また君津町にも落雷があった為、木更津及び館山市合せて約1000戸が停電した。（東京管区气象台 異常気象報告）

昭和41年（1966年）9月25日 暴風雨（台風24号・26号）

24日早朝 硫黄島西方より北上した台風26号は、夜半すぎ御前崎西方に上陸し、25日3時ころ前橋附近を通り、8時ころ岩手県南部から三陸沖に抜け、温帯低気圧となって千島南方海上に去った。また、沖縄南方海上よりゆっくり北上した台風24号は、台風26号の上陸後速度を早め、25日10時ころ高知県安芸市附近に上陸、四国東部から近畿北部を通り、能登半島より日本海に抜け、18時ころ秋田沖において温帯低気圧となった。

本県では、まづ台風26号の影響により、24日夜半より25日朝まで暴風となり、25日夜には台風24号により県北部の風が強くなった。雨は24日夜より強い秋雨が断続し、25日午後まで続いた。東京湾奥部では、25日3時前後およそ80cmに達する高潮があったが、落潮時であった為浸水による被害はなかった。

警察管内別被害表

9月25日12時現在 県警本部調

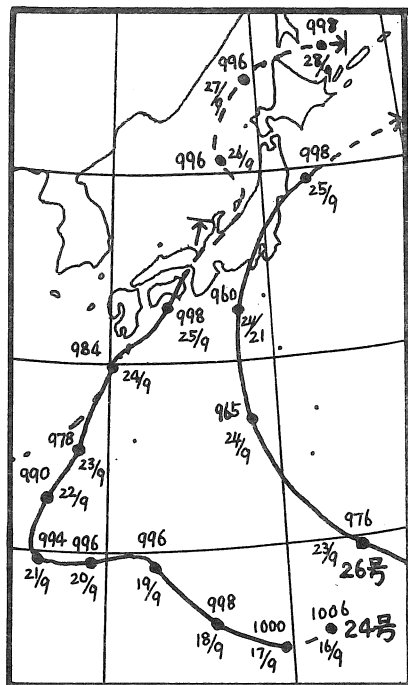
署別	種別	負傷者 人	家屋全壊 戸	床上浸水 戸	床下浸水 戸	家破屋一部損 戸	非被住家害棟	道路損壊 ヶ所	崖崩れ ヶ所	鉄道被害 ヶ所	罹災世帯 戸	罹災者 人
千葉中央		—	—	—	13	2	1	—	1	—	—	—
習志野		—	—	—	3	—	—	2	—	—	—	—
船橋		—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—

葛 南	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-
松 戸	-	-	4	112	1	1	-	1	-	4	20
柏	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 総	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
木更津	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市 川	-	1	-	-	1	1	-	-	-	1	5
合 計	1	2	4	159	5	3	2	3	1	5	25

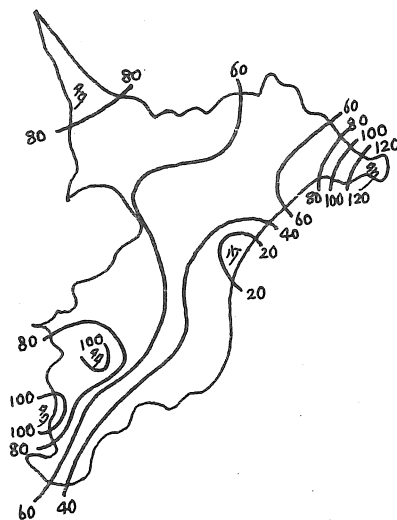
上表の被害の外、県内送電線のうち78回線が被害を受け、国鉄千葉―蘇我間において民家の屋根が線路上に落ち、列車が一時不通となった。（銚子地方气象台 異常気象速報）

台風24号による被害は九州、四国、中国地方に多く、台風26号では山梨、静岡、関東から東北地方に及び、特に山梨県足和田村には山津波による大惨事が起った。被害総計は 死者238人、行方不明79人、負傷者824人、家屋全壊2353戸、半壊8431戸、流失69戸、船舶沈没18隻、流失14隻 その他に上る。

1966年9月
台風24・26号経路図



1966年9月24～25日
降水量分布図



気象要素 \ 地名	富 崎	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb	995.6	995.7	998.9	999.4	996.0
最大風速 m/s	SSE19.7	SE 16.5	S 16.3	SSE19.2	SSE19.7
最大瞬間風速 m/s	SSE35.0	SE 22.8	S 24.0	SSE28.3	SSE38.2
1時間降水量の最大mm	13.9	15.7	8.9	38.7	17.5

昭和42年（1967年） 2月10日～12日 大雪（前線・低気圧）

8日より大陸の高気圧が本州に張出すと共に、本州の南海上には前線が停滞し、この前線上を小さな低気圧がつぎつぎに東進した。この為8日夜半より降出した雨は、寒気の流入によって県北部では10日朝より、県南部では10日夜より雪に替って12日夜半まで続き、昭和38年3月以来の大雪となった。

警察管内別被害表

2月13日10時現在

県警本部調

種 別 \ 署 別	船 橋	佐 倉	成 田	印 西	佐 原	小 見 川	東 金	茂 原	一 宮	大 喜 浦	勝 浦	市 原	南 総	木 更 津	上 総	天 羽	館 山	鴨 川	合 計
非住家倒壊棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
道路不通ヶ所	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	—	1	4
崖崩れヶ所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	2
電信線障害回線	78	—	49	—	16	12	34	13	16	5	9	48	7	9	31	5	4	8	344
有線放送障害戸	—	100	630	180	—	—	110	45	—	—	—	95	—	—	—	—	300	65	1525

上表の外、農作物、電力、通信、交通関係の被害次の如し。

農作物：野菜被害面積693ha、損害3800万円（東葛飾、安房、君津）。果樹360ha、1800万円。花卉175ha、2200万円（安房、君津）。ビニールハウス倒伏159000㎡、950万円。以上損害合計8750万円。（県農政課調）

電力：電柱倒壊2本（成田、東金）。断線15ヶ所（茂原、大原、木更津、東金）。引込線障害30ヶ所（茂原、大原、木更津、東金の山間部）。樹木接触による断線3ヶ所（茂原山間部）。停電8800戸。（東京電力千葉支店調）

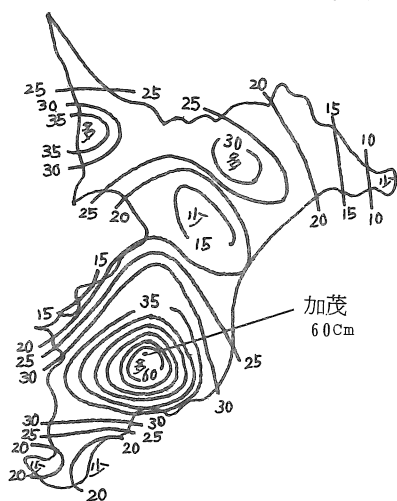
通信：市内ケーブル障害27件、市外ケーブル障害27件、一般障害887件。

（千葉電気通信部調）

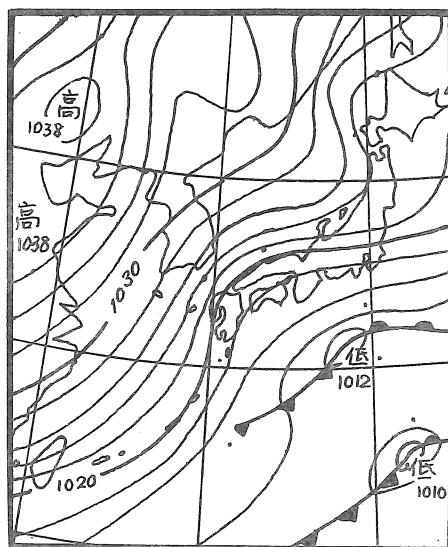
交通：国鉄電車運休118本、木原線一時不通、通信障害6回線、その他県内各地のバス運休続出して交通が混乱した。（以上銚子地方気象台 異常気象速報）

この大雪により、静岡県及び関東各地の交通機関が混乱した。

1967年2月12～13日
最深積雪分布図 (Cm)



1967年2月11日9時
地上天気図



昭和42年 (1967年) 2月13日～15日 低温

10日来の雪が12日夜半に止み、13日朝には大陸高気圧の張出しによって県下一般に冷えこみがきびしく、内陸部においては零下10度に達し、14、15日とも低温が続いた。このため京葉地区一帯に水道管破裂が多く発生した。

千葉県水道局調べによる管内(千葉、西千葉、船橋、市川、松戸、葛南、市原)の事故件数は、13日約1200件(うち千葉430)、14日約2100件(うち千葉880)、15日約700件に達した。

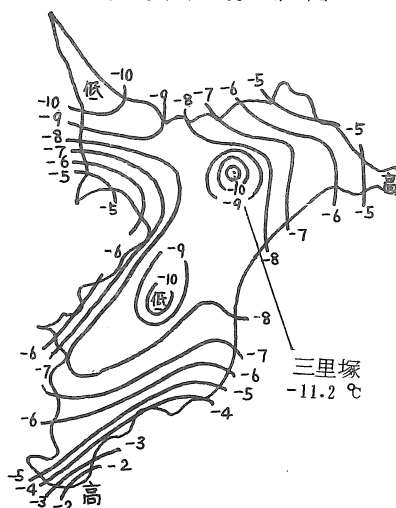
(千葉県測候所 異常気象報告)

〔参考〕 植物の凍霜害 (2)

凍霜害をうける温度は、植物の種類によつて多少の違いがあり、かんらん及びかぶらは 0° 前後、結球白菜は $-2 \sim -3^{\circ}$ 、ほうれん草は $-4 \sim -5^{\circ}$ である。麦類は幼穂が形成される2月頃に -2° 以下になると穂が枯死する。柑橘類は -3° になると葉が巻いて縮まり、長時間続くと落葉し、 -5° 以下になると被害が大きい。

但し、短時間ならば被害が少ない。

1967年2月13日
最低気温分布図 ($^{\circ}\text{C}$)



昭和42年（1967年） 1月～4月 火 事

1. 1月25日 21時30分ころ 千葉港寒川船溜りにおいて第三スミダ丸（70トン）は石油ストーブより火を発し、重油に延焼して死者3人、重傷5人を出す。
2. 2月19日 6時10分ころ 船橋市海神町の木造二階建アパートより出火し、5棟を焼失した。罹災世帯38戸、罹災者81人、船橋市は罹災者救助対策本部を設置して救助に当る。
3. 2月23日 0時20分ころ 船橋市宮本町の木造アパートより出火して25棟を焼失した。死者3人、罹災世帯63戸、罹災者231人。
4. 4月6日 20時ころ 君津郡上総町久留里小学校より出火し、校舎6教室（365 m^2 ）を焼失した。損害5千万円。
5. 4月28日 12時45分ころ 市川市相の川会社寮より出火し、民家1棟も類焼した。罹災世帯10戸、罹災者38人、損害1千万円。（以上 県警本部調）

昭和42年（1967年） 4月4日 暴風（低気圧）

3日夜、朝鮮北部から日本海に入った低気圧は、発達しながら北東に進み、5日朝オホーツク海に去った。この為4日朝より夕刻まで暴風となる。この風は東京湾一帯に強く、千葉市では最大風速28.1 m/s 、最大瞬間風速38.2 m/s に達した。

千葉県の被害 家屋倒壊1戸（千葉市）、屋根破損3戸（成田2、酒々井1）、掲示板、看板等の破損各地にあり。ビニールハウス破損（君津、九十九里）。停電3300戸（成田、安食、菅田）。

千葉駅構内工事現場において送電線にロープがふれ、電車7分遅延する。千葉港NO11灯浮標が船舶の接触により海没、損害約300万円。君津町沖合2kmにおいて浚せつ船の錨鎖が切断して漂流する。（東京管区気象台 異常気象報告）

昭和42年（1967年） 5月14日 雷雨（前線）

北海道方面の低気圧から南西にのびる寒冷前線が、16時より19時にかけて本県を通過し、野田方面より県南一帯に雷雨が発生した。

この雷雨は弱いものであったが、君津郡 袖ヶ浦町 飯富、下新田及び神納新田の3ヶ所には17時30分ころ落雷があり、農作業中の男1人、女2人が感電死した。（読売新聞）

昭和42年（1967年） 5月30日 降雹・落雷（雷雨）

30日午後 茨城県南部に発生した雷雨は、14時ころ酒々井、15時ころ長柄附近を経て、17時ころ天津小湊附近に達し、その後海上に去った。

この雷雨は、酒々井及び長柄附近一帯に直径2～3cmの雹を降らせ農作物に大きな被害を出し、成田及び茂原では落雷による停電があった。

農作物被害表

県農林部調

種別	区別	被害面積 ha	減 収 トン	損 害 高 万円	被 害 地 域
大	麦	17	8	36	酒々井
二条大	麦	220	294	1677	酒々井、長柄
小	麦	160	116	581	酒々井、長柄、長南
馬鈴薯		10	26	81	酒々井、
トウモロコシ		5	38	150	酒々井、長柄
西	瓜	60	370	1516	酒々井、長柄、八街、佐倉
メロン		16	96	957	酒々井、八街、佐倉
胡	瓜	5	93	662	酒々井、長柄
煙	草	23	49	2063	長柄、長南、茂原、佐倉
その他		31	379	1515	酒々井、佐倉
合	計	547	1469	9238	

電力関係の被害 オイルスイッチに落雷3ヶ所（成田2、茂原1）、碍子に落雷9ヶ所（成田2、茂原7）、停電 成田1000戸、茂原1500戸。（東電千葉支店調）

昭和42年（1967年）5月～6月 旱 害

4月下旬より寡雨の傾向が続いていたところ、5月中旬及び下旬には連日の晴天続きで水不足が深刻となり、5月24日 県は塩旱害対策本部を設置した。

5月の県下の雨量は40～60mmで平年より80～120mmも少く、水田の亀裂、植付けた苗の枯死するものも現われ、5月末の植付不能面積は東葛飾及び君津郡で15%に達し、県全体としては7%に上った。また、北総台地の落花生、甘藷にも生育不良が目立ち、房州の夏ミカン、ビワにも被害が出た。6月になって、少量ながら時々雨があったのと、利根川上流のダムの放流により、6月末における植付不能面積は1%まで減少した。

この旱魃のため勝浦市では5月末より水道の給水制限が行われ、6月中旬まで続いた。

（東京管区气象台 異常気象報告）

昭和42年（1967年）6月28日～29日 集中豪雨（低気圧）

朝鮮南部を通過して、28日朝山陰沖に達した低気圧は、発達しながら東北東に進み、28日夜から29日朝にかけ本州を横断して金華山沖に去った。この為 28日午後より雨が降り出し、夜に入ってから風も強くなったが、県南地方は22時ころより15～20m/sの強風に雷をも交えた豪雨となり29日早朝まで続いた。

県下の雨量は中部以北は少く20～40mmであったが、中部以南に多く安房及び夷隅郡では100mm

以上となり、勝浦から鴨川に至る沿岸一帯では240～260mmに達した。勝浦測候所の観測によれば、1時間雨量99mm、10分間雨量23mmという昭和15年以来の最高記録となった。

この雨は、一般には旱天の慈雨であったが、南部地方には少なからざる被害を出した。

警 察 管 内 別 被 害 表 30日10時現在 県警本部調

種別 署別	負傷者 人	家屋全壊 戸	家屋半壊 戸	床上浸水 戸	床下浸水 戸	田流埋 ha	田冠水 ha	畑流埋 ha	道路損壊 ヶ所	橋梁流失	崖崩れ ヶ所	鉄道被害 ヶ所
館山	—	—	—	—	32	—	10	—	—	2	1	—
千倉	—	—	—	8	11	—	18	—	8	—	1	—
鴨川	2	1	5	100	256	2	60	1	112	2	40	—
大原	—	—	1	—	—	—	2	—	—	—	2	—
勝浦	—	—	—	35	210	—	—	—	—	—	1	2
合 計	2	1	6	143	509	2	90	1	120	4	45	2

上表とは別に、勝浦市役所の調査によれば、管内の農地流失2ha、埋没5ha、冠水1000ha、水路決壊5ヶ所、農道崩壊7ヶ所、溜池埋没1があった。

国鉄関係では、興津－鵜原間の守谷トンネルに土砂崩れ、鴨川－天津間に道床流失、御宿－勝浦間に土砂流失、小湊－興津間に土砂崩れがあり、勝浦、小湊において折返運転となり、上下39本の客車及び貨車が運休した。（千葉鉄道管理局調）

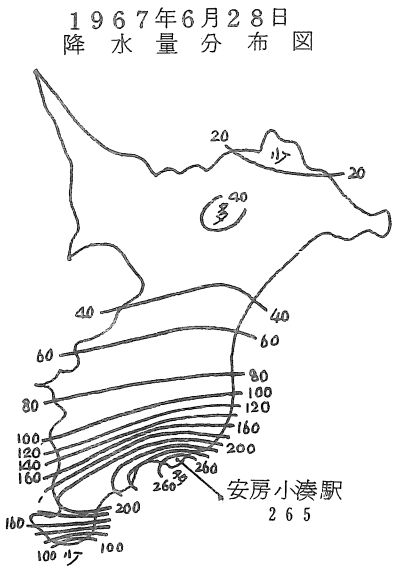
電力関係では、館山市内において電柱1本が倒壊して停電2000戸、勝山市内において高圧線断線のため停電2000戸を出した。

（東京電力 千葉支店調）

通信関係では、君津郡平川局の市外線17回線が断線した。（千葉電気通信部）

（以上、東京管区气象台 異常気象報告）

この低気圧により愛知、静岡、長野、山梨県にも多少の水害があった。



昭和42年（1967年） 7月18日 雷雨（前線）

17日夜、秋田沖より三陸沖に抜けた低気圧に伴う寒冷前線が本州中部を東進して関東南岸に至り18日から19日まで停滞した。この為17日から19日にかけて中部、東海、関東の各地に雷雨が発生した。

本県では、18日午前より19日早朝まで県内所々に雷が発生し、落雷による停電事故があった。特に、三里塚から銚子に至る北東部一帯には雷と共に強い俄雨が断続して30～60mmの局地的大雨があり、銚子市内では60戸が床下浸水し、路上浸水のため国道126号線の一部が30分間交通止めになった。三里塚附近では雨に交って雹も降ったが、雹による被害はなかった。

（東京管区气象台 異常気象報告）

電力関係被害表

東電千葉支店調

地 域	落 雷		停 電 戸 数
	個 所	数	
成 田	変 圧 器	1	3 0 0 0
佐 原	高 圧 線	1	6 0 0 0
	オイルスイッチ	1	
	そ の 他	2	
銚 子	変 圧 器	1 2	9 5 0 0
	高 圧 線	6	
東 金	変 圧 器	1	3 0 0 0
茂 原	〃	2	6 0 0 0
大 原	〃	1	2 0 0 0
木 更 津	碍 子	2	1 7 0 0
千 葉	変 圧 器	4	2 0 0 0

昭和42年（1967年） 9月14日～15日 暴風雨（台風22号）

13日午後鳥島の西方において北東に転向した台風22号は、14日午後房総半島の南東250kmに達し、16日早朝までこの附近の海上を低回し、17日午後三陸沖に至って温帯低気圧となり、北海道東方海上に去った。この為14日早朝より15日早朝まで暴風となり、雨は日本海より南下して本州南岸に停滞した前線により、11日より断続して16日朝まで続いた。

警察管内別被害表

9月16日9時現在 県警本部調

種別 \ 署別	葛南	習志野	印西	東金	千倉	一宮	大原	合計
床上浸水 戸	8	—	—	—	—	—	—	8
床下浸水 戸	1	—	1	—	—	15	—	17
道路損壊 ケ所	1	—	1	—	—	—	—	2
堤防決壊 ケ所	—	—	—	—	1	—	2	3
通信被害 回線	—	1	—	1	—	—	—	2

上表の被害の外、水稻倒伏2300ha、野菜流失300ha、果実落果30ha、ビニールハウス倒壊84920㎡。(県農政課調) 山武郡大網白里町四天木において堀川河口が漂砂のため埋まり、浸水家屋30戸を出す。(読売新聞)

電力関係の被害

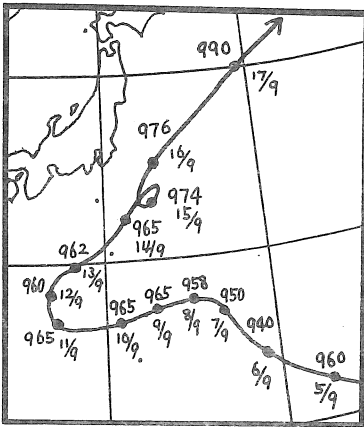
9月16日9時現在 東電千葉支店調

種別 \ 地域	佐原	銚子	成田	東金	茂原	木更津	館山	大原	合計
高圧線断線 ケ所	2	8	1	1	2	1	—	—	15
低圧線断線 ケ所	5	19	—	1	1	—	3	1	30
電柱折損 本	—	1	—	—	—	—	—	—	1
電柱傾斜 本	—	1	—	—	—	—	—	—	1
引込線障害 ケ所	8	46	9	19	17	—	5	45	149
その他、停電 10960戸あり。									

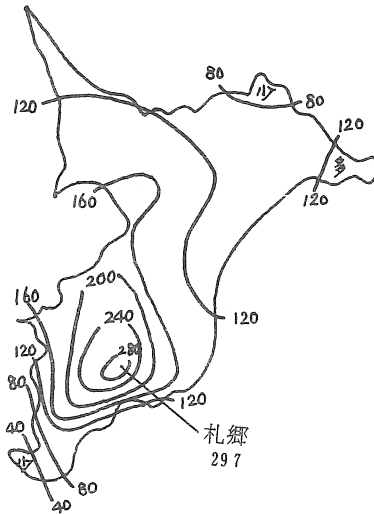
通信関係では、電話ケーブル線の障害135件(加入者電話3337本が不通)、銚子、習志野、船橋、市川、千葉、勝浦において一般障害1952件、市外線91件の障害あり。(千葉電気通信部調)
(以上 銚子地方気象台 異常気象速報)

気象要素 \ 地名	富 崎	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb	995.6	995.6	997.1	998.2
最大風速 m/s	N 15.3	N 14.7	NNE21.2	N 12.8
最大瞬間風速 m/s	N 27.8	NNE28.4	NNE32.6	N 22.2
1時間降水量の最大 mm	1.9	8.0	15.5	15.5

1967年9月
台風22号経路図



1967年9月11～15日
降水量分布図



昭和42年（1967年）9月20日～21日 水害（前線）

関東の南沖合にあった秋雨前線は、20日朝マーカス島附近を通過して北上中の台風27号の影響により沿岸に接近すると共に活発となり、21日朝この前線上の東海道沖に発生した小さな低気圧は、夜半銚子沖を通り三陸沖に去った。この為20日午後より降り出した雨は県東部において時々大降りとなり、21日夕刻まで続いた。雨量は県西部では40～60mm、東部では80mm以上となり、勝浦方面では120mm、銚子方面では180mmに達した。

銚子の被害 床下浸水300戸（清川町、幸町）、道路損壊4ヶ所（国道126号線、名洗街道）路上浸水による通行止1ヶ所（清川町国鉄ガード下）、崖崩れ2ヶ所。（22日12時現在 銚子警察署調）

総武線 松岸―猿田間において築堤14mが崩壊して除行運転を行う。（千葉鉄道管理局調）

勝浦の被害 崖崩れ1ヶ所。（勝浦警察署調） 国鉄鵜原―興津間に土砂崩れ1ヶ所。

（千葉鉄道管理局調）

昭和42年（1967年）10月28日 暴風雨・竜巻（台風34号）

沖縄南方海上より北東に進んだ台風34号は、28日3時30分ころ伊良湖岬に上陸した。その後台風は、房総半島を通るもの、関東北部を通るもの、佐渡附近を通るものに分裂して温帯低気圧となったが、28日夜半北海道東方海上において合併し、千島方面に去った。この為27日夜半より28

日夕刻まで暴風となり、雨は２６日夜半より降り出し、２８日朝まで続いた。尚２８日 ２時から４時の間、台風分裂に先がけて前線が房総半島を通過し、鴨川附近、大網白里より東金市丘山にいたる一帯及び飯岡海岸より銚子忍町にいたる一帯に龍巻が発生した。

- 鴨川附近 ２８日２時５分ころ鴨川町前原海岸に龍巻が発生し、多少の被害があった。
- 大網白里一東金 ２８日 ２時３３分ころ大網白里町経田部落に発生した龍巻は北に進み、２時４３分ころ養安寺部落を通過して東金市油井から丘山に至り、２時５０分ころ消滅した。養安寺部落では 家屋の倒壊により圧死者２人を出し、丘山小学校の旧校舎２棟、新校舎半分を破壊した。
- 飯岡一銚子 ２８日３時１２分ころ 飯岡町平松海岸に上陸した龍巻は、３時１８分ころ猿田を通過、更に忍町を経て、３時２３分ころ対岸の茨城県波崎町川尻に至って、消滅した。飯岡、猿田、忍の被害が大きい。

警 察 管 内 別 被 害 表

１０月２８日１５時現在 県 警 本 部 調

署 別	種 別	死 者 人	負 傷 者 人	家 屋 全 壊 戸	家 屋 半 壊 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	家 破 屋 一 部 損 戸	非 被 住 家 害 棟	道 路 損 壊 ヶ 所	崖 崩 れ ヶ 所	鉄 道 被 害 ヶ 所	通 信 被 害 回 線
千葉中央		—	—	—	—	24	100	—	—	—	—	—	—
千葉南		—	—	—	—	1	49	—	—	—	—	—	—
習志野		—	—	—	—	—	50	—	—	2	—	—	—
市川		—	—	—	—	—	1082	—	—	8	—	—	—
葛南		—	—	—	—	—	60	—	—	1	—	—	—
松戸		—	—	—	—	—	27	—	—	—	—	—	—
佐倉		—	3	2	—	—	14	—	2	—	2	2	—
成田		—	—	—	—	—	—	7	6	—	1	1	3
銚子		—	—	—	—	—	—	53	9	—	—	—	—
旭		—	7	6	15	—	—	120	20	—	—	—	—
八日市場		—	—	—	—	—	—	5	3	3	—	—	—
東金		2	2	11	127	—	30	80	198	10	—	1	—
上総		—	—	—	—	—	—	—	—	3	3	1	1
鴨川		—	—	5	25	—	—	645	5	—	2	—	—
その他		—	—	—	1	—	—	—	8	6	5	3	3
合 計		2	12	24	168	25	1412	910	251	33	13	8	7

電力関係では東電銚子管内において高圧線断線６１ヶ所、低圧線断線５５ヶ所、電柱倒壊１５本、電柱傾斜４０本、電柱折損５本、変圧器障害９個、引込線障害３２０ヶ所を出す。（３１日１２時

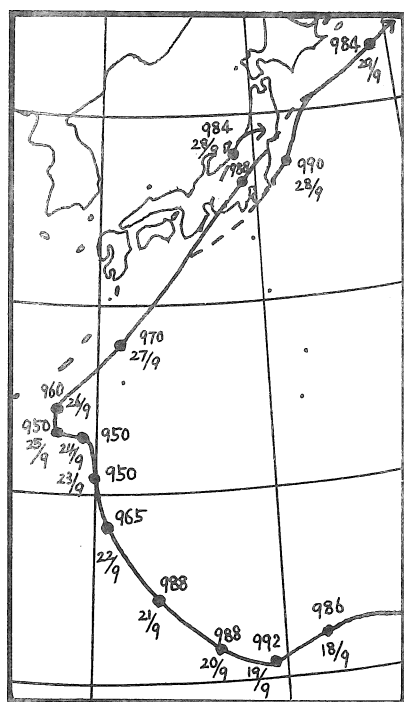
現在 東京電力銚子営業所調)

この台風による被害は九州より東北地方に及び、被害総計は死者35人、行方不明10人、負傷者37人、家屋全壊72戸、半壊214戸、床上浸水2588戸、船舶沈没25隻 その他に上る。

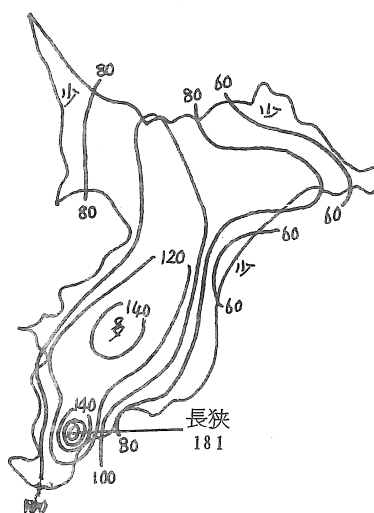
気象要素 \ 地名	富 崎	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb	991.4	992.5	990.7	991.1
最大風速 m/s	S 21.8	SSW20.7	SSE20.8	SSW19.3
最大瞬間風速 m/s	S 30.8	SSW28.5	SSE31.4	SSW26.3
1時間降水量の最大mm	22.3	15.8	11.8	43.0

備考 28日3時ころ 東金消防署において最大瞬間風速50 m/sを観測した。

1967年10月
台風34号経路図



1967年10月26~28日
降水量分布図



昭和42年 (1967年) 11月~12月 海 難

1. 11月15日 4時30分ころ 館山市船形灯台の西方約1000mの海上において砂利運搬船

天正丸（１９９トン、５人乗組）は大波の為ハッチカバーが破られ浸水して沈没した。乗組員は伝馬船にて無事脱出した。当時強風波浪注意報の発令中にて、館山湾ではSW20^m/s程度の風が吹いていた模様である。（東京管区気象台 異常気象報告）

2. 12月22日 16時30分ころ木更津沖約8kmの海上においてセメント運搬船第3常吉丸（30トン、2人乗組）は高波のため沈没したが、乗組員は附近碇泊中のソ連船に救助された。当時富崎における風速はWSW12^m/s程度であった。（東京管区気象台 異常気象報告）

昭和43年（1968年）2月14日 火 事

月始めより異常乾燥状態が続いていたところ、14日 2時50分ころ習志野市実籾町4丁目の製材工場附近より出火して工場、住宅及び物置を焼き、更に附近家屋に延焼して全焼13棟（内非住家5棟）、半焼1棟を出し、6時30分ころ鎮火した。焼失面積計900^m²、罹災世帯15戸、負傷3人。（習志野消防署調）

昭和43年（1968年）2月15日～16日 暴風雪（低気圧）

14日台湾附近に発生した低気圧は、発達しながら本州南岸を東北東に進み、15日夜半より16日早朝にかけ房総沖約170kmを通過して東方洋上に去った。この為15日朝より外房沿岸では雨、その他は全般に雪となり、夕刻には外房沿岸の雨も雪に代り、夜半には低気圧の接近と共に暴風雪となった。雪は16日朝には止み、積雪は県北西部で20～40cm、県南丘陵地帯で20～60cmに達し、昨年2月の大雪を上回る大きな風雪害を生じた。暴風は全般的には16日午前中に収ったが、銚子附近では夕刻まで続き、海難が発生した。

千葉県被害 行方不明1人（佐原）、負傷1人（大多喜）、道路損壊7ヶ所（千葉3、柏2、天羽1、館山1）、通信施設被害258件。（県警本部調）

農業関係 房州方面のビニールハウス及びビニールトンネル破損2054万円、トマト786万円
花卉類1億7600万円の損害あり。（県農政課調）

電力関係 山間部において電柱倒壊38本、傾斜269本、破損38本、高圧断線及び混線217ヶ所、低圧断線及び混線251ヶ所、引込線障害1093件。（東京電力千葉支店調）

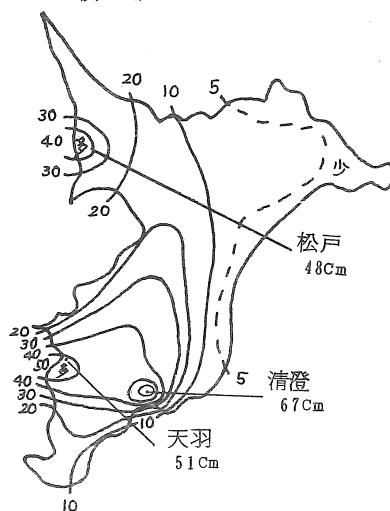
通信関係 山間部においてケーブル被害300回線、市外ケーブル131回線が障害を受け14局が孤立した。（千葉電気通信部調）

鉄道関係 15日 18～21時国電船橋一小岩間が不通となり運休100本、15～16日総武本線、房総東線及び西線は運休14本を出しダイヤ混乱する。（千葉鉄道管理局 列車課調）

海 難 16日 16時45分ころ銚子犬若沖5kmの海上において貨物船東宝丸（498トン）は暴風のため沈没し、行方不明1人を出す。（銚子海上保安部調）
（以上 銚子地方気象台 異常気象速報）

気象要素	地名	富 崎	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb		9908	9918	9929	9963
最大風速 m/s	N	212	NNW 153	N 245	NNW 160
最大瞬間風速 m/s	N	346	NNW 284	N 361	NNW 240

1968年2月16日
積雪分布図 (Cm)



昭和43年 (1968年) 2月20日 海 難 (高波)

20日 午前7時ころ安房郡富浦町大房岬沖合7Kmの海上においてタンカー第11大東丸(327トン、11人乗組)は高波を受けて転覆し、鋸南町岩井袋海岸に漂着した。乗組員のうち脱出した2人は附近航行中の貨物船に救助され、船内に閉込められた者のうち2人は翌21日船底を焼切って救出されたが、残り7人は死亡した。

当時内陸の風は弱かったが、遠州灘から東京湾口にかけて西ないし南西の風が強く、富崎では、SW17m/s前後の風が吹いていた。

(富崎測候所調)

昭和43年 (1968年) 6月19日 雷 雨

19日 正午すぎより夕刻まで県北部に発生した雷雨のため三里塚では159mm、下総豊里では80mm、柏では60mmに達する集中的な大雨があり、柏、松戸、佐原、銚子では落雷もあった。

警察管内別被害表		21日10時現在					県警本部		
署別	種別	死者人	床上浸水戸	床下浸水戸	非被住家害棟	水田冠水ha	道路損壊ヶ所	土砂崩れヶ所	鉄道被害ヶ所
松 戸	戸	—	—	40	1	—	—	1	—
柏	戸	—	2	18	—	—	—	—	1
成 田	戸	—	—	1	—	—	1	1	—
佐 原	戸	—	1	1	—	—	—	4	—
多 古	戸	—	4	11	3	251	24	7	—
銚 子	戸	1	—	—	—	—	—	—	1
計		1	7	71	4	251	25	13	2

電力関係の被害 13時より15時にかけて、落雷による高圧線断線及びトランス焼損のため 松戸9000軒、柏2000軒、佐原4000軒が停電した。(東京電力千葉支店調)

東武鉄道の被害 柏一増尾間において、附近の宅地造成地より線路に流入した雨水のため道床長さ8m、幅3m、深さ2mが欠潰したところに、16時35分ころ4輛編成の電車が乗り上げ 2輛が脱線傾斜し、負傷者11人を出した。

国鉄の被害 18時55分ころ 成田線下総豊里一椎芝間において道床が陥没して直径約1mの穴があき、上下2本の列車が運休した。

雷撃による死亡 銚子市諸持町をバイクにて通行中の少年が雷撃にあい、頭部を打って死亡しているのを、19時55分ころ通行人が発見した。(以上 読売新聞)

昭和43年 (1968年) 6月22日 雷雨・降雹

22日 夕刻埼玉県に発生し、19時20分ころ野田附近に侵入した雷雨は23時すぎ片貝附近に達し、その後海上に去った。このため柏一片貝を結ぶ線を中心に20～40mmの降雨と落雷があり、松戸、船橋、沼南、鎌ケ谷、白井附近には直径約1cmの雹が降り、農作物にかなりの被害を出した。

千葉県の被害 柏市名戸谷において浸水家屋11戸。(県警本部調)

降雹による損害推定 梨2～3億円、野菜類1億円。(県農政課調)

電力関係の被害 高圧断線3(船橋、松戸、野田)、変圧器焼損15(松戸2、柏10、成田1、東金2)、オイルスイッチ破損3(松戸、柏、東金)、自家用変電所破損1(千葉)
(東京電力 千葉支店調)

国鉄の被害 総武本線 佐倉一南酒々井間において線路上厚さ5cm、長さ40mが土砂に掩われ、23日早朝貨物列車が約40分停車した。(千葉鉄道管理局調)

通信関係の被害 柏、松戸、野田、習志野においてケーブル障害5件、一般電話線障害150件あり。特に柏市内がひどい。(千葉電気通信部調)

昭和43年 (1968年) 7月5日～6日 暴風雨(低気圧・前線)

本州南岸より大陸にのびる梅雨前線上に発生し、5日午後九州西岸に達した低気圧は、西日本から近畿、東海、関東を横断して、6日夕刻鹿島灘に抜け、三陸沖に去った。この為5日夕刻より降り出した雨は、6日朝からは風も加わって暴風雨となり、正午頃収まった。雨量は県下一般に60mm以上となり、県南丘陵地帯で100～140mm、佐原、三里塚方面で100mmに達し、かなりの被害を出した。風による被害は、比較的軽微であった。

警察管内別被害表

8日12時現在 県警本部調

署名 種別	千葉 中央	千葉 南	市 川	松 戸	佐 原	八日 市場	茂 原	勝 浦	木 更 津	館 山	柏	計
床上浸水戸	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9

床下浸水戸	7	23	100	45	—	—	—	—	—	—	—	175
家屋一部破損戸	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	2
水田冠水ha	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
道路損壊ヶ所	—	1	—	2	1	—	1	3	2	1	—	11
崖崩れヶ所	—	1	—	—	4	1	1	4	2	1	—	14
鉄道被害ヶ所	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	1	3
罹災世帯戸	12	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20
罹災者人	60	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100

土木関係の被害（８日１２時現在） 道路損壊３６ヶ所、橋梁破損４ヶ所、河岸崩壊４０ヶ所、海岸護岸崩壊１（大原）、砂防崩壊１（館山）、損害見積２億１千万円。

（県河港課調）

電力関係の被害 高圧線断線３ヶ所、高圧線接触２件、トランス焼損１ヶ所。（東京電力千葉支店調）

国鉄の被害 成田線佐原—香取間において樹木４～５本倒れ、運休８本。房総東線興津—小湊間において５ｍの土砂が崩壊し、客車１４本が１５～５０分遅延。成田線新木—布佐間において路盤陥没１０ｍ。房総西線大貫駅構内線路浸水。

（千葉鉄道管理局調）

昭和４３年（１９６８年） ８月２６日～９月１日 大雨（前線・台風）

２４日朝、沖縄南東約３００Kmの海上に達した台風１０号は、ゆっくり北上して２８日夜半九州南岸に接近し、それより北東に転向すると共に加速しながら九州東部を縦断、２９日９時周防灘、１５時若狭湾を通り、２１時会津地方に達した頃には温帯低気圧となって、夜半三陸沖に抜け、３０日朝千島方面に去った。一方、２５日より本州南岸に停滞した前線は、北上中の台風の影響により活発化して、２５日から台風通過後まで各地に雷雨性の強い雨が降った。この為本県では２５日夜半より２８日朝に至る間及び２９日夜より９月１日朝に至る間、断続的に強い雨が降り、かなりの水害を出した。

警察管内別被害表

９月１日１２時現在 県警本部調

種別 \ 署名	千葉中央	船橋	市川	成田	成東	東金	大多喜	市原	木更津	上総	天羽	千倉	鴨川	勝浦	計
家屋全壊戸	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
家屋一部破損戸	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
床上浸水戸	—	70	—	—	—	—	—	7	—	—	—	—	—	—	77
床下浸水戸	2	520	9	—	—	20	—	2	—	—	—	—	—	—	553

道路損壊ヶ所	—	—	1	—	1	2	1	1	4	2	1	1	2	1	17
崖崩れヶ所	—	—	—	—	1	1	1	—	4	3	1	1	1	1	14
鉄道被害ヶ所	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2
罹災世帯戸	—	70	—	—	—	1	—	7	—	—	—	—	—	—	78
罹災者人	—	280	—	—	—	6	—	40	—	—	—	—	—	—	326

支庁別農業被害 8月29日17時現在 県農政課調

種別 \ 支庁名	長生	山武	海匝	安房	夷隅	東葛	千葉	香取	君津	印旛	計
水田冠水ha	410	723	150	—	—	—	—	—	—	—	1283
水稻倒伏面積ha	3470	2410	700	2114	2585	408	1300	4000	3460	5426	25873

水稻倒伏による穂の発芽75285トンに達し、被害総額3億9900万円と推定される。

(読売新聞)

郡市別土木関係被害 9月1日17時現在 県河港課調

種別 \ 郡市名	安房郡	長生郡	君津郡	市原郡	夷隅郡	海上郡	勝浦市	市原市	木更津市	銚子市	計
道路損壊	9	3	17	—	1	1	2	7	—	—	40
堤防護岸欠壊	14	4	9	9	1	—	1	—	2	1	41

土木関係の損害は1億4877万円と推定される。(読売新聞)

通信関係被害 9月2日13時現在 千葉電気通信部調

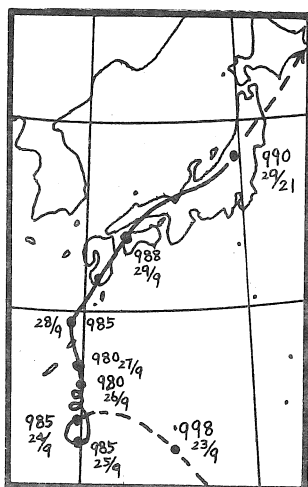
局名	ケーブル障害	回線障害	局名	ケーブル障害	回線障害	局名	ケーブル障害	回線障害
千葉	27	840	野田	5	138	館山	12	256
市川	13	839	木更津	9	340	佐倉	3	77
松戸	10	353	茂原	1	60	成田	2	54
船橋	5	283	五井	7	282	八日市場	4	66
習志野	22	867	東金	8	158	鴨川	1	12
八千代	6	259	佐原	5	138	大原	4	94
柏	7	280	銚子	—	38	計	151	5434

国鉄関係の被害 成田線布佐—新木間築堤陥没のため9月1日4時より10時まで運休。総武本線 成東—松尾間及び房総西線姉ヶ崎—長浦間は1日朝より2日朝まで除行運転する。

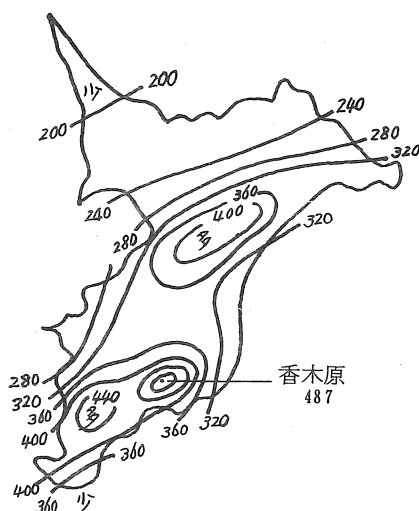
(千葉鉄道管理局調)

気象要素 \ 地名	館 山	勝 浦	銚 子	千 葉
最低気圧 mb	999.4	999.8	998.5	997.6
最大風速 m/s	SSW12.8	SSW16.0	S 16.0	S 17.2
最大瞬間風速 m/s	SSW21.3	SSW21.0	SSW23.1	S 25.7
26日～1日総降水量 mm	397.5	125.5	323.0	301.5
1時間降水量の最大 mm	39.5	18.5	37.0	27.5

1968年8月
台風10号経路図



1968年8月25～31日
降水量分布図



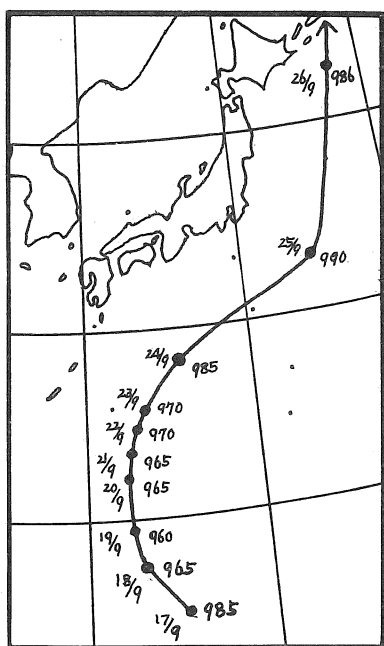
昭和43年（1968年）10月23日～24日 大雨（前線・台風）

10月上旬より秋雨ん期に入り、下旬半ばまで雨が断続した。一方、月半ば頃カロリン方面に発生した台風19号は、23日朝には南大東島の東方約200Kmに達し、これより北東に転向して衰えながら三陸沖に去った。この為秋雨前線が活発化して、23日朝より24日朝までの雨量は県下一般に50mm以上となり、特に県南丘陵地帯から勝浦方面では100mmに達し、この方面に多少の水害を生じた。

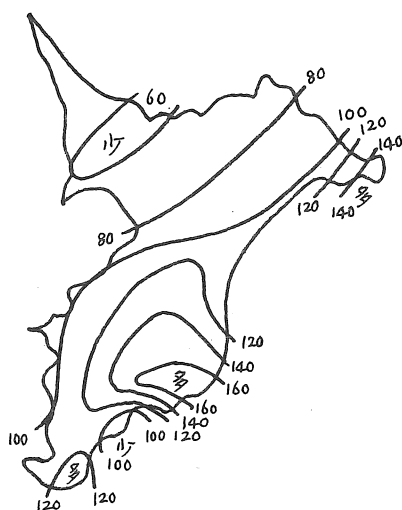
警察管内別被害表 10月25日10時現在 県警本部調

種別	署名	一 宮	勝 浦	南 総	上 総	計
床下浸水	戸	90	—	—	—	90
道路損壊	ヶ所	2	1	1	1	5
崖 崩 れ	ヶ所	1	1	1	—	3

1968年10月
台風19号経路図



1968年10月20～25日
降水量分布図



昭和43年（1968年）12月19日 海難（低気圧）

17日朝揚子江南方に発生した弱い低気圧は、東支那海より本州南岸を東北東に進み、19日15時には房総沖約180Kmに達し、中心示度も1002mbとなり、更に発達しながら東方海上に去った。このため銚子では19日午後より20日早朝まで暴風となり、最大風速N、18.0m/s（16時30分）、最大瞬間風速N、25.2m/s（16時26分）に達した。

19日 17時15分ころ利根川河口より波崎港に帰港せんとした旋網漁船第一稻荷丸（60トン23人乗組）は、一ノ島灯台の北方約50mにおいて横波を受けて沈没し、乗組員9人は救助されたが、残りの14人は行方不明となり、その中4人の遺体が発見された。（銚子地方气象台）

第 三 部

千 葉 県 の 気 候

千 葉 県 の 気 象 災 害

気 候 表

千葉県 気 候

千葉県の気候の特徴を一口に言い表わすならば、県内の大部分において枇杷及び柑橘類の生産が行なわれるほどに温暖であるということである。枇杷、柑橘の経済栽培は年間の平均気温 15°C 以上、日平均気温 10°C 以上の日数 $290\sim240$ 日の地域に限るといわれ、千葉県は、この気候条件を満足する北限の土地に該当しているのである。

本県の年平均気温は 16° から 14° にわたり、九十九里から外房、内房の沿岸部では 15° 以上房州南端では 16° 、県南丘陵地帯の北側から内陸部では $15^{\circ}\sim14^{\circ}$ となっており、日平均気温 10° 以上の日数は、房州南部において 270 日、勝浦、銚子において 250 日余、その他はやや少く 240 日前後である。

最も寒冷な1月でも平均最低気温は、安房、夷隅の沿岸部及び銚子半島では 0° 以上を保ち、鋸南一館山ー勝浦の線において 1° 、勝浦及び銚子附近では凡そ 2° 、房州南端の富崎附近は 3° で最も暖かである。その他の地方は 0° 以下にはなるが、利根川下流域より九十九里沿岸及び東京湾沿岸は -1° 前後に止まり、内陸部でも -3° まで下ることはない。但し、北総台地の三里塚附近のみは、海岸線より最も遠く離れている為に -4° 近くまで低下し、県内では最も寒冷な区域となっている。

盛夏8月の平均最高気温は県内の殆ど全域が 30° に達し、県南丘陵地帯の北側に当る地域及び三里塚附近は 31° とやや暑い。これに比べ、銚子から片貝に至る海岸及び外房の勝浦附近より内房の鋸南に至る海岸は涼しく $29^{\circ}\sim30^{\circ}$ である。

本県の降水量は裏日本とは対照的に、寒候期に少く、暖候期特に6～7月の梅雨期と9～10月の秋霖期に多い。平均月降水量の最も少いのは1月の $40\sim80$ ミリ、最も多いのは10月の $190\sim310$ ミリである。

地域的には県南丘陵地帯を中心とする房総南部が最も多く、年間総降水量は、 $1600\sim2100$ ミリに達する。これに次ぐ地域は海匝地方の $1600\sim1700$ ミリ、印旛及び東葛の大部分が $1400\sim1600$ ミリ、北総台地より市原に至る内陸部及び野田方面は、関東地方の平野部と同じく $1350\sim1400$ ミリで、県内では最も雨量の少ない地域となっている。

尚、本県において雪の降る可能性のある期間は、12月末から3月半ばまでであるが、平均の雪日数は3～10日に過ぎず、10センチ以上の積雪が2日以上にわたることは殆どない。

風速は一般に沿岸部において強いのであるが、県内でも特に強いのは銚子地方で、年間の平均風速は 6 m/s に達し、これに次いで外房沿岸が 5 m/s 、京葉地区は 4 m/s と内湾沿岸がやや弱い。内陸部の風は沿岸部に比ぶれば可成弱く、布佐附近を例にとれば $2\sim3\text{ m/s}$ となっている。年間の平均暴風日数も同様な傾向を示し、銚子 160 日、富崎 130 日、千葉 110 日、布佐 40 日で、沿岸部が

多く、内陸部が少くなっている。

以上が、千葉県的气候を構成する主要要素の概要であるが、詳しくは末尾の気候表を参照して頂きたい。

千葉県的气候災害

千葉県は気象災害の少いところと謂われているが、昔の記録の不備な時代を除いては、災害の絶無であった年はない。

個々の気象災害は本書に列挙した通り、災害の原因となった異常気象の種類、発生回数は気候の長期変動に伴い、時代によって相違が見られるので、昭和31年から昭和40年まで最近10ヶ年間の概要を述べることにする。

まづ、最近10ヶ年間に起った主な気象災害の発生回数を原因別及び月別に表示すると次の通りである。

気象災害の原因別・月別発生回数（昭和31～昭和40）

原因 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
台風	—	—	—	—	2	3	1	5	9	5	—	—	25
低気圧	1	—	2	—	1	—	1	1	—	4	2	2	14
前線による大雨	—	—	—	—	1	4	—	—	—	6	1	—	12
雷と雹	—	—	—	—	3	3	—	2	—	—	—	—	8

上表に見る通り、千葉県の気象災害は台風によるものが最も多く、低気圧が之に次ぐ。台風及び低気圧による災害は広い範囲に起り、しかも被害の規模も大きいものであるから、此等による災害は全気象災害の大部分を占めるものである。

台風や低気圧に比べると、前線による大雨及び雷や雹による被害は、比較的狭い範囲に起り、発生回数もそれぞれ12回及び8回であるから、災害としては大きなものではない。

台風による災害を細別して、暴風と大雨による風水害、風は比較的弱いが大雨による水害、雨は少いが強風による暴風害に分けるならば、最近10ヶ年の台風災害25回のうち、風水害、水害、暴風害の回数はそれぞれ15回、7回、3回で、百分率にすればそれぞれ60%、28%、12%となっている。従って、台風が接近するという場合には、暴風と大雨の両方による被害が起るものとして、之に備える心構と対策が必要である。

また、台風来襲の場合には、台風の経路如何によっては、高潮による被害の発生についても考慮に入れておかなければならない。高潮の被害は、主として東京湾沿岸に起り、台風が東京湾の西方を北上するか、東京の北方を通して北東に進行する場合が最も危険である。最近10ヶ年間には、幸い高潮による著しい被害は起っていないが、明治44年6月及び7月、大正6年10月には、京葉沿岸

に2～3メートルの高潮が押寄せて大被害を起した例があるので、この地方では日頃から充分な防潮計画を立てておくことが必要である。

最近10ケ年間に起った25回の台風災害のうち、本県に最も大きい被害を起したものは、昭和33年9月の狩野川台風で、最大風速34メートル、降り始めから降り終りまでの全雨量は400ミリに達している。勿論、全県下一様に34メートルの暴風が吹き、400ミリの大雨が降ったというのではなく、風は20メートル位の所もあり、雨は100ミリ位の所もあったのであるが、台風の規模としては、風速34メートル、雨量400ミリが、最近10ケ年のうちでは、最も大きいものとなっている。

然らば、防災の目標としては、最大風速34メートル、雨量400ミリが限度かというのと、そうではなく、昭和23年9月のアイオン台風の時には最大風速48メートルとなり、昭和13年6月の台風の時には、数日前から梅雨前線が停滞しているところに台風が接近したため総雨量600ミリに達したという例がある。従って、台風防災の立場からは、風速およそ50メートル、雨量600ミリを目標としなければならない。

低気圧による災害は、台風の場合と同じく暴風と大雨によるものであるが、風速の最大は28メートル、雨量は300ミリ程度、その発生回数も10ケ年間に14回位であるから、被害の方も台風に比ぶれば遙かに下廻っている。只、低気圧災害の特殊な形態として一言しておきたいことは、冬季房総沖を通過する低気圧の場合、大雪によって思わぬ被害の生ずることである。大雪と言っても、20センチないし50センチの積雪ではあるが、当地方としては大雪であって、送電線、通信線の障害、交通機関の混乱及び農産業の被害を生ずるものである。

前線による大雨は、主として梅雨期と秋霖期の停滞前線によるもので、狭い範囲に集中的に降る、所謂「集中豪雨」となることが多く、雨量も300～350ミリに達する。台風や低気圧は、接近する2～3日前から動静が分り、予想もつき易いのであるが、前線による大雨は、降るか降らないか、降るとすれば何処に降るかという判断が難かしいものであるから、梅雨及び秋霖の時期には集中豪雨に対する警戒が必要である。

本県における雷と雹による災害は、関東地方の北部諸県に比ぶれば可成少いものではあるが、10ケ年間に8回程度の発生がある。雷及び雹の被害は、何れも狭い範囲に限られてはいるが、落雷によって感電死するというような人命にかかわる事故もあり、降雹によって農作物が全滅することもある、深刻な被害を起すものがある。

最近10ケ年の気象災害の中には、以上の他に、春先の霜による農作物の被害が4回、旱魃による水不足が2回、龍巻の被害が1回起っている。また、気象災害ではないが、昭和35年5月には津波によって、房総沿岸特に太平洋沿岸に多少の被害があった。これは、遠く南米チリ沿岸に起った地震による津波であるが、本県においては、古くは慶長9年(1605年)及び元禄16年(1703年)の大地震津波の悲惨な記録があり、近くは大正12年の関東大地震の時にも震災、火災、津波の大被害を蒙っている、不時の地震、津波に対する不断の警戒が必要である。

月 別 平 年 値 表

1931年～1960年 銚子

気象要素		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
平均気圧 (海面) mb		10153	10152	10151	10148	10127	10098	10099	10108	10126	10166	10181	10166	10140
気温 (℃)	平均	57	60	85	129	165	194	230	249	228	182	135	84	150
	日最高の 平均	97	97	120	161	194	222	259	279	253	206	166	123	181
	日最低の 平均	17	22	51	97	137	170	207	227	206	157	103	44	120
相対湿度%		64	65	69	75	82	88	90	87	84	78	74	69	77
降水量 mm		838	1125	1291	1387	1381	1707	1212	1309	1964	2497	1535	905	17201
風速 m/s		58	62	68	67	61	54	54	54	58	68	62	54	60
最多風向		NW	NW	NNE	SSW	SSW	NNE	SSW	SSW	NNE	NNE	NNE	NW	NNE
日照率%		57	50	45	47	44	37	44	56	43	40	44	54	46
快晴日数		111	66	44	50	28	07	23	48	23	34	58	94	588
曇天日数		79	100	140	144	172	217	178	125	160	166	137	83	1702
暴風日数		161	153	191	170	137	91	83	67	103	153	152	137	1601
日階 降級 水別 量日 の数	≥ 1 mm	73	90	126	122	131	119	83	82	125	138	104	79	1277
	≥ 10 mm	34	44	53	53	54	54	54	36	65	73	56	37	592
	≥ 30 mm	09	11	11	10	19	17	15	08	22	26	15	04	167
最の 高階 最級 低別 気日 温数	Min<0℃	98	71	18	—	—	—	—	—	—	—	—	19	206
	Max≥25℃	—	—	—	00	01	43	200	268	163	16	—	—	691
	Max≥30℃	—	—	—	—	—	—	18	54	10	—	—	—	81
極 値 表 1887年～1967年														
最高気温℃		193	211	222	259	295	309	339	353	335	293	245	218	353
最低気温℃		-57	-73	-43	-02	43	102	133	159	112	45	-13	-46	-73
最大風速 m/s		NW 283	N 392	NNW 342	N 244	S 251	SSE 260	S 319	NNW 300	SSE 480	N 433	WSW 315	NNW 285	SSE 480
最大日降水量 mm		1038	1137	1178	818	1287	2114	1517	3114	1905	2288	1116	647	3114
最大1時間 降水量 mm		475	185	294	280	410	530	643	1400	487	1116	413	291	1400

〔注〕 1. 観測所の移転は考慮してない

2. 最大1時間降水量の観測開始は1912年

3. 日降水量の階級別日数及び風速は1951～1960年

4. 暴風日数は日最大風速10 m/s 以上の日数

月 別 平 年 値 表

1931年～1960年 富崎

気象要素		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
平均気圧 (海面) mb			10150	10149	10148	10145	10124	10096	10097	10106	10123	10161	10175	10161	10136
気温 ℃	平均		6.8	6.6	9.3	13.7	17.5	20.6	24.1	25.7	23.1	17.9	13.5	9.5	15.7
	日最高		11.2	11.0	13.6	17.5	21.0	23.7	27.1	29.1	26.6	21.8	17.7	13.7	19.5
	日最低		2.9	2.8	5.4	10.3	14.5	18.1	21.3	23.4	20.6	15.0	10.2	5.8	12.6
相対湿度 %			60	62	68	74	80	85	88	85	83	78	72	64	75
降水量 mm			75.8	102.8	145.2	160.3	163.5	212.2	140.5	169.3	220.2	271.9	165.9	100.5	192.80
風速 m/s			6.5	6.0	5.9	5.4	4.7	4.5	4.4	4.3	4.3	4.5	4.8	5.7	5.1
最多風向			N E	N N E	N N E	S S W	S S W	S W	S S W	S S W	N E	N N E	N E	N E	N E
日照率 %			55	51	48	49	47	39	50	61	46	42	48	54	49
快晴日数			8.5	5.5	4.7	5.1	3.5	1.3	3.4	6.1	3.2	4.0	6.6	8.6	60.2
曇天日数			6.8	9.9	13.3	13.1	17.2	20.1	17.5	10.8	15.2	16.0	11.2	7.6	158.3
暴風日数			18.4	13.1	15.1	14.0	10.1	8.0	6.4	4.5	7.6	8.7	10.5	15.5	130.5
日階級 降水別 量日の 数	≧1 mm		7.0	8.0	10.0	11.0	11.8	11.6	8.9	8.9	13.5	12.5	9.3	6.5	119.0
	≧10 mm		2.8	3.4	4.6	5.8	7.0	5.6	4.2	4.4	5.8	6.3	4.6	3.2	57.7
	≧30 mm		0.6	0.9	1.8	1.5	1.9	2.7	1.8	1.6	2.3	2.8	1.2	1.1	20.2
最の高階 級最低 日気温 数	Min ≤ 0℃		4.1	4.1	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	8.8
	Max ≧ 25℃		—	—	—	—	0.3	7.6	25.9	30.3	23.4	4.6	—	—	92.2
	Max ≧ 30℃		—	—	—	—	—	0.0	2.3	9.9	1.9	—	—	—	14.2
極 値 表 1922～1967年															
最高気温 ℃			19.8	21.0	21.2	24.3	26.8	30.0	34.0	33.8	32.4	28.3	24.8	22.3	34.0
最低気温 ℃			- 3.6	- 3.9	- 2.3	1.1	5.5	10.9	13.3	16.8	12.7	7.3	1.3	- 2.6	- 3.9
最大風速 m/s			S 32.3	S E 34.1	S S E 33.3	S W 31.9	N 25.7	S S W 32.5	S 27.0	S W 42.1	S S W 46.7	S 43.5	N N W 29.8	W S W 31.6	S S W 46.7
最大 日降水量 mm			99.1	134.9	137.5	140.5	94.9	151.3	133.4	148.2	180.7	228.7	186.8	111.4	228.7
最大1時間 降水量 mm			32.5	27.2	41.0	35.3	48.6	61.3	42.9	76.6	64.8	76.0	40.3	39.4	76.6

〔注〕 1. 日降水量の階級別日数及び風速は1951～1960年の統計

2. 最大1時間降水量は1937～1967年

3. 暴風日数は日最大風速10 m/s 以上の日数

月 別 平 均 値 表

1954年～1963年 千葉

気象要素		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
気 温 ℃	平 均		44	54	80	137	179	210	250	265	233	170	120	72	151
	日 最 高 温		90	100	124	178	216	243	282	299	267	205	162	120	191
	日 最 低 温		- 03	07	36	96	141	176	218	231	198	135	78	25	112
相 対 湿 度 %			63	65	69	73	78	82	83	81	81	81	75	69	75
降 水 量 mm			480	524	962	1042	1396	1841	882	1361	1710	2221	1062	586	14067
風 速 m/s			41	42	47	48	46	44	46	44	40	40	34	34	42
最 多 風 向			N	N	NE	NE	NE	NE	SW	NE	NE	NNE	NNE	N	NE
暴 風 日 数			130	10.8	11.7	12.3	9.6	7.6	7.8	7.9	5.7	6.0	5.8	9.6	107.8
日 階 級 降 水 別 量 日 数	≥ 1 mm		5.4	5.9	9.1	10.1	12.5	11.3	8.1	8.6	10.7	12.7	8.1	5.4	107.9
	≥ 10 mm		1.6	1.7	3.4	4.0	5.5	5.0	2.7	2.9	4.8	6.2	3.4	2.1	43.3
	≥ 30 mm		0.2	0.3	0.7	0.4	0.6	1.4	0.7	1.1	1.5	2.4	0.9	0.3	10.5
最 の 高 階 最 級 低 別 気 日 温 数	Min < 0℃		15.7	11.6	4.0	-	-	-	-	-	-	-	0.1	5.7	37.1
	Max ≤ 25℃		-	-	-	-	3.1	15.2	27.5	27.8	20.5	1.6	-	-	95.7
	Max ≤ 30℃		-	-	-	-	-	0.7	9.6	17.1	4.3	-	-	-	31.7
極 値 表 1954年～1967年															
最 高 気 温 ℃			17.7	19.3	20.5	25.0	28.3	31.2	35.2	36.1	33.1	27.7	23.5	20.5	36.1
最 低 気 温 ℃			- 9.2	- 5.7	- 4.3	0.2	4.8	9.1	13.9	15.9	10.3	4.8	- 0.5	- 6.4	- 9.2
最 大 風 速 m/s			SW 22.6	WSW 27.5	SSW 26.1	SSW 28.1	SSW 29.5	SSW 23.1	SSW 25.4	NNW 19.6	SSW 26.8	NNW 24.7	WSW 25.9	WSW 23.5	WNW 29.5
最 大 日 降 水 量 mm			420	530	667	506	665	2232	605	1623	2090	1265	896	395	2232
最 大 1 時 間 降 水 量 mm			14.0	15.0	17.4	15.7	16.0	42.1	32.6	68.5	50.0	43.0	15.9	13.4	68.5

〔注〕1. 暴風日数は日最大風速10m/s以上の日数

月 別 平 年 値 表

1931年～1960年 勝浦

気象要素	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
平均気圧 (海面) mm		10150	10150	10150	10147	10126	10097	10099	10108	10125	10162	10177	10162	10138
気 平 均		59	55	88	133	171	202	234	252	223	177	131	86	152
温 日 最 高 温		107	106	132	171	204	232	265	287	264	216	173	132	191
℃ 日 最 低 温		17	19	47	96	138	176	211	228	202	147	95	45	118
相対湿度 %		59	62	68	75	81	86	89	86	84	80	74	65	76
降 水 量 mm		863	1212	1586	1823	1745	2092	1474	1586	2479	2885	1911	1074	20735
風 速 m/s		57	58	58	58	48	45	41	41	47	54	54	54	51
最 多 風 向		N	N	N	N	NN	NNE	SW	NNE SW	N	N	N	N	N
日 照 率 %		55	50	45	46	43	35	43	57	45	41	45	53	46
快 晴 日 数		98	60	45	48	40	15	26	54	30	46	61	99	622
曇 天 日 数		68	90	127	133	163	187	171	104	150	150	114	71	1528
暴 風 日 数		100	87	106	104	70	50	46	30	57	74	88	103	915
日 階 降 級 水 別 量 日 数	≥ 1 mm	72	96	110	117	120	126	91	97	142	136	107	67	1281
	≥ 10 mm	32	41	50	63	74	70	46	41	62	79	50	37	645
	≥ 30 mm	08	11	20	19	19	27	17	14	26	30	20	11	222
最 高 階 最 低 別 気 日 温 数	Min ≤ 0℃	91	75	21	00	—	—	—	—	—	—	—	13	200
	Max ≥ 25℃	—	—	—	—	02	53	228	299	220	35	01	—	339
	Max ≥ 30℃	—	—	—	—	—	—	25	87	21	—	—	—	134
極 値 表 1916年～1967年														
最 高 気 温 ℃		200	217	217	251	293	298	344	349	328	294	259	218	349
最 低 気 温 ℃		-70	-53	-48	-08	43	86	124	160	120	51	01	-47	-70
最 大 風 速 m/s		S 272	SW 236	S 261	SW 261	SSW 247	SW 336	S 292	SSW 393	SSW 425	SSE 357	SSW 255	SSW 282	SSW 425
最 大 日 降 水 量 mm		875	1337	1264	1119	1473	1680	1985	2438	2244	2182	1808	894	2438
最 大 1 時 間 降 水 量 mm		192	210	327	309	475	990	368	800	521	600	960	546	960

〔注〕 1. 日降水量の階級別日数及び風速は1951～1960年

2. 暴風日数は日最大風速10m/s以上の日数

日平均気温の平均値 (1926年～1960年) °C

気象庁観測技術資料 第28号 「全国気温資料」

月 地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	統計 期間
銚子	5.7	5.9	8.6	13.0	16.6	19.6	23.4	25.4	23.0	18.3	13.5	8.4	15.1	3
八日市場	4.7	5.1	8.1	13.1	17.3	20.7	24.8	26.1	23.1	17.6	12.4	7.2	15.0	3
成東	4.5	4.9	8.1	13.0	17.3	20.6	24.7	25.6	22.9	17.2	12.1	7.0	14.8	2
片貝	4.4	4.8	8.2	13.4	17.4	20.9	24.9	26.2	23.2	17.5	12.1	7.0	15.0	3
茂原	4.6	4.9	8.4	13.4	17.8	21.3	25.6	26.6	23.3	17.4	12.1	7.1	15.2	3
一宮	5.2	5.6	8.6	13.8	17.8	21.2	25.4	26.9	23.6	17.8	12.8	7.9	15.6	3
勝浦	6.2	6.3	9.0	13.5	17.2	20.5	23.9	25.8	23.3	18.1	13.5	8.9	15.5	3
大多喜	4.5	4.9	8.2	13.4	17.7	21.1	25.3	26.3	23.1	17.3	12.1	7.1	15.1	3
上総	4.3	4.8	8.2	13.1	17.4	21.2	25.2	26.7	22.9	17.0	11.8	6.8	15.0	2
清和	4.4	4.5	7.7	12.9	17.3	20.7	24.9	26.1	22.3	16.4	11.6	7.0	14.7	1
長狭	5.3	5.6	8.8	13.7	17.9	21.6	25.7	26.6	23.5	17.7	12.6	7.7	15.6	2
清澄	4.3	4.2	7.0	12.0	16.0	19.0	23.0	24.3	21.2	16.0	11.5	7.0	13.8	3
鴨川	5.9	6.1	9.2	13.9	17.8	21.1	24.9	26.1	23.6	18.1	13.2	8.5	15.7	2
千倉	6.4	6.6	9.4	13.9	17.7	21.4	25.2	26.6	23.9	18.0	13.5	9.0	16.0	3
富崎	7.1	7.0	9.7	14.2	18.0	21.0	24.7	26.3	23.7	18.5	14.1	9.8	16.2	3
館山	5.8	5.9	8.9	13.7	17.7	21.2	25.2	26.4	23.4	17.7	12.9	8.4	15.6	3
鋸南	5.9	6.2	9.1	13.8	18.0	21.3	25.1	26.2	23.5	17.9	13.3	8.6	15.7	2
天羽	4.7	5.0	8.4	13.3	17.7	21.2	25.4	26.5	23.2	17.1	12.0	7.2	15.1	3
木更津	4.5	4.9	8.2	13.2	17.9	21.7	25.7	26.9	23.4	17.1	11.9	6.9	15.2	3
姉ヶ崎	3.5	4.0	7.5	12.6	17.5	21.1	25.2	26.2	22.8	16.8	11.4	6.1	14.6	2
千葉(都)	3.6	4.3	7.5	12.8	17.3	21.0	25.3	26.4	22.9	16.7	11.2	6.0	14.6	3
浦安	3.6	3.9	7.4	12.5	17.7	21.2	26.0	27.1	23.2	16.8	11.5	6.1	14.8	2
松戸	3.5	4.0	7.1	12.4	17.1	20.8	24.8	26.1	22.6	16.4	11.0	5.7	14.3	3
野田	3.7	4.2	7.2	12.5	17.3	20.8	25.2	26.3	22.6	16.5	11.0	5.8	14.4	3
柏	3.0	3.7	6.8	11.4	17.0	20.7	25.0	26.1	22.7	16.4	9.8	5.3	14.0	3
布佐	3.1	4.1	7.2	12.6	17.2	20.8	25.0	26.3	22.8	16.7	11.0	5.7	14.4	2
佐倉	3.5	4.5	7.7	13.0	17.5	21.1	25.5	26.6	23.2	16.9	11.1	6.0	14.7	2
三里塚	2.9	3.7	7.0	12.2	16.7	20.4	24.7	25.9	22.5	16.4	10.7	5.6	14.1	3
下総	3.5	4.1	7.5	12.8	17.3	20.8	25.0	26.4	22.8	16.8	11.1	6.1	14.5	3
佐原	4.0	4.6	8.0	13.2	17.5	20.8	25.3	26.6	23.1	17.3	11.7	6.5	14.9	3
笹川	4.9	6.2	8.9	14.2	17.6	20.7	24.6	25.9	23.3	17.7	12.5	7.7	15.4	1

〔注〕 統計期間の数字符号。1：10年間または15年間， 2：20年間または25年間，
3：30年間または35年間

日最高気温の平均値 (1926年~1960年) °C

気象庁観測技術資料 第28号 「全国気温資料」

月 地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	統計 期間
銚子	9.5	9.6	12.1	16.2	19.6	22.3	26.1	28.1	25.3	20.7	16.6	12.2	18.2	3
八日市場	10.1	10.3	13.1	18.1	21.8	24.7	28.9	30.3	27.3	22.0	17.3	12.6	19.7	3
成東	9.3	9.7	12.8	17.7	21.5	24.2	28.2	29.2	26.5	21.1	16.4	11.9	19.0	2
片貝	9.2	9.7	13.3	18.5	22.1	25.1	29.1	30.4	27.3	21.7	16.7	12.2	19.6	3
茂原	10.1	10.6	13.7	18.7	22.7	25.5	29.8	31.2	27.6	21.9	17.1	12.5	20.1	3
一宮	10.3	10.7	13.6	19.0	22.6	25.3	29.7	31.4	27.9	22.2	17.6	12.9	20.3	3
勝浦	10.6	10.5	13.2	17.1	20.5	23.4	26.5	28.8	26.3	21.5	17.3	13.1	19.1	3
大多喜	10.0	10.4	13.5	18.7	22.4	25.3	29.3	30.6	27.2	21.7	16.9	12.7	19.9	3
上総	10.3	10.6	14.0	18.7	22.7	25.6	29.2	31.1	27.2	21.7	17.1	12.4	20.1	2
清和	9.9	10.0	13.1	18.2	22.3	25.0	28.7	30.3	26.2	20.8	16.5	12.3	19.4	1
長狭	10.3	10.7	13.9	18.8	22.6	25.6	29.6	30.8	27.5	22.1	17.1	12.8	20.2	2
清澄	7.9	7.8	10.8	15.5	19.1	21.7	25.4	26.8	24.0	18.8	14.8	10.6	16.9	3
鴨川	10.8	11.0	13.9	18.4	21.9	24.6	28.4	29.9	27.5	22.2	17.6	13.5	20.0	2
千倉	11.1	11.4	14.1	18.6	22.2	25.1	28.6	30.4	27.5	22.5	17.9	13.7	20.3	3
富崎	11.0	11.0	13.7	17.7	21.1	23.8	27.3	29.2	26.7	21.9	17.8	13.7	19.6	3
館山	10.7	10.7	13.6	18.1	21.7	24.5	28.3	29.9	27.0	21.8	17.5	13.3	19.8	3
鋸南	10.8	10.9	13.7	18.3	22.0	24.7	28.3	29.8	27.3	22.0	17.6	13.3	19.9	2
天羽	10.1	10.4	13.6	18.5	22.6	25.2	29.2	30.6	27.4	21.5	17.0	12.7	19.9	3
木更津	9.6	9.8	13.2	18.4	22.6	26.0	29.6	31.0	27.3	21.2	16.5	12.0	19.8	3
姉ヶ崎	8.2	8.4	12.3	17.7	22.6	25.5	29.2	30.3	26.6	20.5	15.6	10.7	19.0	2
千葉(都)	9.2	9.6	12.9	18.1	22.2	25.2	29.3	30.6	27.1	21.3	16.4	11.5	19.5	3
浦安	8.4	8.6	12.6	17.6	22.5	25.5	29.8	31.2	27.3	21.1	16.0	10.8	19.3	2
松戸	8.7	9.1	12.2	17.4	21.7	24.8	28.4	29.9	26.3	20.5	15.6	10.8	18.8	3
野田	9.7	9.9	12.9	18.2	22.6	25.4	29.4	30.5	26.9	21.2	16.2	11.6	19.5	3
柏	8.5	9.1	12.3	17.6	21.8	24.8	29.0	30.3	26.9	20.8	15.8	10.9	19.0	3
布佐	8.5	9.2	12.5	17.8	22.0	24.8	28.8	30.5	27.0	20.9	15.9	11.1	19.1	2
佐倉	9.1	10.1	13.1	18.7	22.9	25.5	30.1	31.1	27.5	21.4	16.2	11.7	19.8	2
三里塚	9.6	10.0	13.1	18.3	22.3	25.3	29.3	30.6	27.1	21.5	16.7	12.0	19.7	3
下総	8.9	9.4	12.8	18.3	22.4	25.2	29.3	30.9	26.9	21.3	16.1	11.4	19.4	3
佐原	9.0	9.6	13.0	18.5	22.3	25.1	29.5	31.0	27.1	21.4	16.4	11.5	19.5	3
笹川	9.9	11.6	13.6	18.8	22.0	24.5	28.3	29.8	27.0	21.5	16.9	13.0	19.7	1

日 最 低 気 温 の 平 均 値 (1926年~1960年) °C

気象庁観測技術資料 第28号 「全国気温資料」

月 地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	統 計 期 間
銚子	1.8	2.2	5.0	9.7	13.6	16.8	20.7	22.7	20.6	15.8	10.4	4.5	12.0	3
八日市場	-0.8	-0.1	3.1	8.0	12.7	16.7	20.7	21.9	18.9	13.1	7.4	1.8	10.3	3
成東	-0.4	0.1	3.3	8.2	13.0	17.0	21.2	22.0	19.2	13.3	7.8	2.0	10.6	2
片貝	-0.5	-0.2	3.0	8.2	12.7	16.7	20.6	22.0	19.0	13.2	7.4	1.8	10.3	3
茂原	-1.0	-0.8	3.0	8.0	12.9	17.0	21.3	22.0	18.9	12.8	7.1	1.7	10.2	3
一宮	0.1	0.5	3.6	8.6	13.0	17.0	21.1	22.3	19.3	13.4	8.0	2.8	10.8	3
勝浦	1.8	2.0	4.8	9.8	13.9	17.6	21.3	22.8	20.2	14.7	9.6	4.6	11.9	3
大多喜	-1.1	-0.6	2.8	8.1	12.9	16.8	21.3	21.9	19.0	12.8	7.2	1.4	10.2	3
上総	-1.8	-1.1	2.4	7.5	12.1	16.8	21.2	22.3	18.6	12.2	6.5	1.2	9.8	2
清和	-1.2	-1.0	2.3	7.6	12.2	16.3	21.0	21.9	18.3	12.0	6.7	1.6	9.8	1
長狭	0.2	0.5	3.6	8.6	13.2	17.5	21.7	22.4	19.4	13.3	8.0	2.5	10.9	2
清澄	0.6	0.5	3.2	8.5	12.8	16.3	20.5	21.8	18.3	13.1	8.2	3.4	10.6	3
鴨川	1.0	1.1	4.4	9.3	13.7	17.6	21.4	22.3	19.7	13.9	8.8	3.5	11.4	2
千倉	1.6	1.8	4.6	9.2	13.2	17.6	21.7	22.7	20.2	13.5	9.1	4.2	11.6	3
富崎	3.2	2.9	5.7	10.6	14.8	18.2	22.0	23.4	20.7	15.1	10.3	5.9	12.7	3
館山	0.9	1.1	4.1	9.2	13.7	17.8	22.0	22.8	19.7	13.6	8.3	3.4	11.4	3
鋸南	1.0	1.4	4.5	9.3	13.9	17.8	21.8	22.6	19.6	13.8	9.0	3.9	11.6	2
天羽	-0.8	-0.4	3.1	8.1	12.7	17.1	21.5	22.3	19.0	12.7	7.0	1.7	10.3	3
木更津	-0.6	0.0	3.1	8.0	13.1	17.3	21.7	22.7	19.4	13.0	7.3	1.8	10.6	3
姉ヶ崎	-1.2	-0.5	2.6	7.4	12.3	16.7	21.2	22.0	18.9	13.0	7.1	1.5	10.1	2
千葉(都)	-2.0	-1.1	2.1	7.5	12.4	16.8	21.2	22.1	18.7	12.1	6.0	0.4	9.7	3
浦安	-1.3	-0.8	2.2	7.3	12.8	16.9	22.1	23.0	19.1	12.5	6.9	1.3	10.2	2
松戸	-1.8	-1.1	2.0	7.3	12.5	16.8	21.2	22.2	18.8	12.3	6.3	0.5	9.8	3
野田	-2.4	-1.6	1.5	6.7	11.9	16.2	21.0	22.0	18.3	11.8	5.8	0.0	9.3	3
柏	-2.6	-1.8	1.2	5.1	12.2	16.5	21.0	21.9	18.4	12.0	3.8	-0.3	9.0	3
布佐	-2.4	-1.1	1.9	7.4	12.3	16.8	21.1	22.0	18.6	12.4	6.0	0.3	9.6	2
佐倉	-2.1	-1.2	2.2	7.3	12.1	16.6	20.9	22.2	18.9	12.4	5.9	0.2	9.6	2
三里塚	-3.9	-2.7	0.9	6.1	11.1	15.5	20.1	21.2	17.8	11.2	4.7	-0.8	8.4	3
下総	-1.9	-1.3	2.1	7.2	12.2	16.3	20.7	21.9	18.7	12.3	6.1	0.8	9.6	3
佐原	-1.1	-0.5	3.0	7.8	12.7	16.5	21.1	22.2	19.1	13.2	6.9	1.4	10.2	3
笹川	-0.2	0.8	4.1	9.6	13.1	16.8	20.8	22.0	19.5	13.9	8.1	2.3	10.9	1

降水量の月別平均値 (1931年~1960年) mm

気象庁観測技術資料 第30号 「全国降水量資料」

月 地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全 年	統計 期間
銚子	77	113	128	137	134	164	122	129	194	255	158	92	1703	3
八日市場	61	97	112	140	146	169	128	132	190	241	131	79	1626	3
成東	55	88	109	136	133	167	138	147	190	223	120	76	1582	3
片貝	66	92	117	133	129	152	132	130	178	233	117	76	1557	3
茂原	65	105	127	150	155	178	155	145	211	271	141	80	1783	2
一宮	68	98	125	156	146	166	147	122	213	261	142	80	1724	3
勝浦	83	122	159	180	177	205	147	174	240	288	189	111	2075	3
大多喜	81	115	163	183	188	204	161	180	253	307	177	110	2122	3
上総	71	114	141	177	162	178	154	172	259	279	136	89	1932	2
清和	81	116	163	191	183	212	167	196	264	268	157	108	2106	3
長狭	77	111	163	200	197	221	169	182	229	273	151	101	2074	3
清澄	82	122	187	219	216	234	178	176	261	310	192	116	2295	3
鴨川	72	100	152	190	174	216	161	181	227	255	164	105	1997	3
千倉	70	98	140	169	161	201	146	152	224	242	159	102	1864	3
富崎	70	103	147	159	164	209	142	171	217	271	166	106	1925	3
館山	73	104	151	170	169	209	146	177	220	268	160	100	1947	3
鋸南	63	89	130	152	151	199	143	162	209	237	135	82	1752	3
天羽	67	91	135	154	158	204	159	176	231	258	134	92	1859	3
木更津	49	72	99	128	122	159	131	151	199	206	93	65	1474	3
姉ヶ崎	37	71	80	122	102	150	142	125	189	188	84	65	1355	1
千葉(都)	45	74	91	115	117	147	130	137	174	207	98	64	1399	3
浦安	40	74	94	125	111	154	159	134	186	212	82	53	1424	1
松戸	44	62	100	123	123	157	144	124	197	186	94	52	1406	2
野田	37	61	88	107	111	163	132	131	188	193	85	55	1351	3
柏	51	69	98	124	131	179	130	122	210	192	98	66	1460	2
布佐	42	67	92	114	120	170	140	138	178	196	95	56	1408	3
佐倉	49	79	106	113	123	150	150	153	184	210	111	62	1490	3
三里塚	47	67	92	111	114	148	122	129	176	186	101	58	1351	3
下総	47	74	96	120	124	152	124	142	188	191	101	63	1422	3
佐原	51	74	94	112	118	157	118	124	180	190	101	63	1382	3
笹川	65	100	116	134	145	171	144	134	193	235	119	63	1622	2

〔注〕 統計期間の数字符号． 1：10年間および15年間， 2：20年間および25年間，
3：30年間

日 降 水 量 の 最 大 順 位 表

順位 地名	1		2		3		4		5		統計 期間	備 考
	降水量	年.月.日	降水量	年.月.日	降水量	年.月.日	降水量	年.月.日	降水量	年.月.日		
銚子	236	21. 8. 2	207	3.10. 1	206	23. 9.24	202	47. 8.28	200	60. 8.20	1900～67	
八日市場	178	60. 8.20	170	50. 8. 3	169	19. 7.28	167	39.10.20	156	3.10. 1	1900～67	
成東	202	39. 8.20	200	38.10.20	196	49.10.27	187	60. 8.20	184	61. 6.28	1930～67	
片貝	199	61. 6.28	194	60.10. 7	190	22.10. 7	180	56.10. 2	180	23. 9.24	1905～67	47, 48 欠
茂原	250	61. 6.28	238	16. 7.29	229	66. 2.27	200	59. 9.24	192	63. 8.28	1900～67	45欠
一宮	257	61. 6. 28	226	60. 8.20	184	31. 9.26	180	16.10.29	173	19. 7.28	1912～67	
勝浦	314	31. 9.26	244	60. 8.20	237	67. 6.28	236	63. 8.28	233	23. 9.24	1900～67	
大多喜	274	31. 9.26	255	38.10.20	254	16. 7.29	230	43.10.10	224	61. 6.28	1900～67	45欠
上総	307	61. 6.28	257	38.10.20	254	58. 9.26	235	32.11.14	220	21.10. 9	1904～67	45～49欠
清和	303	61. 6.28	275	21.10. 9	252	31. 9.26	251	38. 6.29	222	43.10. 9	1905～67	45,46欠
長狭	230	28. 6. 2	229	38.10.20	220	43.10. 1	216	67. 6.28	210	31. 9.26	1910～67	24欠
清澄	261	24. 9.16	237	60. 8.20	227	31. 9.26	210	36. 7. 9	209	21.10. 9	1905～67	
鴨川	310	25. 9.30	250	21.10. 9	242	67. 6.28	233	60. 8.20	225	4. 8.30	1902～67	20, 23 欠
千倉	250	21.10. 9	212	31. 9.26	199	38.10.20	186	55.11.21	163	14. 9.13	1905～67	
富崎	280	31. 9.23	229	56.10. 2	222	38.10.20	204	43.10. 9	201	45. 8.22	1929～67	
館山	306	45. 8.22	264	38.10.20	238	21.10. 9	229	31. 9.26	227	43.10. 9	1900～67	9, 25欠
鋸南	203	61. 6.28	195	31. 9.26	194	10. 8.10	185	38. 6.28	180	58. 9.26	1907～67	24, 65欠
天羽	243	38. 6.29	240	58. 9.26	234	10. 8.10	223	61. 6.28	201	21.10. 9	1905～67	22, 25, 48欠
木更津	333	61. 6.28	240	21.10. 9	220	4. 8.30	183	58. 9.26	173	38. 6.29	1902～67	11,26,45,48～50欠
姉ヶ崎	177	38. 6.29	160	21.10. 9	154	42. 8.31	145	13. 8.26	140	14. 8.29	1907～44	30欠
千葉(都)	228	58. 9.26	202	61. 6.28	176	63. 6. 4	174	32.11.14	164	39. 8.20	1923～63	46欠
浦安	183	38. 6.29	155	10. 8.10	143	42. 9.18	140	24. 9.16	132	31. 9.26	1905～44	23欠
松戸	301	58. 9.26	222	29. 9.10	210	16. 7.29	180	31. 9.26	173	32.11.14	1900～67	27, 28, 45欠
野田	333	58. 9.26	210	38. 6.29	189	45.10. 4	182	14. 9.13	150	29.10.25	1904～67	
柏	366	58. 9.26	127	61. 6.28	125	50. 8.24	107	63. 6. 4	107	55.10.11	1946～63	
布佐	227	58. 9.26	195	11. 8. 9	175	38. 6.29	163	32.11.14	162	39. 8.20	1903～62	
佐倉	204	39. 8.20	182	32.11.14	180	63. 6. 4	175	23. 9.24	175	16. 7.29	1900～67	26～31欠
三里塚	160	33.10.19	155	23. 9.24	153	61. 6.28	153	42. 8. 30	151	23. 9.24	1908～67	
下総	180	58. 9.26	178	22.10. 8	178	9. 8.20	163	50. 8. 3	154	42. 8.30	1901～67	45, 46欠
佐原	178	58. 9.26	175	42. 8.30	165	50. 8. 3	154	49.10.27	153	28. 9.24	1900～67	45, 46, 48欠
銚川	184	60. 8.20	176	36. 7. 9	165	63. 6. 4	164	39. 8.20	141	45.10.31	1936～67	46～51欠

- 備考
1. 降水量の単位はmm である。
 2. 年は西暦で 19 を省略してある。
 3. 日界は 10 時又は 9 時である。

千葉県気象災害史

昭和31年10月30日初版発行

昭和44年1月31日増訂版発行

編集者 銚子地方気象台
発行

印刷者 銚子孔版

銚子市愛宕町2947

千葉県気象災害史正誤表

誤

正

17 P 上から 16 行目	より九月二十日 (ウスイ)	より九月二十日
30 P 上から 7 行目	田良村地元	田良村地先
34 P 下から 1 行目	群馬県	群馬県
42 P 下から 1 行目	山崩れ 18799	山崩れ 18799。
46 P 上から 2 行目	藍屋の蓋瓶	紺屋の藍瓶
51 P 表		布良 969.4 SE 33.6 } 追加 16.6 }
55 P 台風経路図	3 / 1	3 / 6
65 P 上から 8 行目の次に		(以上気象要覧) 追加
86 P 台風経路図	↓	↓ 阿久根台風
105 P 表	勝浦 ^{SSW} _{SW} 27.0 (ウスイ)	^{SSW} _{SW} 27.0
111 P 参考上から 3 行目	を襲撃する	を襲撃する
113 P 上から 12 行目	結ぶ線を中心としが	結ぶ線を中心とした
117 P 下から 7 行目	本県では 30 月の朝	本県では 30 日の朝
125 P 分布図	銚子付近 16	160
146 P 下から 2 行目	午頃より	午頃まで
162 P 上から 1 行目	行方明となった	行方不明となった
173 P 参考下から 2 行目	多いのである。時には	多いのであるが時には

訂 正 表

89 P 上から 6 行目～7 行目
行方不明1956人、負傷者326人 を
行方不明326人、負傷者1956人と訂正